阪神・淡路大震災
震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接調査）

平成２４年７月

兵庫県・神戸市

目　次

○　震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接調査）について・・・・・・1ページ

○　震災障害者インタビュー内容（１４名）・・・・・・・・・・・・・・・・・・7ページ

○　震災遺児（保護者）インタビュー内容（１２世帯・１８名）・・・・・・153ページ

震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接調査）について

Ⅰ　調査の経緯

阪神・淡路大震災に起因する障害者（震災障害者）、遺児（震災遺児）について、復興フォローアップ委員会から「震災障害者、震災遺児の実態把握や将来の災害に備えとなる教訓の抽出を図るべき」との提言があったことを踏まえ、平成22年度から兵庫県、神戸市合同で震災障害者と震災遺児の実態調査を行ってきた。平成22年12月のアンケート調査中間集計を経て、平成23年5月には分析を加えた震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接内容を除く）を作成し公表した。

このたび、整理作業を進めていた震災障害者、震災遺児に対する面接内容をとりまとめたので、追加して公表するものである。

Ⅱ　面接調査

震災障害者や震災遺児の方々の震災直後の状況や生活の変化など貴重な経験を記録にとりまとめて発信・継承し、今後の災害に備えた被害の軽減や生活再建などの災害対策に役立てる。

なお、今回の面接調査では公表の同意を得られた方々の人数が統計的な分析をするためには限定されているので、報告書としてはインタビュー内容そのもの（生の声）を公表し、それぞれの方々のご経験やご心情を広く共有するものとする。

1　震災障害者

①　調査方法

アンケート調査に回答された方のうち、面接調査に同意された震災障害者本人（希望者には付添人）に対してインタビューア、質問補助者が訪問先に出向き、下記の項目を中心に1名（1組）当たり概ね100分程度のインタビューを行った。

ア　地震直後や救出時の状況
イ　病院への搬送・治療やリハビリテーションの状況
ウ　震災前後の生活や気持ちの変化
エ　震災障害者に必要なこと　など

②　調査公表者数　14人

アンケート調査回答者(90 人)中、面接調査同意者(27 人)のうち公表に対する同意を得た14人分を取りまとめた。

③　調査期間　　平成23年2月から3月

④　震災障害者（公表の同意者）の属性

ア　障害等級〔単位：人〕

1級	1
2級	2
3級	5
4級	3
5級	3
6級	0
合計	14

イ　主たる障害の部位〔単位：人〕

上下肢	0
上肢	2
下肢	6
体幹	2
内部障害	0
視覚	0
聴覚	1
その他複数箇所	3
合計	14

ウ　性別〔単位：人〕

男	8
女	6
合計	14

エ　年齢構成　〔単位:人〕

	被災時	調査時
65歳以上	2	11
60～64歳	3	3
50～59歳	4	0
40～49歳	5	0
合計	14	14

オ　被災時の住所、現住所　〔単位：人〕

被災時の住所		
	神戸市東灘区	8
	神戸市灘区	0
	神戸市中央区	0
	神戸市兵庫区	1
	神戸市長田区	1
	神戸市北区	0
	神戸市須磨区	1
	神戸市垂水区	0
	神戸市西区	0
	西宮市	2
	芦屋市	1
	合計	14

⇨

現住所		
	神戸市東灘区	3
	神戸市灘区	1
	神戸市中央区	2
	神戸市兵庫区	0
	神戸市長田区	1
	神戸市北区	0
	神戸市須磨区	0
	神戸市垂水区	2
	神戸市西区	1
	西宮市	3
	芦屋市	1
	合計	14

カ　自宅の被害状況〔単位：戸〕

全壊	14
半壊	0
一部損壊	0
合計	14

⑤　面接調査における主な発言

今回の面接調査は、共通の質問項目を設定し、対象者の方に聴き取りを行った。面接では、地震直後の倒壊した家屋からの救出や、被災した病院での混乱状況、長引くリハビリなどの苦難やそれを如何に乗り越えてきたかなど、これまでの体験や思いを語っていただき、貴重な体験談として別添資料のとおり取りまとめた。

なお、主な発言は次のとおりである。

○　地震直後や救出時の状況

・　救出のための道具が無く、小さなジャッキも役に立たなかった。
・　埋もれている時、初め外部へ声が伝わらず、物を蹴って音を出して、やっと近所の方に救出された。
・　２階の押し入れに非常持ち出し袋を保管していたが何の役にも立たなかった。
・　机が支えになり空間ができたので命は助かった。

○　病院への搬送・治療やリハビリテーションの状況

・　震災時は病院も被災し混乱しているが、症状を正確に把握してくれる医師に巡り会うことが重要。
・　震災後しばらくしてから挫滅症候群と判明し緊急手術を行った。
・　親戚を頼って、県外の病院へ入院した。
・　リハビリを続けていたが１０年後に再手術をおこなった。３回の

転院を余儀なくされた。
- 震災から15年後に突然PTSDを発症した。
- 障害者手帳の取得は病院（医者）から指導されて初めて知った。

○ **震災前後の生活や気持ちの変化**
- マイナス思考になると心も体も潰してしまう。
- 震災後は、用心深くなり人に迷惑をかけないよう心がけている。
- ボランティアや趣味をしている時は、それが生きがいになり元気になった。

○ **震災障害者に必要なことなどの提案**
- 今回の調査で自分のような障害者がいることを知ってほしい。
- 日頃から継続した近所づきあいが重要である。
- 災害に備えた避難所確認や家具の固定が必要。
- 女性のためのトイレの整備、高層ビルのガラス破損防止が必要。

2　震災遺児

①　調査方法

アンケート調査に回答された方のうち、面接調査に同意された震災遺児本人又は保護者に対してインタビューア、質問補助者が下記の項目を中心に1名（1組）当たり概ね100分程度のインタビューを行った。

ア　震災時の家族の状況
イ　遺児の養育状況
ウ　修学状況や家族関係などの状況
エ　震災遺児に必要なこと　など

②　調査公表者数（12世帯の本人・保護者に対して面接）

ア　震災遺児　7人

アンケート調査回答者(74人)中、面接調査同意者(7人)のうち公表に対する同意を得た7人分を取りまとめた。

イ　保護者　10人

アンケート調査回答者(79人)中、面接調査同意者(12人)のうち公表に対する同意を得た10人分を取りまとめた。

③　調査期間　　平成23年2月から3月

④　震災遺児・保護者（公表同意者）に関する属性

ア　性別　　〔単位：人〕

	本人	保護者	合計
男	5	6	11
女	2	4	6
計	7	10	17

※　12世帯の本人・保護者計17名に面接

イ　自宅の被害状況　〔単位：人〕

	本人	保護者	合計
全壊	7	10	17
半壊	0	0	0
一部損壊	0	0	0
合計	7	10	17

※　保護者の場合養育している遺児の自宅の被害状況を記載。

ウ　年齢構成　〔単位：人〕

	被災時		調査時	
	本人	保護者	本人	保護者
65歳以上	0	0	0	1
60～64歳	0	0	0	4
50～59歳	0	1	0	4
40～49歳	0	5	0	1
30～39歳	0	4	1	0
20～29歳	0	0	3	0
10～19歳	2	0	3	0
10歳未満	5	0	0	0
計	7	10	7	10

エ　被災時の住所、現住所　〔単位：人〕

		本人	保護者	合計
被災時の住所	神戸市東灘区	1	2	3
	神戸市灘区	1	2	3
	神戸市中央区	0	0	0
	神戸市兵庫区	1	1	2
	神戸市長田区	0	0	0
	神戸市北区	0	0	0
	神戸市須磨区	0	0	0
	神戸市垂水区	0	0	0
	神戸市西区	0	0	0
	尼崎市	0	0	0
	西宮市	3	4	7
	芦屋市	1	1	2
	明石市	0	0	0
	豊岡市	0	0	0
	合計	7	10	17

⇨

		本人	保護者	合計
現住所	神戸市東灘区	2	2	4
	神戸市灘区	1	3	4
	神戸市中央区	0	0	0
	神戸市兵庫区	1	1	2
	神戸市長田区	0	0	0
	神戸市北区	0	0	0
	神戸市須磨区	0	0	0
	神戸市垂水区	0	0	0
	神戸市西区	0	0	0
	尼崎市	0	0	0
	西宮市	2	1	3
	芦屋市	1	1	2
	明石市	0	1	1
	豊岡市	0	1	1
	合計	7	10	17

オ　遺児と保護者の続柄　〔単位：世帯〕

父親	5
母親	3
祖父	0
祖母	2
叔父	2
合計	12

カ　亡くなった家族の人数と続柄　〔単位：世帯〕

1人	8
2人	2
3人	1
4人	1
合計	12

父親のみ	4
母親のみ	4
母親と兄弟	2
両親と兄弟	1
両親と兄弟と祖母	1
合計	12

⑤　面接調査における主な発言

今回の面接調査は、共通の質問項目を設定し、対象者の方に聴き取りを行った。面接では、震災時の家族の被災状況をはじめ、経済的な不安や周囲への気遣い、遺児養育の苦労などを如何に乗り越えてきたかなど、これまでの体験や思いを語っていただき、貴重な体験談として、別添資料のとおり取りまとめた。

なお、主な発言内容は次のとおりである。

○　遺児の進学・就学や家族関係などの状況

［遺児］

・　収入が少ないことが大きな負担となった。
・　男親がいないことで、周りから偏見をもたれた。
・　各種育英資金や奨学金には大変助けられた。

○　遺児の養育状況

［保護者］

・　二人の娘が難しい年頃で父親一人で苦労した。
・　初めはトラウマであると気がつかなかった。
・　遺児と実子の接し方に悩み、苦労した。
・　あしなが育英会など同じ境遇の集まりは励みになり良かった。
・　各種育英資金や奨学金には大変助けられた。

○　震災遺児に必要なことなどの提案

［遺児］

・　震災の経験を伝えることは残された者の役目である。
・　遺体の保存に使うドライアイス一つにしても役所が有事に備えて手助けする仕組みを作っておくべき。
・　親がおらず進学できない、不安を持っている子供に金銭面、精神面への支援が必要。
・　避難所での女性に対するプライバシーの確保が必要。

［保護者］

・　遺児や保護者が気楽に相談できる場があればいい。
・　各種申請手続きに時間がかかった。もう少し迅速にしてほしい。
・　震災時の交通規制、生活用水の確保が重要。

〔別添資料〕

1　震災障害者面接調査（14名）
　(1)　対象者プロフィール
　(2)　面接内容（項目ごとに整理したもの）

2　震災遺児面接調査（遺児7名、保護者10名）
　(1)　対象者プロフィール
　(2)　面接内容（項目ごとに整理したもの）

震災障害者
インタビュー内容

プロフィール

震災障害者－1		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月16日（水）
	面接対応者	本人のみ
基本属性	性　別	男　性
	年齢（調査時）	83歳
被災状況	被災場所	芦屋市精道町
	家屋被害	全　壊
	家族の状況	妻：無事
負傷の状況	救出されるまでの時間	3時間
	診　断	右股関節脱臼骨折
	障害の程度	4　級
	搬送・転院などの経緯	西宮中央病院に入院後(10日)、箕面市民病院に転院し手術(80日)、再度西宮中央病院に転院（40日）
仕事		退職後で無職

主な発言

○　1階が崩れ、落ちてきた梁で足を挟まれた。

○　搬送された病院は被災して対応できなかったため、1月19日に箕面の病院へ転院し手術を受けた。

○　箕面の病院から転院し、10年近くリハビリを続けていたが、平成16年11月にひどく足が痛んで手術を受けた。

○　今は日常生活では殆ど痛まないが、長い時間歩いたら痛くなる。排尿困難も併発している。

○　震災時は病院も被災し、混乱しているが、症状を正確に把握し対処してくれる医師に巡り会うことが重要。

○　大規模災害時に、様々な負傷者に対応できる拠点病院の整備が必要。

○　震災にも耐えうる構造を備えた家に住むことが被害軽減につながる。

○　独り身の高齢者のために低料金で介護・医療が受けられるケア付き施設の充実を。

○　リハビリの支援として介護保険でのスポーツジム等運動施設利用時の割引制度を。

○　病院で市役所の障害者手帳の申請窓口を教えて貰った。

震災障害者　インタビュー　①

日時：平成23年2月16日

（震災被害の状況）

住まいは震災時からここ(芦屋市精道町)に住んでいます。(写真を見ながら)これが潰れた家です。ここが一番初めやと思う。まあこれがうちの潰れた家です。

要するに、2階建ての家が2階が滑って1階になったの。俺と妻はね、1階で寝てた。関西で地震が揺って家が潰れるなんてことはあるまいと思って、寝とったんやわ。目は開いていましたけど。そこにバーッと土が落ちてきたんやね。これは昔の家やからね。とにかく瓦の下、土一杯入れて、壁も全部土壁ですから、バラバラッと落ちてきて。南側が昔の家は廊下でずっと開いとったでしょう。そうすると一番弱いのは南だから、あの時、上下動がありましたでしょう。それで一番上の梁が落ちてきてね。どこか、「お前が出て来たとこはここや」と書いてあるはずなんやけどな、写真に。

僕ね、足挟まれたのよね、上の大きな梁で。それで下は絨毯が敷いてあり、「死ぬかな」と思ったんやけどね、初め。だけど、見たら空間があったから、「こら息ができるやんか」、「これは死なんな」とは思った、自分では。だけど足が痛かったんですよ。「抜いてやろう」と思って、やったけど、中国絨毯やから、どないもできんですわね。懸(か)くわけにいかんからね、畳の上に敷いてある。しょうがないから寝とったんです。のどは渇くし寒いしね。結局「梁を上げんと足は抜けんな」と思ってね。消防行っても、「あんたとこだけとちゃうから、そんなもん行けへん」て言われたんや。次女がね。「助けに来たってくれへんか」言うて行ったらしい。周り皆、前も潰れて、前の方亡くなられましたからね、「まあそうやろう」と。「ほんならしゃあないな」って。

俺、「どっかでジャッキ借りてこいや」言うて、下から怒鳴ったんやけどな。でね、こっちにガードがあって、ガードの角のとこにAさんと言うて、小学校同期生で鳶(とび)をやっとった男がおるんよ。その息子が2人おって、「あいつやったらジャッキ使えるんちゃうかな」と思って、「Aに言うてな、ジャッキ持って来て、これ上げさせてくれ」って。他の素人では余震があってよう近づかんのよ危なくって。だから結局彼らが助けてくれたらしい、上げて。それで足が抜けて、穴から誰かの肩に。

甲南台にいた、うちの長女が電話かけたら鳴るんやて。でね、「テレビで精道町はものすごいことになっとる」言うて聞くからね、しゃあないから8時半頃に車で来よったんや。その頃はジャッキして、俺9時に出たからな。3時間ここにおったわけや。車で来とるから、甲南台の家行こかと。「B(息子の名前)はおれへんのか」言うたら、「当直や」言うからね。「すぐ病院電話かける」言うたけど、かからへんねんな。しゃあないから公衆から何回もかけて、ようやく捕まったんや。ほしたら、「親父がこうや」言うたら、「お前、西宮もそうやから芦屋の人のためにそんな救急車行かれへん」て言う。「うちの自家用車でも連れて来い」て言うて、2時頃行ったらね、途中皆道ふさがっとるからね。結局C病院の前の道を通って、苦楽園へ出て苦楽園の橋が倒れとって、一番奥、甲陽園に近いとこを回ってもういっぺん下がって、今度は(国道)171号を門戸厄神まで行ったんよ。ほんなら、病院では、門戸厄神の阪急をまたぐ(国道)171号が落ちとったんや。北側へ回って踏み切り渡るより仕方ないから、「行け」と言うて、行ったら行けたんや。病院では、部屋も取っといてはくれてな。1階は大変やったよ。それで自家発はあるんやけど、大きい寝台が乗るエレベーターはちょっと動かされへんから、毛布で4人で担いでくれてね。診療、X線なんか撮っても現像でけへんねん、水が出ないから。それで暇な人もおるわけやから、そういう人が皆担いで、6階の寝室まで。「お父さん、ここ産婦人科やからあんまり騒がんといてよ」言われて。それと婦長さんも、「まあ静かにしとってくださいね」。そこでね、17日の昼から行って、飯もできないからパンばっかり持って来て。婦長さんが、「申し訳ないけど、ご飯ができないのですよ」言うて、パンばっかり。17日も18日も全部パンで。その時な、西宮球場のライトが点いてたねん。ごっつい癪に障ったけども。全然どうもなかったんやね、あそこは。病院の6階からよく見える。あの時は甲東園の新幹線が落ちとったしな、あれも。

（けがと治療の状況）

それで整形外科の先生は、子供と一緒に入局した方で、「どないしょう」言うて、レントゲン撮っても現像できないから透視をして、それも、俺と子供と整形の先生2人と、あともう1人誰かおったな。行って黙って透視やって診てくれたんや。で、「グチャグチャやから、これはもうこのままどうこうせい言うたってできないな」ということで、結局「入れ替えなあかんやろう」と。ほんでD大の医局全部探してくれよった、生きとる(通常に診察している)ところをね。それともう一つは、この手術ができる人がおるとこ。結局、「箕面市まで行かなあかんなあ」いうことになったわけ。兵庫県は全然駄目やったんです。それで箕面へ行って2月1日に手術をしました。だから2週間ぐらい経ってから。

それまでにね、Eさんというのがな、副部長やって。まだ若くて新進気鋭の元気な男やったわ。そんなもん、お前、生き残ったんやからな、手術して死んだら阿呆らしいからな、体の中を全部検査してからやろうやというのと、この人工骨が急には手に入らなかったんやと思うわ、僕は。英語のカタログ見せてくれていろいろ説明してくれたけどな、「こんなもんを入れるんや、チタンのな」言うて、「わかった」言うて、結局、2月1日に手術しました。

（箕面で入院治療）

箕面に行ったのは1月19日の早朝。

この時はね、箕面の救急車が来てくれました。5

時半頃看護婦が起こしに来るから、「早く行かんとね、道路が通れないんですよ」ということでね、ものすごく早く来てくださって、救急の方と運転手とうちの息子と、それから整形の先生はついて行かなかったな、あの時は。それで「全部ここへ頼んであるから行ってくれ」言うて。もう全部きれいに段取りができとった、行ったら。でその時、こっちへ来るのは朝だから混んでたけど、上りは空いてましたからね、割に早く行けた。箕面やったら僕は、ずっと石橋に通ってましたからね、だから「何の因縁か知らんけど」と思いながら行ってね、いろんな検査をして手術をしてくださったんです。初めみんな、「もうこら、車椅子やな」っていう話になっとったらしい。だけどE先生は、「6週間したら歩けますよ」っていうことやったんですよ。それで、これがE先生の診断書なんです。

（リハビリの開始）

それで要するに、2月の1日にやって、3月15日からリハビリを開始いたしました。行くのは歩けないから、車椅子でエレベーターで降りて、リハビリの1階へ行った。とにかく最初は、皆さんご存じやと思うけど。平行棒を歩いて、その次は輪っかのついた車で歩いて、その次に松葉杖で歩いて、松葉杖が1本になって、今玄関に置いとる普通のステッキに変わった。4月27日に、「もう病院飽きましたから」言うて退院さしてもらったんや、H病院を。

それでE先生はな、「お前な、仮設へ帰っても風呂が高いんで、風呂を跨げるかな」と。「いつまででもええから、ここでな、おってもええんやけどな」と言うてくれたんやけどな。家族が通うのも大変やしね、遠いから。あの時は、阪急電鉄西宮北口まで歩いて、大阪まで阪急で行って、地下鉄で千里へ行ってバスで来なければいけないんですよ。そら気の毒やから。それともう一つはできなかったいうことについてF病院が非常に責任を感じてくれてね、Fの整形の先生が要するに、「家も大変やし、西宮へ帰ってリハビリしたらどうや」と言うてくれよってな。うちの子がな、先生がこう言うとるから、「Fへ行くか」言うてFへ行くんです。だけど「Hの先生にそれを言われへんやろう」。

医者という商売やるからには医局の教授の命令で全部どこへ行けって決まるわけですからね。

それで、まあE先生には言えなかった。今でも言ってない。Fでリハビリをやるということは。それで1日だけ、仮設は3月にもう始まってましたからね。それまでは甲南台でこの人ら皆一緒に暮らしとったけど。俺4月27日の晩だけ仮設で一晩泊まったんや。F病院が「早よ来い」言うからな、「28日の朝、行くわ」と言うて、6月の中旬頃までおったんかな。ここでもな、「仮設なんてお前、これから夏で暑いし、あんなとこ、暮らされへんで」言うて、「俺とこの部屋やったらいつまででもおってもええよ」言うて、みんなそう言うてくれたんやけどな。「大体、病院の食べ物も同じもんで、そんなもん何カ月もおられるか」言うて。それで6月にFも退院した。どっちにも言われへんから、F病院とH病院へ。「あとのフォローしたる」言うから、フォローしてもらいに行きよったんです。二つとも、X線撮って、「ああ、全然変わりまへんなあ」言うけどな。「変わりないけど、俺、筋肉痛いんやで」言うて。「そら使うたら誰でも痛くなりますよ」とのことだった。

ただE先生（元H病院）とこだけは、私は平成16年の7月まで9年間、1月に1回通いました。この人は、俺が退院した明くる月にG病院の部長へ転出したわけ。Hの副部長からGの部長に。僕が帰って、一番最初のアフターケアに行った時にはHにおらなかった。そこでね、E先生の下で一緒に俺を診てくれとったらしい先生に「どないしたんや」言うたら、「E先生はGへ行ってもうたんや」て言うからな、「そしたら、ここで診てもらわれへんな」言うたら、「ややこしいからな、Gへ電話かけるからGへ行ってくれ」いうことで、Gへ行ってん。E先生が俺とこの電話へ一生懸命かけた言うんやんか。ところが仮設の電話知らへんわな。まさかE先生が電話かけてくるとは思わへんもん。で、Gへ行ったら、「お前とこへかけたけど、何ぼしてもかからへんねん」と言うねんやんか。「すんまへんでした」言うて。「ほな、ここへ来てくれな。向こうより近いからええやろう」て言うて、「ええですわ」言うて、僕は、平成7年の7月に向こうへ初めてアフターケアに行って、毎月16年の11月まで、9年と4カ月ほどずっとケアしてもらったんです。この時にね、ものすごく痛くなったんや、16年11月に。足が。ところが彼開業しとるからね、手術できないでしょう。開業医へ行ったって、そんな場所がないし道具がないし。

日本で、大阪で3人おるんや、これの名医が。ほんで1番がI病院のJ先生、当時副院長やった整形の。それとあとK病院とLのM病院と。この三つあるんやけどな、「お前(芦屋)とこやったら、Iが近いやろ」と。（紹介状を）書いてくれた。この頃地域の医者と中央の管轄する病院とはすぐファックスで、「こんな奴がおるからいつ何時に誰を訪ねて行ったらええか」いう病状を打ったら、すぐアンサー来ますからね。「これを持って、何月何日にJ先生とこへ行ってくれ、そこで診るから」。それで行ったのが、何をしたかいうのが全部ここに控えが載っていた。「200万円ぐらい掛かるけど、お前はもう障害者やから（自己負担額は）普通の1割で、個室代だけ出したらええわ」いうことで、市役所へ行って全部手続きして、11月30日に手術をしたんですよ。早かったよ。J先生はものすごいけど、ええ人やったですよ。一番最初に「私の質問にだけ答えてください。一切あんたの思うたこととか感じたことは言わないでください」と。イエスかノーかで言えっていうことなんよ。それと、「手術したら、明くる日からすぐリハビリをやりますよ」っていうこと、その二つだけ言うたわ。ほんで「何月何日に来い」と。だけどはっきりした先生でね、昔の軍医と一緒やったわ。要らんことは絶対言わん。ピシャッと言うて、良いことと悪いこと、そんなうまいこと

は言わへんよ。悪いことは「悪い」と、しなければならないことは「しなさい」とね。今でもそうですよ。この間行ったら、一番最初のレントゲンと現状のレントゲンを撮って、「全然変わってない」と、入れたもんは。要するに、この受け側の腰の上の骨と下の骨とにグサッと入る。「これは全然変わってないからどんどん歩け」って、「そしたら長生きできる」って。

（現在の生活）

だから僕は週に4日プール行ってますからね。水中歩行30分か、冷たい時は20分ぐらいで上がるけど。今日も行ってきたよ。

それで、まあそういうことで今に至っているんやけれど。だけどね、やっぱりね、初めね、J先生は、「お前もう杖つくのやめへんか」いうて言うからな、それはちょっと、20分つかんと歩いたらかなり筋肉痛くなるんや。ほんでな、何年目かな、これ平成17年、今で6年ぐらいなるねんや。俺今83歳やから77歳の時か。その頃すごい言うたんや。「もうええ加減に杖やめてええで」て言うてたんやけど、80になった時、「もう80やからな」言うて許しが公になった。「もうプールなんて、お前金出して行かんでもええやないか」言うて、「寒い時はデパートの中を歩いたらええねん。夏でもデパートの中歩いたら全部冷房したあるからな、向こうやったらただで何ぼでも階段もあるしやな、一番ええやんか」いうような、J先生が言うたんやけども。他の先生は皆「プール行きなさい」って言うけどな。今ほんでもね、ちょっと歩いたらやっぱり痛くなるから、要するに俺の非常用のやつは痛くなったら(貼り薬を見せて)これを貼るか、それかロキソニンいう薬を飲む。これはまあ非常用として今、持ってますけどね。あと大事なのが、全部履歴。例えばね、こんな何番。こんだけ一つの病気で変遷しとるわけや。ただ、俺が一番疑問に思うのは、E先生ともあろう人がなぜ、人工骨を入れる時にな、こういう人工骨の入れ方をしとるねん。これはJ先生は言わなかったけど、俺に見せよったんや。俺、馬鹿やから気がつかなかったんやな、その時まで。(レントゲン写真を見せながら)これがこの上のこういうお皿に来とるな。これが膝から下へ入り込んでるでしょう。この入り込んでるところにね、普通やったらここへスポッと入るこの太さのやつを入れればいいねん。

ところがね、箕面の病院ではここへ一つブッシュをかまして骨に入れとんねん。こういうレントゲンが出て来とるのやから、間違いないねん、J先生が言うたのは、「2日目からもうリハビリやぞ」言うたんと同時に、「今度は一発で入れるからな」って言うたんや。「何のことかな」と俺思たんやけどな。「こんなブッシュは使わない」いうことなんや。俺はこれが今でもようわからんねん。Iの病院で当直をする先生に全部に聞いたってん。「こういう手術の方法はあるのかないのか」言うたら、みんな「そういう方法もあります」ちゅうて、口を濁らすんやな。「まずい」とは言わないんやな。それでね、僕は「まずいんや」と思うわ。この時のこの径をレントゲン写真から計ってね、何号のやつを準備しといたらいいかって、開いてから騒いだってしゃあないねんからね。いいのをね、手術する前にチェックしたんですよ。ほしたら「2本準備しとこうやっ」ていうことになったんや。それで、その時不思議なんや。J先生の下に本当に弟子としてこれの専門家になろう思って来とった男がおるわけや。それがずっとついとったわけや。彼がそういうのを全部H病院から調べたわけやねん。どんだけの太さのやつを準備したらいいかいうのを。そしたら、「Hではっきりデータが残ってない」っちゅうねんや。そこら辺がちょっと俺、臭いなと思うねんな。まあ何年も経っとうから残ってないっていうのが結論やったから、「2本用意しときますからね」って言うた。これで細かったらこっちっていうの。だから「心配することないですよ」て言って。J先生は「今度は一発で入れるからな」って言ったんや。だから、俺はそこがどうも誰が悪いと思とるのか、どっちが本当なのか嘘なのかいうのを、誰も口割らんからそれ以上聞かんことにしとるんやけどな。痛くなったいうのはどうもそれと違うかなあという気がするんやけどね。それと、もう一つはね、要するにこれは天然のものじゃないから。こっちは天然やけれどこっちは人工のもんですから、完全にここで接触した場合、どっちかが摩耗して粉になりますね。そういうものが肉体の中でどんな悪さをするのかいう問題はある。これはJ先生ははっきり言うてくれた。「それによってどういうことが起こるかっていうのは今の医学では解明できてないんや」って言われてた。まあそういうことで、今の病状はそういうことなんですよ。

平成7年に骨頭を入れ、平成16年に入れ替えたから、今で丸6年プラス2カ月か3カ月経ったわけです。今は痛くない。痛くないけど、ちょっと無理して歩いたら痛くなる。J先生は、「俺だってな、仁川のゴルフ場を一日中歩いたら痛とうなるわ」、「そんなもん当り前や」、「筋肉使うたら筋肉が痛うなるのは当り前なんや」と言うよ。だからレントゲンで見て、骨とこれとの接触が全然正常やったら、これによる痛みとは違うんやということを言うとるわけなんですよ。だから筋肉っていうのは目で見えないからね。テレビでやっとるけどあれ、赤い色やあれしか見えんでしょう。骨はもうはっきり分かるからね、レントゲンで見たら。だから、筋肉とか神経いうのは、お医者にも分からんし自分でも、だからよう分からん。だけど人工骨を入れる件数は、I病院は全国で3位ぐらいです。関西ではそこと、大阪の今言うたK病院とNと、兵庫県では尼崎のL病院、あれ一つしかないんです。ここらの整形外科医の人は、「Lでやりますか」って言うわ、すぐに。要するに、おる人の質やろうと思うねん。これでI病院はC病院なんかと違ってやっぱり、とにかく儲かっとるらしいよ。もちろん、大きい工場があります。Cとは全然違うから豊かですわな。でも、やっぱり病院ていうのはお医者さんの質と、整形ちゅうのは半分は技能やからね。歯医者さんとよ

く似たとこがある。そういうことぐらいやったかな、それが経過なんや。

（障害者手帳の取得）

障害者手帳は箕面を出た時に貰ったんや。平成7年5月頃。「申請せえ」ってE先生が言うたから。これ市役所へ持って行ったらな、申請してくれるからしたんや。それとね、これはほんまの病気言うかな、負傷によるけどね。同時にね、俺今尿道狭窄いうのが起っとるねん。これはね、歩かれへんでしょう。そうするとカテーテルによって排尿するわけね。こんな袋ぶら下げて、それを看護婦さんが定期的に換えてくれるわけやけどね。カテーテルを入れて尿道の、あれはね、膠（にかわ）質って言いよったな。尿道っていうもののできとる素材言うか、まあ生きとるやつやから。それによって、何か作用するんかな。縮むか伸びるか知らんけど、人によってそれが違うらしいねん。俺はどうもそれが害を与える種類の人間らしいわ。それでな、H病院でも1回起ってん。小便したいのに出ない。夜中やってな、俺も仕方ないから詰所へ行ってな、「実はこうやけど何とかしてくれへんか」て言うたら、外科の先生が来てくれよって通してくれよって排尿することができて。これ膀胱が異常になると、いろいろ他の病気になるから。それが1回H病院入院中に起ったね。一番長く入れとったんはH病院の時ですからね、5週間。いや、自分で立って小便に行ける時には外しとったからね。だからそれが原因でやな、平成16年の6月にまた排尿困難が起こってやな。うちの子どもに言うたら、F病院で「切開手術しよう」言うて、で、また切開手術して。それから後は1年に3回ぐらいか。アフターケアをずっと続けている。

地震による骨折がなくても尿道狭窄が起こったんかも分からんけど、余病としてそういうことが起こっています。

（生活上困ること）

私が非常に正常者と比較して困っているのは杖をついてる関係か、歩速が遅い。おばさんでもトットットッと抜かしていきよるわ。それから下着などを履くのにね、一番最初H病院で教えてもうたのは、座って右足からこういうやって履くってな。今でもそうやらないかんから、プールへ行ったって俺の占領する場所が広い。そういう何かちょっと下着類、特に靴下の着脱に嫌な思いをいたしますね。それから右足を使う運動っていうのは、片足立ちが左足に比べて弱いです。水中で立つ方がずっと楽です。初めE先生も、「お前、立ってみいや」言うて、何秒いうて測りよったけども、両足を風呂入って鏡で見たら全然太さが違うもん。大体駆け足できないでしょう。水の中やったらやりますけどね。それからね、筋肉が弱いいうことですよね、片足。リハビリ、それから要するに、障害いうのはその場で治ったら終りでなくて、こうしてずっと一生涯リハビリと付き合わないかんいう問題があるわけですね。時間と金がかかるわけですよね。こういうことに対して、行政ではあんまりハンディキャップだとは思ってくれてないわけや。俺はいつもセントラルのスポーツジムへ天引きで支払していると思うんやけどな。あれのまあ全額いうのはひどいやろうから、何割かぐらいはこういう障害のある人はリハビリをせなあかんから、今の介護保険もあることやから。割引制度を考えてくれたらええのになと思とるんですけどね。もう僕は10年以上やっとるから。ゴールド会員やからね。だから何かそういうミニマムの条件に対して幾らかでも補助を決めてくれたら、もっと有難いなあと思う。

この家建てる時、手摺りや階段の段差の段を低くして、ステップの部分を広くして上がりやすくするっちゅうのはMハウスがよう考えてくれよった。実は俺はHの病院に入っとる時に、これも余談やけどな。家内と子供で、「どこにしよう」言うて、Mハウスの展示場へ行ってて、そこに決めたらしい。

俺が病院から出て来て、仮設へ帰ってきた時には図面ができとったんや。俺図面で1カ所だけ直したんですよ。1995年に地震揺ったでしょう。1996年の3月1日にここへ帰ってきました。その代り、外構は全然できてなかった。それから外構屋は別だからね。Mハウスに斡旋さして外構屋、それから植木屋は庭木を全部やらしたんや。それで井戸が埋まっとったから、井戸全部掘り返してポンプ付けたんやね。

システムキッチン、昔はコの字型が流行っとったんや。「今はI字型が流行ってんねん」言うて、もう展示会行くたんびに変わるねん。こういうなんでも、もうちょっといろたら250万(円)とか掛かる。年金生活者には非常に辛い。儂（わし）、そら利子は昔みたいにせめて4％あればね。今と2桁、2桁違うねやろう。4％で老後の生活を考えとったからね。「こらルンルンや」と思とったけど。もうちょっとあかんなあ。これからの人は大変ですね、地震揺すったら大変やで、これから。僕ら、地震揺すらなかったら。本当に。郵便貯金が10年で倍になったんやからな。貸付信託でもね、昔の日本興業銀行の債権でもとにかく4％で、そんな今みたいにあんな利子(課税)20％取らへんかったからね。だから貯金しよう思ったら何ぼでも貯金できたよ。ほんでベースアップ段々段々あるでしょう。だからそれは今の人は大変やと思うけど、だけどやっぱり朗らかにちゃんとやってはるもんね。その代り、俺らが川鉄に入った時なんか、150時間ぐらい残業したで。千葉で。

（地震対応住宅のこと）

俺この中で埋まっとる時に「地震で死ぬなんてしたら笑われるぞ」と思うて。そのためには耐震とか免震とかいうの、皆どこのメーカーもやってますけれど、マグニチュード8まで大丈夫ということになっとんですよ、カタログ上はね。俺がMハウスの技術にもう一つ惚れたのは、この基礎の上に立つベースと柱の締結がものすごく形鋼（かたこう）でうまくできとるということ。一体化してます。それで、

この方法は他のメーカーにないなっていうので、「まあええやろう」ということにしたんやけれど。

問題はこのマグニチュード8ちゅうのが曲者で、この間揺すったでしょう。あれ、いつやったかな。東灘の沖で、そうすると震源地からかなり近いんですよ。ところがすぐラジオをつけたら、震度3だっちゅうねんな。芦屋、西宮、東灘。あれで震度3かって、俺思ったよ。誰に聞いても「大きかった」って言うよ、あの地震は。ほんでラジオは震度3だっちゅうのよ。これね、問題なのは結局震源地からの距離ね。もちろんエネルギーの大きさもあるけど距離が問題なの。だから直下なんかやったら、どんなに(家を)強くしたって壊れちゃうと思うわ。だからね、防災ので、「こうしたら大丈夫」ちゅうのはちょっと。免震かな、一緒に揺れたら潰れへんかも分からんな。あの方法が一番良いんかも分からんな。例えば、構造上浮く家ね。こういう物理的な強度よりもそういう方法をしないと、いつ起こるか分かれへんもんな。

「南海や、もっとあっちやあっちや」思とっても、こないだみたいなことあるんやからな。だからね、「これ震度8まで持ちますから大丈夫ですよ」いうて言うけどやな、違うんちゃうかなって俺思い出してな。「今度地震揺すったら、またこんな思いかなわんな」と思て、今度鉄骨やから、落ちてきたら本当に切るわけにいかんでな。「ジャッキじゃ。溶接機持ってきて切断しないと助からんのとちゃうか」思うね。まあこれ火が出なかったからええわね。この辺、兵庫区みたいにね。だからこの防災のこれね、とにかく潰れん家が一番ええんよ。だから俺この時思たん蒙古のああいうパオ。そこに住んでいたら、一番助かるん違うかなと思ったわな。よっぽどフニャフニャのもんにするかな。リジッドな(堅くて曲がらない)もんでちゅうのはちょっと、あの揺れ方から来られるとね、まともに来ると耐えきれんのと違うかなという気がしたよ。

負傷者の救出いうのは、いろいろ皆あっちやこっちに倉庫作って皆物を納めてはるけど、喉元過ぎればやもんな。防空演習みたいなもんやで、あれ、昔の。そんなもん、焼夷弾落ってきたら、あんなもんで消せるはずがないねんというのが分かってくるやろな、1、2回やられたら。だからこれも今みたいに考えたら、あんな小屋にあんだけのもんぐらい入れとって、どうにもならん気がするんやけどな。「あったはずや」って言われても。それと医者いうのは、どこの医者へ行っても治るか言うと、そうではないわな、ええのに当れば治るけど、変なのに当るとごねるよね、だからこれは難しいと思うから。

(災害対応拠点病院の指定)

地震によってどんな負傷者が出るかいうことで、拠点病院っていうのをどっか決めなあかんと思うな。本にようけランク付けがしてあるでしょう。ところが、うちらの子供に聞くとな、あんなとこに載せんの、金出したら何ぼでも載してくれんねんて。「あれも信用ならんのか」て言うたら、「あんなもん信用ならへんで」て言うからね、だから本当にランク付け言うんか、実績のある人を拠点病院として、この種の患者はここへ連れて行けと。ヘリコプターでも何でもいいですから。そこまで考えないと、包帯するぐらいでの人やったらいいですけどね。ちょっと(傷が)深い人はね、難しいわね。

ここの前の人も何か胸へパンと来たんやて。それはしょうがないわな、諦めないと。即死やもんな、それやったら。こんな人はまだね、端やったから、まだグズグズ言うとるけど。

僕は、皆さんがライフラインで困っておられる時には病院におりましたので、その苦しみはよく聞いてますけれど、身をもって体験したことはありません。

(行政等のサービス)

行政の手続やサービスでは、まず、自動車のね、障害者に自動車の税金が免除されるいうことを長いこと知らなかった。手帳を取ったときには、国鉄が何百キロ以上は半額、しかもそれは普通乗車券だけ、それは書いてありますからね、ほんで航空機かな。俺は乗ったことないけど、汽車は乗ったことある。せやけど自動車の免税は書いてない。

(ケア付き住宅の充実)

1人暮らしの人の老人の実態と、それから介護保険の話がある言うから昨日行ってきたけどね。あれも大変や、あの介護保険も。あんな口で言うように、医療と介護とそれから年金と、三位一体でうまくやれるかどうか、ね。それよりか、要するに、段々独り暮らしか二人暮らしかになるわけやからな。有無を言わさず。そうなった時に、結局自分の家が良いに決まってるけど、自分がどうすることもできなくなったら誰かに来てもらわなあかんしな。それをどうも政府は、要するにそういう1人とか2人のマンションみたいなものを作って、それに医療と介護を引っ付けて、まあ今、私立では一杯できてますわね。だけど、あんなもん何千万円いう金最初に出してね。あと月々30万円も出したら、あんた、年金全部出して小遣い1銭も残れへんねん、あれ。ああいうことは庶民では無理だわね、あの生活は。だからあれを国でちゃんとできるように、早くしないとあかんわな。昔、千里やらあそこに新しいああいうマンションができた時と同じようにサッとあんなものをやって、介護、医者いうのをちゃんと付けて。だけど家内が先死んだ人が一番気の毒やな。もう「とにかく掃除と飯作るのが大変や」言うとるもん。それでそういう施設で、飯と風呂がそういうのでやってくれたらごっつい楽。それでまだちょっとここが痛い、しんどいいう時に診てくれる人がそばにおったらな、心配も要らんし。だから、それを早くやったらええのに。

プロフィール

震災障害者－2		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月16日(水)
	面接対応者	本人、妻
基本属性	性別	男　性
	年齢(調査時)	63歳
被災状況	被災場所	西宮市西田町
	家屋被害	全　壊
	家族の状況	妻・子:無事
負傷の状況	救出されるまでの時間	―
	診断	脊随損傷、頸椎症性脊随症、脊随変性症
	障害の程度	2　級
	搬送・転院などの経緯	平成8年の夏に体調不良になり受診(入院日数不明)
仕事		警備業(震災後、一時継続)

主な発言

○ 隣が銀行だったので、自宅家屋がもたれかかり完全な倒壊を免れた。

○ 子供を守ろうと覆い被さったところ、冷蔵庫と机がのしかかってきて背中と首を強打した。

○ 警備業を営んでいたが、震災直後は復旧工事優先でガードマンなしでも可となり、仕事が激減した。その後、会社は弟に引き継いだ。

○ しばらくの間、社屋が避難所になっていた。

○ 一見健常者に見られるが、天気の悪い日は首が痛む。まっすぐ歩けない(自分ではまっすぐ歩いているつもり)。後ろを振り返るとバランスを崩して転倒してしまう。耳も一方が聞こえなくなった。排尿にも支障を来している。冷たい水に触れると感電したように痺れるので、お湯でないと顔を洗えない。

○ 自覚症状がなくても周りの指摘(言葉)で早期受診すべき(被災数日後、社員から「まっすぐ歩いていない」という指摘があったにもかかわらず、そのまま仕事を1年以上続けていた。)。

○ 現在は仕事もできず、病気に付き合っていかなければならず、生活保護を受けている。

○ 障害者手帳の申請手続きは全然知らなかった。病院で市役所の窓口を教えてもらった。

○ 震災後の救命、対応が遅い。自衛隊にすぐ要請すれば救えた命もあったと思う。

震災障害者　インタビュー②
日時：平成23年2月16日

（障害の状況）

見てもうたら元気そうに見えるでしょう。だから、先生に「損やね」って言われる。みんな「元気そうやのに」って言われる。ここの筋肉なんかこんなに痩せこけて、ここ痛いんですけどね。骨だけ。いや。僕の場合ね、まだ維持してるからいいんですって、早い人はものすごうなるんですって、早いんですって。体は内臓もそう悪くないし、いいんやけど。たまに首が痛いとか、ここは常に、ここから下はずっと痺れています。曇りの時なったら、痛い痛い。この間も雨降ったでしょう。あの前の時にバーンと手が浮腫(むく)んでものすごかったんですよ。雨のひなんか、痛いから、妻に当りまくるから、「私にまで当たらんといてー！」と言われるんです。

まだね、最初よりも慣れてきてんかどうか知らないんやけど、お味噌汁でも持っとったらパッと引っ繰り返したりね。だからスプーンで食べたり、たまに食べさせてもらったりして。妻が調子悪いから、娘にたまに来てもうてね。30分ぐらい。

これになってから本当、ものすごい病気出てきましたわ。神経ね、ここ打ってるから、骨も圧迫してるみたいやけど、神経自体がいかれてる。だから神経が途中で白くなってしまって、「手術は？」て言うたら、「できません」て言われて。「今の医学じゃ無理です」「付き合わんとしゃあないな」と先生に言われて、それで先生の話聞いて自分自身でその病気に対応してる。

こうなった原因は、不思議なもんでね、やっぱり子供守るのに、子供の上へ俺、圧（の）し掛かったんです。そこへ冷蔵庫と机と、乗ってきたんですよ。それで子供ら助けんといかんから、必死やからそんなもん構っとられへんし、それから、この子供とか箕面の実家へ車で送っていって。症状は、その時はね、そんなん気にしてない、必死やから。

それから何日かしてから、俺も、もと自営してたから、その時に「社長、真っすぐ歩いてないで」って言うから「え、俺は自分では真っすぐ歩いてるつもりやけどな」って言ってたんですよ。言われるまで分かんない。従業員、人が足りなかったから、俺も仕事行ってたんですわ。仕事行った時に体がクルッと回ったんですよ。それは、立っとって車来たから後ろ下がろうと思った時に体がクルッと１回転したんですよ。従業員も見とって「社長、どうしたん？」と言うから、「いや、分からん」。それから病院行ったん。１年ちょっとかな、かかったんやけど、ずっと診てもらったけど、「駄目です」って言われて、それで仕事も降りたんです。それまで震災後も仕事やってたんです。

自営業はずっと警備会社しとったもんやから。一応オーナーやったから。だから従業員がそれ、言うまで知らんかった、自分では。病院行ったら、「何かありますか」って言うから、いや全然そんなこともないし、「おかしいですね」。それでずっと調べてもらって、ここ打ってるから、それで。その時に脳梗塞の気があるとも言われた。

それは震災後、内科に行ってから。内科の先生が初めて言うてんな。「ちょっと脳梗塞の気がありましたね」言いはるから、それまで全然知らなかったもん。それで、病院行き出したのが多分震災後、３年ぐらい。従業員は言うてくれてるんよ。行く度、歩く度に、「社長、やっぱり真っすぐ歩いてないで」って言われるんよ。自分では歩いてるつもりやから、あんまり気にしなかったんよ。ほんなら、自分が仕事行った時に体が回ったから、「これはあかんわ」。ほんで病院行ったら、やっぱりそういう診断が下りてきたんですよ。妻ももうびっくりしてね。自分では歩いてるつもりやったからね。全然気にはしてなかったんやけど。

（震災時の状況）

ちょうどあの時、本当。ほんで子供は必死やったから、ちょうど横の方に寝てたからね。そのまま上に圧し掛かったから。死ぬかと思ったな。

家は、当時ここと違って西宮市西田町にあった。夙川からちょっとこっちの方。（国道）171号線上の。あの辺ひどいとこやったんや。うちの従業員があそこで２人亡くなってる。自宅も全壊で、１階で寝ていて。ある従業員の人ね、１人はそのまま中で柱落ちてて死んでるんやけど、もう１人は１回出たんやけどね、また中へ入ったらしいねん。それでやられたんや。２人の子がいて、それも16歳か、17歳か。そういう若い人も亡くなってるし、従業員の女の人やけどね、その人もそんなんやったからね。近所にもね「助けてくれ」って言うてんねんやけど、こっちは、子供らを運ぶのが必死やし、それに埋ってんのも分かってんねんやけど、行かれへんのよね、こっちを先せんことには。助けに行ったもんな。大変やったです。従業員も皆来てくれるんやけどどうもなれへん。事務所の方はまだ良かったから。

震災後、「ガードマン付けんでもええ」となったんよ。「先工事にかからんといかんから」言うて、「ガードマンええ」ということで、返事が来て仕事無くなってしまって。そこは従業員も休ましたりしとる。家に入れんようになった近所の人うちに泊めたんよ、事務所に。避難所にしばらくなっとってね。やってたんです。仕事がないから何もないから、ザーッと毛布とか敷いてやってたんだ。救援物資が届くから、私らも皆、近所の人と一緒に会社の方に避難して。だから、食べもんはね、まあ何とかなるわな。食べるのはね、即うちに持って来てくれたから。

うちが避難場所みたいなったけど、ほんま服１枚もなかったからね。そやから、妻が「どんなして生計立てたらええんか」言うけど、「何とか会社があったから」と言うて。私らもね、何とかここまで頑張ってきたけどね。負けんとこ、という感じやったからなあ。子供が可哀想でね。子供は小学校４年か５年ぐらいやったんちゃうか。それぐらいやったな。もう今26、7歳か。

あの時は参ったな。その前にね、１回車が家に突っ込んできたことがあるんやわ。家は、(国道)171号の大きいカーブのとこやから、始終危ない。自分とこに突っ込んできたことがあるんですわ。ほんで地震の時にね、「また車突っ込んだんかいな」思たんや。ほんなら違うん。(揺れが) 止まらへんねん。「うわー何？地震やわ」思って子供を庇（かば）った。無意識で庇ってたんやね。

それから、銀行が横になかったら、私ら死んでたかもしれん。住んでた家は文化住宅で、たまたま上が引っ越した後だったんですよ、だからそれだけで（も助かった)。それが銀行にもたれかかったから。折れてね、もたれかかった。他のもんに聞いたら、「もう、文化住宅全部がいかれた」。うちらの棟だけぐらいやったん違ったかな、潰れなかったのは。銀行にもたれかかって。あれがなかったら、ぺっしゃんこやったんやけど。あれ銀行で止まったからね。なかったら完全に死んでるわ。

だからその時は「何にも要らんわ」という感じ。家の中から何にも出されへんし。箕面に行くのに、行きしなんて、スーッとスムーズに行けたんです、30分ぐらいで。帰り言うたら、最低でも８時間ぐらいかかったな。返ってきたのが夜中なったもん。子供も恐怖症で、もう「怖い怖い」言うて。子供３人おるからね。だから全部実家の方へ連れて行って。その日に連れて行かないと、こっち動かれないから。実家も半壊みたいな感じやったけどな。妻の母親もそれから１週間後に亡くなったんです。そら大変やったけど、何が何か分からなかった。妻達は、その後ちょっとの間箕面で生活して。僕の場合、避難所があったからこっちの方で一緒にいた。

だから僕は、１カ月に１遍箕面に帰ってくるとか、そんなんでね。たまに帰るって言ったけど、会社もあるしね。従業員放っとかれへんし。従業員も家もないでしょう。だから、「ちょっとの間おれ」、いう感じでね。だから皆で助け合って。最初は食べ物もないし。お風呂もないでしょう。でも、２日目ぐらいにはもう全部持って来てくれたからね。被災した人でもようしてくれたもんな。

会社は末広町にあったかな。まあ小さな会社やけどね。それでもね、従業員がね、皆良いやつばっかりだったからね。皆それぞれの生活かかってるしね。その人だけやなくて、家族もいるじゃないですか。だから、僕らも儲け取らなくて、みんなにこの際やってしまった。僕ら儲けること嫌いやから。だからほんま貧乏社長ですわ。その代わり良いように帰ってきてます。人生、お金なんか持って、死ねませんやん。だから、やっぱり人に愛されてね。B社長、社長、言うてね、良うしてくれたもんな。事務所ではそんな状態やった。

仮設住宅には行かなかった。こっち（公営住宅）には８年の夏来たんやわ。最初呼ばれた、通知来た時にね、「仮設かな」と思いながら行ったら、こっちの方を融通してくれたから。子供も３人おるしね。学校とかもこっちへ移して貰った。大変やったわ。

(障害に気づいた時、その症状)

病院へは、こっちに来てから行った。遅いけどな、A病院行ったんかな。だから自分ではなってない、そんなん全然思ってなかったから、体が回ってから、皆が「病院行った方がええわ」言うてくれるから、病院行ったらそういう診断下りてきたから。自覚症状は、何もなかったですよ。自分では普通に歩いていると思てるから。従業員が早ようから、「社長、やっぱり歩いてないで、真っすぐ」って「いや俺、真っすぐ歩いてる」言うて。

妻は「何かおかしいな」言うんやけど、「あんまり変なこと言われへん」と思って。妻は糖尿で私の方が健康やから。

「あれには参ったなあ」思て、俺も全然（自覚症状が）分からんもんやから、従業員が足らない場合仕事に出てるでしょう。ほんならいきなり体回ってしもうてから、やっぱり悪化したんや。耳は遠いし、あかんし。耳も片一方も聞こえなくなった。それが神経の関係か分からん、はっきりしてへんから。元々はね、こっち(左耳)が悪かったんやわ。ほんで、こっち(右耳)がおかしなった時に、診てもらった時に、「あ、こっち一緒、治りますよ」っていうことで、手術してもらったんですわ。ほんで今度こっち(右耳)が聞こえなくなった。元々こっち（右耳）も少し何かしたみたい、一緒に。こっち(左耳)をした時にこっちをね。膜か何か貼ったみたいですわ、ちょっと穴あったから。それはね、全然聞こえなくなってるんですわ、聞こえる方は。こっち(左耳)は全然聞こえなかって、こっち（右耳）は聞こえてたんやけど、こっち(左耳)の手術した方は聞こえる、これ(右耳)は聞こえない。だから、今補聴器してるけど、こっち(右耳)は聞こえないよ。だからボリュームも23ぐらい。25かな。最初なんかもう、これ25から28、9。その人の言葉の低音とか高音とかってあるでしょう、それによってまた聞き辛らい時があるから。今これ、はめさせてもらってんねやけど。普段はこうやって（補聴器を外して）ても聞こえるのは聞こえるんやけど、そんなに聞こえない時もあるし聞こえる時もあるから、そういう時にこれはめてます。

病院には、ずっと通てる、耳もやけど、手術

して６年ぐらいなるんよ治らない。先生に言ったもん。「失敗したんと違いますか」言うたもん。まともに先生に。こんなこと言ったらやっぱあれやけど、とにかくお金。

最初は、「耳、ネバネバするから、耳鼻科も行こうか」と言えば、耳悪かってん。ほんで手術してな。それまで病院とかあんまりかかったことないねん。

次に、おしっこが出なくなったり、前立腺。やっぱり神経の方をやられてるから前立腺の方もおかしなって、それも通てるしね。癌でないんやけどね。ほんで入院したり。ほんで膀胱やっぱり膨らむから痛いし。夜中６回ぐらいトイレ行くでしょう。出ないんです。ほしたら苦しいし痛いしね。アナドロ症なんですよ。今はもう大分ましやと思う。でもやっぱり２、３回行くかな。行った時も、じーっと立ったままで出ないんですよ。で終って、１回帰ってきて、それからちょっとしてまた行くんですよ。出ない。ほんでちょっと。また出ない。もう頭きてその場で。いや、どうしても出さんとね、痛いから出そうとするんやけど出ない。で、「病院、明日行くわ」言うて病院行って、管通して。部屋がないからまた家帰って、２、３日して。「空きましたわ」言うた時にまた行って。大変や。そんなんばっかし続いて。

（障害者手帳の申請）

障害者手帳を申請したのは、結構遅かった。発行は平成14年になってますわ。先生がね「手術もでけへんし、１回手続きしますわ」言うて、してもらったんやけど、１回目は出なかったね。まだ、そこまでいってないからいうことで。２回目に出してくれた時に２級で下りたんです。Ａ病院。障害者手帳もらってもどうもないけどね。ただね、電車とかに乗ってどっか行く時ですね、２人分、助かるからと思って。

（現在の症状）

会社は、できないから弟に任せたんです。ちょうどね、弟はね、大阪におって、「大阪もあかんから」言うて、うちへ来てくれたから、それからすぐ震災ですわ。それも弟も２人ね、結局会社で養うのと一緒ですわ。それで、これなってから、「自分ちょっとやってくれや」言うて、させた。

生活は今、市の方にお世話になってます。市の方もいろいろ検査、こっち来て調べ、何しよったけど、保険証も貰ろて。だから生活保護でやってる。仕事もでけへんし、まあええか思て。この病気とも付き合わんとしゃあないから。良くなればいいんですけど。俺たまに言うんですよ、「これ手術してや」って「いや、でけへん」って。

リハビリは続ける。だからリハビリの先生に言うねん。「リハビリして治るの」って言うたら「治りません」て。今ある力を保つ、それだけです。だから先生も「歩きなさい」よう言うけど、歩いたら今度また足がね。１回この杖ついて歩きよった時あったの。ここへ杖当たってね、こけよる。首打ったんやわ、息止まったわ。ちょうどこの縁（へり）でバーン当たってんねんな。結局、病院に診てもらってから痺れが出て来だした。

水なんか触れへんけど、チッチッチッと来るからね。水なんか普通に触るでしょう、顔洗う時に。電気が走る、あんな感じ。ちょっとしたらバーンとこけたんですよ。「あれっ」と思って、それからまたやる。また転ぶ。「こらあかんわ」。そやから全然水使わないで、湯沸し器のお湯でお湯やったら大丈夫。だから、妻に顔洗ってもらったり、ほんで拭いてもらったり。家からもあまりでない。家ばっかりおったらあかんし、たまには出ないとてね。だから植木なんか放ったらかし。今まで植木は好きやったけどね。

痺れは常にあるんやけど、動かしたら手がバーッと腫れる言うんかな、浮腫（むく）んでくるみたいな感じやねんな。ここも浮腫んでくるねん、ボールみたいに。関節も全然ダメ。だから整形で湿布もろうて、必ずはめて、手を保護しないと。煙草も一時止めとったんやけどね、いろいろ考えたりしよるとどうしても駄目ですわ。ストレスですかね。だから出る時はこんなん格好悪いから、これ塗ってからするんやけど。行く度に、車椅子もあるんやけど、乗って行かなくて、「車椅子は？」って先生に言われるし。杖ついて行かな。行くでしょう。行かなかったら怒られる。「次から装具つけて」って。それからリハビリの先生はもう、「後ろ向いたらあかん」言うねん。いきなり呼ばれるでしょう。そしたら人間、一瞬パッと向くでしょう、ほなコロンといってまう。だから絶対向いたらあかん。躓（つまず）いたり、こけたらあかん。進行性やから。家でも、ちょっと段差があったら躓くからね。だから気をつけな。

見てもうても、元気そうに見えるけど、そんなどころと違うからね。病院へは大体週に２回行く。一昨日が耳鼻科やって、ほんで内科、泌尿科。ほんで昨日、皮膚科。今は病院が合わせてくれるのよね。泌尿科やったら泌尿科、耳鼻科やったら耳鼻科でね、あるでしょう。時間を合わせてくれるんですよ。最初はそうやなかったけど、最近多いもんやから、合わせてくれて。だから大分楽になったんですよ。最初の時分は週に俺３回もね行っていた。１日がかりです病院も。泌尿科と耳鼻科とリハビリと、３カ所４カ所回ったら本当に１日がかり。でも、Ａ病院は総合病院だから全部ありますからね、だから１箇所で診てもらえる。

（相談窓口）

障害を負った後、相談の窓口とかは、あんまり知らなかったから、病院からは、こっちの方は貰ってたんやけどね。あと「市の方へ行って

くれ」って、市に行って、障害者の担当に行って、ほな全部してくれたんです。

（現在の食生活）

内科もね、23日また行かないかん。だから先生はこないして、一遍にしてくれてる。その代わりリハビリは必ず行かんといかんから。だから熱とか、そんな体調悪い時は、「今日やめとくから」って電話入れるの忘れんように、これトイレに張っとかんといかん。それで妻も自分の病院も行かないけないでしょう。糖尿やから。「Ｃさん、いってまっせ」と言うて、35ぐらいの時に。結構長い間。全然分からなかったんですわ。更年期障害と一緒に重なったもんだから。また私の世話もあるし。だから妻は甘いもん何も食べてない。いや「死ぬんやったら何でも食べた方がええか」言うて、チョコレートとか饅頭なんか食べとるな。俺は控えるよ。先生から言われてるから、アンパンマンの小っちゃい子供の食べるやつで１杯食べるか食べないぐらい、あんまり食べたら駄目。その代わり野菜とか、肉はいいから。先生が言うのには、ご飯とか麺類とかは炭水化物やから、あんまり食べない。

そやから食事療法で変わりましたね。だからもうね、内臓関係の糖もないしな。内臓関係はまあ良いわけですわ。これがもう痛い。俺は昔から甘いもの好きやったからね。甘党やから。饅頭でも何でも、ケーキも。松山のちょっと大きい餡がたっぷりのタルトでも１本ペロッと食べよったからね。食べもんはよう食べとるな。ほんま食い助やからな。

（震災時の会社経営）

自営をしていたけど、その時会社は月給の者はそのまま渡したから。バイトでも来る人はそうなんやけど、月給は全部渡さんといかんし、でも収入がないし、最初はね。震災になる前の12月かな。その時に、ちょっと貯まってるから「来月、会社も楽になるし、家買おうか」っていうことやったんやわ。それが、12月27日、言うたのが。自宅から15分ぐらいね、能登町の方やけど、一軒家ね、たまたまちょっと奥の方にあったんですわ。ほんで土地が安かったから「買おうか」言うて、「頭金だけしょうか」言うて、ほんで、「もうちょっと待ってくれ」って。それで判子ついてたら。１月７日に業者来るって、契約交わしてもうたら、12月の27日に判子ついてたら完全に。行ったら、もうメラメラ。裏、沼みたいなとこや、そこ。

残ったその金で、「月給も出さんといかんから」言うて、もうそれこそパー。でも、まあね、市の方が助けてくれたからこうやって生活やっていけるんやけどね。今もね、大変やけど、まあ何とかね。だから後はこうやってのんびり生きてなしゃあないな思って。そら仕事もしたいですよ。だから、「行きたいな」思てね。「また向こうの方に迷惑かけたらあかんしな」とかね、そういうのを考えたら、どうも向かないですね。

（震災時の救助）

震災後の時に救命とかそういうのは遅いよね。自分らで必死になってやらんといかんいう感じやから、確かにしんどいですわ。あの時に足切ったんや俺。足切ったんやけどもそんなん構ってられへんから、子供らも、寝てるし向こうの部屋行かれないもの、塞がってしもうて。

地震のちょっと前に、次女が「お母さんのど渇いた」言うて、ほんで、妻が「ちょっと待って」言うて良かったんです。あれで妻が台所に行ってたら、完全に死んでましたね。震災の時、皆寝てた時間で、部屋は、向こうとこっちと２部屋あって、僕らこっちで寝てた。向こうへ行こうと思ったら行かれないんですよ、塞がってしもて。ほんで俺、炊事場の窓から出て、裏へ回って、おかしいもんやね。馬鹿力いうてあるんよね、あの時。裏も開かへんから、私が大きな箪笥を持ち抱えて、それでガラス割って、そのガラスをみんなどけて、裏から出て。裏に部屋あったんやけどね、やっぱり塀も登って逃げ出したね。箪笥を横にしたら、その上に、子供を渡して、裏から皆さん方が妻や子を助けてくれて、抱えてもうて、降りてしばらくしてから震度４が来たんや。あの時は、怖かったなあ。

その時、俺、入れ歯忘れて。それだけないんよ。その下のおっちゃんは眼鏡忘れて、入れ歯忘れて、あれは大笑いやな。

あの時、自衛隊でもね、先要請すればね、ほんま救えれたんやろうけどね。ちょっと対応が遅いわな。僕の方は炊事場のガラスをぶち割って、出たんやわ、ほんで裏へ回って、子供らもね。だからもう、すぐに俺は「大丈夫か」言うた時、「あ、みんな生きてる」と妻は思たようやけど、ほたらちょうど次女がたまたま声してへんから、「あ、もう逝ったわ」と。ほんで妻が「Ｄ～（次女の名）」言うたんですよ。ほんで声聞こえへんですよ。しばらくして「Ｄ～」言うたんですよ、何度かね。ほたら、しばらくして小ちゃい声で「ウーン」言うて、生きてた。間一髪。しばらくして、妻と長男は全然大丈夫、言うか、まあ妻の母が助けに来よったんやろうな。何かいろいろ言うてましたわ。だからそんなんで、「Ｅが危ない」言うて。妻、Ｅ言うんですけどね。「危ない」言うて。妻の母が姉の夢枕に立ったって、「今から、行くわ～」言うて、タクシーで。妻と息子と、ほんでここに次女が寝てたので、長女と俺が向こうで寝てた。そんな状態やったと思う。だから次女は死んだかと思った。ほたら、「フンウーン」と「おい、起きとるわ」と。あの時は「逝った」思ったね。涙も出えへんかったもんね。ほたら「お父さーん」言うて、そんなんやったからね。テレビがこうあったから。ほんま間一髪やったもんな。ほんでみんな

無傷やったから。犬もまあ何匹かいたけど生きてて良かったな。犬もだけど偉いもんやね。俺も動物好きやからね。癒やしなるしね、犬おったら。

（現在の家族の状況）

去年孫が亡くなったもんやからね。１歳ちょっとでね、急死やったからね。12月４日に亡くなって。次女の娘がね。原因不明で全然わからんのよ。

（写真を見ながら）こっちのピースしてるのが次女なんですよ、ほんで赤い服着てる子が長女です。黄緑の服着とるのが長男です。ほんで晩帰ってくれるからね。そんなんして来てくれるから。俺が好きやからね。

（義援金のこと）

だけど、市の方もちゃんと、みんなしてくれてたみたいやけど、やっぱりみんな不満もあるしね。僕なんか避難所入所してから、すぐ持って来てくれたから。食べるものも不自由しなかったし、それは有難いなと思てますわ。ただね、僕らこれ調べてちゃんとしてもらわんと困るなというのはありましたね。僕らでも一応、行政の方からまあ貰いましたわね。だけど、あれは貰う時は１軒に対してのあれを貰ってるんでしょう。最初100万ぐらい貰ったやつ。見舞金か、義援金、１軒に100万。

でも、１軒に例えば２人おるとする、籍は入ってないけど。それは200万出すわけ。籍が入ってないから２世帯分てことになる。腹立ったもんな、あれはな。結局同居しててももらえる。それで悠々として、腹立ったよな、あんなんな。何やってるの、あれ。いや夫婦やから、ただ籍入ってないだけやから、籍入らずにね。名前がだから違うわけ。例えば田中さんやったら、池田さんとかね。それが「おかしいことするな」と思って。腹立ってね、みんな貰えない人もおるしね。あと、悪いことする人ね、絶対にそないことになってくる。

（障害者手帳申請手続に関して）

ほんでこの件にしてもそやけど、震災（障害者）、おそらくようけおると思いますわ。震災後なった人はね。それ放ったらかしみたいな感じで、俺らもどこへ連絡したらええんや分からへんし、どんなんかも分からん。「どうなってるんやろう」ってのがありました。そんなんでもね、「早よ対応してもらえたらな」と思ったこともありますしね、行政のやり方もあるから、こっちは思うだけで連絡する方法も分かれへんし。

障害者手帳申請の手続は、市に先に書類出した。だから僕もそれ全然知らなかったんですわ。それで先生の方がちゃんとしてくれて。僕ら特にそうですわ、病院もかかったこともないし、福祉の窓口等も知らないですね。そんなん全然頭に入ってないから。個人はそんなんわからへんから言われへんけどね。最初に申請したのは、病院行き出して２年か３年ぐらい後ですわ。最初申請して駄目で、先生からまた話があって。その時分はまだ、今のようにあんまり悪くなっていなかった。そら不自由やったけど、今はあっちもこっちも具合が悪くなってきている。早い人はものすごい早いらしいんですよね。僕の場合「まだ維持してるから」って言われてましたわ。行くたびに先生に会うたら言われるんですよ「こけてないでっしゃろな」て。先生の方が気付けてくれてる。こけたら悪化するらしいです、だから、そればっかり気にする。

プロフィール

震災障害者－3		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年3月9日(水)
	面接対応者	本人、友人
基本属性	性別	女　性
	年齢(調査時)	61歳
被災状況	被災場所	西宮市北昭和町
	家屋被害	全　壊
	家族の状況	子:無事(1人)、死亡(1人:息子)
負傷の状況	救出されるまでの時間	12時間
	診断	左下腿コンパートメント(筋区画)症候群
	障害の程度	5級
	搬送・転院などの経緯	県立西宮病院に搬送されるも3日間治療なし(約3ヶ月入院)。その後、北海道の病院に入院。
仕事		震災前に勤めていた3か所の仕事はなくなった

主な発言

○　玄関で旅行へ出発する次女の見送り時に被災。左足が折れ曲がった状態で長時間圧迫され続けた。
○　近所の子息(居所は別)が発見し、レスキュー隊により救助された。
○　目立った外傷がなかったため3日間治療されず、3日目の夜に左足が腫れ・変色して挫滅症候群と判明し、緊急手術した。
○　平成15年頃になって突然PTSDを発症した。一緒に被災した次女にもPTSDが出るかもしれないので、言ってはいけないと言われ、隠していたときは辛かった。
○　移住先の北海道では興味本位で震災のことを聞かれるのが辛く、西宮へ帰りたくなった。
○　北海道の病院では障害者手帳の申請不可と指導されたが、平成15年西宮に帰ってきてから知り合いや主治医から指導され、取得できた。
○　西宮に戻ると家は撤去処分済みだったため服もお金も全て失った。現金がなくて非常に困った。
○　自分よりももっと大きな障害を負っていたり、多くの家族を亡くした人がいることをテレビで知ったことで、周りの人たちの助けや、遺族年金を残してくれた主人に感謝する心を持つことができた。
○　日頃から継続した近所づきあいが大切。
○　災害時に備えて避難所の確認や不安定家具を固定しておくことが大切。
○　日中に震災があったら家族はバラバラで安否確認ができなくなるので、日頃から家族のスケジュールを確認しておくべき。
○　自然災害で被災したのに、行政や他人に文句ばかり言う人がいるが、まず、自分自身で災害時の対処やその後の生き方をあらかじめ考えておくべき。

震災障害者　インタビュー③

日時：平成23年3月9日

（震災時の状況）

震災の時は、西宮阪急北口駅から西へ500m位の所の北昭和町に住んでました。小さな鉄筋コンクリートのアパートの1階に住んでたんです。そこが全壊して、1階だったので特に。西側に潰れ、その西側にいたので余計。西側の一番西の部屋に息子がいたので息子はあっという間に下敷きになってしまったんですね。

私達も、その時は主人が平成5年に亡くなって、娘2人と息子と4人で暮らしてたんですけども。長女は少し前に結婚して違うアパートに暮らしていて、私と次女と長男といたんですけども、3人が震災に遭ったんです。

ちょうど地震が来た日の朝は、次女が友達と一緒に外国旅行へ行くということで、大きなトランクに荷物を詰めて、地震の数分前までストーブつけて、部屋で荷物を入れてたんです。時計見て、もう出かけなきゃということでストーブ止めて、部屋から出て来たんですよね。隣にいた私は、1週間ぐらい会えないから、娘に行ってらっしゃいを言おうと思って出て来たんです。そして玄関のとこで娘が靴履いてたんです。右足を入れた途端にグラ～ッと来たんです。

その時に娘はスーツケースと共に後ろへ下がって、スーツケースの下に横倒しになったんで、スーツケースは潰れてたんですけど命を助けてくれて、スーツケースの分余裕があって、体が直接潰れなかったんです。腰にひびは入りましたけどね。私は玄関のたたきの高さ10センチ下の所に落ちてしまったんです。そして海老のような状態になって、左足からお座りしたような形になって、左足がもう。助けられたのが夕方の6時ぐらいですので、12時間ぐらいそういう状態で圧迫されていたんで、挫滅症候群ですか、左足がそうなったんです。

その間、意識はあって、頭は潰されなかったのでね。ここまで天井が来てて、余震が来る度にガーッと押されるんですけど、それ以上落ちて来なかったんです。あれ、もっと押されて潰れてきたら、もう駄目だったんですけど。何かが引っ掛かってたんでしょうね。手は両手を使えて、ちょっと空間があったんで、そこら辺にあるがれきを拾って、叩いて、「助けて」って。叫んだけれども外にいる人に聞こえなかったみたいですね。でも外にいる人の声はみんな聞こえるんです。誰の声かが分かって。それから結婚した娘が駆けつけて、「お母さん、お母さん」って叫んでる声も全部聞こえてるんですけど、私達の声は聞こえないらしいんですよね、でも圧迫されているので息ができなくてね、息を整えて2人で「助けてー」って、呼吸を合わせて何回かしたんですけど、「全然聞こえなかった」って言ってました。

次女は私の後ろの方にいるのは分かるんです。「お母さん、お母さん」って言っているのは。「ああ私の斜め後ろにいるな」と。でも玄関の横に小さい部屋があって、そこに息子がいたんですけど、息子の名前を呼んだんですけど1回も声がしないので、もしかしたら駄目かなって、その時一瞬思いましたけどね。後から話聞くと、外から見てる人は、「ペシャンコになってて、とても中で生きているようには思えなかった」って言われたんですけど。

2階に住んでる方の別の所に暮らしてる息子さんが、1人暮らしのお母さんを心配して飛んできたんですけど、その人が床から穴を掘ってきて、私の家の構造知ってるわね。自分の母親の住んでる真下なもんだから、大体私達がいる所を分かったんで時間かけて掘って、近づいて来てくれて、その人の声が聞こえたんです「Aさーん」って「ええ？」って言ったら、「ああ、そこにいるんだね、助けてあげるからね」って言って、音がしたと思ったら、その人の指がガーッと出て来たんです。それしか穴開かないんです。そしたら光が入ってきて、「これで助かる」と思って、「指握ってください」と言うから握ったら、「わあ大丈夫だね」って。その方が一旦出て、また戻って、今度レスキュー隊が上の方からがれきを取り除きながら、ガスも出てたらしくて「タバコ吸わないでください」って声が聞こえて、火花が散っても爆発しないバーナーで鉄筋を切って、がれきを取り除き、ガバッと開けて入って来て最初に私を引き上げて、それから娘を引き上げて。だから12時間ぐらい下敷きになってたんですけどね。

その間ずっと、がれきでがっちり固められて、押されてたんで、苦しかったですね。「もう駄目かなあ」と思ったんですけど、近所の方と仲良くしていたんで、皆さんが、「寝てる部屋はこの部屋で」とか、みんな教えてくれてたんですよね。だから、助けやすかったのかなと思って。3DKぐらいの小さな代用社宅と言うか、主人が亡くなった後、私が個人で借りるようにしたんですけど、分かりやすい間取りだったのでね。でも玄関の鉄のドアも道路の方まで飛んでたって言うから、かなりの衝撃ですよね。2階、3階が押し潰されてきたんですからね。

後で聞いたら、私が助けられた大分前に息子は、引き出されてて、道路側だったので。でもB病院に運んだら、「即死です。亡くなってます」って言われて、平木中学校の講堂に安置されたの。そこにかなりの人が安置されたみたいで。

（救出されて入院）

私は、次女の友達の男の子達が3人ぐらい駆けつけてくれてて、その子達が車に乗せてB病院に運んでくれたんですけど。でも、足とかある程度レントゲン撮ってくれたんですけど、どこも骨折してないし、外傷がなかったんです。どこも切れてなくて。それで大丈夫だと思われて3日間放置されてたんですよ。

その間、歩くことも何もできないです。痛いし、打撲と言うか、ひどい状態なのでね。体は衰弱しているので動けなかったんです。でも先生方が来たのは、3日目の夜ですね。私があんまり左足が痛いんで、「助けて、助けて」ってお姉ちゃんに、「お願いだから、普通の痛さじゃないって」言って広げた

ら、ここから下までもう赤紫色にブワーッと腫れてたんです。それで先生が3人ぐらい来て診て、すぐ手術しなきゃいけないっていうことで。先生が分からなかったんですって、挫滅症候群というの。そういう症例を診たことがないので、何のことか分からなかった。なぜこんな外傷もないのにこんなんなってるのか分からなかったみたいで調べて、炭鉱の事故の時とか、何日も埋もれてた人達はこういうふうにして亡くなっていった症例を、先生見たんでしょうね。それで私がそういうのにあたる、同じだということで、その時は毒素がどんどん、血管を通して腎臓や心臓に行ってたんで、心不全を起す寸前で、切らないと助からないということで、娘達には同意書を書かされて、「今から膝下から切断しますから」ということで入ったんですけど、執刀してくれた先生が腕が良かったのか、もしかしたら切らなくても命も助かるかもしれないということで、切らなかったんですよ。切らないで出て来たんですけど、その先生が、「様子3日間見て、心臓が危ないと思ったら、もう1回手術室入ってもらって、今度こそ切断します」と言われたんです。それで集中治療室に入って、いろんな治療をしてくれたので、足も切らずに、心臓も持って腎臓も大丈夫だったんで助かったんですよね。息子が死んだことは、私が落ち着いて1週間ぐらいしてから北海道から来た兄と弟が教えてくれたんです。

最初の3日間は病院でレントゲンとかは撮ってくれましたよ、体中ね。12時間も下敷きになってたんで。でも骨が折れてないということで、後で分かったんですけど鎖骨は折れてたんです、ここは診なかったんですね、下半身ばっかりレントゲン撮って。

入院してから2週間ぐらい私も「痛い、痛い」と言い続けていたんです。肩が痛くて、「お願いだから診てください」って言ってもね、「押されてたから痛いんだよ。大丈夫だよ。」って看護婦さんが言って、先生も全然診てくれなくて。でもあんまり痛いんでね、ご飯食べるにもスプーン持てないし、普通じゃないから「診てください」言ったら、病室にレントゲンの小さいの持ってきて撮ってくれたら、「ええっ、折れてる」って言って。「折れてるけど、あんた、集中治療室に入ってて安静にしてたんで、自然にくっ付いてたんですよ」と。

動かなかったから、何も処置しないまま。だけども固まってしまってて、動かなくなっちゃって。自分で治したんです、リハビリして、包丁もスプーンもボールペンも持てませんのでね。自分なりに少しずつ動かして、いろいろ工夫してやったんです。

今ね、90%ぐらいですかね。でもちょっと違和感がありますね、何か持った時にポロッと落としたりしますけど。

リハビリで、絵を描いたり、糸と針と布買ってきてね、針仕事してみたんです。こうやって。そうしたら段々指先が(動くようになって)。

それから、私の入院しているB病院はその時建物が新しくなってましたけど、私のいたところは古い方で、「余震でまた崩れるかもしれん」て、「危ないから」って言って、C病院に転送されたんです。2か月くらいは左足の前後を切り開いて、毒が一杯、菌が一杯だったので、開きっ放しでずーっと。先生が毎日消毒してくれて、その状態でずっと入院してたんです。

(北海道へ転出)

4月に札幌の兄が「これ以上ここに居ても、退院しても家もないし、北海道行こう」言うて、連れに来てくれたんです。先生に言ったら、「まだ縫ってないので、広げたまま行くわけにいかない」っていうことで、その頃、菌も無くなった状態になってたので、縫ってくれたんです。上から下まで手術の跡。車椅子で兄に連れられて、私と次女は北海道の実家へ行ったんです。私はまだ向こうで病院に入院しまして、しばらくしてから肉が付いたのね、皮がくっ付いたので抜糸したんですよ。そして向こうで足のリハビリをしたんですよ。でもこっち(鎖骨)のリハビリはほとんど自分でしました。こっちはあんまり重要視してくれなかったのでね。

足はよくリハビリしてくれるのに、こっちは全然放ったらかしで、何でかな。大丈夫そうに見えるのかなと思うんですけどね。でも私には手も回すのもこうするのも辛い状態で。食べるのも、スプーンも持てない、箸も持てない状態だったんですけどね。でも私、こんな混雑して大変な患者さんいる中でね、「1人だけワーワー言ってても仕様がないわ」と。「自分のことは自分でしよう」と思ってね。自分でいろいろ考えて、みんながやってるリハビリ見ながら、手の悪い人はどういうリハビリしてるのか見て、自分で真似してずっとやったんですけどね。しなかったら多分手も駄目だし、リハビリを怠ったら、先生に「歩けなくなる」って言われた。リハビリの先生は厳しい先生でね「リハビリ怠ったら歩けなくなる。一生車椅子でいいのか」って言われて、頑張りましたけどね。気分がめげてる時のリハビリなので、嫌で嫌で仕方なかったんですけどね。

残った娘達のことを考えると、私が寝たきりになったり介護が必要になると、結婚したての長女の家族が先ず大変ですよね。そして、未婚の次女もいますし、その子がこれから先の青春も何もないですよね。そう思うと、私が自分で1人で生きるためには、リハビリ頑張ろうと思いました。それで、一生懸命リハビリして、最初は車椅子だったんですけど、松葉杖になって、それから松葉杖も外して、あと杖になって。今は杖も外して。上肢から下が駄目なのでどうしたら良いか考えて、上肢の筋肉を鍛えることが一番なので、鍛えて、この筋肉で下の足を動かして、持ち上げてるんです。それは毎日怠らずに。痛いんだけど、歩くことにしてます。歩いて階段を上がったりして、ここの筋肉が衰えてしまったら下が、引きずらなきゃいけない状態になるのでね。それで今はなんとか1人で、知らない人が見たらどこが悪いのか分かんないかもしれないね。

(現在の状況)

腰の悪い友達が、ジムのプールでウォーキング

やってるので、私も「ほんな行くよ、足のため」と思って、行って歩いてたら、片方の足筋肉全部取られたのに、足が双方に細くなくなって、取られた方の筋肉がね、自然に同じような形になった。整形の先生は、「タンパク質を摂ると取った筋肉や血管は戻らないけど、肉は付くから」って言われたのでね、「タンパク質の多いもの、豆類とかチーズとか、そういうものを食べなさい」って言われて。そしたらすぐ肉は付いて、こっちの丈夫な足とそんな太さ変わらないですよね。

でも、人には見せないですけど30分か1時間したら痛くて痛くて。アキレス腱のとこも駄目だし親指も全然感覚なくてプランプランしてるんで、親指の裏のつけ根が親指の代りになって、こんな皮が厚くなって、それを1か月に一遍はカミソリで削るんですけども、それも痛いしね。だからベンチがあれば、30分ぐらい歩いたら休みますし、出かけても1時間ぐらいしたらどっかで座っているので。私が普通に歩いてる姿を見てる人は、別に何ともないんじゃないかと思うけど。私はそういうところを見せないので、自分で疲れたら、1回買い物してきたら戻ってきて置いて、休んでから、もう1回出かけるっていうようにして、まめに回ってます。こういうことは友達には言わないですね。

（PTSDの現出）

ところが、落ち着いた平成15年ぐらいでしたかね。急にPTSDが出て来たんです、恐怖心が。夕方この部屋でね、「ああ暗くなってきたわ」と思って、この状態だったんですけど、厚いカーテンを閉めて、閉まった途端に、突然閉じ込められた感覚が蘇ってきて、パニックになってしまって。それまで何でもなかったのに、どうにもこうにも息苦しくなって、カーテンを開けてみたんだけど、向こうは何にもないのに、コンクリートの何メートルも何十メートルもの壁のような気がして、パニックになってしまって。「これは大変だ、どうしよう」と思って、家の中でうろうろしてたんだけど、どうにも収まりがつかなくて。先ず茶碗を全部出してもう一回洗って。とにかく気を落ち着けなきゃと思って。茶碗洗ったり、そこら辺を雑巾で拭いたりして、気を紛らわすために、そういうことをしてたら、1時間ぐらいしたら落ち着いたんですよね。でも1日置きぐらいにそういう症状が表われるんです。「これは放っといたら駄目だわ」と思て心療内科に行ったんです。そしたら先生に「PTSDです。悪いけどね、一生治らない」って言われてね。記憶の中にあるものは時々何かの拍子にパッと出て来るから。

フラッシュバックが、パッと起るんですよね。 抑えることはできないので、そういうふうになった時に解消する薬、不安な時に飲んだら、すぐ不安が解消できる薬をね、安定剤みたいなのね、ちょっと強いのくれて。少し通ってて、それで落ち着いたんですよね。何年も何ともなかったんですけど、また昨年の春にPTSDが出て来たんです、何にもない普通の生活してたのに、急に恐怖心が襲ってきて、1日が恐ろしくて恐ろしくて、居たたまれなくて、ずっと朝から晩まで来てもらって一緒にいてもらったりして。

ブラーッと歩きますね。もうじっとしてられないし。誰かいたら、いろんなことがカバーできることが、1人なので不安になったり、それが襲ってくる感じですね

急にね、それでまた今も心療内科に通院してます。その先生にも言われました。「治りません、これはもう一生、生きてる限り続くものですからね。でも、こういう薬の助けがあるから、そんな強い薬じゃないので、不安な時には飲んでください」て言われましたのでね、それを飲みながら対処して、D（付添人）姉妹以外にもたくさんのお友達がいるので、みんなが来てくださって、ご飯作ってくれたり。よくご飯を食べられなくなるんですけど、長女もここから10分ほどの所に住んでるんで、お弁当を毎日つくって持ってきてくれたり。でも娘は割と淡々としてるんでね「また始まったん、お母さん」って言われて、でも、去年の春の時はほとんど家にいるのがしんどかったんで、娘の家に無理無理、連れて行かれて、1週間寝泊まりして。

今は、ちょっと落ち着いていますね。でも時々何も心配事ないのに、フワーッと不安な感じが1日中続いたりするのがあるけど、でも自分で認識して、「これはPTSDだから、こうなってるんだ」って自分の中で判断して、パニックにならないように、落ち着くようにしながら生活してるんです。

平成15年にそういう状態になった時は、心療内科の先生は、「一緒に震災の時に下敷きになってた次女さんには絶対言わないでください。お母さんがこういうふうになってるということを知ったら、娘さんも同じ状態になるから、言っちゃいけない」って言われたんです。だからあの子には。その時あの子はまだ結婚する前なので、この家に一緒に住んでて症状が出たんですけど、あの子がいる間は我慢して。仕事に行っていなくなると、かえって逆にほっとしてゴロンと横になって薬飲んでボーっとしてたんですけどね。

でも今回は言いました、次女にも長女にも。「お母さんこんなふうに言われて、こんな状態に時々なる」って言ったら、下の娘も15年、16年経ちますので落ち着いてるので、聞いてもそんなにびっくりもせずに大丈夫みたいで、かえって気遣ってくれるのでね。良い夫がいるので、1人の時のあの子には言えませんでしたね。あの子は今度頼る人がいるから、私は安心して言えたんですけどね。あの子が弱った時に夫が支えてくれますからね。

（西宮市への帰還）

北海道には平成7年4月末に行って、それから兄の住んでいる札幌にまた行って、兄の近くのマンションに住んだんですけど。

次の年の平成8年2月に西宮へ、次女の希望で、「こっちへ帰りたい」って、「辛い」って、北海道にいるのが。何も知らない人達の中にいるのってすごい辛いみたいで。あの子も一度派遣会社に勤めに行ったんですけど。1人1人に説明しなきゃ、「どう

したの、どんなことになったの、どんなことがあったの」と、説明をするのが辛くて。向こうはたくさんですよね。あの子は1人ですね。それを話しているうちに、まだまだ精神的に立ち直ってないでしょ。周りの人はそういうことがなくて、平穏無事で普通に暮らしてるのに、興味本意で聞いてくるから、あの子にしたらすごく理不尽でもあり、震災のことを語り合える友人が1人もいないので、辛くて帰りたい。会社から戻ってくると、毎日泣いて「西宮に帰りたい」って言うから。私も「命助かったんだから、どこで暮らしてもいいわ」と思って。「自分達の住みたい所に住もう」って言って、あっという間に引っ越してきた。兄がびっくりして、「どうしたんだ」って言ったんですけど。

長女に電話したら、ちょうど長女の家の近くの荒木町にアパートが見つかって、そこに引っ越してきて、2年ほどいたんです。それから長女の夫が不動産の仕事してて、いろいろ家探してくれて、「お義母さん、足も悪いし、便利な所が良いから」って言ってくれて、最終的に住むところをここに決めたんです。平成10年からここにいるんですね。もう12～13年経ちましたね。

次女は、震災時二十歳にもうなってましたね。お姉ちゃんが22歳で、年子だったんでね、二十歳はなってたですね。次女は、お姉ちゃんのアパートへ、新婚さんの家に預けたんですよ。でもお姉ちゃんの家もひどくてね、家財道具が散乱して住めるような状態じゃなかって、恐怖心で、今まで寝室にしてた部屋以外、箪笥なんかあるんで、そこに眠ることができなくて、だから新婚さんと一緒に茶の間に3人で寝てて。「これは良い状態じゃないな」と思って、「早く何とかしなきゃ」と思ってたら、私の兄もそう思ったのか、「北海道へ行こう」って言ってくれたんですけどね。でも家が、探すことができたら、別に北海道まで行く必要はなかったんですよ。あの時なかったんですもん、仮設に入るのも大変でしたもんね。

友達が言ってましたけど、あの時、一見さんって、不動産屋さん貸してくれないんですよね。そのぐらい高飛車だったですね。「すごいもんだな」と思って。本当に我が物顔って、今やったら「来てください、来てください」ですけど、困った時はそれこそ自分達の関係する人ばっかりを斡旋するというような形ですから、高飛車にパッと断られる。ほんで、2LDKで15万と言われ、それではちょっと狭いなという感じで、15万も払えないし、いろんなことどうしようと思ったそうです。

あの時には、そういう面で残念なことがあったね。暴利を貪る賃貸業者にやられましたねえ。弱い被災者に対してね。高額な家賃を吹っかけてきた人いましたね。

親戚とか大丈夫な所はそこに身を寄せたり、遠い県へ行ったり、いろんな人いましたね。結局私も北海道の果てまで行く羽目になって。また「何であんな大変な所へ帰るんだ」って、私の親も兄も弟も言いましたけど、「大変な所だから帰りたい」と思ったのね。帰ったら分かち合える、同じ被災した人達に会える、親しい近所の人や友人達に会える。同じ共感を覚える、そういう雰囲気の中にいる方が落ち着く。ニュースで観るとひどい状態なんですけど、それでも西宮はやっぱり恋しかったですね。遠くに行った方が「帰りたい」って言ってたの分かりますね。全然何でもない人達の中に住んでる辛さっていうのはね。耐え難いものですよね。ほとんど興味本意で聞いてきますからね。

そういうのは疲れます。仕事もしなきゃいけないのに、そういうことにも気を使わなきゃいけないっていうのは、娘にとってはすごく重圧だったみたいですね。それでその年が大雪でね、胸のあたりまで雪が積もって、マンションまで帰ってくるのに雪の中漕いでいかなきゃ。あの人、5歳の時、北海道の釧路から主人の転勤で連れてきましたので、雪国の生活忘れてるんですよね。「寒いし雪はすごい」って、泣きながら。二十歳過ぎた子が、玄関開けたら、真っ赤な顔をして涙流して、「寒いよ。西宮に帰りたい」ってあまりに言うのでね、この子が私よりも、頭おかしくなるんじゃないかと思ってね。鬱病にでもなったら一生大変だと思って「じゃあ帰ろうか」と言って。

（被災住居の処分）

震災当時私の住んでた、小さな鉄筋のアパートでしたけど、家主さんもね、不動産的な仕事もちょっと手がけてたみたいやね。だからプロだから分かるのか、何かあったら訴えられたら困ると思ったのか、誰が素人目で見ても、鉄筋がすごい細かったんですよね。地震に耐えられるような構造でなかったみたい。あっという間に取り壊したのよ、がれきの山を。証拠を隠滅みたいに。普通は鉄筋だったら、そんなにガサーンといかないもん。

ショックでしたね。そういうことをするっていうのをただ罪を覆い隠すような、罪って別に家主さんが地震を起したわけじゃないんだけれども、住んでる住民から訴えられたら、こんな鉄筋だったら潰れるっていうことになって困るから。あれにはびっくりしましたね。だから私達の箪笥から、服から、針1本、何もかも全部がれきの山と一緒に撤去されて、丸裸な状態で。通帳も。着てたパジャマも病院に行ったら切られますもんね。それこそ丸裸です。何にもなくなって、お金1円もないんですよ。通帳も印鑑も全部がれきと一緒に、撤去されちゃって。

本当に何一つない状態になってしまって。娘は給料をもらったばっかりだったのと、隣のご主人も給料をもらったばっかりで、それを家主さんに訴えたんですよね。幾ら幾ら給料袋があって、そこに現金幾らあったって。みんな撤去されたわけですからね。そしたらそれは弁償してくれたんですよね。みんな近所の人が「多めに言ったら」って、みんな真面目な人ばっかりで、貰った分だけきちんと言ってね。

でも銀行は少し機能が復旧した時点で確か、どこの銀行に交渉してたか分かってたんで、行くと、印鑑をまた新しく作って、そしたら通帳もデータ出ますからね、住所と名前言ったら、作り直してくれ

て。大した財産なかったんですけど。本当に何にもなくなっちゃった状態だから何も買えなくてね。病院で支給される、病院服しかないですよね。何買うんでもお金がなくてね、大変な状態ですけど。無事だった家とか、家族無事だった近所の方がお見舞い金持ってきてくださって、5,000円とか1万円とか。その中で少しずつ紙コップ買って、お茶を飲んだりとかできるようになって、本当にお金もないし、大変な状態で。それでも少しずつ、また元の生活に戻りましたけど。

あの時、後で思ったんですけど、北海道から駆けつけてくれた兄と弟はね、私が重傷で、集中治療室に入っているわけだから、心配で私のそばから離れられないんです。かと言って、私の長女の家も滅茶苦茶で寝泊りできないしで、兄達は寝るとこがないんです。だからB病院の待合室のソファでみんな仮眠したり、暖房も切れてる中。弟は高熱出したらしいんですけどね。長女も夫もそこに一緒にみんなでぞろぞろ居たら、怒られてね、病院側から。「こんなとこで寝ないでください」って。そしてみんなで、こそこそっと下の階の待合室でまた横になっていたら、また怒られて、またそっと上へ上がって。

だからああいう時に、被災者のために遠くから駆け付けた親族の人達がゆっくりできる所があったら嬉しかったなって、後で分かった。「大変な思いをしたな」と思って。食べるものも自分達でね、分からない町に来て、どうやって手に入れていいのやらね。お風呂も入れないし、まして1月で寒いしね。毛布も何もない状態で待合室のロビーの椅子にね。

市とか県としては被災した人達を何とかすることで精一杯で、応援に来た人達をね、初めての経験でそこまでは手は回らんかったと思いますね、でも、かなりの人がそういうふうなことで来てたはずだよ。

友人の家の隣の方は看護婦さんで、家は一応立ってたから、すぐに病院へ、ここのC病院。すぐバイクで行かれたら、死体が運ばれてて、「もう死体の山です」って言うて、そんな状態やから本当に大変だった。

(息子の火葬)

入院手続きは娘達にしてもらった。それで通帳のことに関しては、私が手術が終って大分体調良くなってから、車椅子に乗せてもらって、タクシーに乗って、娘達と一緒に行って、本人、私名義のものやったら私でなきゃいけないので、行って作り直してもらいましたね。

息子は、満池谷の火葬場が満杯で、平木中学校に2週間ほど安置されたままで、火葬するとこがなくて、長女の夫の友人で、自営業をされている方が大きな車を持ってて、その人が「川西に空いてる」ってことで、その人の車に乗せて連れて行ってくれたらしいんですよ。そこで火葬してもらって、お骨にしてくれたんですよね。だから私は息子には会ってないんですよ、全然。顔見てないです。

娘は、もちろん一緒に行って。私の弟は途中でそんな状態なので高熱出して、兄には子供がいないけれども弟は、その時小学生だった子供2人いたので、「お前に何かあったら、お嫁さんに申し訳ないから、北海道に帰りなさい」って、弟を帰らしたんです、兄がね。そして兄はずっと大変な中、頑張ってくれて、息子のお骨を、私の亡くなった主人の実家も北海道なんですけど、おじいちゃんおばあちゃんがいる、そこへ持って行ってくれて、また来たんです。今度は重装備してたくさん着て、いろんな物を持って来てくれてね。またずうっとね。「兄さん、こんなことしてたら会社首になるよ」って、「大変なことになるから、もう大丈夫だから」って言ったら、兄が「首になってもいい」って。びっくりして。「首になってもいい」って言ったけど、しばらくいてくれて。私の様子が落ち着いた時点で一応帰ったんですけどね。あの当時携帯電話が普及してきた時だったので、娘達も携帯を持っていたので、おじさんとやり取りして、私の様子とかずっと教えてたみたいで。そのうちに市民病院のロビーで、無料電話が設置されて、私はその電話で自分達の両親や兄弟や、亡くなった主人の両親とかに自分の様子を、車椅子で降りていって、「大分良くなったから」って言って、常時報告してたんですよね。まあそんなこんなしてるうちに、どんどん復旧していって、素晴らしいなと思いましたね。

西宮市と神戸市の担当した人達がすごい早さで復興していったね。みんな大変な中をね、それで過労死された方もたくさんいると聞いてね、みんな頑張って、今の生活があるんだなと思って、本当感謝してますね。病院の先生とか、スタッフの方達とかにも本当感謝してますね。

(リハビリの状況)

こちらに戻ってC病院で主治医だったE先生が甲東園の駅前に整形を開いたんで、そこに1週間ぐらい通ってから先生がね「Aさんね、どんだけリハビリしてもこれ以上はもう限界だ」って言われたんです。「先生が限界だって言うんなら仕様がないな」と思って、幾ら通っても同じ状態なら通うのも大変ですのでね。それで自分でリハビリしたんです。リハビリ室でどうやったらどこを鍛えられるか見てたんで、いろいろ工夫して自分リハビリです。あとはリハビリはずっと行ってません。そやから友人が「足が痛い」とか言うとね、「こうやって筋肉付けんのよ」とかって教えてあげます。

そのうちに可愛いリハビリ士が私に付いたんですよ、それは孫なんですよ。長女が子供を生んだのね。長女が震災に遭ったせいか怖がってね、「お母さん、子供を生んでもすぐ死ぬんでしょう」ってね。お父さん亡くなって、弟も死んだもんだから、あの子なりにショックを受けてて、子供を生むことを拒んでたんですけど、ひょっこりできたんですね。子供できたら孫の世話って、実家の親がしなきゃいけないでしょ。私は立ってるのも大変なのに、孫の世話してるうちに、振り向いたりもできなかった、引っ繰り返ってたのに、孫ってチョロチョロとするんで、「えっ？」とこうやってたら、「お母さん振り向いてる」って、お姉ちゃんに言われて、「え？今、私振

り向いた？」って、「お母さん（笑）」。孫がチョロチョロする度に、私追いかけ回してるうちにね、あの子のお蔭ですごい動けるようになった。

這うようになったらすごい早いんです。バタバタって。私、今も走れないんだけど私なりの小走りみたいな走りができてるの。追いかけるために必死になってね。あの子のお蔭ですごい体が動くようになったんです。それで感謝してるんですよ。まあ大変なこともありましたけど、そういう良いこともあったし、小さいリハビリ士でね、その子もう14歳になりましたけどね。

（障害者手帳の取得）

障害者手帳は平成15年9月に申請しました。なぜこんな時になったかって言うとね、北海道の入院してた整形の先生にも聞いたし、何か所かで私の状態では身体障害者手帳を交付する対象にならないって言われたんですよ。「小指の1本でも切り落として、なくなったとかっていうんだったら対象になるけど、あなた足が付いてる、足が付いてるから歩ける。だから交付できない」って言われたの。でも付いてるけど大変なんですよ。筋肉はほとんど取ったし、血管もかなり無いし、歩くとカチカチになって、アキレス腱も痛いし、私にしたらすごい障害のある、大変なんですよ。

それで埒が明かなくて諦めてたんです。そしたらある時、私クリスチャンなんですけど、集会行った時に、股関節が生まれつき両方悪くて、松葉杖ついている仲間の方が私の足見て、「何で手帳交付してもらわないの」って言うから、「いや、こうやって言われた」って言ったら、「そんなことない、絶対に交付してもらえるから、あなたの診てもらった、主治医の先生のとこ行きなさい」って言われて先生のとこに行ったんです。甲東園のE先生に言ったんです。そうしたら先生、「そうか。手帳出してもらってなかったのか。悪かったなあ」言うて、すぐ書いてくれたんですよ。アキレス腱とか、筋肉の足首のところが全廃で、全然機能がしていないということで、足が曲がらない障害を持ってるってことで出したら、第2種の5級ってことで、15年にやっと取得できたんですよね。だからもっと早く行って、先生に相談してたら、なってたかもしれないんだけど大きな病院の先生方が「そんなん無理無理」って言われたから、「私は無理なんだ」と思ってたのね。

でも第2種っていうのはそんなに恩恵がなくて。私、1年に一遍、北海道に両親がいるんで飛行機に乗るんです。その時にちょっと割り引きが利くぐらいで、あとは全然何もないんです。何か受給されるわけじゃないし、福祉から何かお金貰えるわけでもないし、全然何も特権はないんですけどね。でも、持ってるだけでも北海道に行く時って、飛行機代って高いですからね。そう思うと、それは助かってますね。

（最近の心境）

でも一番今困っているのはPTSDで後遺症が。体の障害は自分の努力で何とかやってますけど、やっぱり心の障害は自分では治すことができなくて、記憶の中にあるものなので、それが今対処しにくいんですけども。平成7年の北海道に行った時から、向こうで聖書の勉強をし始めたんですよね。それで9年にクリスチャンになったんですけど。聖書の啓示21章4節には、死とか苦しみがなくなる時代が来るってことが約束されて、希望が書かれてましてね。私にお見舞いに来た普通の人が、こう言ったんですね。息子のことを、「F君がお母さん、お母さんって寂しがって泣いてるよ」って言うから、「え、あなたの所に息子が来たんですか」って言ったら、「いや、大抵子供は死んだらお母さんのことを懐かしがってする」と言うから、「死んでしまった人が泣いたり喚いたりするもんかな変なこと言うな」と思って。でも聖書の伝道の書9章5節を見たらね、生きてるものは死ぬことを知ってるけど、死んだものには何の意識もなく、嘆きも悲しみもない。無意識、無存在であるって。何も考える力もないし、無の状態になるって書いてあったんです。そしたら息子はあの世に行くとか行けないとか、お母さんの所に会いたいって叫んでるわけではないということが分かって、ほっとしたんです。それで聖書から慰めを得て聖書を読むと、すごく私の心のケアですね。今、心療内科の先生もすごく良いことだって応援してくれて、「みんな体の傷や病気は医学で治していっても、心のケアをするのは大変なことだ」って。「僕の知ってる精神科の先生も立派な先生だったけども、震災の時におかしくなっちゃったんですよ、もう耐えられないって、辛い、僕の精神が狂いそうだって先生が言った」って。それぐらいね、「精神科の先生でも病気になるぐらいひどい災害に遭ったんだから、心の状態をケアするのは、Aさんにとってそれが良いと言うんだったら素晴らしいことだ」って言われて。それで安心でしょう。子供ね、今でも苦しんでるなんて聞かされたら、じゃあどうしたらいいんですよね。

聖書の最初の3章19節にはね、「人は塵から取られたから塵に還る」、つまり死んだら土に還るって書かれてたんでね。別にどこか迷って、どこかへ魂が、霊魂不滅の教えはないですよね。死んだらそれで終り。魂も霊も何もない。生きている人間が魂だから、亡くなったらそれで終り。だからお墓へ行って好きなものを供えて話しかけなくてもいいし、供養も亡くなった命日に仏壇へものを奉げて、好きなものを、「成仏してください」と祈る必要もないし、何にも苦しんでいないということが書かれてたんでね、私はそれがすごく救いですね、勉強して良かったなと思って。もう13年ぐらいになるかね。エホバの証人のクリスチャンになって本当に良かったと思っています。

キリスト教には、自分からしてみようと思って、その前に、少し主人が体調悪くなった時も「何でこんな元気で一生懸命真面目に働いている夫が、こんな病気になって死ななきゃあかんのかな」と思った時に、2階に住んでる方がエホバの証人のクリスチャンで、同じ北海道の方で同郷だったので、気安かったので行ったんです。その方が聖書を開いて、

どうして人間が病気になったり老いて死んでいくのか聖書に書かれてあったんですよね。それを見た時に、「ああそうか」と思って、「聖書にこんなこと書かれてたのかな」と思って、少し聞いてるうちに落ちついてきてね、「仕方がないこと、病気になったことは元に戻せない。最善の治療は尽くしても、もし亡くなっても諦めよう」っていう気持ちになって大分悪かったのでね、そのとおり亡くなってしまったんですけどね。その辺りから文字通り中学、高校、大学行ってる3人の子育てたんで、経済的に大変で、私はとにかく1日中働いたんですよね。聖書の勉強したり、集会行くことができなくなって2年ほど中断している時に震災が来て、息子が亡くなって、集中治療室にいる時に考えたんですね。「もし私助かったら、もう一度聖書の勉強しよう」と思って。「もうこれをするしか私にはない」と思ったんですよね。そこで決断したんで、それを北海道に行った時に実行して、全世界に集会する所や会衆があるので、みんな同じ聖書に基づいて勉強しているので、向こうでもして、こっち戻ってきて今度は本格的に始めたんですよね。それで今、こうやって元気に歩けるのも、奉仕活動いうて、毎日家から家に聖書の音信を教えるために歩いているんです。それが私のリハビリなんです。

本当に苦しんでいる人一杯いますよ、家に行くと。夫婦関係、親子関係、今悪い時代ですね。騙されたり、お金を取得されたりね。子供が親を虐待したり、親が子供を虐待したりで、マシな家なんてないぐらいひどい状態ですね。そういう人達は本当に飢え乾いてるんですよね。どうしてこんなにことになるんだろうって。聖書から慰めの言葉を述べると、何よりも落ちつく言うて感謝してくださいますのでね。今の聖書の「啓示の書」の21章4節には、「死も病気もなくなる時代が来る」ってことが約束されているのでね、そういう希望があることもお伝えして、こうして何とかPTSDを、治らないんだけど、対処しながら今生活してます。そして仲間がたくさんいますのでね、何があっても来てくれて、朝から晩まで。ご主人いらっしゃるのにね。

だからみんなに感謝してます。もちろん神戸市の職員の方も、兵庫県の職員の方や西宮市の職員の方も、いろんな人達がね、自分達の地域のために走り回って、今も十何年経っても、皆さんが頑張ってるでしょう。すごい感謝してます、もっともっと良くしようと思って頑張っているので、何か力になるだろうと思うんだけど、微々たるものしかできない。私の話すことで少しでも役に立てばと思ってね。

（相談窓口、情報の不足）

相談では、全然、孤立してましたね。病院に入ると何の情報も入ってこないんです。回りの人、私のような状態にあった人達は、どうなったのか近所の人達がどうなったのかも何にも分からないんですね。どこに経済的な面の、お金のこととか相談しに行ったらいいのかも分からないし、何をどうしたらいいのかが分からない状態で毎日過ごしてましたね。将来への心配がありましたね。「どこで住むのか」、「家は獲得できるのか」、住むとこが「また西宮で住めるのか」とか、どうなるのか、あらゆる面で心配がありましたね。でも冷観して見てたら、着実に復興していってね、ちゃんとしてくださってね。家のない人にはすぐ、少なかったけど仮設住宅建ててくれてね。市営住宅も一杯建ててね、お年寄りの方が入れるようにしてね、みんなボランティアの人達が一生懸命、炊き出ししたり、私はテレビでしか外の世界が分からなかったんですけどね。

私は、自分と同じような経験した、子供さん亡くした人達とかと思い切り話ししてみたかったなと思うね。お互い慰め合ったりしたかったなと思うけど、その人達は今どこにいて、どうしてるのかも全然分からないし見知らぬ人達だしね。全然ニュースが入ってこないので分からないし、プライバシーにも関わってくる。「話すの嫌だ」という人もいるかもしれないからね。そういうグループがあったら参加してみたいなとは思ったりするんですけど、全然分からないですよね。

とにかく病院にいるってことは、鳥の籠に入ったような状態で何にも分からない。家族が問題を一つずつ解決してくれました。先ず住む所は、北海道行った時は、私の兄がいろいろ探してくれたり、奮走してくれましたし、こっち戻ったときは、長女がアパート探してくれましたね。永住できる家を見つけるために奮走してくれたのは長女の夫ですね。不動産の仕事してますからね。だから家族にしてもらいましたね。

今の生活は、主人が亡くなった時に遺族年金が支給されてましたのでね。今でしたら自分は1人なので、遺族年金であまり派手な生活をしなければ何とかやってけます。

震災になる前は子供達が学校に行ってましたのでね、働かないと主人の遺族年金だけでは食べてけません。家賃も払わなきゃいけないし、教育費も食費も要りますね、だから仕事三つ持ってました。朝昼晩、元気に365日毎日働いてました。それぐらい元気だったんです。震災の前の日まで働いてました。

（子供の成長）

長女が短大出たらすぐ結婚したんですよ。だからあの夫に感謝しています。あんな娘を1人扶養してくれて。でも可哀想やけど息子はもう亡くなってしまったので、扶養することがなくなりましてね、次女は、高校出てからすぐ勤め始めましたので、毎月家に生活費を入れてくれて、結婚するまでずっと助けてくれましたからね。そして今は結婚して夫がいますのでね、夫がちゃんとやってくれてますので。私は自分の生活だけを見ればいいので、今は何とかね。そうじゃない方もいて、体しんどいのに働いてる方いますよね、障害を持ちながらねえ、観ましたよ、テレビで。

まだリハビリも受けながら幼い子供を育てて、近くにいたお父さんお母さんと弟さんを亡くして、ご主人も亡くなった、あの方ね。一時、子供と自分がバラバラの遠い所に。大阪と姫路とかの病院行っ

たんですね。あの方、よく仕事先探して働きましたね。私よりもっとひどいですよね、足の状態ね。取材されたNHKの方が泣いていらっしゃるぐらい。

私あれを見た時にね、「私まだ良い方やな」と。周りのいろんな人達に助けられてるし、何とか生活ね主人もいなくて辛いですけども、主人のお蔭で亡くなってもまだ私を養ってくれているのでね、「主人って偉い人だったんだな」と。生きてるうちに言えば良かった。あの人が真面目に同じ会社に何十年も勤め続けてくれたお蔭で、あの人がもらえるはずだった厚生年金が遺族年金という形になって私に入るので、何とか生活ができますのでね。

それよりも驚いたのは、B病院に入院している時に、全然知らない人が病室に入ってきて1万円包んで枕元に置いていった人がいるんですよ。「あれ、どうしたんですか」言うたら、「大変でしょう、使ってください」言うてね、あんな人もいたし、知ってる人が、私の年ぐらいのお姉さんがいる人が、お姉さんの古い服をもらってきて、私にちょうどいいからと病室に「服、何にもないんでしょう。これ退院したら着てちょうだい」って持ってきてくれた人もいましたね。だから、すごく私恵まれてましたね。みんなに親切にしてもらって。「やっぱり日頃から隣人と交流を持って仲良くしておく必要があるな」って、震災起きた時に。隣に誰がいるか、住んでるかわからないようだったら、助けようがないですもんね。「ここの家に何人いたかなとか分かんないようだったら。仕事中なのか、いつも家にいる人かとかも分からなかったら。よく近所の人達とも、子どもを通じて仲良くしていましたしね。

（震災の経験と教訓）

今思えば、避難所もよく調べといて、あとは不安定な家具を固定したりとか細かなことをね、皆さん今は固定していらっしゃると思うけどね。ここも全部してます。だって、あんな倒れるっていうような状態じゃない、あの大地震の時はね。家具も全部。ボーンって飛んでくるんですよ。今は家具など台所は括り付けのとこ多いね。家具屋さんって家具が売れなくて倒産しているもん。作り付けのクローゼットで作るようになったからね。

あと、家族がいつも仲良くしてね、いつも連絡がすぐつくように。1日のスケジュール、大学行ってる子だったら、「今日は講義が何時からだから何時に出る」とか、みんな携帯持ってる時代だけど、やっぱり家族のスケジュールというのはみんなが、覚えておく必要があると思うのね。もし日中にあんな大地震来たら、みんな会社にお父さん行って、子供は学校、お母さんパートに行ってスーパーに行って地下で埋もれてたなんてね、連絡つかないでしょう、だからみんなある程度、朝に5分ぐらいミーティング、「今日はお父さんは残業はない」とかね。「僕は大学、ゼミは何時から何時までだ」とかね、お兄ちゃんお姉ちゃんとか塾行ってる子は「何時から何時に学校終ったら塾行く」とか、みんなで把握しとかないと、所在確認するのって大変なことでしょう。あれ朝だったから、みんな家族いたからね、日中に起きてたらもっとひどかっただろうね。

この間のニュージーランドの地震なんて日中だったからね。朝だったらまだみんなホームステイの家にいたり、寝室にいたかもしれないよね。あの子が海外旅行に行かなかったら、私も死んでましたね、寝たまんま布団の中で。あの子が「お母さん、行ってくるよ」って声かけてくれたから、地震の5分ほど前に。それより今でも笑い話じゃないけど、あの子さ、お父さん2年前に死んで、いないのに、「助けて、お父さん助けて」って。「えっ」て私ね、「頭しっかりして、この子、お父さん死んだのにお父さんの名前呼んでどうするんやろう」と思ったけど、あれ不思議ですね。あの時ね、お父さんの名前呼んでるんですよ。「お父さん、助けて」って言っていたのを見てね、びっくりしましたけどね、覚えてないかもしれないけどね。本当にあんなひどい状態なのに、娘の顔もどこも傷なかったんですよ。顔切れたりもせずね、潰れもせずね、顔何でもなかったんです、体が。手だけがもう、「助けって」ってもがいたんで傷だらけでしたけどね。パッと顔見た時、無傷でほっとしましたわ。今頃こんなんなってたら、今の結婚式はあり得なかったかもしれない。

だけど、善いものと悪いもの見ましたね、うちの家主さんのように、ああやって罪を隠すかのように、耐震構造に耐えられない建物をあっという間に撤去して証拠を隠滅したり、多額の家賃を吹っ掛けて、家のない人に8万ぐらいで借りれるところを13万だとか言ったりして。金儲けしたりするような人が現れたりね。

かと思えば、私の兄のように、「仕事クビになっても妹達を助ける」言うて、北海道から2回も来てくれた兄もいるし、他の方もそうだけど、全然見知らぬ方が他の県からボランティアに来てね、一生懸命手伝って。水とか持って来てくれたり。クリスチャン仲間ですけどね、一番にね、「元気ですか」って。17(日)、18(日)は神社の大祭でしょう。そしたら、屋台の方の水とかいろいろやってくださって。

神社は助けてくれなかったですよ、本当のとこ。何にも。パシーッと閉めて、トイレも駄目って。そらひどいもんですよ。炊き出しなんか何ぼでもして差し上げることできるじゃないですか。それなのに何にも。

二手に分かれるんだよね。我が身可愛い。自己犠牲なんて考えられないっていう人と、自己犠牲で、自分の家を開放してね、家のない人やトイレ困った人や風呂を困った人に入れ言うてくれた人とか、二手に分かれたって言ってましたね。みんなパニックになってるから寝てる私に色んなことを言う。

でも、困った時に親切できるいうのは、やっぱり培ったもんかなと思いますよ。人間性と言うのかな。突然ができないのかな。普段からしている方はやっぱりスッとできるのかな。

（継続した対応）

でも何年かは、皆さんの親切が続いたけど、落ち着くとお年寄りなんかは段々、また独り暮らしの方はあと誰も訪ねて来なくなって。それまでは「お

ばあちゃん元気」とか言ってくれた人達もどんどん遠のいて、孤独死したり、寂しい暮らししている方が、増えてきましたよね。誰も来ないってね。前はおかず持って来てくれたり、今は誰も来ないとかね。やっぱり永続した、親切というのは必要ですよね。震災のあった後、その時だけじゃなくて、永続できるものがあると良いですよね。

でも、やっぱりみんなそれぞれの生活に戻らなきゃいけないし、それぞれの事情があるから、できないんでしょうね。それを思うと、お年寄りなんか、特に可哀想だなと思いますね。まだある程度の若さがあれば、自分からいろいろ問いかけたり、動けますけどね。

世界中でも地震が起きて、貧しい国なんかもっと貧しくなって、本当大変な状態になってるんだけど、日本の中でもこの兵庫県ってすごい活力ありますね。みんなが頑張ろうとする気持ち、すごいですね。それ感じますね。私だってずっと北海道で暮してて、それから主人と出て来て30年以上になりますけど、もうここが故郷ですもんね、西宮はね。

北海道に行ってる時も、テレビのニュースとかいろんなの、みんな北海道版なのね、兵庫県のことがちょっと出て来ると嬉しくてね、やっぱり言葉とかが懐かしくてね、関西弁が出て来るとね。私、北海道なのにね。来る時は嫌で嫌でたまらなかったのに、住めば都でね、こんな良いとこはないですよね。帰ってきたら気持ちが楽になりました。娘の表情が一変しました。明るくなって積極的になりましたね。コンピュータ会社に勤めてたんです、そこにもう1回復帰してくれって所長さんから連絡来たんですけどね、その時すでに荒木町へ住んで、アパートの近くのパン屋さんにアルバイトに行ってたんです。あの子も「じっとしててはいけない」と思って、「お金がないから働かなきゃ」と思って。そこで頑張ってたので、雇い主の人達が「辞めないでくれ」って言われたんで。そこを3日間、コンピュータの会社に3日間働くことになりました。

全然逆の方向にね。満池谷(まんちだに)の上の方なんです、コンピュータの会社。私、娘偉いなと思ったのは、この家に住んでから10年間ぐらい、毎日歩いて通勤したんです。満池谷の丘の上までずーっと歩いて公園の中通って、山の上へ上がって。

満池谷ってすごい距離ありますわ。あそこへ歩いて通勤したんですよ。28歳ぐらいになった時に、私、「この子28になるわ」って思って、「次の年になって29になって、次30になるわ」と思って。その時に私聞いたんですね。「お母さん大丈夫よ。お母さんのためにこの家にいるってことないんだよ、お母さんと一緒に暮らさなきゃならないってことないよ結婚したかったら結婚してもいいし、自立したかったら自立してもいいよ」って言ったらね、「ううん、私結婚する気ないねん。別にお母さんが可哀想だからいるんじゃない、自分で好きでいるんだ」って言ったのね。「ふーん」って言ってたら、3カ月後に「結婚します」と言われて。私「へえっ」と思って、「どうしたの、あんた3カ月前に家にいるって言ったじゃないですか」って言ったらね、「いや、プロポーズされたの」って言って。「誰に？」って言ったら「いつもよく、みんなで5、6人で遊びに来てたでしょう、あの中のGって子」って。「ええ？そうなの」って思って、でも私嬉しかったですね。子供が親の犠牲になるのは、嫌なのでね。子供は自立させるために育てているのでね。結婚して出ていくと思った時、嬉しかったですよ。嬉しいですよね。子供が結婚するというのはね。2000年に2人結婚したんですよ、娘。1月と11月なんですけどね。 嬉しそうだったね。何も寂しいって顔してなかった。私と一緒。寂しくないですよね。いつまでも娘がね、30過ぎておられてごらんなさい。私、何かどうなるんやろうと。

（子供が結婚して母親の立場を理解）

娘が結婚すると、今度、主婦として同じ立場になるわけでしょう。主婦同士として話せることができたのでね。そして母親のことを理解できるようになったみたい、結婚して初めて、家庭に入って親のことが分かるようになってきたので、「お母さん、よく3人育てたね」って言ってくれるようになって。「可愛いから育てたんよ」言うたら、「そう、大変だったでしょう」って。「うん、大変な時もあったけど、お母さん、今までの人生の中で、あなた達を生んで育てた、あの幼い時が一番幸せだった」って言ったら、「ええ？お母さん、もう1回そういうことあってもする」って、「うん、もう1回あってもするよ」って言ったら、「ええー」って。あんな時期ないですもんね。

でもねえ、子供のお蔭でそういう幸せな時期もあったのでね。悪いことばっかりじゃなかったのでね。良い思い出がたくさんあれば、今辛いこともありましたけど、何とかね。娘達も自分の家庭しっかり持って、今頑張ってくれてるのでね。やり遂げたっていう達成感がありますね。

（子供への虐待）

だから子殺しをしたり、子供を虐待したり、口でひどいことを言って、「お前なんか生まなきゃよかった」とか、叩いたり、つねったり、水をかけたとか、タバコの火をつけたって、私すぐテレビ消すもん観てられない。ひどいよね。この間、3歳の子供ですか。首締められてね。あんなこと許せない。瞬間でしょう、あんなの。ビデオ1回巻き直して、戻してあげたいね。全く見知らぬ子をね。

私達クリスチャンの中ではいろいろ場所借りたり、大会したりもするんですけど、小さい大会だったら自分達の大会ホールがあるからクリスチャンばっかりなんで、安心なんですけど。それでも絶対子供は1人でトイレに行かせないというのが原則なんです。それを1人で行かせる親は親として失格。それは7歳であっても8歳であっても、女の子を1人でトイレに行かせるなんて、外に出た時、なおさらスーパーとか遊びに行った時の公園とか、絶対行かせませんね。十何歳の子でもみんな、中学生ぐらいになったら外で待ってますね、親が一緒に行ってドアの外で、出て来るまで近くまで行きますね、それぐらい注意します。集会に行っても大会に行っても大

勢の方、門戸開かれてますから、外部の方が入ってくるから、それ拒まないですから。クリスチャン仲間だったら絶対そんなこと、悪いことはないんですけれども、そういうこともあって。

熊本の殺された子のお父さんとお母さんも、「どっちかがついて行ってあげれば良かったのにな」と思ったけど、でも親にそんなこと言ったら可哀想やもんね。やった人が悪いんだから、本当。

（今の世相）

何かこの頃ね、本当におかしな人がうろうろしてますよね。ちょっと暗い道歩いていると、何かブツブツ言った男の子が歩いてたりして。この間大笑いしましたけど、長女の夫が阪急の門戸厄神を降りて、向こうに家があるんで歩いていたらね、住宅街を曲がって行ったら、前の方から自転車に乗って、ブツブツ言ってる男の子が来たんです、高校生ぐらいの子が。「ちょっと変な子が来たな」と思ったら、すれ違い様に「この禿げ」って言ったんだって。「いや、僕は実際禿げてるけどさ、まともに言わなくても」なんて。「H君、どうしたの」って言ったら、「いや、怖いから黙ってたよ」って。「何だ、こら」とか言った時にナイフでも出してグサってされたら困るから、黙って。ちょうどそこ孫が塾で通っている道路なんですよ。お父さん、すごい心配してた。「変なのがいるからね、I(孫の名)、あの道路通るなよ、こっちの大きい広い道路通って帰ってこい」って言ったが最後、それが災いしてね、優しい子なんでね、雨降りの後で自転車走らせてたら、向こうからおばさんが2、3台自転車で来たから、避けてあげようと思って、車道に降りたんですって。おばさん達が通り過ぎたから、歩道に今度上がろうとしたら、上がりきれなくて、自転車ごと引っ繰り返って、自転車のサドルが当って、肋骨がひび入ったの、お父さんが後悔して、「要らんこと言った」と、「息子が怪我した」言うて。でも怖いよね、「変なブツブツ言う人がうろうろしている」と聞いたらね。

だから今、親達も心配な時代です。大分大きな子供でも心配ですね。怖いことが、大災害は誰にでも来てしまうけど、個人攻撃に遭うと怖いですね。分からないですね。子供を刺されたり、何か言ったら、原因があって何かやるっていうのが主流でしたでしょう。今突発的に起りますから、本当に怖いですよね。

でも大変でしょうけども、引き続き。私は何とか対処できてますけど、こころのケアとかすごく大変だと思うので、大変なお仕事ですけど頑張ってくださいね。苦しんでる人、たくさんいると思います。言わない人もいますから。そういう状態、人に知られるのが嫌だと思って。でも、私はオープンに言うんです。「今病院に行ってます」って、心療内科、薬もらって、「ちょっと今しんどいです」とか言って、みんなにオープンにしてますね。みんな助けてくれるもんですよ、それは震災でそうなったんやからね、自分が何か間違いを犯して、そうなってるんじゃないと分かってるから、助けてくれますからね。でも性格的に言わない人もあるので。言わないで、突然自殺したりするでしょう。孤独死したり、人を寄せ付けないで。だからそういう人達にね。

私すぐ言うのね。何か変なんだと言って。私もこうやって、クリスチャンっていう、会衆の一員なのでね、みんな本当に実際の家族じゃないんですけど、他人なんだけど、聖書を一つとして集まっている霊的な家族。お姉さんであり、お母さんであり、みんな。男性軍はお父さんであり、自分の兄であり、弟でありね、だから私達は姉妹って言うんです。J姉妹って、姉と妹。男の人達は兄弟。でも男の人は、むやみやたらに兄弟だからといって女性の家には絶対無断で入ってきません。必ず2人以上で来ます、きっちりして。

待ち受ける私達も。どうぞって言わないと、家に1歩も入らない。1人ではなく、誰かは必ず家にいて、男性対女性で1対1になるというようなことは絶対に、車の中でもならないようにしています。

今日も、わからないけど、「一人男の方見える」って言われて。二人見えるということで、男の方2人だったらあれかなと思って、付き添えが来ました。そうですね。私の話した今、何が役に立つのかしらね。集会というのは定期的にあるんですけれども、震災の近く11月か12月になってくると体が動かなくなって、全然2月、3月って遠ざかって行かないと体が動かないから、ずっと欠席するというようにして。体が反応して動かない。そういうのが何年かありました。無理はしないでね。それはみんなが理解してくれてるので。

体は鍛えると良くなるということは実証済み。私が実証しています。今自転車も乗ってるんですよ。電動自転車ですけど。初め転びましたけどね。少し遠くまで行って、自転車に乗ると筋肉使うでしょう。ここもガーッとこうなって。

ただ、年々ね、いろいろと後から障害は出て来るんです。耳鳴りが始まったりね、首が痛くなったり。これきっと震災の影響だと思うんだけど、病院で調べても何も出て来ない。何かが衝撃の時に微妙に、先生の目には見えない何かがちょっと狂ったんでしょうね。だから何かはあるんですけど。もう5、6年なる。ちょうどPTSDが出た時と同時ですね。

でも、そのことに集中しない、思い煩わないということもすごく学びましたね。聖書のマタイ6章34節にも何事も思い煩ってはなりません。その日の悪いことはその日1日だけで十分ですと明日は明日の悪いことが起りますって。そのことばっかり考えていると、本当に自滅していきますからね。絶対生きている限りは困難とか苦難がやってきますね。いつも良いことはないですね。ないけども、私はやっぱり何よりも片親になったということの責任感は、いつも頭にありますね。私は倒れてはいけない。精神障害を起して私がおかしくなったら、あの子達の生活は滅茶苦茶になるってことは想像できますね。私の介護で娘達がうちに来るようになれば、夫婦間に溝が出ますね。家に留守するということは、妻が。私の方ばっかり気を向けるとね、幾ら良い夫達でも、やっぱり不満が出て来たりしたらあの子達の生活が駄目になるってことは、私には耐え難い。そ

うだったら、自分が前向きに生きる方が周りのためにも良いなと思ってね、未だに文句言ってる人いるよね。自然災害なのに、県がどうだの市がどうだの、私、自然災害というのは、自然災害なんだからどう仕様もないんだから、文句を言っても仕方がないと思うんだけど。市はこうやってしてくれなかった、こんなことしかしてくれなかった、ずーっと何か戦い続けてる人とか、テレビで観るけど。「文句言って、それで何が解決できるんかな」と思って。それやったら、自分のできることから突破口を見つけてね、前向きに生きた方が良いんじゃないかなと。

（災害時の心がけ）

佐用町だってあの大洪水でね、よく頑張ったよね、あの自然災害も辛かったろうね。あんな流されて、まだ見つからない人もいるでしょう。辛いよね。

だから、ああいうのを見ても。別に地震だけじゃなくて、山崩れとか洪水とか、あらゆる自然災害、火山爆発とか、今ね、九州でもそうでしょう。本当、聖書の伝道の書9章11節にも、時として予見し得ないことが起り得るって。それは誰にでも起り得るって書かれているとおり、自然災害に遭わない人なんて1人もいないと思うぐらい、この地震国にいる限りはね。そうなった時に、どう自分が立ち向かって、どうやって生きていくかということは日頃から考えておくべきだなと思いますね。私もなってから慌てて考えたんですけどね。そんなんなるとは思わなかったんだけど。

でも私、誰かを憎んだり、県が悪いとか市が悪いとか、憎んだり、一切ないですね。よくやってくれたと思って、ここまで復興するのにね。本当に人力尽くして。公務員の方でも何人もね震災の後、働き過ぎて過労死した方もいらっしゃるってね、その方達だって家族がいたでしょうにね。第二次被害ですよね。だからそういうことを思うとね、感謝してこそ文句なんか言うなんてないですね。私達クリスチャンはみんな感謝してますよね。市の公僕の方だとか県の方にね。だからちゃんと税金を払ってますよね。払って、悪いことはせず。

でも、市も県も気づかないことっていうのがたくさんありますからね、みんな社会人になった以上はね、自分の責任の中でできることはその中でやっていくべきだと思うのね。そうすれば、そんなに県がどうだ、市がどうだって文句言うことはないと思うのね。人間って考える力ってあるんだから、みんなとうまく文句言わずにやれるにはどうしたらいいか考えれば、突破口は見つかると思うんですけどね。文句言ってる間は、頭が低下してるから、一つも善いことは思い浮かばないですよね、前向きにならないと。

プロフィール

震災障害者－4		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年3月10日(木)
	面接対応者	本人、娘
基本属性	性別	女　性
	年齢(調査時)	76歳
被災状況	被災場所	神戸市東灘区北青木
	家屋被害	全　壊
	家族の状況	夫:死亡
負傷の状況	救出されるまでの時間	周りが薄明るくなってから
	診断	左肩関節、左上腕骨の骨折(3か所)(障害名:左上腕骨偽関節)
	障害の程度	3　級
	搬送・転院などの経緯	自宅近所の大きい総合病院から垂水の病院へ搬送され1ヶ月ほど入院しギプス固定のみ施された後、鳥取県の病院で手術を受けた(5ヶ月入院)。
仕事		自営(縫製):ただし小遣い程度の収入

主な発言

○　箪笥の下敷きになり、周りが明るくなった頃、近所の方に救出してもらった。
○　倒れてきた箪笥が左腕に食い込んで骨が3つに分離し、完全に接骨しなかった。
○　鳥取まで転院して治療、入院した。
○　当時、自分のけがの正確な状態、最適な処置方法が分かれば良かった。
○　最初の病院で適切に処置すればもっと良くなっていたかも知れない。
○　今でも冬は時々非常に痛むことがある。また装具の重さが辛い。特に自転車に乗れなくなったというのが一番辛い。しかし、わずかに動く左手のおかげで趣味の洋裁が続けられており、生き甲斐となっている。
○　大きな手術をするかどうか悩んだが、完全に左腕が動かなくなる恐れもあったので結局しなかった。
○　入院、転院、死亡した夫の手続き等すべて長女が行ってくれた。入院していたため被災地での生活や支援状況が分からず、取り残されてしまった。
○　病院で市役所の窓口(障害者手帳)を教えてもらった。
○　患者も自分の状態について何もかも病院任せではいけないと思う。
○　今回の調査で、自分のような障害者が居るということを知ってもらえればうれしい。

震災障害者　インタビュー　④

日時：平成23年3月10日

（震災時の状況）

震災の時は東灘区北青木いうところにおりました。その時はまだ寝ておりました。娘もこっちに住んでおりましてね、一緒じゃなかったです。それでね、この子らが「どうなったやろかなあ」と思って心配しておりましたら。

主人が一緒に横で寝てた。でも「もう駄目や」いうて言い出して。ほいでもう、気が切れてしまったみたい。

15分たったかなっていうくらいに、「もう私はいいから」言うて、それからどうしても、「お父さん」て呼んでもね、返事が無いでね。「ああ、こらもう駄目やな」と思ってね、1人で「助けてください、助けてください」て言ってね、千回も呼びました。

明るくなって、ご近所の方が来ていただいて、向こうも「Aさーん、Aさーん」って言ってくれてるけど、こっちの声は瓦礫の中で聞こえないから。後で聞いた話やけど、明るくなってから掘り出したって言うか、近所の方とかが瓦礫を取り除いて、とりあえず私だけを出して、「お父ちゃんがおるから」って言って、私は近所の方の車で病院の玄関まで送り届けてもらって、そこから離れ離れですね。主人は、その時に亡くなっててっていう感じですね。

住まいは、文化住宅でした。もう古い、何十年も経つような。だから今思えば、「よくあんな吹けば飛ぶような所に住んでたんやな」と思うんですけれどもね、まさかあんな大地震が来て、崩れてしまうなんて思いもよらなかったから、私達も普通に住み慣れて、ご近所の方とも本当に仲良くしてたから引っ越しなんてっていう感じだったから。

文化住宅では1階と2階とを借りてたんですね。2階はただの空き部屋にしてて、1階の方に寝てましたね。箪笥、洋服箪笥の横に主人と、その横に私ですからね。

その時のことは、いつまでも忘れませんね。どうして主人が亡くなったんかしら、全然真っ暗ですからね。胸苦しいって言ってましたけどね。箪笥が上から落ちてきたんじゃないかと思うんですわ。潰れてね、瓦礫の山でしたからね。ドーンといって、私らが寝てる部屋に倒れてきましたからね。家が倒れたみたい。真っ暗で分かりませんけどね。布団の中に入ったままで、横になっていて、それで大分薄暗くなってから、近所の人が「Aさん、Aさん」言うて呼んでくれて、せやけどここから這い出ることはできなかったです。ここ(左腕)に箪笥が食い込んで出られなかったです。それでここの骨が三つに分かれて。

（入院、その日のうちに転院）

レントゲン見たら、グチャグチャでしたね。それも、震災後かなり経ってからですけれどね。運ばれた病院が本当にひどい病院だったんで。

最初は近所の大きい総合病院で、そこも1階が崩れてたから、庭に放り出されるっていうか、置いとかれて、それで救急車が来たんですって、夜暗くなってから。そしたら「歩ける人だけ乗せてあげる」って言われた。それで「この人歩けるよ」って隣にいたおばさんが言ってくれて、一応腕だけだったんで、足は何とか歩けたから。「それじゃあ」といって乗せてもらって行ったところが、垂水だったんですけど、垂水の病院まで運ばれて、一応は診てはもらったんだけど。外科専門でしてね、整形外科じゃないから。

こっちの人も大変だからなのかもしれないけども、とりあえず、そのままギプスだけ固めて、そのまま入院させられっ放しっていうか、放ったらかしで。それでも垂水の方だから被害が少なかったから水も出るしトイレも使えるし食事もちゃんと出してもらって、普通に入院はできたんですが。

娘は、こっちに残って、水も出ない電気も点かないというのも経験してる間に、私は運ばれてベッドには寝かされてもらってたんですけど。その間にここが駄目になってきたみたいで、適切な処置じゃなかったみたいで、今も後遺症で。

今、ここからここまでね、装具してるんです。装具で、固定してます。1回手術しましてね、治ってましたんですわ。金具をここからこう繋いでね、良くなってましたのにね、「自転車に乗ったらいかんよ」って言われたのに。

娘は「そればっかりじゃないんよ」って、何年か経って、突然にというか、やっぱり古くなるんでしょうね。「金具は取らない方がいいよ」とは言われてたのに、中でやっぱりその金が古くなって折れたみたいで、今はブラブラなんですね。それで痛いんですよ。その金具が、止まってなくて骨自体もくっつかなかったんですね。その骨も普通に骨折して、普通に病院行って、普通の機関だったらもうきれいにくっついて治ってるんでしょうけれども、その病院で全く処置してもらえなくって。

娘も1週間か10日ぐらい連絡が付かなかったからどうしようもないし、そんな遠い病院だし、見舞いにも来れないんですね、電車が通ってないから。大分してから、一度見舞いに来てくれて、それも1日仕事で。朝3時ぐらい、真っ暗なうちに出て、家に着いたのがもう夕方、夜遅くなってからで、でも「こんなんで処置がなくって、もうどうしようもない」って言って、それでも1カ月ぐらい、とりあえずその病院で入院してたんです。娘が「これでは腕が腐ってしまいそう」ということで、出身が鳥取県なんで、「じゃあ鳥取の親戚と連絡取って、そっちの方へとりあえず連れて帰ろうじゃないか」って、鳥取県の親戚の人が車で来て運んでくれて、「整形外科の懇意の先生もいるから」っていうことで。そこで初めてきちんとしてレントゲン撮って、「こうこうこういう処置がしなきゃいけないけど、かなり手遅れですよ」っていうふうに言われてたんですね。その時は良かったんですけど、もう手遅れだったか、骨が最終的に付かなかったから、今はこういう状態ですね。

今、ここからここまで装具して、きちんと留めてます。そうせんと、痛みが、それでももう痛くて、巻き直しします。

娘達は「痛い痛い」って言っても、聞き慣れてるから、まあ「いつものことだな」と思うけど、でもやっぱり本人にしたら何かにつけ痛いから。まあ痛さに強いとか、弱い時もあるんだろうけれども、痛みっていうか、辛さってうのか、分からないですね、まあでも、この間の地震じゃないですけど、片足だとか、たまに新聞に「義足が痛くて」って書かれてる方もいらっしゃいますしね、「こんな人もいるんだよ」とかって言ってるんですけど、やっぱり「自分は一番辛い」って、どうしても思ってしまいますね。

垂水の病院にいる時は、一人でいた。身の回りの世話などは、完全看護だったから、まあ何とか。主人の会社の知り合いの方が一度調べて尋ねて来てくださって、身の回りのもん買ってもらったりとか、娘も身の回りのもんを買って持って来たりとかも、娘の主人も1、2回来てもらったりとかして1カ月ぐらいが過ぎて、電話はその頃繋がってたんで、電話でやりとりして、私は「駄目よ、こんなことじゃ私、腕が腐って死んでしまう」って娘に言ってました。

それで娘が「これではどうしようもない」と思って、近辺の病院も、「大阪とかだったらいいかな」と思っても、やっぱり一杯で、親戚の方が「じゃあ」って言って下さったんで、それだったら甘えさせてもらおうと連れて帰ってもらいました。

垂水の病院は、ちょっとした外科でしてね、なかなか好い具合にならなかったですねえ。

（鳥取の病院へ転院）

でまあ無理矢理娘が連れ出してくれたみたいな感じ、喧嘩腰でしたね、あの時、娘は本当に「この病院訴えてやろうか」っていうぐらいに。大きい病院だったのに、患者さんもたくさんいましたねえ。でも整形外科じゃなかったから、どうしようもなかったのかなという、でも本当にあの時は娘も怒りで、「何でこんなに無茶苦茶にされたの」っていうぐらい。

だから次の田舎の病院で、「こんな処置はひどすぎる」って言われて、「本当にもっと早くに処置すれば、もっと治ったのに」っていうふうに言われたから。私ら専門家じゃないから全く分からないじゃないですか、手術もなしで、だから痛くて痛くて。中で折れてるのを石膏で固めてるだけだから。もう本当に訴えようかとかっていうぐらい思いましたね。そんな処置、それだったらどうして他の病院に回すとか。ただね、ああいう状況でしたから、私達も本当に泣き寝入りじゃないですけれども、我慢するより仕方なかったかなって今思えば。

「私が垂水に入院している」って連絡は、10日ぐらいしてから分からへんねんけど田舎の方に連絡しました。

（主人の死）

主人が亡くなったのも、こっちでは何もお葬式出来なかったんで、それも親戚の人に来てもらって、同じ鳥取県だったんで、父親の遺体と共に、娘が最初1週間ぐらい帰ってたんですね。幾ら何でも放ってられないから、（親戚に）来てもらった。主人の葬式を田舎でしてる時に、私が「ここにいるのよ」みたいな。娘が「どこの病院よ」って言ったから、「垂水の病院」とかって言って。娘にすれば、その時まで生きてるかどうかも分からん、とにかくどっかの病院に運ばれたのは確かだけど、「もしかして死んでるかもしれんし」っていう感じだって。「どこが怪我したんかも分からないし、とにかくどこかの病院には運ばれてるから」っていう感じで、それよりも先に「父親をお葬式出して焼かないと」っていう段取りもあり、親戚に甘えさせてもらってた。

その親戚も鳥取からずっと、道も分からないし、「ただ遺体を引き取りに行くから」って言って道を開けてもらって、分からない道を来てもらって、即座に灘中に主人の遺体が安置されてたんで、引き取りに行って、すぐ帰って、お葬式済ませて、それでも1週間近く経ってたようです。その時に私の行方が分かって、そこからまたずっと娘と住むっていう感じですね。

夫が亡くなったのは病院におる時に「心不全で亡くなられたそうよ」って言って、病院で友達だった人がね、同じ阪神の青木の人だったので、「うちの主人が言ってたよ」言うて。それで本当に頭の中が真っ白になって、何がなんだか分からない。

娘ともお互いどこで生きてるかどうかっていうのは分からないから。大分長いこと経ってから分かりましたね。本当にお互いに。「どうしていいやら」っていう状態でしたね。頭の中が真っ白になってしまったみたいな感じでね。ポカーンとしてしまいましたわ。あの震災の時だけは一生忘れられません。それで、そんな手紙が来ましてね。「震災のことを調べてくれる人があるんやって」って言って、すごく喜びました。

（治療の経緯）

鳥取には5カ月ぐらい入院してましたねえ。その時はやっぱり良くなりましたね。良くなりましたですけどね、自転車でこけましてね、その時に。娘は「怪我のせいじゃない、年数が経ったからや」って言ってくれるんですが。自転車でこけたんがショックなのか、そういう気持ちばっかりしますね。一時良くなったんやけども。転んでから、もう5年ぐらい経ちますね。もうそれで装具でカポンとカバーしてます、ここからここまでね。でも指先が動くんで、それだけでも。

「もう1回手術しよう」って言いましたんですけどね、「ここに大切な神経があってね。それに当ったら、こっちは麻痺してしまってね、何も出来なくなる、片一方だけで。それより装具で固めて。」て。「ちょっとぐらい痛くても、しとった方がいいですよ」って病院の先生に言われてね、それで装具でここをいつも留めてます。外したり留めたりね。それでもコツコツして固くてなかなか難儀ですわ。時々もうどうにもならんほど痛みが襲う時があるんです。こんな震災に遭うとは夢にも思いませんでしたからね。

でも他の方もね、もっとひどい方が。もっとね、足が切断されたなんて人もねえ、あります。そういうことを思えば、まあ腕だけですからね、ここからここま

でですから、「まだましな方やわ」なんてねえ、思うんですけど。

ただ、装具が重たいです。出掛けてもたくさん歩くと、重たいもんですから疲れますね。もう目から充血してきますわ、たくさん歩くとね。そんなんです。

鳥取で手術済ませて、「退院していいよ」って言われてすぐ帰って来たんですけれども。息子が千葉県にいるんですよ。その後は息子の所で何年かはいたんですけれども、やっぱり関西と関東で土地柄とかも合わなくて寂しかったので、娘が「それだったらこっちに戻っておいで」って言って戻ってきてここで生活するようになったのが、今で12、13年ぐらいになるのかな。千葉の方に2、3年いたのかな、でもやっぱり関東、ずっと神戸、出身は鳥取ですけど、神戸に住んでて、やっぱり合わなかったです。できれば、西宮よりも神戸が何より良かったんですけど。

それでも年いってからここに来たから、最初は道もなかなか覚えれなかったりとかもあるけど、神戸と同じように山がずっとあって、海がこっちにあって、2号線があってってみたいな、阪神も阪急もJRもあるし、その辺は大分、娘の所にも近所というか、震災まででも何回か行ってるし、娘とは行き来があったんで「だったらこっちに帰っておいで」って言ってくれて、でここ(西宮市)に。最初は「1人で住む」なんて言ってたんですけど、娘が「やっぱり年いってくるとそういうわけにもいかないし、誰かが見ていってやらないと、こっちも不安で、1人でっていうのは。それだったらもうこっちで一緒に、狭くても頑張って住もう」って言ってくれたので、「知らない土地よりも慣れた土地が良いかな」って思いここへ来た。

千葉では、なかなかね、長男の嫁さんがきつかったですね。そういう関係でこの子が、「ほんなら、うちの方へ帰ったら」って言って。それでこっちの方に帰って来ました。そら合わないこともあっても親子ですからね、幸せに今は暮らしております。

千葉では病院でリハビリしてました。こっちに来てからも、あっちの整形外科こっちの整形外科、何回か診てもらって、今は近所に整形外科が新しく出来て、そちらの先生にお世話になって。腕だけじゃなくって足腰も弱ってきてるんで、その辺も診てもらったりしてますね。今はリハビリはないんですけど、最初はリハビリあったんですけども、装具になってから触らない方がいいみたいで、とにかく固めて動かさない方がいいみたいな感じで。

でも趣味って言ったらおかしいですけど、洋裁なんですね。腕が痛くても洋裁がしたくて、ミシンが踏みたくて。本当に神様のあれなのか、指先だけでも動かせれたから、それだけが今は頼りですね。まあ腕は落ちましたけど。まだ娘には負けません。だから「こんだけ洋裁できるから、私ボケないのよ」とよく娘に言いいます。やっぱり何かないとねえ、この年になってって。

(障害者手帳の取得)

障害者手帳の申請はいつ頃やったっけ、5年ぐらい前かな。こっちに帰って、別に生活できてたんで良かったんですけど、やっぱり骨、金具が折れて装具になって、先生に「障害者とは言わないんですかね」みたいな感じで相談したら、「いや、それだったら、障害者の申請を上げたら多分障害者として認定になりますよ」って言われて。

3級。一番ひどい方が1級なのかな。で3級で、まあ良いのか悪いのか、例えば医療費が安くなるとかはあるんですけど、その分やっぱり苦労は絶えないですね。障害者手帳を取ったらって話は、娘がある時、病院の先生と喋ってて、「障害者じゃないんですか？」みたいな感じで、先生や病院から言われたわけでもないんですね。私が「これって障害者にはならないのかな」ってふと思って、そこからですね。それまでは装具してたけど、別に「こんなもんや」みたいな感じで考えてましたけど。分からない世界だったんで。

(現在の症状)

ふと先生に何か言ったら、「いや、障害者としては何かあります」みたいな感じ。悪くなる一方ですけどね。冬は辛いですね。夏は割と過ごしやすいんですわ。冬は痛い時がありますねえ。痛くて痛くてね。気がどうかなりそうな時がありますね。そんな時は、病院には行かず、ただ、しばらくすると治まってきたりするんです。休めるようにしてたら。

本当になかなか大変ですわ。痛い、重たいのが辛いですねえ。なかなか重たくてねえ、すぐ疲れてくるんです。なかなか辛いですわ。

装具は、こっちで着けるようになりました。転んだこととは関係なく、それからどれぐらいしてからかね。「それだけ痛いんやったら手術しようか、装具にしようか」そんな話やったんかな。鳥取で退院した時は、動かせましたしね。

自転車にも乗れましたしね。それがもうこうなってますからね、レントゲン撮ったら。ここの金具が三角になってますわ。そやから曲がってますね。

何か分からないですけど。「折れたりとか、そういうことはない」って言われてても、やっぱり分からないんでしょうね。中で金具が切れてると言うのかな。手術をしようとすると、今度は「腰の骨を持ってきて、その骨と骨で繋ぐっていう手術だったら出来ますよ」って言われて、でも、「一番神経の通ってる所にその手術の段階で当たってしまって、神経を切ってしまえば、痛みはなくなるけれど麻痺ですよ」って言われて。しかもこっち(腰)の骨も取ってきて、そこまでしてもどこまで治るかって、この年になってそれだけの手術に耐えられるかっていうのもありますよね。大きい病院も紹介してもらって、「手術するんだったらこっちへ来なさい」って言ってもらって、そこでも診てもらった時に、「それだったらやめといた方が」っていう感じやったね。

で、最初痛み止めをもらって、装具はその後かな。とにかく最初は痛み止めをもらいましたね。毎日でもいいからっていう感じで。「手術やめるんだったら、痛み止めで我慢してなさい」とか、「そんな大きい手術をするか？」って言われて、悩んでまし

たね、あの当時。あれは何年？　3年ぐらい。

ここの神経が切れてしまったらもう麻痺するっていうのがね、何よりも片手になってしまうでしょう。それでもねえ、ここ難儀でも、ちょっとここの手先が縫いものでもできるんですわ。それで入院して手術したら、それがはっきり好い具合になるか麻痺するかっていうので、こんなもんはめてるんですけどね。なかなか辛いです。ゴーンとここへ箪笥の角が当ってきましたからね。それで身動きできなくてね、「助けて、助けて」って言ったんですけど、まだ真っ暗でしたからね。夜が明けてから、「ああ箪笥の下敷きになってるわ、早よう、ノコを持ってきて切って」、そして掘り出してもらいましたですね。そしたらフラフラとなってしまってね、「早う病院へ連れていかないかんわ」言うてね、近所の方が毛布に包んで、病院へ行きましたですね。それが元で腕も一生こんなんですわ。

病院では、パジャマの上に毛布だけでも寒くなかった。分からなかった。手が後ろ向いてましたですわ。今でもそんな感じですよ。ブラーッとして、装具がない時。お風呂入る時は装具を外してるんですね。そうしたらコンニャクみたいな感じで、ブラッとしてて。それでも一応神経が通ってるから、ここは動くっていう感じですね。

（様々な手続き）

病院の手続きとか転院の手続は、娘がしましたね。転院の時も何もかも全部。家の関係の手続も全部。父親の処理も。あの頃娘は子供がまだ幼稚園入る時だって、ずっと子供と2人で、私がまだ入院中だったから。全て何度も神戸市出身だからよく分かってることだったんで、区役所だの何だの何度も足運んでしましたね。でも見つからない時はもう本当に、最初かな、何か灘中行ったりとかも、あっち行って探したりとか、「どうなりました」とか聞いたみたい。出先で娘の子供にパンいただいたりとかしてね、子供に食べさしたりとかして、電車もないし、通じてなかった時なんか本当に歩いて、子供と手をつないで、ずっと区役所から、しばらく歩いたりとかしたようです。

大分復興して忘れてる方も。今頃になって、娘が「私、父親震災で亡くしたんですよ」なんて言ったら、「あらー」っていう感じだけど、ねえ。今思えば、本当に何でと思いますけどね。主人も一緒に生きてれば娘自身も変っただろうし、私もここまでって思うし、全然みんな人生変ってただろうねなんて思いますわ。その時は無我夢中だったから。

でも一番最初、父親の勤めてた会社の所からずっと。そこから先ず「遺族年金とか入るんだよ」と教えてもらって、それから「次はここへ行きなさい」、「ここへ行きなさい」っていう感じで、それは娘としてはうまくこなせてきたかなっていう感じで、困るっていうことは、その時はなかったようですね。当時、娘も子供が小さいから仕事を持ってなかって、専業主婦だったから、時間的な余裕があったっていうのもあって、体力的にはいつも出掛けてて大変だったのかもしれないけど、若いというのもあったから。まだ30代でしたし、そんなこと何もかも分からないまま、無我夢中だったみたい。親戚の方にも何度も頼って。今思えば、そんなことは恥ずかしくてできないなっていうぐらいのことまででも、分からないから頼ってしまったりとか、こちらでもいろんな所でお世話になったりとか。本当に炊き出しあったら、子供連れてたから、「食べておいで」とかって言ってお世話になったりとかねえ。あの頃は、歩いてる途中に、古着とかでも配ってたら、もらったりとか、本当に大変皆さんに世話になったようです。今思えば、すごい世界でしたけどね。その間、私は入院してる分、それは全く見てないから、その辺はちょっと幸せだったかなって。トイレが使えないとか、水が出ないとかっていうのは全然苦労しなかったから、それだけでも良かったよね。ご飯も入院してた所では出てたし、最初の晩だけはおにぎりが配られて。そうそう、救急車が来るまでにおにぎりとジュースが来たんや。

あんまり美味しくないんですね、食べるって言っても胸が一杯で食べれなかったです。それでも喉が乾いとったんかしらん、ジュースだけはね、手がまともな人に開けてもらって、手がこっち向きになってるから、全然缶は開けるいうことができなかったですね。本当にあの時は「どないなるやろう」と思いましたわ。それでジュースだけ飲んでね、救急車でずっと垂水までやから、えらかったです。

救急車に乗ったのはたくさんの人じゃなかったですわ。「腰がいかん」言うてね、男の方と女の方、私とで3人と、それから自動車の関係の人と、5、6人で垂水まで行きましたね。本当に大変でしたわ、それでも十何年も経つからね、一つ一つ忘れて、涙も出なくなりましたけどね。その時は涙がポロポロ出ましてね。鳥取県の病院行ってからでもねえ、私の姪なんかが来てくれると涙がポロポロ出ましてね、本当にえらかったですわ。

辛いことは色々ありました。足切断よりも楽ですけどねえ。歩かれたからねえ、腰がいかれた人がたくんさんありましたねえ。「腰が悪くて、前の方へ進まれん」って言ってねえ、病院でも腰が悪い人がたくさん入ってましたわ。何がって言っても、年月が経ってるから。それがなかったらという気持ちですよね。天災っていうのはそういうもんなんでしょうけどねえ。誰が悪いって、誰も悪くないんですものね。

この間のニュージーランドなんかだったら若い方ばっかりですしね。辛いですね、ちょうど来られる時にあんな大きい地震が外国であったから、ニュース観ながら「ねえ」って言ってたんですけど。毎日何名かずつ名前が新聞に載ると。あれから10日以上も経ってるんだから、分からないではないけど、「どうして」って。うちの孫と同じぐらいの年の方ばっかりなんで、「どうする」って、「うちだってもしかしたら留学とかあるかもしれんやん」とかってなって、「本当にねえ」と思いながら。まだそれを思えば腕だけでも。娘は「父親は亡くしたけども母親だけでも残ってくれた」って、「こうやって世話焼いて、親孝行が今頃になってできる」と思えば、「ちょっと前

向きになれるかな」っていう。まさかあんな時にあんなことがっていうのが、今思えばありますしね。多分大変だったんでしょうけども、私も娘も無我夢中でしたねえ。よく出来たなっていう。

本当にこの子にばっかり頼ってましたからね、ようしてくれたわと思ってね。

でも、娘が行く所行く所に、みんな同じような境遇の方もいてはって、変な話なんですけれども、「父親の葬儀の費用が返ってきます」っていうのも聞き付けて、そこへ行った時に、娘だけじゃなくてすごい並んではったりとかして、「ああこんなにたくさんの方が亡くなられたんだな」と、改めて「大変なことが起きたんだな」みたいに思ったそうです。何かあって行っても、やっぱり同じように並んだりとか、皆苦労されて。でも、嫌な思いをしたっていうことはそんなにないみたいです。例えば後々の手続きに関しても。だからその辺は不満はないですね。その頃はみんな並ばなきゃいけなかったんだろうし、待たなきゃいけなかったんだろうし。まあ迅速が一番かもしれなかったですけれども、それで別にすごい腹立ったっていうのはないですね。また、バス待つのにしてもすごい、代替バスなんかだったら1時間待ちとかでしたでしょう。それでも皆さん同じように黙って並んではったですし、寒い中。「同じように苦労なさってるんだろうし」みたいな感じで。まあ強いて一番不満を言わせていただくならば、やっぱり最初の病院でうまく、まあそこに運ばれたのもこんな混乱の中でしたから仕方なかったことだろうけれども、それが一番辛かったかな、今思えば、「あそこで適切な治療を受けられる病院であったならば」っていう念はありますね。私が「こんなん」って、電話で言うから、「これじゃあ先ず駄目だな」って娘が「何とかしなきゃ」って言って、兄に相談したりとか親戚に相談したりとかして。私が精神的にも参ってきてると思い、元々、神経強い方じゃなく、ちょっとしたことでもすぐにくよくよしたりするタイプだったから、神経が参ってしまって、「そっちの方からおかしくなるんじゃないかな」と思って。そこで娘が「どこか転院させなきゃ」っていう気持ちになって、「やっぱり故郷が良いかな」っていうのがあって。

兄が千葉にいたんで、東京周辺も探したけど、そこまでまだ車もなかったし、「田舎からだったら車で迎えに来てくれる、病院まで」っていう感じだったんで、「それだったらもう一回来てほしい」って言って、来てもらったみたい。その頃はもう随分道路も空いて。でも3時間ぐらい、鳥取までだったら。ずっともう震災の話ですわ、2人でねえ、だから病院に入院してても、会ったのも1回か2回で、あとは電話とかのやりとりばっかりだったから。本当に久し振りに、そこから長い間、「会えたね」みたいな感じで。そこでまあまあ良い治療はしてもらえたんで、それも不満じゃないですし。他の方がどのような経験なさっているのかは分からないですけども、混乱の中で、あれで精一杯だったかなって今は思えますねえ。

今はもうそれで満足しちゃってるかなっていうのが。ただ、腕が悪くなったから自転車に乗れないというのが一番つらい。他は元気なのに自転車さえ乗れたら、足腰悪くても「私ももっと楽しみたい」っていうのが結構あるんで、それかなあ。

「腕さえ悪くなかったら自転車も乗れるのに、もっと楽しめたのに」っていうのがやっぱり辛いですね。洋裁に関してはまだできるからいいんですけどね。やっぱりもうちょっと出歩きたい。まあ足腰弱ってるから、病院に行くには、バス停まで歩いてからバスに乗らなきゃいけないから、あと行ってからが疲れちゃうし、帰りもバスだとやっぱりしんどいしっていう感じですね。ここからだったら、電車乗るにも、阪神だったらバスで降りなきゃっていう感じで弱ってきたから。でも「自転車だったらな」って、いつも思いますね。だから、あまり外出はしませんね、1カ月に2、3回。病院へお薬、内科と整形外科とね。それからもう1カ所、ちょっとした病院。

（新しい住まいでの近所づきあい）

でも、ここに来てからは、ここのお友達とはちょっとしたお話はできるから、それは昔住んでいたところほどのお友達じゃないですけど。ここもやっぱり良い方ばっかりなんで、同じような年回りの人が結構、いてはるからですけど。

震災前の青木の家には長いこと住んでました。30年近くじゃないですかねえ。娘があの時33やから、小学校の時からとしても。だから、本当に通りから通り、こうあって、本当に「長屋の」っていう昔風の感じですよね。「貧乏で」っていう。それでもやっぱりコミュニケーションがあって、「鍵閉めなくてもいいよ」ぐらいの感じ。何かあってもすぐ誰かが飛び出してくれてみたいな感じの所でしたね。だからすごい住みやすくて、「引っ越しなんて今更考えられないねえ」みたいな。私達も家出ちゃったから、家も汚いなりにも広くなっちゃったし、だから本当に今更っていう感じだったところにあんなことになってしまってって感じですね。

当時近所だった人の中には、亡くなった方もやっぱり。あと娘が1、2回合ってる。でもみんなバラバラなんですよね。だからそこまで連絡取ることもなくなってしまいましたね。最初、家主さんとかとのお話し合いもあったりとかで、ちょっと出会ったことはあるんですけれども、もうないですねえ。「あの人はその時にあっち行ったのよこっち行ったのよ」って言っても、みんなそこからまた変ってらっしゃったりするし、もう何か混乱してて電話番号聞くの忘れたりとか。一時は青木にもよく行って、たまに出会ったりもしてたみたいなんですけども、段々疎遠になってしまって、今は連絡も取ってないですね。

（希望する行政の支援）

調査の話では、やっぱり分かってもらえれば嬉しいかなって。「こんな所にもこんな障害者がいるのよ」っていう気持ちですかね。新聞なんかで見たら、もっと活動なさって、ボランティアなさってる方もいらっしゃいますしね、障害を糧にみたいに。そんなん思えば、何にもせずに自分だけが一番辛いと思っているのもどうかとも思うんですけども、やっぱ

り、「こんなんもいるのよ」というのが分かってもらえれば嬉しいかなって思って。

障害者については最近になってですよね。亡くなられた方はもうね、東遊園地にも1月17日には行くんですけども、ああやってしていただいたりするけど。障害者っていうのは、本当に変な話がちょっと尻切れ的なところがありましたよね。だから母もこっちへ来てからは、やっぱり西宮と神戸では違うんで、だから神戸の方にこうやって来てもらうと嬉しいみたいですね。西宮では何もしてもらってないですからね。

今後の災害での行政の支援について、行政とか市の方から何をしてもらえば良かったのかな、あの時、と思うんですけど、何かあれで手一杯で、今思っても。そら迅速な対応というのが一番なんだろうけれども、混乱の中でのことだから、どうすればあの時良かったのかなというのはどうしても思いつかないぐらいで。でも、今後また同じようなことが起ったら、やっぱりまた同じになっちゃってもねえって思うし、「難しいな」っていう。でも、ボランティアの方がたくさんいてくださったことも有り難かったですし、それをうまく同じように行政の人達がって言ったら、それだけの人を集めなきゃいけなくなりますしね。難しい課題ですよね。何を手出しすればいいのかというのが分からないですよね、市の方とかっていうのは。どこまで踏み込んできて、どうすれば、その個々の方によってまた違いますでしょうしね、考え方が。でも阪神大震災の時はあれで仕方ないっていう言い方もあれだけど、結局仮設住宅なんかもそこそこで建ててもらってっていう方もいらっしゃいますしね。まあちょっと風化してきたから、私なんかでも忘れてしまったかなっていう面もありますよね。何してもらったら良かったんやろうね、本当に。何かその時は頭に浮かばなかったですねえ。何せもう頭の中がしばらくは真っ白でわかりませんでしたね、何していいやら。ほんまにもう阿呆になってましたわ。

でも、あんなこと、こんなところで起きたにしては、今思い出せば、良くしていただいたかなっていう気持ちはありますね、行く先々で。そんな変な、「ああしてほしかったわ」とか、「あれは嫌だったわ」っていう気持ちはないですね。割と穏やかな。あの時は一番最初、先ず、次はこうすればいいなっていうのが出てきてですねえ、済みましたし。どうやって調べたんでしょうねえ。こうすればいいよ、次はこうすればいいよとか、あと、やっぱり市の方からも知らせてもらったりとかが確かあったと思うんですね、「ここに送ってください」って。通知なんかもたくさんいただきましたから。次はこうすればいいみたいなことはちゃんとわかってて、段取りどおりにはいけましたね。あとお金いただいたりとかした時にも、「こう手続きすればいいよ」みたいな通知もちゃんと来ましたし。その辺は良かったのかな。そんなに困ったって。まあそれは生活は苦しいかもしれないですけれども、それなりにでしたかね。震災後、腕治す医療費もかからなかったですわ。

鳥取行った時も要らなかったんですよね。だからそんなんで、良くしていただいたのはいただいたから、分からないから不満もないっていうのもあるのかもしれないです。初めての経験ですしねえ、何もかもが。比べるものもないですし本当に無我夢中でしたね、何もかもが。娘の主人も娘より先にこっちに、「俺が先に行って見てきてやる」って。ここから自転車で灘中まで行って。兄が来てたんですね。兄と2人で行って、向こうで父親の棺も手作りだったんですね、棺なんてないですから。私は見てないんですけれども、棺のキットって言うんですか、そういうのが配られてて。「自分、兄と2人で作った」って言ってましたね。

（夫の葬儀）

主人の火葬のために鳥取まで持って帰りました。大きいワゴン車で来ていただいて、親戚の方とその知り合いの方が運転手になってくれはって、それもボランティアなんですね。親戚のお友達の方が、ちょうど車屋さんの方で、何かしてくれはって、「そんな所何日かかるかわからへんから」とか言って、すごい大量のおにぎりだの何だの持参で、本当に野宿覚悟で、寒いのに遺体の引き取りって言ったら、すぐに道開けてくれたりとかですぐ着いたんですけど。その時も本当にお世話になって。でも、棺なんかもちゃんと持ってきてもらって、自分らで作ってっていう感じで、行く先々でしてもらってますよね、うまく行けるように、裸で筵（むしろ）に包んで持って帰ったわけでもないですから、ちゃんと遺体も安置して、冬場だったから良かったですけど。きちんと安置されてて。私はただ横に寝てただけで、真っ暗な中で救出されてすぐ病院へ搬送されたから主人の死に顔も何も見ずに。でも向かいの方は亡くなられてたから。同じような境遇の方も一杯いらっしゃいますし。

でもね、今は終った話と言ったらおかしいですけど。まだ他にももっと若くてね、働き盛りでっていう方もいらっしゃいますしね。娘の主人の方の両親は生きてたんですけれど、夙川なんですけどね、家が全壊でしたね。夙川からここまで歩いて来たんです、当日にね、その日の昼ぐらいから電話だけは繋がって、「ここは家おれんから」って言って、ずっと国道沿いに歩いてきたんですけど。「たくさん亡くなられて、国道に寝かされて、すごい風景だったよ」って言って。それでも主人のご両親もいい年だったんで、歩いてここまで来て、もう頭真っ白だから、何か元気そうでした。元気と言ったらおかしいんですけども、分からない状態でしたね、本当に。一度装具換えたんですよ。

（装具をつけての生活）

一度換えましたけど、もともとの筋肉がなくなってるから重たいですねえ。先生が言われるには、1回換えたんですね。2年ほど前に。換えて、またこの冬すごく痛くなって。こないだ紐だけちょっと切ってもらったんやったっけ。とにかく、ここを固定していると、筋肉がどんどん痩せて、変形、合わなくなるからとは言われましたね。装具屋さんって言うんで

すか、特別な技師の方に見てもらったりはしてるんですけど、もっと大きい病院で診てもらった方がいいんでしょうかね。

やっぱり装具のはめ方具合で変ってくるんで。だから、1日に3回ぐらい裸になってね、巻き直しする時がありますわ。何となくコツコツ当ってね、いけませんのでね。そうして巻き返し3回ぐらいして、「もうくたびれたわ」なんていって話す時がありますね、この子らにね、本当に。なかなか大変ですね、こんなのはね。重たいですね、何せね。

やっぱり最新の技術とかもあるんでしょうかね。なかなか分からないし、本当に手探りで、だから「先生の言うなりにはなってるかな」というのはあって。分かんないですからね、こればっかりは、病院によって、変な話に戻りますけど、最初の病院はね、やっぱりそういうのがあって、「病院って怖いな」というのが、その時に気付きましたね。「何もかも任せちゃいけないんだな」という。本当に「転院させてもらいます」と言った時にも、すごい言葉を言われたような気もしますしね。「なぜ」みたいな。でも、「そんな治療では」っていうのがあったから、本当にもぎ取るように連れていきましたね。。あの時はもうパジャマの上に何か羽織って。そのまま車に乗って。ガウン羽織って。車に乗って、ポーンと。

それからボチボチ服がね、あっちからもらい、こっちからもらいしてね。服もなかったですからね。寝間着だけ。娘が何回か潰れた家から掘り起して、汚いの持って帰って洗ったりとかもしたんですけど、思い出の品とかね。それから一生懸命で縫い物をしましたわ。自分で服作って、体がこの体型なので、なかなか売ってないんですよ。本当に信じられないぐらい太いでしょう、そんな苦労してるのに、その分体も太ってしまってて。縫い物は、それでも一生懸命に作りました。だから本当に神様のね、残してくれた、それだけでも有難かったですわ。片手やったら縫えませんでしたけどね。

腕なかったら死んでるかもしれない、洋裁できなかったらね。それだけが本当に。子どもらがちっちゃい頃からもそうだったんですけど、洋裁だけが一筋だったので。子どもに作ってくれたりとか、こっちに来てからも、ちょっとした商売にしてたんですね。向こうにいる時は、お店は出してなかったんですけれども、こっちに来てからはそんなもん、しなくなったから、子に作ったりとか、孫がちっちゃかったから、子供服作ったりとか、そんなんで楽しみにして、ずっと今までで何回か旅行に行ったりとかして、楽しんでましたね。だから、主人も生きてれば、同じようにできたのに、今それだけが本当にそればっかりで今は、何もあの時に死ななくてもって、定年退職したすぐ後だったんで。

61歳の時ですね。私がちょうど60歳の時に地震が起りましたからね。今思えばね。これから第二の人生っていう時に、まだ元気でしたしね。

プロフィール

震災障害者－5		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月16日（水）
	面接対応者	本人、妻
基本属性	性　別	男
	年齢（調査時）	79
被災状況	被災場所	東灘区田中町
	家屋被害	全壊
	家族の状況	妻、子ともに無事
負傷の状況	救出されるまでの時間	8時間
	診　断	右下腿腓骨神経麻痺
	障害の程度	4級
	搬送・転院などの経緯	A病院で2日間入院。別の病院に転院し、40日間入院。
仕事		会社経営（怪我の影響で6月まで仕事ができなかった）

主な発言

○　震災当時の自宅は全壊。本人は8時間の間、座敷机に挟まれていたが、消防士に救助され、そのまま車に乗せられた。
○　A病院では骨も折れていなかったし、外傷がなかったため、治療はなく歩くように言われた。転院先のC病院でも同様だった。
○　本人の退院後は経営する会社事務所で寝泊まりした。
○　妻が会社の片付けなどに忙殺され、役所への手続きや物資の受け取りができなかった。
○　妻は会社のきりもりなどで、地震後の4月～6月に声が出なくなった。
○　障害者手帳は医師からの指導で取得した。
○　障害の等級は軽くても心の障害は残っている。
○　気持ちはあるのに、工場の現場で働けないことが歯がゆい。
○　被災後、銀行の貸し付け金の返済のために積立金や定期預金を全て取り崩したこともあった。
○　障害を負って酒に逃げたこともあった。
○　震災障害者として行政にしてもらいたいことは防災教育の充実。
○　障害者の話せる「場」が必要。
○　鞍山市（中国遼寧省）でのリハビリ療養（約1ヶ月）は良かった。
○　今も足のむくみが出て歩くのが辛く、近所のクリニックへ通院している。

震災障害者　インタビュー ⑤

日時：平成23年2月16日

（本：障害者本人、妻：本人妻）

（震災前後の状況）

本　私は、1月13日が誕生日やったんですよ。

それをね、16、17が休みですねん、ずらして16日の晩にお誕生会で食べに行ったんですよ、妻、成人式をしたばかりの20歳の息子と3人でね。16日ね、休みやから飲んどったんや。バララライカ、ロシア料理ね。ウオッカをかっと飲んでね、もう帰るいうて帰って、1人でね。電車に乗って本山に行ったら、2人が先行きよるんですわ。「おーい、どないしたん」言ったら、妻が怒ってね。晩に、「もう一緒に寝ない」いうてね、隣の部屋で寝てね。それで助かったんです。がーっと来てね。ばーんと落ちたからね、わしの上へ。

妻　1階の畳の部屋で布団を並べて普段は寝てたんですね。そんなことがあったから、私が隣へ布団を持っていったんです。そしたら地震でしょう。震災時は田中町のNというお寺の近くです。今、そこは全壊しましたけど、木造の2階建てで、両隣とも残ってます。それで、うちの家と後ろの家が揺れて、うちの2階に当たって1部屋分飛んで落ちた。だから、ちょうど私たちが寝てるとこにもその2階部分が落ちてるんですね。揺れがおさまって、物が落ちてきたけども、反射的に足を縮めて、落ち着いてから、お父さんと呼んだら、初め返事がない。2、3回呼んだら、「待っとけ今行くで」って。でも、しばらくしても来ないんです。前の日酔ってるしね、まだお酒が残ってるんだわと思って、私が動かして座ったら、足大丈夫と思って、手を伸ばしたらあるはずの天井も2階もなくて、星空がある。それで、お隣の人が、「おじさん、おばちゃん」いうて声かけてくれて。引っ張り上げてくれて、「おじさんは？」いうて。「声はしてるんだけどね」って言って。

で、ちょうど西側にマンションがあるんですけど、そこの塀を乗り越えて、ずっと奥のほうへ行ったら、つぶれたところに、「わしここや」っていうの声がした。モルタルの壁の切れ目から声がした。声はかけられるんですけど、身動きができない。

当時の普段の座敷机って、こんな高さでしょう。3本の柱でここの胸が動かせるわけです。ここを挟まれて、自分でどうしようもないんですね。それで、喉が乾いたっていうたときに、ちょうど隣の人がマンションからペットボトルを持ってきて、その隙間からお水が飲めました。それと、おしっこがしたい言うたときに、お隣のおじちゃんが、もうおっちゃんしょうがないから、もうそこでしいやいうたら、そうやないうて。

お水が飲めたことと、そういうおしっこが出せたことと、それともう一つ木造やったから粉塵がおさまったときに割ときれいな空気が吸えてます。だから、それでへんな病気はなかったからね。だから、それで8時間挟まれたまま。8時間だから午後の3時ごろ。

本　8時間半や。

妻　8時間半かな。

本　その間ずうっと目は覚めてました。

妻　内臓は全然打ってません。余震が来たらそれこそいつ崩れるかわからない。そのテーブルのこの板が来たらもうそれで、息がね、とまるのが目に見えてる。だから、テーブルの足の高さの分だけで。だから、頭を動かせるしね、ここへ動かせて、そのしゃべることもできるし、首を斜めにお水を飲むこともできてたんですけどね、それがだんだんお昼になるし、その間に警察か何かがどうしました、挟まれてます。頑張ってくださいいうて。3回来られました、1人ずつ別の方が。でも、それで終わり。それで、ちょうどそのときにマンションの近くに、消防の人が来てて、たまたま娘がC病院で嫁いでまして。見に来てたんです。で、主人の弟も垂水のほうから来てましたときに、ちょうど消防の人が向こうのほうにいたから、とにかく助けてちょうだいいうて消防の人を連れてきました。ほな、その消防の人、ほんまに生きてますかっていう状態です。とにかく声がしますからいうて。息子の姿がなかったもので、呼び、2階の窓を開けたらすっと地面におりられるぐらい、2階が1階に落ちてきててね、で息子が多分2階でいたから、一瞬に気を失ってたかなと思うんですけれど、それで出てきました。

まあ怪我はなかったんですけどね。後で息子が言うのに、お母さん、2階の押し入れでイタチが死んどったって。

それこそ、後から家へ入ろうと思っても、怖くて入れる状態ではない。つぶれてましたのでね。この一画にお寺があるんですよ。だから、多分お寺みたいなところやったら、イタチがいたのかも分からんねって。

それで、ずうっと時間が過ぎて、午後になってだんだん眠くなってきた。何にも暖房がとれないし。弟が「そない言い出したらちょっと危ないな」って言うてるときに、ちょうど消防の人が来られて、その2階から入っていって、敷き毛布でこうして、こんなふうにして引っ張りだしてもらって、そのまま車に乗せましたから、自分のつぶれた家は見ないまま。

本　布団に寝っころがって、いやいや毛布にね、くるまってて よかったんや。それで引き上げられて。

（救出されて入院・転院）

妻　たまたま弟がライトバンで来てました。それで、「車を回すにも車がないから、ありますか」っていうことやったから、「ちょうど弟が来てるからライトバンがあります」。「じゃ、それで向かってください」って言われて、A病院へ行ったんですけども、白鶴のところで上がりかけたら、途中道が隆起して通れなくて、うえの赤塚橋まで行ってぐるっと回って、A病院へ行った。

で、A病院へ入ったときも、とにかく受け入れいただいて、気分が悪くなったら、おしっこが出んかったらすぐ言いなさいと言ってもらって、点滴を打ってたんです。それが、またすぐお小水が出て、よかったんですけどね。だから、あのときにおしっこが出たいうのは、やっぱりきれいな空気、いわゆる木造の家やったからそんな粉塵が多分なかったと思うんですよ。だから、まあいったらお水が飲めたことと空気が吸えたこと、おしっこを出せたこと、あとから挫滅症候群いうて新聞に載りましたけどね。多分病院の先生もその心配をされたと思います。だって、引っ張りだしたときに、両足ともここから下が真っ白。もう完全に血がとまって、それこそこういう点々で毛穴が見えるぐらいだもん。そのときは、この人車椅子生活になる。車椅子生活になったら、極端に言うたらこういううちみたいに零細企業で2人で一生懸命やってきてて、2人おってもやっと半人前の生活になるなというのが私のそのときの覚悟。

でも、病院で私も帰るとこないし、病院の廊下で腰掛けしてたら、ちょうどその日のうちに部屋の病室に入れてもらえて、「こっちの人は今夜帰ってこうへんから、奥さんここで寝ていいよ」いうて、一晩その晩から体伸ばして寝さしてもらいました。で、朝はそれこそヒッチハイクで下におりるつもりが、下におりる車があったらすみませんけどいうて、山手幹線までおろしてもろて、つぶれた家を眺めて、ここの職場に来て片づけた。ここはね、今のビルは建物が建って3年目なんですけど、その隣のビルね、Bさんの、そこの1階を借りて、事務所になってた。その事務所の中はこんなんなってるしね。だから家の中は手のつけようがないし、まずこっちを片づけましょう思うて、もう次の日からここへ出てきて、仕事。だから、一般的に親戚にちょっと3日ほど寝てきましたいう奥さんたちが多い中で、私はその日は何もなし。次の日から、もう片づけ。で、学校へ行って並んでパンをもらって、烏龍茶もらって。

寝泊まりは、ヒッチハイクでA病院まで行って。A病院に二晩とまりました。だから、おかげさまで体を伸ばして寝さしてもらいました。仮設住宅には、入ってませんし、避難所にも行きませんでした。3日目に病院を移ってくださいって、C病院に移された。

A病院では治療はなくとにかく歩けと。要はね、骨も折れてなかったし、いわゆる外傷がなかった。その日、次の日かトイレへ自分で車椅子みたいなのを押して、自分でトイレに行きました。だから、次の日から歩行訓練。その代わりやっぱりいろいろ症候群かな、あれが怖かったんですけども、次の日から歩いてた。で、C病院に移ってくださいと言われて、病院から移されて、その日、私も一緒に病院についていってずっとおったら、つき添いの人、ここね男の人ばっかりの部屋やし、面会室みたいなとこでみんな寝るんだけどね、男の人ばっかり。女性は奥さん1人やからいうて、看護婦さんの詰め所の裏。またここで寝て。それもラッキーやったなという部分がやっぱりあります。で、それこそ入院してる人はお弁当が当たるけど、つき添いは絶対に当たらない。だから避難所に並んで、パンをいただいたりしながら。だから、飲み食いは自由にできませんでしょう。

で、あともうそんなんでしてましたけど、それでC病院からも通えないから、タクシーで、もう今日も帰ったら当分よう来ないからということで、この息子が洗濯物の着がえは自転車持って行ってました。その間40日入院して。

2月20日頃にNHKの人が取材に来ました。私がここで片づけしてるときに来られて、何でうちなんですかって聞いたら、Dさんっていう東灘署の消防士さんの手帳では、助けたのがEさんで16番目の人、でもそれまでの人、それこそみんな助けた後で亡くなってるみたい。生きてるのがEさんですということを言われて、あとはもう本人次第やから、本人は病院におりますから聞いてくださいと。行ってもらって、その取材を受けてましたんです。2月の何日かにNHKで衛星放送に乗って、世界中で配られた。たまたまこの人は台湾生まれで、中学まで台湾で暮らした人。そしたら、やっぱり台湾の友達とかが見てて。

本　電話が鳴って。

妻　で、主人の母が垂水で元気でおるんですけど、そこに電話がかかってきたりしてましたけどね。

本　だから、どっちか言ったらもうごっついラッキーなほうやったと思うんですわ。

妻　だから、いろいろ考えてたら、悪いけれど、まだいいほうやねって思いながらね。

で、40日して退院してきたときに、たまたま私が病院から帰って、きょうから避難所に行くねって、寝るとこないでしょう。避難所に行って、O小学校に行ったら、入る場所がない。もう全然。もうほんとに全然余地がない、まあいいか、もう会社ででも寝よかと思ってたら、たまたま古い友達で、阪急岡本にも私立のI幼稚園ってあります。古い知り合いなんですけど、よかったら家で泊まっていいよと言っていただいたから、またそこで畳の上で、布団の上で寝さしてもらって、朝晩食べさしていただきました。主人が退院するまで。だから、退院するまでやから、40日。で、帰ってきて、夫婦でお世話になれないし、どうしようかなと思ったんですけど、たまたまその事務所の2階を倉庫がわりに借りてました。だからそこで息子と4人、事務所の2階で寝とまりしました。20歳の息子さんとそれともう1つが30幾つの息子。それが、30幾つの息子は中央区のほうで別に自分の仕事場を持ってて、そこも地震でつぶれて、「お父さんとかお母さんところ、どないや」いうて見に来てくれたら、もう今の状態やった。それで、一緒に。大きい息子はその避難所のほうに行ってます。私が幼稚園にとめてもらってたし。皆ばらばらで。それで、ちょうど退院してきたときに、とにかく人のお世話に余りなれないからいうて、会社

の上で4人で泊まってたんですけどね。そしたら、ちょうどうちの今のつぶれた家の真向かいにマンションがあるんですけども、そこのオーナーさんがよく知ってたもので、おじさんとこ、お家借りられませんかいうことでお願いしたら、家がつぶれたんご存じやし、入院してたのもご存じだったので、ちょっと修理をしてからいうことで、そこで借りて。あれが3月、4月ぐらいから。で、してたんですけども、やっぱり正直いうて、家はあるし、土地はあるし、ちょうどその家もローンが終わったとこやったから、建てられんことないんだけど、主人は建てる気持ちになれない。私は、せっかくやから早う建ててしまいたかった。たまたま垂水の母がおるところに、自分が両親を住まわしてる家があって、わしは垂水に家があるということで、だけど私垂水からここまで来て仕事するのがやっぱり大変だから、あっちは嫌よいうことでしてたんですけど。建てようかという気持ちになったのが3年後。だから、あの家ができたのが2010年です。もう完全にもう全壊。済みません、これ(写真)見てもらえますか。2階がここまでおりてきた。

で、これ隣のマンションで、こっち側に家があるんですけどね、これが表が台所、これは平屋なんです。入っていったら玄関なんですけれど、これ高さ一緒でしょう。これが台所で、ちょっと入っていって車1台置けるぐらいの庭が。で、私か出てきたとこがここ。だから天井も2階もない。ほんと、この部分はここが表1階なんです。ここの部分はこっちの部屋もこっちの部屋も2階があったんですよ。けども、この部分が飛んできてこうなってる。主人が埋まってたところはこの下。でも逆にその座卓がちょっと落ちてくるのを防いでくれて命拾いしたんです。

足に載ってきて血流をとめていたのも座敷机だけども梁が落ちてきても、そこで防いでくれた。このテーブルの端が主人の足の上に乗ってたんだろうと思うね。テーブルの端っこが。

本　机が防いでくれた。そのかわりここを圧迫してね。

妻　だけど、みごとに真っ白やったし冷たかったし。だから、この足がつぶれたら怖いという気持ちと、引っ張り出してもらったときにここを見たときの気持ちって、本当もう何とも言えない、頭が真っ白になったという。

だから退院するまでに、解体を公費でしてもらえるというのを聞いて、したんですけどね。ちょうどその解体のときに後ろの表通りじゃなくって後ろの家から解体したもんだから、トラックがそっちに入って、見たんですけど、私が寝てるとこ一分の隙もない。だから、私が普段とおり寝てたら、絶対即死だったと思います。

解体されたのは、地震から1ヶ月たっていません。2月5日。倒壊したのは方角でいうと、 南側から西へ、斜めにね。ここに2階があるじゃない。そしたら、2階の部分がこう飛んだ感じ。だから、西側の端っこが隣のマンションの塀に突き刺さってる。表にある珊瑚樹が日に日に倒れてくるの。地震の時は荷物など全然持ち出せませんでした。もう一瞬、自分の体が出るだけで、まあいったらもう着るものがないでしょう。息子はここから出てきましたから、息子の靴を履いて、靴下履いて上着袖の長いのを着て。とりあえず寝間着のまま出てるからね。だから息子の服を着て、靴下履いて、息子の靴を履いて。ほなら、しばらくしたら垂水の弟が見かねて靴を持ってきてくれた。皆さん区役所へ行っていろんな救援物資をもらってこられるじゃないですか。そんな暇全然ない。義捐金などで色んな窓口があっただろうけど、行く暇がなかった。一遍、何かしらで区役所まで行ったことがある。けど、そしたらみんないろんな物を持って歩いてはるんですね。救援物資をね。聞いたら、みんな避難所ではみんな区切りして、セーターとかみんな積み上げてあるんや。そんなんは何もなし。だから、地震の語り部、防災センターでやってるけど、いつでも私しゃべったげるよという気持ちでね。次の日から職場を片づけないことにはね。おかげさまで工場が明石と加西のほうにあって、加西なんかその日でもう動いてるんですよ。二見のほうはちょっと地盤沈下で3日ほど止めましたけど、それでも動いてる。それを聞いたときに、そんなん言うてられへん思うて、ここへ来てとにかく片づけをするしかないと。仕事は金属の表面処理で。ミシンとか自転車って外から油を差すでしょう。けど、こういう機械に組み込んだら油を差せないので、錆止めと潤滑。

本　これがね、J製鋼のスクリューコンプレッサーの部品ね、それからKのクラッチ。

妻　自動車部品と。まあとにかくその日から動いてるし、考えたらそれってみんな調べたら、ある日うちの社員たちの家族、家が全壊はだれもなかったし、けが人も出てないし、一番ひどいのがうち。一番ひどいのがうちやったらね、いつでも家建てられるやん。めそめそしてられへんと思う、気持ちの切りかえで、私が片づけてするしかない。

本　私も仕事のことは気になりましたけど、妻や社員がやってくれるやろうと。

(中国でのリハビリ療養)

妻　C病院に移ってからは、しばらくリハビリに通うたね。

本　いやいや向こうではあれや、Cではとにかく、何を治療したんかな。

妻　手術とかはしてません。

本　点滴とかも全然ないですね。とにかく歩けいうてね。痛みは多少ありましたね。

妻　長いこと靴下履いたら、全部ここにくびれができて。むくんで、靴下にゴムが入ってるじゃないです

か。だから、みんな靴下にゴムを切って履いてました。

その間、入院の30何日間、私は病院に行く暇がないんです。洗濯物の交換くらい。そしたら、やっぱり仕事の関係上お見舞いに来てくださる方があるんですね。みんな病院へ行かんと私のほうに来てほしいわいうてて。そしたら、40日たって退院して帰ってきましたら、お見舞いにいただいた金封、みんな空っぽで帰ってきました。どういうことでしょうね。だから、やっぱりそういう点では、精神的にやっぱり異常な雰囲気の中で。やっぱりそういう形で入院してる、この人もそうやし、ほかの人みんな一緒だったと思うんですけど、やっぱりどっか異常なところがあったのかな。

本　東京のほうの友達が、死人の名前が出たでしょう、テレビにね。

妻　ああ、これに名前がないから大丈夫やと。

本　死んだん違うかいうて、電話かけてきた。

妻　ちょっと人間って欲張りですね。地震があって、入院できて、2日ぐらいは命があってよかったねって言いながら、3日目ぐらいになったら、「あそこにあれがあるから取りたい」とか、「これがあるから取りたい」とかね。やっぱり気持ちがころころころころ変わって。

本　やっぱりね、食事が中でできんでしょう。A病院でもね、3人ほど看護婦さんが死んでね、病院内死亡で新聞に載ってた。

妻　でもやっぱり会社の2階で暮らすようになってから、やっぱりイライライライラしてましてね、やっぱり6月ぐらいまで、仕事ができない状態。リハビリに行くというて、出かけては1日帰ってこないときがある。たまたま、今住んでる東側のお家が、建物は無事で、兄姉3人暮らしてはって、皆無事やったんですけど、そこの一番上の娘さんが震災から後でL川で自殺されて。それで、やっぱりそんなんを見て、聞いて、お葬式に行ったりしてるから、リハビリに行くいうて出かけて、昼ごろ帰ってきてくれて顔を見たら、やっとほっとしますけど、帰ってこないときがある。帰ってきてやれやれと、要らん心配しながら。

本　わりとのほほんとしとるから、将来のことはあまり。とにかく工場へ行こういうことでね、それだけ考えてました。働けないもどかしい気持ちはありましたね。B病院を退院してからしばらくA病院に行ってね、リハビリ。その頃はバスに乗れたんやな。でも、何かじりじり悪なって、バスのステップが高過ぎて乗れなくなってね。今、けがの状態は余り良いことないですね。

妻　はい、一時よくなってましたけどね。

本　後遺症ですな。

妻　私はそうじゃないと思ってるんですけれど、やっぱり本人はやっぱりそこに気持ちが行くみたい。

本　今はむくみと痛み。歩くのも辛いのでステッキで。介護のほうに今、週に4日行ってんですけどね。デイサービス。月、火、水、木と。介護2ですからね。気晴らしもできるしね。

だけど、その後地震の年の11月に、県の国際交流課。

妻　尼崎と姉妹提携してる中国の鞍山という市があるんですけども、そこからの提案で震災でけがした10人をリハビリ療養に招待しましょうというのが、神戸新聞に載りましてね、ちょうど締め切りぎりぎりだったんですけれど、応募しましたらその中に入って、だから神戸市で4人、西宮とか尼崎で1人で、男性5人、女性5人、10人の中に入れてもらって、説明会を聞きに行ったらお通夜みたいな感じ。私がもしついていけば50万かかります。けど、ご本人だけやったら無料招待しましょうとなって。で、約1カ月。行ったらみんなお葬式みたいな顔をして、関空に入っていって、1カ月たって迎えに行ったら、まあ修学旅行から帰ってきたみたい。だから、あれで随分気分転換はさせていただいたと。

本　よかったですよ。県の何やったかな、兵庫県国際交流課。

妻　何か聞きましたら、やっぱり個人、個々の症状で皆リハビリの仕方は違ったみたい。医者が10人ぐらいね、大学教授みたいな人がいてね。昔の関東陸軍病院という、満州の大きいやっぱり保養地みたいになってる。

本　19万8,000坪。

妻　膨大なね。

本　物すごい、湖がある。

妻　で、本人たちが散歩に行くいうたら、両方から看護婦さんがついて歩いてくれて。違う、何かせえへんか見張られてる。

妻　泥浴とかの温泉治療もあって。

本　温泉もあるしね。もうホテルみたいな病室ですよ。2人部屋で。

妻　昔の皇帝が入られたという、お風呂もあって、何かすごい設備のいいとこらしいです。色んなけがの人がいましたけど、でもやっぱり自分で歩ける人。だから、どういう選抜の仕方をされたのかはちょっとわからないんですけどね。行ったときは杖1本で。

本　退院するときはね、もう治ったような感じでね、院長に杖を贈呈して。

（リハビリ中の会社のきりもり）

妻　夫がいた間は、面倒見ながら、仕事をせんとあかんでしょう。だから面倒見なくて済む分だけ、ちょっと楽だった。だから、うちも社員たちも、社長の家が全壊で怪我して入院してると。そしたら、その1月の給料がその日にもらえるなんて、全然みんな思ってなかった。私は、これは絶対払わないかんということで、入院してるからそっちのほうに集中して、お金の段取りに走ることができて、仮払いで給料払いました。ほな、皆喜んでくれるわね。で、1月仮払い、2月仮払い、3月になってやっと、いつまでもこんなんしとったらあかんわいうことで、コンピューターで動かそう思うたら、一瞬パスワードを忘れてたりね。そしたら私自身も4月になったらね、声が出なくなりました。やっぱりじっと座って仕事ができなくなって、自分でそれでよくおしゃべりする、お話するのが西宮のほうの病院の院長先生がおられて、「先生、私、今こんなんや」言うたらね、「普段自分らも普段2、3人しか診ないけど、あのときは何百人の人を診たんやと。仕事できんかったら、できんでいいから、机に座らんでもいいから、今できへんいうてその辺の草引きでも何でもしたらいいよ」って言うてくれた先生がおられた。だから、私物すごい気が楽になってね。

私が声が出なくなったのは4月～6月でした。で、6月、7月ぐらいまではほとんど仕事をしないで、思ったように自分であっち行き、こっち行き、リハビリに行きと。その間、やっぱり全部私がやっていかないといけないし、もう私も限界やから、それまで会社の印鑑を預かってました。もう返すから仕事に戻ってください。

本　仕事に本腰入れようという気持ちになったのはとにかく帰ってからかな、満州から。

妻　そしたら、やっぱり借り入れ金もあるでしょう。借金返さないかんと思って。何行かの銀行と取り引きしてまして、ある銀行が逆に貸しはがしをしました。で、そういうことをちょうど8月ぐらいから仕事を始めるときにそうなって、それこそ高利貸しと同じように、支店長が会社の前に朝9時に立ってましたよ。けど、社長が復帰した限り、私は表に立てないから、任してますやん。で、後で帳簿見たら、それこそ定期預金とか積立金を全部つぶして取り立て、やられました。

でも、銀行によって違う。何も言わんとだまって待ってくれるところもあるし、もうとにかくそのときの資金の回収もできませんもんね。振り込みで入ってくる以外ね。だから、大分滞ったんですけども、ある1つの銀行だけはそんなことでね。それが、8月から10月にかけてなってました。帳面を見たときに、社長と本店に行こうと。本店に行って融資部長と渡り合って話ししました。そんなに信用のない会社ですか。地震が起きるまできっちり、返済が遅れたことがない。書類を融資部長は全部書類に目を通して、「とりあえず幾ら要りますか」って言われたことは、向こうが非を認めたことですよね。で、「絶対にうちだけではないはずやと思う。ほかにもあるかもわからない。調べてください。こんなこと絶対に嫌だから」って言うたら、その支店長が飛ばされました。だから、多分ほかにもあったと思うけど、本店に乗り込んだのはうちぐらいやと思う。

それまで、主人はいろんなことを考えてたと思います。見てる私らでも、とてもじゃないけど、正視できたものじゃない。声はかけられても手を入れること、触ることもできない。

（救出時の状況）

本　助け出された時の状況ですが、とにかく火事の話聞いたときは、これはやばいなと。火事の場所はまあ遠いから、そんなことなかったんですけどね。でも、何せ、足が動かん。車のジャッキね、5、6台持ってきてやったけど、上がりませんねん、梁が落ちとるからね。助け出されたときは、助かった思うのがありましたね。

妻　一生そういう気持ちかな。引っ張り出してもらって、車に乗せて、足を見たときの白さと冷たさ。絶対車椅子の生活になると覚悟しましたね。それを見てて、車椅子生活になったら、いままで2人でやってきたのがね、2人で半人前いう感じになる。とにかく、頭が真っ白になってましたね。

本　私は、車椅子生活になるかどうかいうのは、わからなかったですね。ひざが痛かったですけどね、そのときは。

妻　でも、あのとき、よく骨がひびが入らなかったことやね。

本　この圧迫で、ひざの神経が引っついとるらしいね。

妻　普段は余りしゃべらない人ですね。痛いとか辛いとか余り言いません。でも、今の障害は後遺症や言うから、絶対違う、気持ちの持ちようやと。

本　一体、満州で行ったときはね、ほんませっかく杖が要らないぐらい良くなったのに。

妻　やっぱり普段から進んで運動する人ではないもんですから、やっぱり弱いところはだんだん弱くなる。鍛えようという気持ちがやっぱりないとね。

今はFクリニックって近所にあるんですけどね、そこに通ってます。

本　薬は、別にもらってないけど、あいそなしに行ってるね。

妻　何かほら、空気を。入れる何か。

本　エアーの治療はやってます。あと、デイサービスでもいろいろ運動して。

妻　クリニックにはかかりつけの医者でもう震災の前から何やかんや言いもって、降圧剤をもらったり。

（震災による心境の変化）

本　震災で、考え方が変わったということは、特にないね。

妻　お酒に逃げました。

本　酒に逃げるわ。満州へ行って、1回治ったんですよね。それ以降、また自分でおかしいな思うね。なかなか、そのときは国際交流センターというのが、いろいろしてくれてね、交流館ですかね、あそこでお世話になった。

鞍山へ行ってね、近くに山があってね、そこいろんなお寺があるんですね。そこを全員でね、登っていって。それで駆け上がってもね、何ともなかったんです。ようわからん。アメリカからもここにテレビが来てね。ちょっと来てくれいうて、そこで状況を話したんですけどね。あれはね、鞍山に行く前か。5、6月ごろやったと思うね。それ日本で放映するかいうたらね、いやこれはアメリカでの放送やから、日本ではやらんいうて。何でか知らんけどね。

妻　あのときNHKの取材のときは、たまたま退院の日、放映されたんですけど、私が退院で出てくると、一緒に。私がそのカメラを見て逃げたんですよ。友達がEさん逃げたやろいうて。こっちは機嫌よう退院でね、映ってたんですけど、私あのときに写りたくなくて。もうそれこそ化粧する気も何もまだないときで、髪も伸ばしっぱなしで、あのときはフォークリフトのM（会社名）さんの営業社員から、Mって刺繍してないジャンパーをもらって着てました。

家を解体するまでは、結局自分の服ってなかったわけですからね、息子の服着て、そのジャンパー着てました。ほとんどそれやもんね。だから、皆さんどこそこへ行ってお風呂入ってきたのよって聞いたこともあるけれど、私なんか友達とこに泊めてもらってたら、そちらのペースですからね。お風呂なんてなかなか入れなかったしね。知り合いが、一番最初に私に口紅とヘアブラシをね、とりあえずこれを使いいうてもらって、ありがとういって。

本　だけど中国はようやってくれたんです、中国。

妻　だから、あれからあちこちに皆地震がいってね。神様はまんべんなく地震を起こしてるわと、私思ったことがあります。

本　他の国で地震があると。どこで遭うたんやろと気になるね。

妻　やっぱり、ああいうのを見ると、人ごとではない。何かそういうとき、何かの集まりで、地震で義援金たくさんもろたでしょうって。でも、当時私ら普賢岳とか奥尻地震があって、私ら募金箱があったら1,000円入れたり、協力したつもりになってた。そんなんじゃないですもんね。で、神戸は一体幾らくれましたっていうことなん。全壊で13万、15万か、全壊で。入院したから、たしか4万、それだけですもんね。だから、あとは自分で、それでも自分で何とか頑張れたら頑張る力がまだ残ってるだけ幸せだなと。長田のことを思えばね。生きたまま家族が焼け死ぬのを見てる人たちは、やっぱり地獄を見た人がいっぱいあるからね。それを思ったら、私らまだ幸せなほうかなと考えるようにしてます。当時の年賀状、書いてる文面はやっぱり暗いですね。自分でやっぱり引きずってるなという思いで。

本　復興資金は、申し込めば貸してくれたんですかね。それも考えんかったな。

妻　ちょうどあのときは、それこそ家もなくなって、職業もなくした人がたくさんいる。ただ、うちはもう工場が生きてるから。まだまだね、自分さえ頑張ればというのと、社員全体にけが人なかった、全壊の家族もなかった、これが私らの一番の救いでしたからね。もし全壊でもし家族がいたら、やっぱりこっちが何か支援しないといけない立場。一番悪いのが、本当にうちだけだったから、もうこれはもうあとは自分、みんな頑張ってくれてるから。

本　私も同じ気持ちでしたね。

妻　そう言いながら、初めのうちね、余りわがまま言うからいい加減にしてってけんかしたこと。「わし障害者やのに」いうて怒るんですね。何か知らん、ちょうど知り合いの人も岡本のほうの人やけど、お風呂に入れないからいうて、ちょうどここお風呂があって、電気を別につなげばお風呂を沸かせたんです。ちょうど親子でお風呂入りに来て、一緒にご飯食べてたときに、ぐずぐずぐずぐず言うもんだから、私がしまいに怒ったら、取っ組み合いのけんかしたんです。それだけ力があったらできるじゃない。だから、どっちかいうたら、ちょっと人がしてくれて当たり前みたいに甘えてるというような性格をちょっと持ってますから、私が極端にそうなったときに、しゃかりきにやってるでしょう。後で、お父さん、そんな力あったんやわいうて。

本　やっぱりあれやね、相当気持ちが入れてましたね。

妻　それはもう仕方がないとは思いますわね、あの8時間挟まれたまま身動きできてないし、気持ちがね。でもやっぱり少々杖ついてでも、自分の足で歩いてくれてるということは、私たち周りはね、よかったと思いますね。

でも、今回去年ぐらいから震災の障害者のことが話題になって、やっとそういう気持ちになってく

れはったんかなっていうのもあります。

（障害者手帳の取得）

妻　障害者手帳は、F先生にとっといたほうがいいよっていう話でとりました。 駐禁除外の申請、あれも一応いただいてます。

右大腿部圧迫は震災後ちょっと足を滑らしてこけまして。それでまた、等級がちょっと変わりました。いま4級やから5級、1つ変わったぐらいだったと思います。本人は、杖をついて歩いてるし、余り障害者という意識はないんだと思います。

震災障害者の調査については、やっぱりいいことをしてくださってると思います。それこそ、等級は軽くてもやっぱり気持ちの障害というのがやっぱり残ってますね。あなたは、震災障害者って言われることに抵抗あるの。

本　表だって言うやつはおらんけどね。

妻　だけど、本当にけがをした本人だけじゃなくて、家族も一緒ですもんね。だから、表だった大きなけがをしたというんだったら、もっと分かるんだけど、極端に言うたら大きなけがはない。でも、あの状態を見てる家族にとってはやっぱり、一応そのときにいろんな自動車のジャッキを持ってみんな手伝ってくれましたけど、そのときにうちの大事な額がね、その後ろの家との間に落ちてた。たまたまそれをやってくれた人がね、足で蹴飛ばしてね。うちの息子がそれだけでも傷ついた。「足で蹴飛ばさんでもいいのに、うちにとって大事なものやのに」という気持ちで言ってたことがあります。やっぱりその住んでる人間にとってはね。わずかなことなんですけども。語り部でしゃべってたら、みんなプロみたいになってしゃべってはるから。語り部もときどき入れかえられたらいいのに。

妻　逆に私があんなふうに主人と立場が逆で、本当に私が挟まれてたらどうなってたかなっていう考えるけどね。

本　飲むと気分が晴れるね。あっけらかんとしてるからね。案外能天気で。でも、けががなくなって欲しいなとは思いますわ。それでね、杖がなくなってね。もしけがしてなかったら、今はもっと違っただろうなっていう。もっと動けてね。けがが治ったらやっぱり現場に行ってね、工場に入りたい。きのうも工場へ行ったんですけどね、はがゆいですな。それはあるけど。もうね、工具をこうして拾うのでもね、何か辛いんですわ。ぽーんてひっくり返すようになってね。だれかの手を借りないといけないというのもね。それはやったるでというね、気持ちはあるんですわ。この年やったらね、もう今やったら退職してゆっくりしてるだろうけどね、それは生きがいがないですわ。何せね、仕事で、ただ仕事だけ。

妻　ただ、1つに仕事できた人だから余計ね。

本　出ていってね、仕事やりたいんですけどね。これ杖ついていいように行かれませんな。

それはおもしろい話があるんですけどね、満州前やから、まだその年やったな。大会社の重役と知り合いで、世話になっとるからそこにあいさつに行った。そのときにね、ダブルのスーツ着てね竹刀を持ってね、それであいさつに行ったんですよ。それで、靴が入らんもんやからセッタ履いてね。そしたら、殴り込みかいうて怒られたね。いったんよくなった何でやろ思います。医者に聞いてもわからんし。神経をね。修復できんらしいね。他の病院でも1回は診てもらいました。C病院でね。それでもわからない。もうこのままで維持しながらやっていくしかしょうがないかなっていうところですね。

（行政等の対応）

本　震災障害者に対して行政にしてもらいたいことについては、そこまで思いつかんかったね。

妻　主人みたいに余りしゃべらない人も、口に出せる場所があるのがやっぱり必要かな。息子にもあのときすぐ出てこなかったけど、どうしたのって聞いたら、絶対言いません。今もそういうことは余り話題にはしなくなってますけど、当時聞いても何も言わない。だから、相当なショックを受けてると思うんですけど、私はこういう性格だから、ああやった、こうやったとしゃべってますけどね。だから、本当にその病院の院長先生は、僕らもこれからもできへんことはできへんでね、今仕事できへんいうてね、好きなようにしてたらいいでって言うてくれた、もうほんとそれはね、それを聞いてもらってそれに答えをもらったときは、物すごい自分で気が楽になってしてましたけどね、結局そういう場は、集まって場所があればね、随分当事者は楽になるのかなとは思いますけどね。そういう意味では、別に時間がたってても必要だと思います。だから、1月なんかそんなことあって入院してて、17日の地震でうちは26日に給料を払わないかん。そのときに、銀行へ行ったら、そのときにお金を集金した手形でこれしかない。社長は生きてます。ほんならお金貸しましょう。ああ、お金の準備ができた。今、計算しようと思ったら資料がない。どないしょうと思って、それも1月22日に、いつ余震が起こるかわからない事務所で、電気をつけて1人でいてね、考えてて、まあ去年のを参考にしようと思ってそれをやってるんですけども、いつ余震がくるかわからない。その怖さを抱えながらやってますので、それがずうっと自分で積み重なってくると、やっぱり鬱みたいな。そのときはね。むしろ、直後に必要だったことは、そのお金のことですとかやっぱり社員抱えてる部分があるから生活面ですね。だから、ああ大変やったわいうて、よその家へ行ってても、どこでもいいからお風呂入れてもろて、2、3日寝てきた言う人、ああ幸せな人がいるいうて。だから、正直いうて2年間泣いてません。あの辺は子供の同級生が亡くなったり、その人たちのお母さんとかが大勢亡くなっているのを聞いてるでしょう。そこの田中では慰霊碑ができ

ました、2年目に。
それは、開幕式のときに子供の、今西区に住んでるんだけど、友達の顔を見たとたんに抱きついて泣いてる。2年たってます。泣いてる暇もなかったのが現実で、人それぞれだったね。たまたま私はほかの社員のことも考えないかん立場やったから、泣いてる暇はないしね。私がめそめそしとったら社員が困るというのがあったから。

（震災を経験して思うこと）

本　やっぱり知り合いが死んだらね、やっぱり悲しくて泣く。友達いうかね、知り合いが死んだらね、そのときは本当に涙が出たんかなあ。それはマッサージの人でね、よくそこへ通ってたんですわ。ようつき合いがあったもんやからね、それでもう下敷きになって。やっぱり涙が出たというかな。
自分自身のことでは、やっぱりA病院にある日リハビリへ行って、その後は物すごく鬱みたいになってたと思うんですけどね。それからよう飲むし。臆病者やからね、自殺なんかはよう考えへんかったけど。隣の女の子ね、あれも結局地震の後、鬱で死んだんだろうと思うけどね。
震災でけがしたことについて思うことはとにかく早く治らんかなと思う。それだけですわな。
今後教訓として残すべきなのは、学校ですね、よくこれは戦争中のあれ、学校でちょっと防空頭巾ね、かぶってね、とにかく頭を大事にね、というものをね、やっぱり指導したらいいと思いますね。

妻　今の家は6階建てです。もとのように、その1階の3階建てぐらいにしようか、それともって、結局鉛筆みたいなビルになって、1階を店舗で貸して、2階、3階を学生のワンルームにして。それで、4、5、6で住んでるんですけど。どっちみちけがもしてるし、私はもう年がいくからエレベーターは絶対につけよう。それをいわゆる学生さんだから、2階、3階、平気で階段を上がれますから、いわゆる自宅専用にしようということでつけたんですけど。それがまあ、何か今役に立ってるんですけどね。

本　だけどね、腹が立つのはね、エスカレーターやね。

妻　怖くて乗れません。

本　一回ね、前に行った、信州のほうへ行ってね、帰ってきて新大阪でおりてね、それでエスカレーターに乗ったんですけど、一番下でころんでもてね、上からおりてくる人が。それからもうよう乗らん。あれがね、一番くやしい。

妻　本人をサポートせないかんのはやっぱりそばにおるものでしょう。それを悩んでみたって、悔やんでみたって、これ以上子供にまで持っていけませんので。もしも今そういう障害を、震災の障害者といわれる方々との集まりがあったら参加します。私みたいに、私ちょっと型破りなパターンかもわかりませんけど。

本　私は、特にいいです

妻　主人と言うんです。悪いけども、一番全壊もしたしけがもしたし、入院もしたし、でもまだいいほうかなという考え方でいかないと、前へ進めないという気持ちでね、私らは今日まで来てますから。やっぱりそれがどうこういうて、そこにとどまったら、人間やっぱりね。
二人で目標にしているのは、杖が離れたら旅行に行くこと。

本　満州にはまた、行きました、1回。お礼にね。6年ほど前やったかな。

妻　あのときは1人で行ったん違う。

本　自由に行ったらいい言うけどね、みんなに声かけてもね、行かへんいうて。もうしょうがないわ思うて。向こうの院長も接待職いうてね、人によって中国、嫌がるけどね。それはもう絶対ない。いいところですわ。

妻　ちょっと暖かくなってくると、何か困ったら、「あかんな」ってすぐ言うんですよね。だから、「あかんないうたらね、あかんな虫がいっぱいついてくるし。そんなことやめて」いうて。その場に置かれたら、何かしないことには抜け出せないもんね。だから、初めの初日でやっと助けてもらって、病院に入れました。私はつぶれた家を見て、またこれやらないかんな、これ片づけて仕事を進めなきゃいけないというのが目の前にあったら、泣いておられへん、めそめそしてたら、息子だけじゃない、みんなが社員が、極端に言うたら、変に自分を追い詰めて、150人の家族が困ると。
そしたらね、三木のほうに住んでる社員がね、そのときも単車に乗ってね、嫁さんがこれ奥さんに食べさしていうて、カップラーメン持ってきてね、お湯持ってきてね、食べさしてくれました。やっぱりそんなんがね。うれしかったですね。だから、やっぱり何気なく声かけてもらって、ありがたいなと思うことかある。いや、もうあれはもう絶対忘れたらだめですね。

本　やっぱりあれですな、地震だいうたら、どこで起こったんやろう思うね。いや、あのとき思ったのは山崎断層が動いたん違うかと思うて、近いしここやったら。すぐそう思った。台湾でね、経験があるんです、大きな地震にね。子供のときね、外で遊んでてね。もう向こうの溝はね、U字型になってね、見たらあるんですわね。で、どーんいうてね、があーっと動いとるんですね。だから、寝とって、地震のときぽーんと上がったからね、30センチぐらい。地震だ言うて、それ言うたんですわ、自分で。まあかみさんに聞こえてたかどうか知らんけど。

妻　知らないわ。

本　部屋は別やからね。

妻　だからほんと普段どおりに寝てたら即死。まあ見事にずしっとね。日にちもたってたから余計でしょうけどね。もう笑い話ですよ、地震の話が出たらね。たまにはけんかするもんやな言うて。しょっちゅうしてるけど。

本　そうそう。それはね、私も知り合いの子供さんがね、神戸大学かどこか行っとったんやな、Aさんとこ。

妻　ああそうやね。

本　それで、試験があるので、朝起きて勉強しとったんや。そしたら、そこにどーんと来たんですね。そこで圧死。

妻　一人息子さんを亡くしてるお知り合いがいてて。

本　ほんまね、そういう人がおるからね。

妻　だから、そこもご夫婦で毎日暗い生活してて、たまたま私らの知り合いでネパールに行く機会があって、こういうご夫婦を誘ってるからね、気をつけたげてねって言われながら行ったんです。まず空港に集まったら、もう初めっからお通夜みたいな顔してて、奥さんなんかね。でもやっぱりみんなそれ全く知らんとこいって話してるうちにだんだんと、他人さんとおしゃべりして、帰りは元気になって帰られて、今もお2人おられますけどね。だから、やっぱりどこかで吐き出すチャンスがやっぱり必要ね。私なんか割りにしゃべってるほうやから、それでも声が出なくなったんですよね。

プロフィール

震災障害者－6		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月14日（月）
	面接対応者	本人のみ
基本属性	性別	男
	年齢（調査時）	75
被災状況	被災場所	東灘区北青木
	家屋被害	全壊
	家族の状況	妻、息子は無事
負傷の状況	救出されるまでの時間	すぐに自力脱出
	診断	大腿骨頚部骨折
	障害の程度	4級
	搬送・転院などの経緯	自力でK病院へ（治療なし：3日間）。大阪の病院を経てS病院へ。5月転院・手術（約3ヶ月半入院）
仕事		定年後、マンション管理人を始めた。会社に理解があり、退院後11年間勤めた。

主な発言

○　何が上から落ちてきてとか、どうしてとかいうことはほとんど覚えていない。

○　二階がつぶれてきて閉じ込められ、大腿骨股関節と第4第5腰椎を骨折し、痺れて足の感覚がなかった。

○　隣にいた妻、2階で寝ていた息子は無事だった。

○　地震当日の夕方に病院へ着いたが玄関の階段を上がったところで寝かされ、1人亡くなれば順番が進むという具合だった。2日目に長いす、3日目に病室に入ったが、治療や痛み止めもなかった。4日目に娘のいる大阪の病院へ転院。

○　地震発生から5日後に大阪の病院で手術をし、5月に退院した。

○　障害者手帳の取得は医師からの指導だが、医師に言われるまで知らなかった。

○　マンションの管理人をしていたが、会社の配慮で復職できた上に見舞金まで頂けた。

○　平成7年7月にE病院で手術をやり直した。今でも股関節が曲がりにくいので自分で靴下をはくことができないのと、座る時に非常に痛いのが辛い。

○　リハビリは大阪で3ヶ月、E病院で2ヶ月続けた。

○　店舗に入ったらまず避難口や避難経路を確認している。

○　散歩は人通りの多い場所、時間帯を選んでいる。

○　どこの病院も健常者が設計しているから障害者には使いづらい。

震災障害者等 インタビュー ⑥

日時：平成23年2月14日

（震災時の状況）

病院行くまでの間、地震が朝。私が病院へ入ったのが夕方5時ごろなんですよ。で、その間は寝てたから、あんまり覚えてないんですよ。

意識失ってたわけではないけど歩けなかったんでね。だから、自分の家も見てないんですよ。

病院入って以降はわかるんですけどね。その中で見て、何が上から落ちてきてとか、どうしてとかいうのはほとんど覚えてない。覚えてないいうより、わかんないんですよ。それと私は軽いほうやろと思うんですよ、私と一緒に病院入ってた人なんて、見事に気の毒な人ばかりやったですからね。

自分で覚えてるのは寝てて、地震が起きたときに、でもよう助かったと思います。というのは、上の2階がそのままぺしゃっと私のここへ、家内もここで寝てたんですけどね。下敷きになって、こっから上半身下敷きになったんですけどね、誰を呼んでも、誰もわかんない。

息子が2階で寝てました。ほんで呼んでも誰も声が聞こえなかったんで、もうだめだろうと思っていたんです。家内も隣だけど、声が届かない。そら、家内のほうはちょっとどっか打って怪我したくらいなんですけどね、何ともなかった。私はよう助かったんです。まあ、地震やっていうて起きたときに、上から壁土いうんですかね。昔、欄間の台座は全部壁土で張ってましたよね、それがここへ落ちてきて、そこまで覚えてるんです。で、後で気づいたらもう下敷き、上にいろんなもん載ってて、中で誰も呼んでもようわからない。

すぐ、気はついてましたけどね、ほとんどわかるように。要するに、上から落ちてきて、自分が出ようとしてもがいても、どうしようもなかったんです。ただ幸いなことに、布団が羽毛布団やったんですよ。そやから、今度下に力入れてしたら、布団がへっこんでくれたし、で抜けたんで。それが、普通の布団、昔の綿の布団ならばまず動かないんで、多分だめやろう思うんですね。ほんで、抜けて座って、次にこっから下がもうしびれてしまって、何もわからないです。

だけど、そのときに息子を助けないかんということで、2階に寝てるんで、息子を呼んでも返事がなかったんで。今考えたら大腿骨の股関節を骨折、それから腰椎の第5、第4の疲労骨折してて、もうしびれてしまって、それでも息子を助けないかんために、ここまで。だから、よく歩けたなと、自分でも。それで、息子を呼んだら、息子も意味がわからなかったみたいやけれども、2階の窓を割って出させて。

うちも全壊というか、ぺっちゃんこ。ほんで、車がここにあったんで、車で寝よう思ったら寝れなかったです。もう動かないです。ほんで、前の家に寝かせてもらってたんです。朝、だからそれがもう何時や、朝7時か8時前後やと思うんですね。

息子や家内はもう立ち上がって歩ける。だから、無事やいうのはわかったんですよね。前の家で寝かせてもらって、だから自分のこの家も何も見てへん。それから、ずっと前の家で寝かせてもらっていて、夕方医者に行こうということで。でも、瓦礫とかで車が出せなかった。ほんで、息子が近所の人に頼んで車を借りてきて、そこで乗せてもらってA病院行ったんです。

息子は、41なんですよ、今。だから当時25、6歳ぐらいやね。車に乗せてもらって病院へ行ったんです。それはもう真っ暗やったんです。もう、午後5時何分くらいですね。ほんで、A病院行って、行ったとき遅かったから寝かされたのが玄関。玄関階段上がったとこで寝かされて、1人が死ぬと自分が前へ進むんです。ほんで、何人くらいですかね、8時か9時ごろなったときに、やっと向こうの病室の前くらいまで行けていたんです。

ほんで、朝一起きて、それが1日目なんです。2日目に、どうしても部屋が空いてないからということで、廊下にある長い椅子。ベッドになるようなやつ、それに寝かされて1日過ぎて、3日目にやっと病室へ入れて。その次に医者から、A病院から、あなたのは骨折してしまってると、ほんでB病院しか手術してもらえる人がいないからと。それで嫌ならば自分で探してどっか行ってくれて言われた。ということで、私の娘が大阪で働いてたんで、それに頼んで、大阪の病院へ。大阪にいる娘がレンタカーを用意してくれて、息子が大阪まで車を取りに行って私を大阪の病院に連れて行ってくれました。

A病院にいる間は、治療らしい治療は何もなしで。痛み止めも何もなしです。もう痺れてるから痛みいうのはなかったですね。だから、ご飯も食べたんは、その日やなく、明くる日ですよ。地震が起きて、病院入って、その日は何もなしですわ。まあ、お腹もすかなかったですけどね。

ほんで、明くる日に広島のほうから自衛隊の人が弁当持ってきてくれるいうことで、それを食べて、だから弁当もらうだけでしたよ。寝たままで、こうしてつまんでね。ベッドの横に置かれても、何があるか見えないですからね。

（大阪へ転院、手術）

4日目に大阪の病院へ入れたんです。そやから、よかったと思いますね。本来、そういう横から手使ってするのはいかんのですけどね。

ほんで、そこで初めてうどん食べさせてもらって、その次の日ですかね、やっと病室入れたの。手術したのが金曜日やったですかね。震災の日が月曜日。その間、一人で病院にいました。妻も電車はないし、家のこともあるし来れないしね。ただ、その中で見て、いろんな人、大阪の病院でもようけ入ってはりましたけどね。もっともっとひどいケースですわ。私、退院したんが5月です。腰と両方なんでね。手術は、1カ所だけです。腰のほうは手術せずに、ギブスだけで。大腿骨を手術。だから、その間、あんまり自分としては苦痛じゃなかったですけどね、他の人見てると。それは気の毒な人ばっかり、私が一番軽いと思ってた。

すごい地震だっていうのはもう音ドーンと鳴ったときに分かりました。自分の家のところだけじゃなくて、すごい広い範囲での災害だったということは何日かたってから知りました。私がその下敷きから抜け出したときに、この前にCさんというそこの人が、ここへ、誰々さん、Dさん、元気してるいうて聞きにきてくれたんです。ああ、

大丈夫ですよいうことで、そう言うて、近所の人何人かは連絡がとれたんですけどね。

それと心配だったのが、甲南市場が火事いってたんですよね。ここまで燃えてきたらどうしようかなというそういう心配はしてたんですけどね。

だから、あんまりね、地震のそのときいうか、記憶にないんです。記憶いうよりか、見てないんでね。映像としては、目に残ってない。新聞なんか見たんは大分後ですからね。

家内は、初めは、そこに児童館いうとこがあるんですね。そこに何日間かおって、それから、私が退院してからは大阪の娘の家に約1ヶ月いて青木に帰って、近くのいとこの家が何とか残ったので、しばらくお世話になり、私の知り合いが兵庫の家があるので借りて住んでいました。息子は、六甲アイランドの仮設に入ってました。

それから、私が退院してからは近くにいとこがおりますんで、そこに住まわせてもらっていたんですね、少しの間、夫婦で。

今の家を再建したのは明くる年の2月です。すべてやり直しですね。

家建ててから、息子もしばらく一緒に。でもすぐ結婚しましたんで。また二人暮らしで。1月に定年で、それから、マンションの管理人やってました。

私、7月にHマンションの関係で入ったんですけどね、全部休んでる間のことしてくれました。あれはありがたかったです。やっぱり東京の会社の人なんでね、地震の怖さいうのよく知ってはって。ほんで、仕事もそのまま続けさせてもらって、足悪いのに続けさせてくれました。

（障害の状況、再転院）

5月に退院し復職して11年間行きました。でも、今までのようにはね、痛かったりで。だから、1人つけてくれましてん。ありがたかったですね。

見舞金もくれました。たった三ヶ月しか行ってない会社なんでね。うれしかったです。

靴下がはけないのが一つ、最大の難点なんです。股関節がだめに。伸びない。家内や孫に、はかせてもらってます。孫は、近所におりますんでね。

もう一つは正座です。畳の上で正座できないんですよね。立つときとか座ったりとかは、痛いです。一番痛みがあったのは、退院してからすぐです。今はもう全然。前はここまでしか届かなかったですわ。ただ、もう一つ困るのが、これ。人工骨が入っているのは10年しか持たない言われてますねん。だけど、もう今16年でしょう。ぼちぼち痛くなってきてるんですよ。中入れかえないかんのです、新しいやつに。1年前に一遍手術をした医者に行って、検査してもらってるんですけどね。手術は、初めは大阪でやったんですけどね、失敗してひっつかなかったんですよ。そのときが59才だったんで、人工骨にするか今の自分の骨をひっつけるか、どっちにします言われたときに、私は人工骨にしてくれ言うたんですけどね、医者が、10年したら、これ入れかえんとだめですから、もう人工骨やめときなさい言われて。自分の骨でひっつけたんですけどね、ひっつかなかったんです。ほんで6月に、私、地震が起きた年の7月にもう一遍やり直したんです、E病院で。JRのJ駅のとこ。ただこれをもう一度入れかえないかん、今ちょっと痛くなりかけてきたんですよ。だから医者はいつもびっくりしてるんですけどね。よく持ってるなって。16年間も持つことなんて絶対にないようで。よほどうまいこと入ってるんやろうなって。だから実質、畳の生活ができないということと、それから、物を持つともうだめです言われてるんですわ。

なんで、もういたわっていたわってです。だから、杖は絶対に持ちなさいと言われてるんですけどね。外へ出かけるときは杖を欠かせない。

孫とキャッチボールしたり、そういうのは一切もうやめてます。歩くのは今でも1日、午前中30分、昼から1時間は散歩してますゆっくりだと大丈夫です。だから、これさえ曲がればねという思いがありますけどね。そやけど、これでももうすごいリハビリで、それは痛かったですからね。大阪でリハビリ3月から3カ月間、E病院でも2カ月かかりました。今でも自分でやってますからね。だんだん伸びるようになって、この指が届くようになったんは最近です。靴下はきたいんですよね、自分で。もうちょっとなんですね。誰もいないときでしたらペンチ持ってきてね、ペンチでこう両方挟んでやってるんですけどね。

（震災による心境の変化）

本当に一番気の毒だったんが、新婚さんで、子供できたばかりの人がいました。だんなと子供が死んで、本人は両足動かなくなって。ほんで、その人は私が大阪に入院しているときですから、4月の末くらいまで、蝋人形みたいでした。顔に変化も何もなし、どんだけ話しかけても一切何にも言わない。ほんで、私5月のゴールデンウィークに退院したんですけどもね、その人はやっとそのときに話してくれたんです。人に会うと慰めの言葉をかけられる。それが一番嫌やと。頑張ってね、頑張ってね言われるけど、何を頑張んのよ私がいうて。だけど、その人が一番ショックやったですね。ほんま人間生きてく希望がなくなると、あないなるんかなと思って。本当、蝋人形みたいやったですわ。それから比べると自分は軽いなと思いましたね。

私も自分のレントゲン見たときね、背骨、腰椎が4番と5番が折れてるとなったとき、ああこれもう寝たきりやなと思ってたんですけどね。もう多分車いすよりかもっとみじめなね。だけど、骨ってふえてくるんですね。もうぺっしゃんこやったです。骨はこうしてつながってますわね、この腰椎の4番目と5番目が本当もうぺっしゃんこ。あれ、背骨やったらもう終わりなんですね。歩けるかもしれないって思ったのはもっと後です。自分でコルセットしたんが3月ごろですからね。コルセットが濡れないように、風呂入るのなんかは、ビニールの袋かぶってね、首だけ出して。

目標の一番は家を建てようということでした。私はまず、5月のゴールデンウィークに家帰りたかったんです。そのときは業者が少なかったんでね、だから、高いです。もう無理に頼んでやってもろたからね。実際には遅れて2月ごろになったんですけどね。

それとそのとき娘の子どもが生まれてね、その年の5月に。初孫でした。そやから、ええほうへええほうへ転がっていったんですね。明るい話題ができて。看護婦さんがこう写真ずっと並べてくれましたんでね。ベッドのふちに。だけどまあ、あんまり覚えてないんでね。まあ

覚えてないいうよりは思い出したくないんでね。

今までも誰にも話してません。同じような経験されたお友達というか、知り合いで同じように震災で怪我されたとかという人はいないです。ただ、もう今はつき合ってないけど、大阪の病院で入院してるとき、隣の人の家族が、K温泉の方で、そこに一遍は行かせてもろたことはあるんですけどね。でも、今はもう全然。年賀状ぐらいでね。

人から当時のことを聞かれても、話さないようにしてますわ。だから、私らとしては戦争の話も嫌なんです。というのは、戦争も嫌な思いしてるからね。だから、広島のときの原爆なんてのも嫌だし、この間孫と行こういうて誘われたんですけどね、中入らなかったです。昔思い出すんでね。ただ、地震の場合も家内も孫も全然言わないです。今回のインタビューに協力したのも、正直なところ、どういう内容のものか余り分からなかったからです。正直なところ言うと。これ、何年か前か、3回目くらいなんですよね、前も神戸市に一遍出したことありますねん。地震がいってから、怪我してからは1年くらいのときに。その続きか何かかなと思ってたんでね。

どうだったか、私は仮設のことも一切わからないんですよね。

震災前後で、趣味なんか何も変わらないし。趣味は、野球と麻雀なんです。だけど、麻雀はもう最近やらなくなってきたですけどね。怪我はすごく大きな出来事だったけれども、考え方とか価値観とかはそんなに変わらず。余りくよくよしても仕方がないという考え方なんですよね。

一番今までで腹立ってるのは、前の病院の手術した後、毎週月曜日には院長先生、部長さんが回診に来はるんですね。そのときに担当の医者が答える言葉が、非常に中途半端であいまいなんですよ。治ってないから、普通ならば、4月には大体めど立つやろういうことやけども、立たないと。医者がその部長さんに話してるのが、要するに今はまだちょっとというて濁してしまうんです。ほんで、言うなら多分ひっついてないからで、そのとおりやったです。それのために退院してきて、ゴールデウィークに退院してきて、歩いても痛いんですよ。それが、そのときにうまくちゃんとしといてくれれば、あんな痛み体験せんでよかったんでね。

もう、どうすることもないぐらい痛いんで、自分で、E病院に行こうと思ったんです。前の病院の紹介とかではなく。

医者にしたら10年しかもたない骨なんで、59才なんで非常に私のこと考えてくれてたんかもわからないんですね。要するに、障害者手帳を渡すときも、どうするかいうて言うてくれたんです。これ持ついうんが非常に嫌う人がいるよと、それでもまあ何かの証明書になるから持っときなさいいうて申請したぐらいなんですよね。E病院で。E病院は手術もうまくいき、1週間で退院しました。大阪の病院では、時間を無駄にしたというか、そのような思いで。痛いと言っても誰もしてくれない。もうちょっとしたら、もうちょっとしたらという。だから、うまくいっとけばね、E病院みたいに1週間で退院できるんだとものすごい楽やった。

（障害者手帳の取得）

医者というのはくじ引きみたいなもんです。障害者手帳のことは、医者に言われるまで知らなかったです。ほんで、1級から何級まであるいうのも知らなかったんですけどね。まあ、E病院の先生が、要するにこれ持ついうことは非常にプライドの問題があるから、よう勧めないと。だけど、持っとけば何か証明書になるよと。だから、バスがただになるとかそんなんじゃなしに、何かのときに役に立ついうて、だからつくっときなさいというてつくったんですけどね。だから、今はほとんど使ってないですよね。

杖も持ちなさいといわれました。今度こけたら、普通の人ならば捻挫で済むけど、あんたは骨折になりますよと。だから、杖持ってるんです。確かに何回も転びそうになって、助かった。もう一つは、あれ持ってると、車に対しては絶対に有利やから、みんな止まってくれますわ。

孫でもみんなもう大事にしてくれますよ。特にこっちの足が痛いということで。寒いときはやっぱり、痛いです。カイロ入れてるんですけどね、ずっと。寒いよりかね、雨降るちょっと前。もう何とも言えんだるさ。これはもう仕方ないですよ口で言えないしね。今は薬も全然飲んでない。温めるとかということぐらいです。ただ、強いて言うならば、上向いてしか眠れないですよ、こっち下にできないですよ。寝返りもうまくできないです。もうこれで16年、こうして寝てますでしょう。ほらここが痛いんですわ。どっちも、要するに上向いてしか寝てないですよね。こっち側へ向くと、ここが痛いんですよね、今度。上向いて寝るから口あけて寝ると、いびきかくって孫に怒られて。

もし、同じような体験された人と会える機会とかがあっても、もう余り思い出したくないですから。

もし今起きたら私とこ、もっと死んでるでしょうね。だから、それが一番嫌なことなんですよね。今、孫預かってますよ、ここへ。今は保育所へ預けてます。半分は一緒に生活してます。息子の嫁は看護師なので晩が遅いんですね、ほんで泊まりもあるから。この間揺れましたやん、何回か。あれはもう一番にもう。孫をどうしようかなという、だからそういうの癖がついてるから、今どこの喫茶店行こうが、食事に行こうが、まず逃げる道考えてますね。店入ると同時に、必ず見てしまいます。じゃないと座らないようにしてます。今のほうが、もしあったら恐怖ですね。前のときは私ら2人だけと、子供がもう大きいですから。今は5人の孫がいますんでね。ひどいとき、ここで11人寝ますからね。

今でも散歩するときは必ず人通りの多いときしか歩きませんからね。人通りの少ないところで、もし倒れてもいかんし、誰にも会えなかったら困るし、だから必ずもう人の多いとこ、多いとこへ。

（行政に対して思うこと）

どこの病院もなんですけど、健康な人が設計してはるんですね。入院している間に困ったのは車いす乗ってますとね、顔洗うにしても洗面台から届かないんですね、蛇口が。ああいうのもみんなもね、要するに健康な人が設計してるから、だからもう少しなれば、ここへ私の足が入ればここに届くわけですよね。自分で病院を探

して行けというところは問題かと。けど、病院の人になったら仕方ないんかもわからないですけどね。小さいこと言うたら、いっぱいあるのかもわからないですけどね、だから行政に対して不満とかそういうのは私にはちょっとわからない。

私思うのは、この間のJRの電車の件にしても、よう現場へ行きはるなと思って、私はもう絶対行きたくないですよね。

JRの事故は、不注意ですよね。天災いうやつは、また違うと思いますけどね。昔からよう言います。地震、雷、火事、おやじって。やっぱり地震が一番怖いですよね。

不安があることは確かです。この家でも、つぶれないいう自信があればいんですけどね。

どうやっても仕方のないことがほとんどなんでね。何か対策的にあってね、これをすれば防げるんだというのがあればいいですけどね、ないですから、わかんないですよね。

プロフィール

震災障害者－7		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月12日（土）
	面接対応者	本人、妻
基本属性	性別	男
	年齢（調査時）	66
被災状況	被災場所	東灘区本山中町
	家屋被害	全壊・全焼
	家族の状況	妻、子3人ともに無事
負傷の状況	救出されるまでの時間	まもなく近所の人に救出される（午前9時頃）
	診断	左坐骨神経麻痺、骨盤の骨折、左足間接機能全廃
	障害の程度	5級
	搬送・転院などの経緯	○ 近くのB病院の整形外科では対して治療してもらえず1月20日にD病院へ入院させてもらった。 ○ 4月4日に尼崎の病院に転院。6ヶ月ほど入院した。
仕事		○ 会社員。9月復帰。 ○ その後、定年まではおれず退職。

主な発言

○ 就寝中に被災。崩れてきた隣家の梁が腰の上にのり、本人は骨盤が4カ所折れていた。
○ 枕元のスチール机が支えになり、空間ができたことで助かった。
○ 小さなジャッキも役に立たず、毛布で引っ張って救出された。
○ 腰回りの神経を手術するか悩んだが、結局手術はせず、その後リハビリをしたが左足首があがらない。
○ 妻は震災から16年たっても冬になると頭痛が起こり、本人は2、3年間は怪我が痛んだ。最近になってまた痛みだした。
○ 近所の家は地震直後ではなく、その後の火事で消失したので火災保険の保険金がおりたが、自宅は地震直後の火事で消失したので保険金が下りなかった。
○ 障害者手帳の取得は医師ではなくリハビリ担当の方から教えて貰ったが、手帳よりも健康が欲しい。
○ 震災で同じようにけがを負った人たちとの交流はなかったが、一度会ってみたい。
○ 防災の面で市や県には耐震、家具の転倒防止や避難場所の確保を徹底して欲しい。
○ インタビューに応じたこともあるが、小・中学生の地震を知らない子供たちに体験談を話してあげたい。
○ 懐中電灯やお守り、ラジオを家に常備している。
○ 転院・移動中に手遅れになるかも知れないので、拠点としての頑丈で大きな病院を作って欲しい。
○ 転倒が怖いので電車に乗るときは絶対先頭には並ばない。
○ 震災は地域が限られているので、戦争と違って全国の人に伝わりにくい。
○ 震災関連のテレビ番組は、当時を思い出すから見ないようにしている。

震災障害者等　インタビュー ⑦

日時：平成23年2月12日

（本：障害者本人、妻：本人妻）

（震災時の状況）

本　地震のときは夢みたいやったね。とにかく、夢みたいやったんです、私はね。寝てたんですけどね。ドドドドッとなったでしょう。私の場合は、もう通常ではない地震やなと。当日1階南側の部屋で頭を南側にして、女房と2人で寝てたんです。隣の家が崩れてきたんです。とにかく何が起こったかわからんわけです。ドドドドッと物すごい揺れやったでしょう、これは通常じゃないなと言うてるうちに、こっち頭向けてましたから…。一瞬、左側に体をかわしたんですね。体をかわしたところに上から隣の家の梁が足の上に載ってたんです。

結局、女房は大きな梁が足の上に載ってたんです。私は体をかわしたんですね、体をかわして、ここのところに大きな柱で、頭がここでしょう、胸がどんどん押しつぶされていくわけです。だから、一瞬何が起こったんかわからんかったね。

それで、恥ずかしいなという感じがしてね、わしの家だけつぶれたん違うかと。そんな感じで。一番心配やったのは、2階に子供が寝てましたので、このままいったら2階つぶれるん違うかなと、そっちのほうが心配やったね。子供は3人、皆2階におったんです。別々の部屋でね。

大学生と浪人生と、大学1年生やったかな。大学からお見舞金いただいてたから。

一瞬何が起こったかわからへん。もう一瞬の、とにかく何とも言えん静寂ね、シーンとなったですね。それで、遠くのほうで犬がワンワンワーンと吠えよった。それで、何とかせないかん思うて。

結局、動かれへんですよ。痛い、とにかく痛くて痛くて。大きな梁が腰の上に載っていたので。

妻　隣の、梁じゃなくて、20センチぐらいの、左隣のベランダがドーンと、もちろんほかの2階のあれも落ちてきてましたけどね、梁もね、押さえられてたのは梁やったんですけどね。ちょうど、たまたま私、1週間ほど前にスチールの机を、枕元の、縁側みたいなところへ組み立ててくれて、置いてたんですよ。その上へ、そのあれがドーンと落ちてましたわ。ちょっと支えてるような形になって、直接来なかったからね、助かった。

上半身は無事でした。頭の上にエアコンの室内機が備えつけてあったのを1ヶ月程前に捨てたんですよ。

本　捨てて、間なしやったね。寝てる上に置いてあったんですわ。もし、あれがあったら、もうバーンと来てますわ。そのエアコン、大きいんですよ、Iのね。それをもうとにかく要らんからね、捨てよういうて、そのころ、まだ荒ごみも関係ないでしょう。重たい目して、ほうりにいって間なしやったね。

妻　でも、私は嫁入りの時に持ってきた布団を着ずにそのまま押入れにしまっていたので、ちょうど布団を、きのう新しいのをおろしてね、それで寝てたから、洋服ダンスがひっくり返ってきてたんですよ、足元に。しばらく足が抜けなくてね、ごろごろしてたんですけど、やっと抜けて主人は、もう痛い痛い言ってるしね、どうしようもないんですよ。

それで、私がおったん、このぐらいのとこですもんね。小さいとこやったからね。何とか助かったわと思って。私は、その辺、かき分けて、ちょっと空間つくって、ごそごそできたから。服も何にもなかってね、もう着の身着のままだったけど、全然寒く感じなかったですもんね。そのうちに、「お父さん、お母さん、どこにおんの」いうて、2階からおりてきたんですよ。ここよ言うて、声を出すけど、全然聞こえなかった言うてましたわ。もういっぱい重なってましたからね。

本　それで、3人の子供は、ベランダへ出たら、階段、家の真ん中だったんですけどね、木の階段ですけど、ほっと見たら、もうなかったらしいんですよ。じゃあ、こちらのお宅も1階がぺちゃんこになった。こっちへこういったんや。庭のほうへ行ったんかな。

妻　いやいや、皆、こうなっていた。西へ西へ倒れた。それで、ベランダへ出たら、ベランダが滑り台みたいに、東のほうへガタンと落ちたんやろうね。だから、西から出て、滑り台みたいにしておりてきたら、ぐじゃぐじゃだったですけども、外には出られたみたい。

本　要するに、とにかく静寂なところに犬の遠吠えでしょう、それから、子供が大声出したんやな。

妻　だけど、だれも来てくれないしね。2階が落ちてきてたからね、主人は腰に梁が載って、どうしても引き出せないし、どうしようもなかったんですよ。それで、子供らが出してくれて。それから私をまず、あっちこっち、男の人を呼んでくるけどね、こんなん、ジャッキも何にもなかったら、何もできないわいうて、それでまた帰ってしまってね、その人らも。帰ってしまって、いなくなってしまった。

本　ほかへ皆、行かないかん言うていってしまったらしい。
東隣の奥さんは建物の間に挟まれて血まみれだったとのこと。私の場合は、もう、それから何というか、とにかく胸がどんどん畳の方に押しつぶされていく。もう息が苦しいて苦しいて。

妻　重しが、グシッ、グシッと来てね。

本　ギュッ、ギュッ、ギュッというような感じやったね。

妻　腰のとこら、特にね。

本　もうこらあかんなと、とにかく、どうにもならなかったね、痛くて。こらもうあかんわと、それで大声出し

たけど、聞こえへんでしょう。結果的には、左の、いわゆる骨盤が4カ所折れていた。

妻　後でわかったんですけどね。

本　もうとにかく、痛くて、痛くて。だから、骨盤が折れたから、余計痛いよね。

妻　それで、西隣のご主人呼んできてね…。

本　大きな声出したら、かすかに聞こえるらしい。かすかに。だから、結局、今から考えたら、もしも、ヘリコプターなんか飛んでたら聞こえなかったと思う。シーンとしてたんですわ。大体、2メートルぐらい埋まったんやろね。

妻　もうとにかくがらがらでしたからね。

本　子供らがかき分けて……。

妻　来てくれてね、そうやね、2時間、3時間ぐらい埋まっとったかな。

本　いや、そんなに埋まってないと思うわ。

妻　2時間ぐらいかな。
長女が西隣のご主人に何とか助けてくださいと何度もお願いして来ていただいてね、隣のご主人に引っ張りだしてもらったんです。それで、隣のご主人は自動車のジャッキ持ってきたけどね、そんなもん上がらへんですよ、小さいジャッキだったら。ジャッキみたいなやつを、てこみたいにして。柱がこうなってたからね、そこへちょっとでもと思ってしたけど、もう全然だめでしたわ。
　それで、布団のけ、毛布のけたら、ちょっと、引っ張りだせるような隙間はできたんでしょうね。隙間ができたので、隣のご主人が、私の埋まっている穴に入り込み、「首をつかめ！」というので、ご主人の首を下から両手で必死にかんで、何度も何度も首を上下させながらやっと地上にでられた。
　ガーッと引っ張ってもらったんですよ。それで出れたんですよ。

本　最初は近所の人が来てくれてね、お母さんどこ、ここいうて、始めてもらったら、スポンと、このぐらいの穴あいたんですよ。もう、太陽の光が来て、それでまず、女房から、スポンと抜いてもうた。

妻　埋まっている時に、それでも、結局、もうごじゃごじゃになってますでしょう、柱も、それを全部庭のほうへのけて、人が入れるようにしてから、助けてもらいに、あっちこっち言ったけどね、なかなかね。

本　そのときは、上見たら、真っ青な空やったね。

妻　違う、それは助けてもうてからや。それまではもう…。

本　そうやったかな。

妻　それで引っ張り出してもらってね。このぐらいの何か板を持ってきてもらって、そこへ乗せて。あとはもう人力だけですよね。幸い隣の塀が壊れていたからね、それで、みんなで担いで、向こうに駐車場ありますでしょう、そこまで出したんですよ。

本　寒かった、あのときは。

妻　寒い寒い、言い出して。

本　結局、この辺に梁、僕は自分では梁や思うたけど、だれか来て引っ張ってくれたでしょう、とにかく引っ張ろういうて。そのときは、骨折れても、後で治るなんて言われた。そやけど、そんなどころやない、もうとにかく痛かった。結局、それで、どっか行ってしもうた。結局、隣のご主人が来て。それも、今から言うたら怖かった言うとった。

妻　入るのがね。

本　いつ崩れるやわからへん。自分がね。2メートルほどもぐっていかないかんから。結局、最終的に、一番下がね、布団敷いとったんやな。それで、毛布をね、引っ張った。これならいけるいうことになって。

妻　ご主人も、結局、きちっとした靴履いてないでしょう。踏ん張れなくて、何か、運動靴みたいなやつをつっかけみたいにして履いてはったからね、なかなかね。

本　わしはそこは知らんし、結局、もうこらあかんないうことになって、みんな帰ってしもうた。いよいよ、これはあかんなと思うとったら、それで一番下の娘が…。

妻　布団敷いて、毛布と、とにかくもう、こうやって引っ張ってくれたね。こういうふうにして、何というの、腕をこうして、ガーッと引っ張ってくれた。引っ張ってくれてるの、私見てたから知ってたんだけど。

本　あのときは結局、隣の人が来て、結局、首つかめいうて。

妻　そうそう、首つかんでくれいうて、手もこうしてたよ。

本　隣のご主人が、首つかめいうて、その首つかんで、…、それで抜けたんですわ。庭のその辺に転がされたいうか、とにかく痛くて、痛くて、もう折れてるからね。戸板に担がれてるなというのはわかってた。何人か来てくれたから。子供がトラックとめて乗せてもうたんかな。

（病院への搬送）

妻　J（製パン会社）みたいな、パンをいっぱい入れてた車でしたわ。その車で、そこのA病院へ担いでもらって、それで入ったんだけど。

本　主人の意識はずっと、鮮明やったです。

妻　そこでも、一杯怪我人が運び込まれており、死んだらあかんとか、何で死ぬのとかいうて、ワーワー言うてましたわ。

本　それでも、一応、A病院の床の上にどこやしらんに寝かされとったんやけどね、台の上か何かに、それでも、ドドドドンやったらね、ああ、ここもあかんの違うかなと。余震がね。それで、横でワーッと泣いとったからね、1人死んだんやな思うてね。

妻　それで、もううちではできへんからいうて、それから、3時間、4時間ぐらいたってから、B病院へ行ったんですけどね。そのときは、前の米屋さんのライトバンで。

本　だからね、そのときのことをよう覚えとんやけど、結局、B病院やったら治療をしているいうて、ニュースで言うとったいうから、行こういう話をしていた。そのとき、私は土間に寝かされていた。皆帰ってもうたから、何か用意しに。それで、私も、連れていってくれ言うたら、乗せたげよう言うて、何人かと一緒に乗せてもらった。そのときはだれもおらへんかったけど、おしっこしたいんやいうて、誰か女の人が来て、おしっことってくれたわ、尿瓶で。それ覚えとるわ。そのうちに、隣の人が来はってね。隣の人、外科医やから、とにかく早う行かないかんいうことで。

妻　整形外科のお医者さんやからね。

本　それで米屋さんのライトバンで何人かと一緒にB病院行った。そのときのラジオのニュースがね、今でも覚えてるけど、何か死者が何人かな…。

妻　まだ100人ぐらいか何か。

本　200人か何か言っていた。
それで、向こうへ行ったら、B病院に9時40分に担ぎ込まれた。着いたのは何時ごろかな、11時ごろか何か書いとったけどね。とにかく、もう何にも、治療も何もできない。

妻　中はごった返してましたわ。私たち割と早く行ったからね、1つベッドが空いてたんですよ。そこへ運んでもらって。あれは透析か何かする、大きな部屋でしたわ。

（地震翌日の火事）

妻　火事はその次の日（1月18日）でしたわ。それまで、時間があって、家に取りに行こうかなとか、そんな、いてはるし、連絡係みたいな感じでね。

本　子供らは、そのときの、後から聞いたら、昼過ぎに、隣の人に車借りて、3人で実家の塚口へ。それで、空き家になったんです。それで、翌日の夜8時ごろに火が出たんです。

妻　火は、どこから出たか分からない裏のほうから出たんは確かなんですけどね。それで、私もお金も何にも持ってなかったからね、その辺の人に、靴も、もうスリッパだけやったからね、病院の中で、ごめんなさいいうて、30円もらって。公衆で私の実家と、主人の実家とかけて。電話したんですけどね。靴も、その次の日か何かに、女の方が、もう1人の人に、私、靴あんたにあげるわ言うてんの聞いてね。「私、要らんわ。」言うてたから、ほな、それちょうだい言うて、もらってしましたわ。もう着の身着のままでしたもんね。
それで、次の日、家が焼けたでしょう。取りにも帰らないで、ほんと着の身着のままって、そのことでしたわ。
私は、ちょうどその枕元の縁側に、もうこの服要らんわいうて置いてたんですよ。ビニールに包んで、それがふっと見えたからね、そのオーバーみたいなんを来て、寝間着の上にオーバー来て。それで庭に置いてあるスリッパ履いて、それでついていったんですけど。だから、お金もないし。

本　1月やったでしょう、まだね。結局、正月に要るから思うて、私も25万円ほど背広に入れたままやったんですわ。そっちのほうか気になってね。あれどないなったいうたら、焼けたで、ああ、そうか。笑い事みたいでね。その背広はね、正月に初めて着たんです、ダブルの。年も年やから、ダブル作ろう言うて作ってもらってね、正月行って、3回目か4回目着てでしょう、結局、クレジットカードで払うとったもんやから、請求書だけきたんですわ。真ん中の娘なんかも、その前の年に、生田神社で氏子さんにね。

本　それで、お金皆もらってきて。オーバーとか何か、カードで買うた言いよったね。

妻　オーバーと、ラジオをローンで買って、それが焼けてしまって…。

本　それでカードの支払いだけ。

妻　残って。それで、一番下が、20歳の、そうそう、15日が成人式やってね、それで着物もかけたままやって、それも全部焼けてしまって。それで、お姉ちゃんが、3月に大学の卒業式や言うから、振袖をおじいちゃんの家から取ってきて家に置いていたところ、それも焼けてしまって。
助かったのは、子供らのお雛さんを私の実家へ持っていっていたのと、真ん中の子の振袖を向こうへ置いてた、それだけ。

本　私は、B病院の看護師室にラジオがずっとつけ

てあったんです。それを廊下で、痛い痛い言ってもしゃあないし、廊下でじっとしてたら、消防車のサイレンが聞こえてきた。

妻　そうそう。それで聞こえてきてね、「えっ」と思って、眺めたら、もうちょうど、そのとこら辺が、ワーッと火が上がってるのが見えてた。あれが自分の家なんやわとか思ったりしました。それから、見に来たのは、2日後やね。次の日に甥がマウンテンバイクで見舞いに来てくれて、それで小銭やら、持ってきてくれて、それで、B病院では治療できないから、福知山のH病院にヘリコプターで行くか、どないかしてくれいうて。しかし、H病院は保険が適用できないと言われ、最終的に断った。真ん中の子がC医科大へ行ってましたんでね、友達に話したら、うちのお父さんのD病院があるから、いいよいうて、救急車出してあげるから言うてくださって、それでB病院まで迎えに来ていただいて、その帰りにここを通ってもらったんですよ。ほんなら、何にもない。この人は横になったままやから、どんなんや、どんなんや言いながら、もう見えへんでしょう。

もう何にもないよ言うて。そのお友達のお父さんが経営している、D病院へ入院させてもらったんですよ(1月20日)。B病院で治療はちょっとね、何かレントゲンみたいなんを当てには来てくださってたけど、もう大変でしたわ、それは。

(治療の状況)

本　まあ、治療らしい治療はなかったね。

妻　もうあっちでもこっちでも、戸板にそれこそ載せられて、ベッド足らないところは、載せられて何人か入ってはるんやけども、「もう、あんたまで死なんといて」とか、いろいろ、もうワーワー言ってるのが聞こえてましたもんね。

私も横で、その下で寝てみたり、ちょっとベッドに横にならしていうて。寒いからね、地面の床やったら。寝させてもうたりしてましたけどね。

その次の日は、長女と甥が、マウンテンバイクで来てくれて、それでちょっとお金もらったり、持ってきてくれたり、服も持ってきてくれたりしてましたけどね、姪の服やらね。それで、救急車でまた大阪へ行きましたでしょう。やっぱり水とまるやろうなと思うたから、私も入院している人いっぱいいるから思うて、顔も洗わないでおったからね、やっとそこのトイレで顔洗わせてもらいましたわ、4日目。

本　そのときに、救急車の運転手さん、B病院の様子を野戦病院やと、びっくりした言うてましたね。大阪市なんて、何にもなかったんですよね。あんなん初めてや言うてました。

妻　子どもたちは、みんな塚口の実家にいたので、仮設住宅とかには行きませんでした。D病院には、3カ月くらいいました。

本　4月4日にD病院を出てから、尼崎のE病院、整形外科でリハビリしよういうことで転院した。手術はしてないです。最初に、D病院に行ったときに、毎日、3日間ほど重りをつけて引っ張ったんですね。尾骨とか、この辺が4カ所折れてました。向こうの先生は、手術せんと、このまましましょうということで。

妻　いやいや、どうしますか言いはったんや。ここの神経がやられてるから、その神経を手術して…。

本　それは次のときや。

妻　いや、違う、そのときにもう言うてはった。

本　そのとき、思い切って手術しとったらよかったんやな。

妻　だけど、治るかどうかわからないと。神経が圧迫されてるから、ちょっともみほぐしましょうかと。足先の感覚はなかったね。

本　しびれてるいうよりか、左の足が全く動かない。結局、足の裏が、ガラスが突き刺さって、血がしたたってるような痛さやった。

妻　ちょっと触ったら、えらい怒られて。

本　それはね、1年間ぐらいまだそんな感じやったです。座骨神経が切れてはいないらしい、先生に言わしゃあ、切れてはいないけども、結局、どこかでぐじゃぐじゃになっとる。だから、次のE病院に行ったときに、先生から、神経いうのは、レントゲンに写らへんから、あけてみなわからんと、あけてみても、治るかどうかわからんいうて、それやったら、一番最初に行ったときに、手術しとったらよかったんやけど、もう1カ月半も2カ月もたって、また神経…、このままリハビリで治してくれいうてやったんやけども、結局あかんかった。いまだに、上がらへんのです、左の足首が…。

それで、結局、もう5年間ぐらい、今もそうやけどね、5年間ぐらいね、結局足のこの辺が、要するにきつい靴に足を入れるでしょう、ほんなら痛いでしょう。抜いたらすっとするでしょう、そんな感じ、ギューッと絞められたような感じ、いまだにそうです。もう1年中、24時間痛いんです。だけど、16年たってきた。退院して、リハビリのときに、2回か3回ひっくり返ったんですよ。足が上がらんからね。上がらんから、パーンとひっかけるわけです。

妻　だから、この寒いのに、スリッパも履かないで靴下だけはいてます。

本　旅館なんか行ったら、スリッパ履かへん、スリッパはぬげるんですよ。左だけは、スリッパ持って歩くんですわ。いずれこけたら怖いなと思うて。結局、F医大の先生なんかにも、行ったんですけど。年末ぐらいに一遍行ったことありますよ、治療に。新聞に載ってたからね。でも、やっぱりあけてみなわ

からんいうことやったんです。それやったらいうことになって、もうそのままにしとんですけどね。
もうずっとそれでリハビリで通うたんですけどね、だから、退院したのは、6月17日です。2つ目の病院、あとはもうリハビリせなしゃあない。

妻　リハビリもね、牽引とかじゃなしに、理学療法士の方が、足をグッと上げたり、マッサージしながら。すごい痛みやったね。

本　結局、ここの筋肉がだめなんですね。普通、ここ上げよう思ったら、皆、ここがキュッと上がるでしょう、この筋肉がだめになっとるんです。ここの神経が。だから、上がるいうても、先は動いとんですけど、だから、少し出てきましたかね。だから、こことここにプラス・マイナスやって、電気をやる。それを毎日せないかんのです。今はもうしてませんけどね、当時ずっと3年間ぐらいやってました。針に行ってみたりね、中国針とか、いろんなことやったですけどね。やっぱりあきませんな。今さら、あけて手術してもしょうがないな思うて。やっぱりいまだに痛いですね。

妻　でも、もうほんと車いすか思いましたわ。

本　女房も皆、入院してるときに、このままあかんなと思うてたいうて、復帰は無理やろうと。退院するときは、歩けるようになって松葉杖で退院しました。

妻　仕事も行かないとね、首になるし。

本　もう一遍、完全に治してから来てくれ言うから、出社をやめて、9月1日から仕事した。それでも、片松葉持って。だから、松葉杖ついて、やっぱり嫌がるんですね、事務所へね、松葉杖ついて来るいうのはね。だからなるべく片松葉をやめて、杖持とういうて、それも嫌らしいから、やめて、できるだけ左の足を高く上げて、高く上げてと思うとったんですね。

妻　仕事に復帰したほうがリハビリになると先生がおっしゃってね。

本　だから早目に行った。

妻　それで、ここは焼けてもう全然だめでしたから、園田に家を。

本　マンション借りたんです。子供らが借りてくれてね。だから、最初は実家におったけど、実家にもいつまでもおられへんということで、子供らがまず、高槻の辺にマンション借りた、それも狭い狭いところで、女房はおじいさんの家が北区にあるから、そっちから通うたりしよったけど。遠い。もう、それこそ舞子から船に乗るんですよ。大阪港に着いて、昼ごろ出ても、8時までなんですよ、面会が。着かない。そして、来たら、私の横で寝とんですよ。

妻　着かないんですよ。ちょっとだけ顔見せてくださいいうて、それから高槻へ、子供の家借りてるところへ、次女と三女が高槻へ行ってましたから、そこへ泊まって、明くる日また見舞いに行って、それで、その帰りは、宝塚線に乗って、宝塚で乗りかえて、神鉄で北区のほうへ回って、それで私の父の家に帰ってたんですよ。そのうちに、灘まで電車が通じて、それでバスで西宮まで行っていうふうになりましたけどね。まあ、私は寝とったしね。
いまだに印象に残ってるのは、担架に載せられて、D病院、部屋が空いてないから、相部屋行ったんですけど、テレビで漫才やっとるわけです。それで私が入っていったでしょう、地震大変らしいないうて。えらい別世界に来たな思うて。こじき同然で行ってますからね。もう泥まみれで。どないなってんのやろう思うて。

妻　それから熱出てね。もう危篤みたいになっていたんですよ。もう、中で出血して出血して。

本　だから、血じゃなしに、白い血いうんですか。

妻　結局、出血もしたん違う、中で。知らないけど。

本　それで、面会やめてくれいうて。

妻　それで個室に移してもらって、入ってから1日目ぐらい。輸血も初めてでしたね。だから、去年かな、B型肝炎検査してもらいましたけどね、

本　あのころはね、見舞いに来てくれて、説明するでしょう、それでワーッとなるんですわ。それで、また、こないなる。それで面会はせんとこういうことで。

妻　でも、会社がね、給料は全額いただけたから、それで助かりましたわ。小さいとこやったら、就職もない方もいらっしゃるでしょう。それだけお給料がちょっとずつでも入ってきてたし、それだけでも、ちょっと気丈でしたね。

本　結局、松葉杖ついて来てるいうて、あんまりいい印象を持ってなかったですね。だから、もうそれやったらリハビリに専念しようということで、たしか6月ごろから行ったんですけどね、もう7、8は休んでくれと。9月からでも構へん。1年間休んでもええいうことを言われたんですよ。何ぼ何でも、1年間も休むわけにいかんと思って。

（自宅の再建）

妻　それでも、やっぱりそれが響いてね、やっぱり定年までやっぱりおらせてもらえなかったですもんね。だから、57でやめましたでしょう、そやから、それの後の、厚生年金も満杯でもらってないし、今でもね、企業年金だって、そうだし。厳しいですよ。家も建てないといけないし、90何ぼローンにしてます。

本　銀行もよう貸してくれたけどね。

妻　社会復帰できたいうことで、銀行も貸してくれたんやろうけどね。そのころは50歳やったからね、まだ。本当のぎりぎりですよね。

本　震災後の気持ちというと、、自分で今でも思うてるのは、やっぱり亡くなった人がおるでしょう。

妻　ここでも、一番端の方が4人亡くなられてるし、そのお隣が1人亡くなられているし、皆さん、怪我なさったりの人ばっかりですもんね。

本　300か500借りたかな。

妻　この家建つときにね。

本　県と市と両方から300万と250万かな。

妻　それ全部ずっと返していきよったけど、もうしんどいねいうて。そしたら、お宅のお嬢さん、お医者さんなさっているじゃないですか、年収何ぼあるんですか、早く返しなさいいうて。

妻　あの子はあの子でまた、それこそ奨学金借りたりしながら、医者の学校へ行ってたから、親戚にはお父さんそないなったのに、医者の学校なんか行かせて、やめさせなさいとかも言われるし、そやけど、何が何でも、もう行ってることやから、もう絶対に。それで、奨学金ももらってるし、そんなん返しなさい言うたって、返されませんよ、本人もアパート借りないかんし。いろいろお金も使ってるし、友達にも借りてたみたいでね。それこそ敷金、向こうのマンション借りるときに、敷金もなかったから、その医者の友達に貸してもらった、70万円。だから、あの子はあの子で、やっぱり友達にも気兼ねしてるやろうし。

妻　色んな情報についても、あんまり教えてもらえなかったですね。そうそう。一遍ね、区役所までは行きましたわ。罹災証明書か何かもらいにね。

本　考えたら、あのとき、けがして入院してへんかったらね、また走り回ってると思うんですよ。

妻　それでまたポックリいってるかも。

本　走り回って疲れて、ひょっとしたら体調悪うして死んでるか、そんな人結構おられるらしいですね。ばたばたして、そのときは緊張してるけど。この隣の隣の筋でも、地震で壊れて、走り回って、やっと家建てたとたんに亡くなりはったね。私の知っている人でも、三ノ宮で医院している人、僕と同じぐらいの人やったけど、大分前に、治療に行ったら場所が変わっていて、娘さんがやってはる。「父は亡くなった」と言っておられた。亡くなりはった、走り回って。

だから、ちょうど、もしけがしてなかったらね、自分も走り回ってると思う。

妻　でもね、1つ気になってるのは、神戸市の工事が始まってましたでしょう、震災後、解体工事ね。そのときに、私が北区におったから、三ノ宮まで出て、大阪まで行ったりとか。長女は私と向こうにおったんですよ。会社勤めせないかんからいうて、神戸市内のところをワーッと、それこそ粉塵のところを、マスク忘れたわとか言いながら、歩き回ってたから、アスベストのあれ吸うてないかなと思って、心配ですわ。アスベストを使った、今はあんまり使ってはらないかわかりませんけど、その当時はもうね、堂々と使ってたからね。もうその粉塵で、鼻の穴なんかも真っ黒でしたもん。帰ってきて、向こうの病院へ行っても。それがちょっと心配ですわ。

本　あれ大体出てくるのは25年ぐらいから。

妻　私は大丈夫やけど、それまでは、心配ですわ。

妻　家の再建は2年後です。だから、再建で話し出したのが1年半ぐらいたってからですかね。

妻　再建までの片付けなどの整理はね、私の父がやってくれていました。ここら辺の方と一緒に。ここの土地は、もともと父の家の土地だったんですよ。わし、あれ売ってなとか、わし、そこへバラック建てるわとか、売ってなと聞こえたから。ああ、ここ売られたら、私らもう行くとこないから。もうあかんわ、はよ建てなあかんわ思うて。

本　ちょうど、こんな状況でした（写真見せる）。北の公園から写したと思うんですわ。これもう解体してるとこですね。

妻　隣もないです。この一角焼けましたからね。もう何や、変に残ってますでしょう。門とかね、塀も倒れてるし。これ、うちの門やわ。で、ブルドーザーで庭に大きな石あったんですよ。その石やら、もうみんな持っていかれてる。いい石やのにね、みんな持っていかれてしもうた。

本　解体は市で…。

妻　市がやってきましたよね。

本　30万円ぐらいかかったとか言いよったね。市が全部やってくれた、優先的に。震災から半年ほどたってからじゃなかったですかね。園田にいるころです。この写真は神戸市が撮ってくれました。それをおじいちゃんが預かっとったらしい、何年かたってから見せてもうたんです。ああ、こんなんあるのんいうて。向こうが撮ったらしい。証拠として、こういうふうに解体しましたよと。

この写真は、こっちから見た感じね。テントは、これ、仮設が建ってましたからね。だから、大分日た

ってからですよ。結局、ここに、隣の、私を助けてくれた人が言うてましたけどね、ちょうどこの前、そこにずらっと死体が並んでたいうて。

妻　公園の南側のほうね。

本　私らも知らないけど、だから、隣の人はもう帰ってくるの嫌やと、ここに。一番端がアパートでね。これがもう一家　全滅で、未だに空き地になってます。

妻　住みなれた地域に戻ってこられたという感じはありますけど、でもやっぱり、私はそのときは、未曾有の災害やったからねと言って、隣の奥さんが言うてらしたときに、そのときは納得してたんですよ。落ちついてみたらね、隣が倒れてこなかったら、うちは割かしがっしりした家建ててたんですよ。和式やけど、大工さんに建ててもうた、きっちりした家やったから、こっちへ倒れても、あんまりあれやけど、隣が倒れてこなかったら、どうやったんかなという気がして。

本　…言うたってしゃあない言うとんやけど。

妻　心の底では、うーんと思ってね。

本　そこに震災の碑がありますね。ここで80人亡くなった。亡くなった人から見たら、助かっただけでもよかったなと、いつもそう思う。

（保険、見舞金について）

妻　だけど、言うのはいいんですよ、わしに1億も生命保険かけとったやろう言って。

本　笑い話やけどね、ちょうどその時点で、何やかやで、合計したら1億ぐらいになるんですよ。

妻　子供が大学生やったからね、これは掛けとかないと思うたからね、私も思い切りかけてたんですよ、1億ほどは。私も仕事をちょっとしてましたけど、非常勤で中学校の英語の先生してたんですよ。でもね、私は非常勤やし、そんなんいつ首にされるかわからないからね、そんな働けないでしょう、主人が死んだら。そやから、掛けとかないかん思って。

本　結局、やっぱり結構しんどいからね。死んでたらこんなことできないし、そう思うてね。あとの見舞金、公的見舞金なんて、15万円もうただけかな。

妻　いや、市が20万円やったかな。それから、県が30万円、50万もらっただけやからね。親戚の人なんかやったら、もう1,000万とか、2,000万もらったんでしょうという感じでね、それこそ…。

本　皆、そう思うとんですよ。うちの会社でもね、Gさん、1,000万から1,500万もうとるんやろ。例の、ちょうど奥尻島あったでしょう、あれが1,500万ぐらいもうた言うからね。とんでもないと、皆まだそういう感覚ですもん。ただし、そう思っても、助かっただけでもいいと、結構死んだ人もおるしね。
ここでも、隣の隣のおばちゃん死んだんやしね。それで、一番端が一家4人か5人か、全部死んだんですよ。夕方自衛隊が来たらしいけど、そのときはもうあかんかった。それまで生きとったんやけどね。

妻　助けて、助けて言うてたんやて。それでもどうしようもないしね、助けられへんしね。そない言うてましたわ。

本　だから、結局、一番のあれは、やっぱり家の再建ね。金が要るでしょう。だから、結局、今から考えたら、当時、全部保証しても、全壊・全焼。うちが全壊・全焼かな。全壊・全焼を家に保険を適用すると、それを全部やっても、1兆円ぐらい必要と言われていた。そのころ。それを日本政府はせえへんかった。その後、要するに、何やかんや、バブルがはじけて、100兆円以上、どぶに捨てとるでしょう。そんなことをしよるから、ばち当たったん違うか。
だから、アメリカあたりはもっとすごいんやね。徹底的に返すんやね。サンフランシスコの地震のとき、物すごい助けたらしい。

妻　それやと、やっぱり税金を納めた値打ちがありますけどね。日本政府なんて、個人のもんやとかいうて。

本　…しなかったでしょう。それだけは、もうこれはこの国には頼ったらいかんなと、つくづく思うたんですよ。

妻　そうですわ。

本　火災保険すらおろさなかったしね。見舞金、おじいちゃん、100万円もうただけや言うたな。

妻　いや、50万円。

本　50万円か。訴訟起こして勝った人おりますよ。だけど、これもね。保険会社に1年以内に訴訟起こさないかんらしい。

妻　隣の隣やったかな、は、10月に建ったんですよ、その家が。

本　ごっつい家ですよ、立派な、3階建てで。

妻　それで、1月に焼けたでしょう、焼ける前にね、保険会社が見に来てた、ちゃんと建ってますねといって。それで焼けてきたから、火災保険おりたみたいでしたわ。

本　おりたんかいな。

妻　おりた、そこはおりた。

本　うちはおりひんかったのに。

妻　うちはおりひんかった。

本　不思議なことに、その当時、仕事忙しいて、毎晩飲んだくれて帰ってきよったんですよ。ここで、地震保険の加入の書類があったんですよ。地震保険、入ろうかないうて間なしやったな。

妻　でも、地震保険いうても、350万しか入りませんからね。家全体を建てるほど入らへんねん。火災でやけた場合は。地震の火災で焼けた場合はね。普通の火災やったら入るかもわからへんけど。あれはだめや。

本　それで、僕が入院しとる間に、一家の大黒柱が重症でどうのこうのという方は250万渡すとか、何とかいうて、新聞に出よったんですよ。250万円もうたら、車買うたろうかなと思うとったら、結局パアになったんやな。

妻　くれなかったもんな、たった50万だけもらっただけですもんね。国の。

本　まあまあ、もらっただけでもありがたい思わなしゃあないね。とにかくベッドで、お父さん、家焼けてるらしいよと。もうさっぱりしました。何にも残ってないでしょう。

妻　あした、あそこのやつ何でも、ちょっとでもいいから取りにいこうか言うてたときやったんです。

本　取りにいってくれ言うたんですよ、親戚の者に。財布もあるし、それどころやない。
　それまでに、うちの実家のおふくろがまだ元気やったから、いろんなもんもうとるし、自分も長うないし、あんたにあげるわいうて、ようけいろんなもんもろうとったんですよ。何や焼けに持ってかえったみたいで。

妻　家が再建した時は、これからやなと思うた。ローンがあるし。その前に、お隣の奥さんと、この家も古なったから建てかえたいけどね、でもローンが大変やから、まあ、もうあと子供が大きくなるまでそのままにしとこうかいうて話してたとこやったんですよ。
　そやからね、これからやな思うて、しんどなりましたわ。

本　私が入院しとる枕元に見積書持ってくる。どこそこのLハウスが何ぼやいうて。

妻　でもね、入院して、退院したら帰るところがないでしょう。マンション借りるのもあれやし、主人の実家になんか帰られへんし、どうするいうことになったら、やっぱり。おじいちゃんも、わしその土地売るとか言い出したもんやから、これは、はよ建てなあかん思うて。それで、しょうがないからね。

本　やっぱり家はちゃんとしてやろうと、やっぱり嫁に出さないかんしね。そう思うたです。たまたまおじいちゃんの土地があったからね。上だけやから、上だけいうても、結構値段してね、私の取引先の会社の関係で、安う見積もってもうたけど、でも結局、地震が怖いから、何やかやで1，000万円ぐらい違う、値段がね。生命保険付きやからね。

妻　いや、それはもうないよ、もう。

本　いや、家は生命保険入ってある。ローンに生命保険入ってるからね。だから、隣のご主人のときも、すぐ家建てはってんけどね、2年間だけは死んだらあかんで言われて。亡くなりはったけどね。そのかわり、もう全部、完済でしょう。
　だから、あのころは、特別に銀行が貸してくれたん違いますか。

妻　そうやと思いますわ。

本　それと、入院しているときも、よかったんは、結局向こうの院長先生のあれで、オーナー病院やからね、個室に入れてくれて、何だかんだいうて、費用は全額国が持ったんですね、特別に。だから、健康保険組合には一切戻ってるらしいですよ。何も言わへんかったもん。うちの会社も何ぼかもうたん違うか、黙ってるけどね。
　それと、うちの会社も、けがして、かなりの期間休んだでしょう。一切、休暇にはならないんですね。会社の規程になかったらしいんですね。つくったらしいんですよ、特別休暇いうのを。

妻　それでもやっぱり、人情的にね。

本　ただ、それが結局、本社が東京でしょう、何か聞いたら、M製鋼なんかは、相当の人がやってるらしいんですよ。私らの場合は、私とあと1人か2人ぐらいしかおらなかった、こういう状態になったのは。だから、わからんねんね。特に、東京本社なんか、全然わからない。そういう意味では、確かに、そら特別有給休暇いうて、くれたもんの、その辺は、やっぱり政府が何かもっとせないかんね、そんな感じしたですね。

妻　でも、銀行なんか聞くと、お見舞金500万ほどもらった言うてたけどね。

本　うちは15万くれた。でもね、それでもありがたいなと思うてもらいました。社員みんなが入れて、カンパでね。

本　一番のあれは家ですね。

妻　まあ、でも車いすや思うてたんが、歩けるようになっただけでも。

本　ありがたい話でね、亡くなられた人も…。

本　後遺症は残ったけどもね、それは割り切っとんですよ。本当はあの時死んどったんやと。
　だから、近所の慰霊碑に80何人書いてある。

妻　毎年、慰霊祭あるから。行きますけどね。やっぱり亡くなった、気の毒ですもんね。そんな、思わぬ事故でしたでしょう。よう生き残れたなと思いますわ。行くたんびにね。その碑のところ、前を通るたんびにね。

本　だから、要は、なってみなわからんけどね、付録の人生や思うとんです。

（震災後の心境の変化）

妻　最初は命があったから、よかったわ。これから頑張れるわという気はしてましたけどね、もう十何年たってきたらね、自分の親戚の人で亡くなったという者はいないんですよ。子供も、そうして医者になってくれたし、長女も結婚して子供もできたし、色々の状況は変わってきてますのでね、もっと前向きに生きないといけないなとは思いますけどね。

妻　分かってもらえてないなと感じることはありますよね。
　でも、子供なんかは、見てたら立ち直りは早いですよね。でも、私なんかにしたら、もうだんだん年いってきてるから、結局、何か冬になると、頭がズカン、ズカンなったりとかね、私自身が。脳外科へ行って、こうなんやけど、鬱じゃないですかしらとかね、自分で心配してね、ちょっと行ったりはしてますけども、薬もらったりはしていますけど、やっぱり、年いってくるのもあるでしょうし、震災、まだ16年とはいえ、これはやっぱり一生消えることはないやろうなという気がしますね。

妻　季節が何か、思い起こさせるような感覚はあります。夏はどうもないのにね。冬になるとね。冬季うつ病いうて、何もない人でもかかるのにね、うーんと思うときありますね。

本　私の場合は、最初の2、3年は、季節の変わり目いうか、特に冬になりかけのころ、11月の半ばとか、末ごろに、急に差し込むように痛くなってきて。ここのところ、なかったけど、たまに、やっぱり去年ぐらいあってね、まだこんな痛いんかなと。これはもう消えないですね。医者に聞いたら、骨盤いうのは頭蓋骨と同じぐらいのかたい骨なんですね。これが折れたぐらいやから、よっぽどやったんやなと。だから、助かったほうがラッキーだなと。だから、こうやって、お酒も飲めるしと。そう思うとんです。死んどったら飲まれへん。だから、ひょっとしたらあそこに名前が入りかけとったからね。そう思わなね。

妻　震災でけがを受けた人との交流いうのはないです。全然、どなたがどないなのか、全然わからないですね。

本　今、医者には行ってないね。近々、また2回目に入院したところに近々行ってみようかなと思ってます。

妻　尼崎にね。

本　結局、その後に外反母趾になったんですね。歩き方がおかしいなって。だから、もう一遍見てもらおうかなと。手術するなら、そこでしようかなと。遠いですけどね。リハビリが非常に上手やいうことで。死んだ人のこと思うたらね。

妻　家族で乗り越えたという感じです。でも、やっぱり主人の実家へ行ってもね、子供ら、もう2週間とおられへんかったからね。あのころ、子供は学生やったから、おばあちゃん、ちょっとお小遣いちょうだいいうて言うたら、隣からおばさんが、うちの塀も壊れたんやから、直さないかんから、どうじゃ、こうじゃ言われたいうて。そんなん、20万も、30万もくれ言うとん違うやないのって、私は思うんやけどね。やっぱりね、もうそういうふうな苦しみなんてわかりませんもんね。もう、家もなくなって、そっち行ってるんやからね。もう、お母さん、おられへんから、早うかわるわいうて。そんなん言うたってね、もう銀行もごじゃごじゃになってるし、そんなんお金もないし言ったら、自分の友達に借りて。

本　まあ、あんまり思い出したくないですね。

（行政に対する意見）

妻　今後、行政に対する意見があるとすればやっぱり防災。防災の面でね、家大丈夫ですか。うちは新しく建ったとこやから大丈夫ですけどね。家が潰れないような、家具でも倒れないような、そういうのはやっぱり個々が、個人個人が考えとかないとだめですよね。いつ来るかわかりませんしね、こればっかりはね。
　それを結局、もうちょっと国でも、県でも、神戸市でも、もっと徹底させるというか。

妻　見て回ったり、指導したり、教育したり。やっぱり小学生とか、中学生あたりが、きちっと学校の建物でも、まだ耐震工事や何や言うてますもんね。それをやっぱり徹底して、避難場所のところもきちっとしとかないとだめなんじゃないかなと思いますね。
　やはり、私は学校に勤めてましたから、朝の朝礼とか、その次の年やったかな、防災教育のときには、みんなで話してくれへんかとかいうて、校長先生が。それで、先生が受けたときはどんなんやったとか、朝はもう5時ごろに目あいてて、そのころ、何か頭が何かおかしかったんですよ。何か、ふらつくいうか、何となく、先生に言わせたら、不定愁訴やと言うんだけど、薬もらっていって、その年の1月8日にももらいに行ったんですよ。まだ治れへんか、その薬飲んでもいうて、治りませんいうて、薬もらったりしてて、ぐらっときたときは、ゴーッ言うてましたからね。大変明るかったんですよ。そのころには目が覚めてましたね、5時ごろにはいっつも

目覚めてたんですよ、その頃は。それで、何かえらい明るいなと思って、ゴーッ言うてるし、明るいなと思って、隣で寝てるしね、何か、部屋が物すごく、神々しい光やったですよ。あれはほんなら、雷かなと。そしたら、そんなに鳴らないし、そしたら一瞬にガーッときましたもんね。そういう話を何回かしたことありますわ。友達の娘さんがラジオ局に勤めてたから、そんな話もしてといって、インタビューに応じたこともありますけどね。

でも、今はないです。だから、小学生とか、中学生とか、もうもっと、ちょうど知らない思春期のあのあたりの子供には話してあげたいなという気がしますね。

本　そういうことがあったいうことは伝えたいですね。正直言うて、さっき言うたように、もう本当に、助けてくれいうて、生まれて初めてですわ。あんな大声で叫んだん。99.99%命はあきらめたんです。それが、結局、今、それが付録の人生や思うとる。

助かったと思ったのは、パーッと抜かれたとき。ふわっとなったような気がします。とにかく手のこれしか動けへんかったもんね。埋まってるから。もう、この辺がらがらですわ。そんな感じやった。

（震災、戦争時の回想）

妻　まあね、結局震災もそうですけどね、人災、戦争のことも、うちの父は原爆受けてるんですよ。そのときの話を余りしてくれなかったんですけどね、死ぬ半年ほど前になってしてくれましたわ。いろいろね。もう93でしたけどね。こういうのを孫には言うとかなあかんなという気がしますわ。だからお父さんもっとしゃべってとかいうてね。やっとしゃべり出しましたもんね。

本　何かないかなと思うて、探ったんですわ。ふっと見たら、手に、あらっ、…。

妻　お守りやったんやね。それを握りしめて頑張ったんやね。枕元に置いてたわけではなかったんです。落ちてきたんですよ。たまたま。タンスのところにちょっとガラス戸の中に、そんなんを置く場所をつくってたからね、それがたまたま落ちてきてたみたい。だから、冬やったからね、結局、そんなガラスとか落ちてきても、怪我しなかったし、洋服ダンスひっくり返っても、私はこうしてさわったら、枕元のガラス戸がばらばらになってましたもんね。それでちょっと怪我しましたけどね。あっ、こらあかんわと思ってしました。

人生観も主人は変わったと思いますわ。

だから、人が一生生きていくのは、父の一生も見てて、戦争ありいの、それから原爆受けえの、それからずっと、原爆症が出てきたりとか、いろいろしてますんでね、見てたら大変やなと思って、それで主人見ててもね、順調にいってた人生がね、本当にね。

本　ほんとに神戸だけやもんな。特殊やったでしょう。だから、戦争体験いうのは、全国民が同じやったらしいね。だから、みんな頑張れたんや。だけど、神戸の場合は…。あんまり知らないです、みんなね。

妻　叔母なんかに言われました。私もね、戦争のときはね、もう家もみんな焼かれてね、そんなんねとかいうて。逆に言われましたわ。

本　だから、話戻りますけど、助かると思うたんは、そのお守りつかんだとき。

妻　それで、よくなってお礼参り行ってきたね。九州の太宰府なんですよ。そこに住んでたんですよ、私たち。転勤でね。

それでここへ帰ってきて。それから、東京に転勤あったけど、私、地震あるから行かない言うて行ってなかったのに、こっちで地震に遭うてしもうて。今でも怖いですわ、だから。こないだも揺れました、揺れました。もう2、3回揺れてますでしょう、あれからもね。

本　そうですか、わからなかったです。

妻　いや、揺れてました。ドーンいいましたもん。

まあ、ここの家は、今度は、あのぐらいの地震じゃあ、大丈夫やと思ってますから、ちょっとは安心なんですけどね。でも、やっぱり、懐中電灯置いたりとか、お守りみたいに置いてみたりとか、ラジオを置いてみたりとかしてますよね。ほかの方は、そういう体験なさってないから、もうひとつね、私らが思ってるぐらいに…。

本　同じような体験をしている人たちと一遍お会いしてみたいですね。一番最初に、行ったときには、どないしてはんのか思うとるやろね。

妻　一番最初って。

本　B病院でね、隣にいてはった人。深江の人やったんですよ。

妻　水もらってね、私。

本　息子が亡くなった言うとったな。

妻　同じ年頃だと思うんですけどね、ちょっとわからない。

本　もうとにかく、どんどん、泥々の人が、バンバンたたいてやっとる。どんどん死んでいくんですよ。死んだ人の毛布かぶっとったらしいんですよ。

妻　私が。

本　どっからもうたん、残ってた毛布…言われへんね。

妻　寒いし。

本　そういうね、あの人らどないしてはんのかな思うてね。

妻　思いますね。それで、B病院から大阪へ行くときに、お水もらったやつが何本かあったんですよ。お隣の方に、入院してるから、もうこれ要らないから、どうぞいうてお渡ししてきたんやけどね。ほんと、どうしてはるかなと思いますよね。

本　私も、尼崎に入院しているときも、看護師長が言うてましたよ。あなたね、退院しても、勤められる会社があるからいいねいうて。つぶれた会社が結構あったらしいんですよ。だから、震災で、退院しても行くとこない人、結構おりますよいうて。そういう意味で、大きなところへ行っとったから、ちょっとよかったかなと思います。ちゃんとしてますからね。
　もう、暗くしてもね、しょうがないですよ。だから、さっきもお話ししましたように、付録の人生か思うて、いろんなことがあってもね、できるんかなと思うてね。どうせ、拾った人生や。

妻　これからどう生きていきたいかについては、もう年金生活ですのでね、あとはもうローンを返して。

本　ローンがしんどいね。仕事は、去年暮れでやめたからね。
　ちょっと、探そうかなと思うんですね。でも、やっぱり、こういう障害があったりね、そういうのはなかなか勤められへんでしょう。

（障害者手帳の取得）

本　入院しているときに手帳をとりました。先生が言うんじゃないしね、リハビリしてくれてる女の人が、Gさん、しなさいいうて。すぐおりたですね。その年の12月ごろにおりたです。

妻　ふだん用いてないですけどね、ちょっと旅行行くときとかは、JRなんか使ったら半額になるから、そういうのは助かりますけどね。

本　勤めているときは全然関係なかったですからね。だから、あんまり言うのも嫌やったんですよね。障害者手帳持ってますよいうのは。だけど、一応申告のときに要りますからね。

補　今は、5級。

妻　5級ぐらいやったら、あんまり電車賃が遠方やったら安くなるぐらいで。あんまりないですね。

本　人に聞いたら、当時、あれがあったんですよ。針治療とかあるでしょう、あれも割引ききますよ言われたけど、あんまり使ったことないですね。でも、正直言うて、障害者手帳もらうよりも、健康のほうがええなと思うとんですけどね。

妻　でも、やっぱりひっくり返らんようにね、それが怖いですよね。

本　年いったら足がね、気をつけないかんなと医者から言われてるんです。年とったら危ないよいうて。だから、ちょっと格好悪ならんように、杖持とうかな思うとんです。どないしても上がらない。
　だから、正直いいまして、おじいさん、おばあさんに追い越されるんです。歩いとって。どうしようもないです。とにかくゆっくり。私、地震の後に、行きつけのところに電話して、もう一遍つくっとってくれいうたら、そこ、みんなコンピューターに入っとんですね。仮縫いはないですけど。左の足が、何センチか、短くなってます。骨盤がこないなってますねん。つくり直してもうたんですわ。やっぱり、歪んどんです。だから、変な歩き方しようでしょう。だから、外反母趾も進んどんですけど。とにかく、それで慌てて歩こう思うたらつまずくんです。1回、女房に言うたけど、地下鉄でけつまずいてひっくり返りそうになったんです。だから、できるだけ地下鉄に乗るときは、そっと乗らないと怖いなと思うて。それでエスカレーターもね。それともう一つ、本当に自分がそういう障害者になって初めてわかりますよね。大変やなと。私ら、階段なんか、ダダダッとやってましたからね。とにかく、こう、階段、駅でもおりるとき、必ず右か左の、手すりの近くで、けつまずいたら、パッとつかまれるように。そういう心がけ。
それと、一番前には絶対並ばへんのです、電車の。けつまずくから。後ろのほうへ行って、並びだしたら後ろへ行って、そういうようにしよんですけどね。

妻　転落事故が多いですもんね。1回また、皆さん、そういう地震でどういうふうにされているのかという会合がありましたらね、また一遍参加させていただいてね。そういうのはあるんですか。

本　どうしてはんのかな思うてね。

（再度、行政に対する意見）

妻　神戸市もね、空港つくったりして、大赤字やし、えらいことですやん。だれが空港つくったん、その責任だれがとるのとかいうて。どうすんのよとかいうて。あんなに反対しとったのに。そんなもん、絶対、3,000億もかけてね、どないして回収できるの、できひんいうて。

本　だけど、逆に僕なんか思うてんのは、せっかくそないして神戸市でつくったんやったら、関空からこっちに戻して、1本にしたほうがええと思う。こっちとこっちでするよりね、関空のあれは不便やわ。同じやったらここでやったらいい。ただ、問題は、僕もようわからんけど、進入とあれが難しいんでしょう。

妻　横風吹いてくるからね。

本　岡山のあの辺がね、米軍の訓練区域になってるらしいんです。そこ通ったらあかんいうから大回りしようらしいんです。そらまあ、敗戦国やからね、日

本は。どないもならんらしい。

妻　それと六甲おろしで、横風受けるねん。こうおりてくるときに。そやから、難しいわ。
そやけども、伊丹空港の跡地をやっぱり、東京みたいな、第2の、東京やられても大丈夫なようにしとかないかんと思うたりしますよね。今度、市民病院もまた南に行きますでしょう。

本　話戻るけど、結局、私なんか、命助かって、こういう形で助かったいうのはね、早かったからですよ。医者に言われたら、隣の医者も、とにかく早う行ってくれ、早う行ってくれいうて、怖いらしいんやね。1時間おくれとったら危なかった言うとったね。だから、地震の間なしに子供が来て、掘り起こしてくれたからよかったけど、そういう意味で、間髪入れずの治療方法をね、B病院自身があかんかったでしょう。もう治療も何もできへんかったでしょう。

妻　点滴はしてくれよったかな。

本　もうとにかく注射とかあんなんしかない。

妻　注射はしてくれたかな。

本　結局、頑丈な病院を、拠点をつくっておかな、だから、少々の地震があっても、火事があってもできるんやいう野戦病院的なところをつくっとかへんかったら、もうその間で亡くなった人、結構おるん違うか。車いすの人が。助け出されるのが早かったらよかったんやけど。クラッシュ症候群とか。

妻　そうそう。毒素がたまってね。

本　ほとんどがそういう症状多いん違いますか。地震いうたら下敷きでしょう、ほとんど下敷きでしょう。長田のほうは火事ですね。でも火事のことは一切言いませんね。もうむごいから言わんのですかね。一切言わないですね。

妻　いや、しばらくの間はラジオでよう言うてましたけどね。お父さん助けて言うけど、どうしようもなくて、もう燃えてきたとかね。それはもう気の毒や、あんなん聞いてたら、もうね。

本　だから、そういうあれからいうと、ラッキーというか。それと、もう一つ、人間というのは、前向きで考えなしょうがない。だから、神さんがポッとつかまえ、こんな仕事せえよいうて、つかまえてくれたんやと、こういうふうに思わなしゃあないないう人もおってね、そう思うのもあれかなと思うて、私はそう思うとんですよ。何かの用があるから、ポッとつかまえてくれて、それであかんようになったら、また捨てられて。
一応、私はね、こんな地震で一番お話ししたいのは、皆さん方も、自然災害で、またこういう全壊・全焼のときにもう間髪入れず、国がもうお金出してやると、それはまず家ですよ。

妻　それは無理やわ。

本　とにかく建てなさいと。

妻　そんなん、もう今度の予算が立てへんかどうかわからへんのに。

本　だから、地震保険とか。サンフランシスコなんか、それしたらしい。間髪入れずやったらしい。日本の場合、今、金ない、金ないいうて、でも、実際のこというて、そのときに、全壊・全焼のところに火災保険おろしたところで、1兆円や。

妻　2,000兆円日本国が借金してんのに、どうすんのよ。

本　今度、こうなって、私らみたいに、こうなったら、どないするんやいうねん。

妻　まあ、貧乏国になるわ。

本　そのためにどうするかというのを真剣に考えないかん。もう金がないんですから、どうしようもないですわ。それこそ、エジプトみたいに、イラクみたいに暴動起こるやろうから。住むところをちゃんとしてあげないかん。私らみたいに働いていても、貸したげなあきませんね。それか、もう最初から地震保険はあるけども、セットにしとくとか。

妻　それは大切やね。

本　しといたらいいんですよ。全世界の生命保険会社にネットワークでやってね。地震保険はもう必ずセットにすると。それともう一つは、何か、いまだに返してない人もおるらしいですね。返せないんやけど、意図的に返してない、そういうのは厳罰にしてもらうと。ふうふういうて返した。これはその目に遭うた者でないとわからないですね。だから、正直言って、地震のいろんな、毎年特集やるでしょう、まず見ないんです。チャンネル変えるんです。思い出すから。

妻　今度は、もう南海沖地震、前からいうて、もう30年ぐらいになるけど、来うへんし、来ると思いますわ、私。東京直下型とかね。何か、怖いな。

本　それと、とにかく箸の1本まで皆焼けたんです。

妻　そらまだちょっと、高度成長が残ってたからね、いけたと思いますけどね。もう立ち直られへんわ。

本　それと、もう一つはね、私は50やったでしょう。また頑張れたんですわ。これ、今の年でやったら、もう…。だから、あのころ私らより年の人は、ほとんど仮設住宅で亡くなってるでしょう、病気したり。そう

いう点では、最後の年齢やったんかなと、50いうのは。
そら大変やで。もう一遍、下敷き…いうたって、ようせんわ。

妻　大変、大変。

本　あの痛さはね、もう考えられへん。

妻　そらわからへんわね、私もわからへんもん。

本　向こうの病院行ったけどね、先生、痛いんですわ。これ以上のやつやったら、モルヒネ打たないかんようになります。結局、どんな痛さかいうと、地球の引力で、地球の底に吸い込まれるぐらい痛いんです。それが24時間痛いんです。座薬を入れるんですよね。でも、2時間おき、3時間おきに目が覚める、痛いから。あの経験は、もう、こんな痛いのは初めてやね。それで、Eへ行って、ようやくになってから、わし、会社へ行って仕事あるんかなと思い出して。そのころは、やっぱりご飯がおいしくなったんです。病院食が。それで余裕が出て、テレビ見て、ビールの宣伝、あっ、ビール飲みたいなと。それまではとんでもない。見舞いに来てくれるでしょう、話するでしょう、ちょっと話しただけで、もう耳鳴りがするんです。ウワン、ウワンと、それでやめるんです。それがやっぱり半年ぐらい続いたんですよね、痛いから。

妻　でもね、このテーブルやら、これやら、ほかの附属のは、皆主人の実家や、私の実家がしてくれたからね、できましたけどね。でないと、私らだけやったらできへんね。

本　そうやね。そういう点では、やっぱり両親のほうから援助してもらったね。

妻　ほんと、できないとこや。

本　だから、太宰府天満宮にもお礼参りにまた行こう思う。ほんと不思議やったですね。

プロフィール

震災障害者－8		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月14日（月）
	面接対応者	本人のみ
基本属性	性別	女
	年齢（調査時）	85
被災状況	被災場所	東灘区御影中町
	家屋被害	全壊
	家族の状況	1人住まい
負傷の状況	救出されるまでの時間	8～9時間後
	診断	両耳感音性難聴
	障害の程度	3級
	搬送・転院などの経緯	○実家の浜松に移動し、浜松の病院に入院（3月末頃まで） ○避難所から大阪医科大学の耳鼻科に1年半通院
仕事		なし

主な発言

○ 朝目覚めて歯磨きをしている最中に大きな揺れがきて生き埋めになった。

○ 8～9時間後に近所の方々に堀り出してもらい、救出された。

○ 地震当日、避難所へ入ってから大きな耳鳴りがして、耳が聞こえなくなった。

○ 公団から今の住居を退去するように言われ、途方にくれてベル麻痺になった。
（顔面神経の麻痺により障害側の顔面筋のコントロールができなくなること。）

○ 住宅の立ち退きは不安だが、周りに親切にしてもらっていて、今不安に思っていることはない。

○ 障害者手帳は半年後くらいに手続きを行った。

震災障害者等 インタビュー ⑧

日時：平成23年2月14日

（震災時の状況）

震災時の住所は、御影中町です。Rの二、三軒東です。国道沿いです。

S高校、あれよりずっと東です。喫茶店があったでしょう。前に、そこが私の店だったんです。私はあんまりタッチしていませんでした。私、忙しいときとか、自分の時間があいてるときは手伝いましたけどね、あとは私は、お華が主体なもんですからね、お華であっちこっち走り回ってましたので、お店は都合のいいときしか行かなくて、あとは近所の奥さんたちとか、学生さんのアルバイトさんで、してもらってました。僕はだから、見たことあります。日曜日にね。25年間しました。

ああ、そう。ここの、店ってあるでしょう、ここの喫茶店ね、この前に、テニスコートがあったでしょう。テニスコートね。初めは国道でしてたんですけどね、お家が立ち退きになったもんですから、テニスコートのここだったんです、店。お店をね、ここのテニスコートの練習に来てた方にお店譲ったんです。あそこにユースセンターがございましたね。昭和39年から地震になるまで、ここに住んでました。まだ、字但馬口という、字がつく頃から居ました。

店にはお世話になってたんです。本当に環境のいいところで、住みやすくて、本当はもう、文化住宅だったもんですからね、お華のほうをもう少し、大阪のほうで、いいコネがあったもんですから、主力を注ごうと思いまして、本山辺りにマンションを探しているときに地震で、頭金500万円パアです。どこへ行ったかわからなくなっちゃって。店はもう昭和60年ぐらいに、このテニスコートに練習にいらしている方にお譲りしたんです。地震は、もう店やめてからでした。店はもう昭和60年ぐらいにやめてます。それから、御影中町のテニスコートの辺にいたんです。今は牛丼家さんになってます。前は、Dさんて、内科のお医者さんでした。だから、ここがCさん、歯医者、Dさん、ここが耳鼻咽喉科、Eさんという骨董品屋さん、ここが昔の店、ここがサンエースさんで、建築材料なんかのサンエースさん、ここが店だったんです。住まいもここで、それで、ここを建てかえしますので、すぐこの裏に、文化でFさんというお宅があって、そこの文化があいてたもんですから、上下借りたから、ここに住んでたんです。地震まで住んでたんです。このアパートで震災に遭いました。それで、ここに住んでいたんですけど、大阪の方にいいコネがありましてね、大阪のほうへお仕事を伸ばそうと思ってたもんですから、ここでは不便ですし、人に会ったりするのに、ちょっと具合悪いから、本山のほうを探していまして、ちょうどお友達も本山で喫茶店していまして、不動産屋さんが出入りするもんですから、本山と芦屋の間に、新しく駅ができるということになっていたもんですからね、あの辺を中心に探してたんです。それで、1月20日に先方の方と話するようになっていたもんですから、中古ですのでね、マンションが。中古で大体850万円ぐらいという話だったもんですから、500万円現金で払って、あとはローンにしていただこうと思って、500万円用意してたんです。そしたら、地震で、そんなこと、地震があるなんて思ってませんから、お金を置いてたところが、ぐちゃぐちゃになってしまって、私は耳が聞こえなくなって、そんなん、掘ったりできませんよね、もう壊れてますから。何カ月か後に、私の住んでた部分を掘り起こして、もとに戻してくださるということで探したんですけど、もうなかったです。特別なところに入れてたから、ごみと一緒に。

それで、文化ですので、お風呂がついていませんので、上下お借りしてたもんですから、下のほうの台所の隅に、簡易バスで、金属でできてまして、洗うところはないんですけど、お風呂をつくってたんですね、お台所が、こういう感じでここが入り口で、ここが台所で、ここがトイレで、ここが洗面所で、ここに簡易お風呂をつけてまして。ここが入り口で、ここがお座敷に入る、朝、あの時間帯に一度目が覚めまして、私、忙しいもんですから、1回目覚めたら、そのままトイレから、すぐに洗面所で歯を磨いておくんです。歯を磨いていましたら、ぐらぐらっときて、あら、何だろうと思って、こっちへ行こうと思いましたら、ここに簡易お風呂が備えつけてあった、これが揺れて、ひっくり返って、それで頭を打って、それで失神してまして、気がついたら、何もかもごちゃごちゃになってまして、頭はズキズキ痛いし、どうなったんだろうと思って、頭を上げたらば、こちらから台所に置いてあったものが倒れてきて、おふろがやっと、こうして、膝ついて、こうするだけの隙間に入っていたんです。

頭はガンガンするし、何だろうと思って、このままの格好だったらどうしようもないもんですから、何とか座ってたんですね。そのときは、まだ耳聞こえてますから、壊れたお家の隙間のほうから、日が差し込んできているから、地震だったんだわ、こんなに家がつぶれたっていうことはと思いまして、時間も全然わかりませんし、でも、身動きできませんから、何とか、足だけでも伸ばせないかなと思って、何とか足を伸ばすところを探したりして、こちらに台所に置いてあった食器とか、いろんなものが落ちてきてますから、こういうふうに、ここから日が当たってるから、ここはという感じで、じっとしてたんですけど。それで、何時間たったのかわかりませんけど、そのときは耳聞こえてましたのでね、10人以上の方で、コーラスで呼びかけてくださったんですね。

でも、全然見えませんけれど、声聞こえてましたからね、助けに行きますから、どこにいるか、場所を教えてくださいと言ってるんですね。上から見えないから、危ないから、合図してくださいと言うから、ああ、よかったと思って、そこらの割れた物をこうして、チョンチョン、たたいてたんですね。そうしたらば、上のほうで、あっ、音がしてる、こっちだ、こっちだとか言ってるのが聞こえてたんです。それが、午後の何時ごろでしょうかね。でも、助けていただ

いたときは、まだ薄明るかったです。だから、8時間か、9時間ぐらいですね。それで、危ないから、上から見えないから、ずっと合図しててくださいよ言って、上から掘りますでしょう。それで、のこぎりも電動なんか使えませんからね、電気来てない、ギコギコ切ってくださっているんですね。それでやっと、ああ、ここに穴あいたから、いたいたと、私を見て、上から見て、いたいたと言うんで、上まで高いですからね、1階ですからね、それで2階がありましたから、あそこは。それでも、皆さんで、手出して、皆さんで引き上げてくださったんです。それで、もうご近所の方皆さんが、実は朝からこんなになってたのに、1回も私が見えないから、多分生き埋めになったんだろうと思ってと言ってくださったんですね。家主さんのところは入り口だったんです。それで、2人で入り口から逃げるときにお玄関がつぶれて、お二人とも圧死です。

私もその時間帯、床で休んでましたらね、私ももう、あちらへ行けたんですけどね、ちょうどトイレに行って、歯を磨いてたもんですから、助かっちゃったんです。だから、南東に揺れて、東側に倒れましたから、ちょうど私は、その場所で寝てましたから、歯を磨いていなかったら、もうあちらに行けたですけどね。寝てたところはペッシャンコですからね。起きて、トイレに行って、歯を磨いて。ここにいて、ぐらぐら揺れるから何だろうと思って、チョッチョッと、ここまで歩いたときに、簡易バスが頭に倒れて、それでそのまま気を失ったんですね。助けていただいたところは、この場所で。上で掘っていただいたんですけど。アパートにお住まいの方って、あんまりいらっしゃらなくて、皆さん、前、美容院の方が住んでたんですけど、深江のほうにお店ができたから、そちらへ行かれて、ここは住み込みの方の、予備のために空いてまして、それから、私のところの斜めお向かいはクリーニング屋さんがいろんな商品を並べておくのに借りてたんです。上は、2人ぐらいお住みになった。男性の方は時々お見かけしたけど。本当に閑静で静かなところだったんです。上下、6軒でしたですかね。

あそこはとにかくお医者さんばっかりだったんですね。Gさん。ここがGさんですもんね。ここがDさんで、ここがEさんという骨董品屋さんで、前は店がここだったんですね。これは国道で。ここが高島屋さんの配達所で。ここがサンエースさんだった。途中から私、後ろのテニスコートの前へ越したんです。赤い電話ボックスでしたでしょう。ああ、何だか懐かしくなって。アパートでは、オーナーの夫婦がお亡くなりになった。1階にいらしたから。上にいらしたお嬢さんたちは助かりましたけどね。お2階ですからね。

こんなに苦労するんでしたら、地震からこっち、すごいですもん。娘は亡くなりますしね。私は大体、易学からいったら、西はだめだそうで、私はもともと関東のほうですからね、浜松市ですから、ですから運勢的に、西に来たらだめなんですって。それで、娘が亡くなったときに、おけいこ先の方が、先生は1人になってしまったから、これから先のこと、きっちり計画立てなきゃいけませんから、私が懇意にしている易学の先生で、もう関西では有名な方で、さいの目判断の先生いったら、兵庫のほうで有名な方ですよと、私はそういうのは余り信じないほうなもんですけど、せっかくご親切に言ってくださるから、その先生のお宅に行って、お目にかかったら、小柄な方だったんです。お世話になりますって、ごあいさつしても、フーン、言って、生年月日はとおっしゃるから、大正15年1月1日と言ったら、書いて、いつ関西へ来たのと言うから、ちょっとそれは忘れましたけどって、節分前に動いたでしょうと言うから、はい、節分前には御影に来ました言うたら、ああ、なるほど、フーン言ってるんです。でも、変わった方だなと思ってましたらね、いきなりね、お嬢さんが亡くなったってね、こんなことは序の口ですよと言われたんで。

えっ、失礼なことを言う、何でだろうと思って、そのとき、ちょっと腹が立ちましたね。もともとそういうのは信じないほうなもんですからね。ウーンとか思ってたんですけど、それでこんなことが序の口、節分前に動いたら、あかんわなとか、ひとり言を言ってるんです。それでもう、できたことはどうしようもないから、あれだけど、私はサービス業は向いてないんだそうですね。

店つくったのは、私がお華で、元気なうちは、それも困りませんけど、私がお華ができなくなったら、たちまち困りますから、何とかしといてあげようと思って。喫茶店だったら、直接しなくても、どなたかちゃんとした方にお手伝いしていただけばできるしと思って、一番安全なところ言ったら、やっぱりこういうのは怖いから、警察のはただったら、ちゃんと見ててくださるからと思って、あっちこっち探したんですけど、そんな都合よく警察の横にお店なんてなかったんですね。あっちこっち気をつけて探していまして、いつも国道のところを通って、そのころは西宮のほうにいたんです。通ってお華に行くもんですからね、そしたら、ぱっと見たらば、警察の二、三棟隣の骨董品屋さんのお隣に貸し店舗って出てたんですね。わぁ、これはいいと思いまして、家主さんが不動産とか、そういうの関係なしで、家主さん直接で、Eさんという骨董品屋さんだったんです。そこに入れていただくように、そのために喫茶店つくったんです。子供のために。

だけどね、私はその方から言わせたら、運勢的にサービス業は向いてないって、本当にそうです。25年もして、何も一切残りませんでしたから。何にも。

生き埋めになりました。夜ですね、助けられた夜もう遅かったもんですから、御影高校のほうの講堂に皆さんが避難していらっしゃいまして、もう座る場所もなかったんですけど、ご近所の方が、場所をかわってあげるから、その方、男性ですので、どこでも寝そべるけど、みんな顔見知りのところに行かれたほうがいいでしょうからいって、そこの場所に、その前に、講堂がもう満員だったもんですからね、校舎のほうに避難したんです。校舎のほうは窓ガラスが全部割れて、もう北向きですからね、

風はピューピュー入って、寒くって。だから、近所の親しくしている方が、羽毛布団の柔らかい、軽いのを貸してくださって、それを着て、着の身着のままで、パジャマ1枚でいたものですから、着るものもなくて、1軒置いてお隣に親しくしているお友達がいたもんですから、とにかく着るものがなかったら、風邪引くからといって、倒れていた中からいろんなものを引っ張り出してくださって、私にそれを着せてくださって、お布団も貸してくださって、行ったんですけど、校舎のほうは寒くて、避難してたご夫婦の方が、貼るカイロを1枚くださって、それでもぶるぶる震えて、寒くて。そして、私も気になるし、おなかもすくし、ちょっと、たくさん皆さんのいるほうへ出ていきましたら、ちょうどご近所の方が、そんなところだったら、寒いから、私はどこでもいいから、ここへ座りなさいって、座らせてくださったんですね。そのとき、パンもちょっといただいて、物すごい耳鳴りがワーン、ガーッと、何とも、説明ができないぐらい、すごい耳鳴りがしてるんですね。だから、自分の声も、人さまの声も聞こえないぐらい耳鳴りがしたんです。自分はもう耳聞こえなくなっているということがわからないから、ご近所の方とお話をするのに、物すごく大きな声でお話ししたらしいんですね。だから、皆さん、避難している方がみんな一斉に見るんですね。声が大きいの、そんな大きな声で言わなくても聞こえるわって、私は聞こえないですね、耳鳴りだけで。もう、だから、明け方ですね、その地震のあった日の明け方、もう間もなく夜が明けましたから、そのころからもう聞こえなくなったんです。それまではかすかにわかってたんですけどね。頭を打ったのが悪かったんじゃないかと思うんですけどね。

（病院への搬送、浜松への転院）

それで、いろいろしてくださった方が、Hさんとおっしゃるんですけど、よく気がつく方で、すぐに私の実家のほうに連絡してくださったんですね。そしたら、私の実家のほうから、名古屋に弟のお嫁さんのご兄弟がいらして、その弟と、お嫁さんの妹さんのご主人と2人で迎えに来てくださったんです。それで、私、そのころは車を、JRの高架の下、あそこに車を入れてたもんですからね、皆さんの車はペシャンコになっているのに、私の車だけ1台、ぽつんと助かっていたんです。私の車で、すぐ浜松に帰ったんです。それで、Iに入院したんですけどね、その当時、浜松なんか、地震のことなんか想像もつかないから、地震で耳つんぼになった、へぇーとかいう感じで、手当も何にもしてくださらなくて、入院してたんです。それでも、手遅れです。

Iにはそんなに長い間、いなかったですね。ちょっと忘れましたけど。

それで、私がお世話になった、浜松のIの先生は、ちょうどその時期、留学なさるので、もう、気もそぞろで、ろくに手当もしてくださらなくって、すぐに留学なさって、後は、助手みたいな女性の先生が時々見てくださってたんですけど、何もすることなしに入院してても仕方がないなと思ってまして、新聞見ましたら、Jの耳鼻科が何か、突発性難聴の方が治ったというようなことが書いてあったもんですから、弟たち夫婦と一緒に、Jに3人で1年半通いました。1年半。でも、毎日とか、そんなんでなしに、決められた日に。

（障害者手帳の取得）

主治医の先生は、Kって、女性の方で、「Aさん、こんなことしてたら、費用も大変だし、はっきり言って、治るっていう可能性もないから、何とかして、神戸にお帰りになったほうがいいんじゃないですか」と言ってくださったもんですから、それで、神戸へ、だから身障者の手続したのも、6カ月ぐらい後だと思うんです。浜松に行ってたもんですから。それで、何回か、地震の後の整理とか、様子とか、アパートまで見に来ていたもんですから、それでまた、うちの弟が少し慌てんぼうなもんですから、自分勝手に掘ったりすることができないから、ちゃんと決められた日でないとだめだからと言ってたんですけど、気になるもんだから、その前にしょっちゅう来てたもんですから、一番肝心なときになって、ちょっと日にちがおくれたんですね、掘り返しの整備に来たのが、うちの弟が区役所に寄りまして、お聞きしましたら、県外に行かれた場合は、戻られるというのがちょっと、ずっと先になると思いますよっていうことで、公共の住宅のほうでないと、個人で探すいったら大変なもんですから、公共住宅に入ろうと思ったら、仮設に入らないとだめですよって言われたもんですから、それで、意見書をつくってくださって、K先生も、それを区役所のほうに出していたもんですから、その前に、何遍も公共住宅の入居のあれがあるたびに、応募したんですけど、くじ運が悪いもんですから、全然当たらなくて、最後に、公共住宅に入るのに、仮設に入って、仮設に1年半いたんですけど。

仮設も六甲アイランドの。だから、浜松に約1年半ですね。仮設に1年半ですね。それで、もう仮設が取り壊しになると言いますので、六甲アイランドの終点のところにいたんです。市役所のほうで、一番便利なところをしてくださったから、六甲アイランド終点から、もうおりたら、そこなもんですから、便利なところにいたんです。取り壊しになりますのでね。

（ベル麻痺の罹患等）

ここに来て何年かは覚えてないです。書類が皆あるんですけど、どこかにしまって、突発的難聴で、耳聞こえなくなって、頭が混乱してますのでね、何かそういうふうなことって全然、皆、書類は大切に皆しまってあるんですけど、探し出さないとわからないです。今はバスの便利はよろしいですし、Iも、Mもようお世話になってるもんですから、便利ですからね、本当に便利なのは便利です。でも、立ち退かなきゃいけませんのです。20年の契約で。県は、公団と。あと5年ほどあるらしいんですけどね。兵庫県か公団と20年の契約をしてあったんですね。

契約が切れるからね、立ち退いて、市営とか県営とか、どこでも行ってくださいって、去年、通知が来たんです。それでまた、神経やってしまいましてね、ベル麻痺になって。行くところがなくなりますからね。

11月にその通知が来て、私は全くの1人なもんですからね、弟たち夫婦がいるんですけど、もう弟も80過ぎてますし、そちらも子供がいませんし、私は一人娘は亡くなってますので、親族ってないんですね。1人でどうしよう、耳聞こえないのに、あっちこっち、おなかも、後遺症で、足は痛くて歩けないのに、どうしようかと思ったら、もう夜も眠れなくなったんです。そうしましたら、髪の毛がうわっというぐらい。それで、ベル麻痺で顔が歪んでしまって、。それで、Iに入院したんですけどね、神経使う病気なんですね。それで、髪の毛すごいですよ、うわっと抜けました。耳聞こえませんし、家族がないし、どうしよう、どうしようと、今、まず第一、これになったのも、あそこの角のガソリンスタンドのところ、車が入ってこないように、バス停にこれぐらいのお水を入れた重石みたいなのをぼんぼんと置いてあるんですね。阪神バスのドライバーさんが、おりやすいように、ずっと寄せてくださるもんで、おりるところに、これぐらいの高さの、こんなのを置いてあるから、若い方でしたら、ぱんと飛びおりますけど、私たちなんかだったら、せっかくおりやすいように、ここへつけてくださったら、すっとおりられるのに、それがあるために、ぱっとよけて、こちらのほうへおりようとしたら、足、ぎくっとなって。それでもう、腰も傷めまして入院してたんですけどね。何かもう、そんなことばっかりで。それでおなかも手術って、何にも手術ほどのこともなかったんですけど、ちょっと、太り過ぎたもんですから、ダイエットしたんですね、10キロほどやせたもんですから。排せつの部分が少し緩んできたから、ひどくならないうちにと思って、Iに行ったんですね。Iができたところで、新しくて、きれいでしたから、設備もいいだろうし、医療器具も最新のがそろっているだろうと思って、レーザーでしていただけば、お友達なんかもなさっているんですけど、午前中に、下剤を飲んで、おなかすっきりして、昼からレーザーでチュッチュッとやったら、もうその日帰って、あとは二、三回通院したらもとに戻る。当然、レーザーがあると思っていきましたら、レーザーがなくて、それもちゃんと浣腸するんでしたら、明るいところで、うつ伏せになって、ちゃんとその部分をきちっとして浣腸して処理すればいいのに、4人部屋の狭い、暗い部屋のトイレの中で壁にひっついて、よく見えないのに手探りで浣腸したもんですから、直腸に穴あけちゃったから、バーッとすごい血しぶきですよね。バーッと血が吹いて、フーッとなって、それが10時ぐらいのはずなのに、気がついたら、夕方なんですね。直腸に穴あけたから、直腸は手術できませんので、自然に治るのを待つために、おなかに穴あけて、腸を出して、排せつで、それが1年ですよね。正常に排せつできませんからね。動くこともできませんから、お部屋の中歩いたりとか、病院の周り歩くぐらいのが、11カ月で無理やりに退院したんですけどね、もう限界でしたから。それでもう、かえってメタボになってしまって、動かなくて、こんなところの排せつですから。今も後遺症が続いてるんです。きょうもね、実はね、せっかくこういういい機会をつくっていただけて、お話聞いていただけると思っていましたのに、11日の日から、調子が悪くって、排せつができませんし、苦しいし、下剤もある程度飲んでたんですけど、だめだったんです。きのう、夕方からひどくて、きょうもこんなに元気になると思わなかったんです。娘は13日が命日なもんですからね、浜松に墓参に12日に浜松に行くように予定していまして、ひかりが10時10分にとまりますのでね、それをあそこでちゃんと書いていただいて。10時10分、ひかりがとまりますから、行く予定にしてたんですけど、おなかのぐあいが悪くて、行けなくて、きのうは特にひどくて。今朝、2時半から3時半ぐらいまでうんうん言ってたんですけど。中止したもんですから、きょうはお目にかかってお話できるかなと思ってたんですけど、不思議なことに、すっと痛みがとまったんです。痛みどめもいただいてきましたけど、うそのようにすっと収まっているんです。娘が助けてくれてるんじゃないかと。そんなことばっかりで。それで、Iのほうに足と腰傷めたのも、痛みどめだけいただいて、何の処置もしてくださらないし、心配になったもんですから、セカンドオピニオンをしたんですね。M病院のほうで。今、両方で診ていただいているんです。現在は、通院で、リハビリで通院するのが大変なもんですから、リハビリの機械を買いましてね、これで足をもんだり、腰をもんだりして、これがすごくいいんです。Mの先生にカタログ見ていただきましたら、これはいいですねと言ってくださって、これで助かってます。

今は脊髄にブロックをして、初めは1週間に1回だったんですけど、少しずつ減らしまして、3週間に1回になって、今回、1回4週間にしてみましょうかといって、あすブロックなんです。

セカンドオピニオンでM病院とI、整形の外科のほうと、おなかは外科のほうと、忙しいんです。それで、お華(道)もできなくなってしまったんです。

パソコンは、簡単な、文字だけでしたら、できます。本当は、ノートパソコンでもいいから、全部、ノートパソコンとソフトとプリンターとそろえましたらね、やっぱり17,18万かかりますでしょう、最低でも。立ち退きになりますしね、どうしようかなと思って。インターネットとか、ああいういろんなことしなくても、手が震えて、字がもうかけませんから、変えようかなと思ってるんですけど。もう、どうなるかわかりませんし、もう皆さん、年寄りのことだから、仮名・・で、乱筆乱文でも許してくださるから、もうやめようかと思っているんです。

手が震えるのは1年ぐらい前からでしょうかね。やっぱりいろんなことがありますのでね、何となく夜は眠れないし、それから何といっても、85歳ですからね、もう。精神的に、ちゃんとよりどころがあるのとないのではね。だから、私もなるべくぼけないように、一生懸命努力しな、こんなのに取り組んだ

り、本もいろんな本を読んだりとか、頑張ってますけど。

歩くのが歩けなくなったんです。それで困ってるんです。ある程度歩いてます。お買い物に行くのに、ここからバスに乗って、お買い物に行って。ところがバス停ですから、その周りでお買い物をして、またバスに乗って、ここに帰ってくるぐらいですけど、足がしびれていたもんですから、感触がないから、怖いんです。痛いとか何とかというのもあんまりないんですけど、しびれてるんですね、足が。だから、杖も頼りにならないです。杖で転ぶこともありますから。

しびれは、痛みはある程度和らぎますけどね、ブロックしますと、しびれはだめです。神経と何か骨がくっついてるから、しびれは治らないそうです。足がしびれてるもんですから、たったり座ったり、膝ついて立ち上がることが大変なんです。もう何かがないと立ち上がれませんので。お華のほうも、事務所とか、お店とか、30分以内ぐらいにパッパとしてしまわないと、お客様がいらっしゃる、お店が始まるし。

娘は、昭和45年に22歳で亡くなりました。だから、万博の年ですね。

今はもう、夜遅くて、朝、起きるのが遅いから、大体朝食は9時から10時ぐらいの間に、ゆっくり1時間ぐらいかけて、ゆっくりいただきます。それから、ちょっとそこら辺を片づけたりして。お昼はいただかないんです、朝が遅いから。お買い物に行って、帰ってきて、6時30分ぐらいから、また1時間ぐらいかけてお食事します。

病院は結構、通院があるもんですからね、Mが整形と皮膚科なんです。頭がこんなに一遍に髪抜けちゃったもんですから、皮膚科、それから、Iは外科と整形外科です。

今は治りましたが、対人関係の難しさでベル麻痺になりました。そのときは、もう、昭和58年ぐらいですからね、余りベル麻痺の原因というのもわからなくて、すぐに手術しちゃったんです、P病院で。Pの先生もベル麻痺になられた。私は、すぐに手術してますから、こちら、耳の後ろを切って手術してるんです。それで、目がふさがりましたから、ここ切って上げてます。だから、この辺赤くなってますけど。それで今回、去年、立ち退き問題で、また神経使って、眠れなくて、今度、こちらの、でも、前の経験もあるもんですから、Q医院行ったんです、私の住んでたところのお隣。Q医院、あそこに行って、すぐにIいって行って、そしたら先生もすぐに、もう手術ってすぐしないんですね。神経から来てるから、ずっと点滴打って、1週間点滴打って、安静にして、それで様子見て、それから、今もまだお薬は飲んでますけど、血行をよくするために。だから、2回目でしたから、これは去年の年末になって、6カ月たって、様子を見て、治らなかったら手術になるかもわかりませんと言ったんですけど、ぎりぎりで少しずつ治りまして、今、ほとんど瞬きもできるようになって。

もう本当に、病気ばっかりです。だから、今ごろになって、住む場所もなくなりましたからね、さいの目の先生のおっしゃったことが全部当たってますからね。あの先生のおっしゃったことが本当だったんだわと思って。

震災後は、御影高校の避難所、それから浜松の実家、仮設住宅、それから今のHAT神戸。浜松には、1年。

病気のことは、ずっと消えるまでお友達でつき合っていかなきゃ仕方がないですね。

おなかのほうのことは何とかなりますけど、足は、仕事するのに、やっぱり差し支えますのね。オリエンタルホテル。海岸のほうの、あちらのホテルのほうのお花を入れたり、お部屋のディスプレーしたりしてたんです。あんなに楽しい、一番自分の好きなことなんですね。あの時期が一番楽しかったです。

今は、通院するのが精いっぱいで、お友達も皆さん遠く離れてますし、耳聞こえないから、私は、メールで、メール命で。

今の友達づき合いは、耳が聞こえなくなったことと、地震で離れましたので、ほとんどないんです。Hさんとおっしゃる方とは、一緒に2回ぐらいは。

（今、不安に思うこと）

不安なことは、そうですね、住宅の立ち退き問題だけが不安です。センターの職員の方にも大変よくしてくださいますし、通院も交通の便がよろしい事、ヘルパーさんにもお世話になっています。また、お近くにお住まいの方にもご親切にしてくださいますので、ありがたく思っていますのでありません。

立ち退きまで、もう4年になったのかな、地震から20年の契約って言ってますからね。でも、同じ条件で県営とか、市営とかに入られた方は、お家賃の割引していただいて、そういうふうな心配なしで、立ち退きとかも言われていませんしね。ここへ好きで入ったわけじゃなしに、行くところがなくなってここへ行きなさいで、ここへ来たんですよね。だから、それで同じあれでも、個人の持ち家ですね、そういうふうなところを県が契約して、借りてる個人借り入れのところの方が、皆さん、引き続き入っていただいても結構ですと言ってるのは、60％だそうですね。出ていただきたいと言っているところは全部ではないですね。

何とか、長生きし過ぎました。私の家の家系は長生きなんです。みんな90代で亡くなる、私の父で85歳ですけどね。うちの父は、ちょっと事故に遭って、倒れて、頭の打ちどころが悪かったんですね、ずっと。生きてはいたんですけど、意識はなくて、呼吸だけしてたみたいで、病院のほうでも、もう十分あれしたから、回復の見込みがないからといって。それでもそのとき85歳、まだ自転車に乗って、すいすい走ってたみたいだから。

今は、不便なことはありません。

でも、あれですものね、お家賃の割引なんて、すごいですものね。こちらが公団、今名前は変わりましたけど、共益費はつきますけど、だんだんお金

が上がっていきましてね、最初6,000円だったのが、私で11年ですか、11年ここに住まわせていただいているんですね。4,100円ほど上げられましたからね。

プロフィール

震災障害者－9

項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月25日（金）
	面接対応者	本人のみ
基本属性	性　別	男
	年齢（調査時）	70
被災状況	被災場所	東灘区御影
	家屋被害	全壊
	家族の状況	妻子は無事
負傷の状況	救出されるまでの時間	18時間
	診　断	右足の挫滅症候群
	障害の程度	5級
	搬送・転院などの経緯	救出後H病院（神戸）、Y病院（尼崎）を経て、T病院（大阪）に搬送。その後、K病院（神戸）に転院し、5ヶ月入院。
仕事		喫茶店を自営していたが経営不能となった。

主な発言

- ○ 震災前は御影で喫茶店を経営していた。
- ○ こたつに足を入れて毛布をかぶって寝ていた時に地震が起こり、起きていなければつぶされていた。
- ○ 18時間閉じ込められていて、その間毛布をかぶっていて呼吸をするのが大変だった。
- ○ 腰から下の右半身はしびれて感覚がなかった。
- ○ 和歌山県田辺市のレスキュー隊に救出された。
- ○ 肺機能が落ちて肺に血がたまっていた。
- ○ 挫滅症候群になっていたが、切開しなかった。
- ○ 障害者手帳の取得については喫茶店経営時の税理士から指導された。
- ○ 震災障害者のことを国に伝えたいという思いをもっていた。市長に理解して貰えたときは嬉しかった。
- ○ 今後は孤立している人の話し相手等の支援をしたい。

震災障害者等 インタビュー ⑨
日時：平成23年2月25日

（震災時の状況）

震災前は、阪神御影駅の北側の、R高校の近くで住んでました。仕事は、昭和42年に喫茶店をやってから、あのビルで、親戚の、遠縁の人と一緒にやってて、一時、3年ほど、アイスクリームをつくってくれないかというようなことがあって、その店を貸して、工場つくって、2年間ほどやったんですけどね、その機械をSさんが欲しいいうことで、Sさんが技術がないからいうて、あんたも一緒に来てくれんかということで、3年間向こうへ。Sでの勤務は、50年から52年ぐらい、3年間。喫茶店もSでやってて、3年目に返すいうことで、最初の約束が。ほんなら僕帰りますいうことで。工場増設の図面を完成してから退社。それで、御影のところで喫茶店をおばさんと一緒にやってた。

震災のときは家に居ました。喫茶店を一部、時代が変わってきたというのか、カラオケのスタジオみたいなん、大きなんをつくって、ステージつくって、新しい機械全部入れて、大阪や姫路からも歌いに来るような感じだって、そっちのほうと、横に喫茶店と両方やってて、僕は最終的には、僕も両方やってたんですけどね、震災のときは、もう一応喫茶店のほう。うちの家内なんかは、向こうの店やってて。

道路側が店で、その裏っ側に自宅が。ちょうどビルがコの字型のビルだったので。もともと、そのおばさんたち、そのビルのオーナーが住んでたところを、部屋を切ったところを僕ら入って、おばさんたちは上へ上がって。店は前で、住宅が工業高校側。僕の自宅は1階やった。ビルは4階建て、一部5階です。バス道とグラウンドに面してる。

震災の前日ね、僕ずっと、おばさんは5階に住んでたんですけども、内線というか、電話でかかってきて、1時間近く、おばさんも話長いんで、1時間ほど話してて、そのときに話した内容というのが、おじさんと一緒に、京都の伏見さん行って、おみくじ引いたら、吉と凶の分かれ目というのが出たいうて、こんなん生まれて初めて引いたって言って。どういう意味があるんやろういうことでね、その話を延々と1時間したんですね。

それで、僕はそのまま、上にカシミヤのセーターを着てたんですけど、家内はまだ店掃除してるんか何か、帰ってこないし、そのまま、長方形のこたつの横から、壁ぎわから入って、そのまま寝てしまって。夜中、1時ぐらいやった思うんですけどね。12時ぐらいか1時ぐらいだと思う。

横から足突っ込んで、毛布かぶって、ちょうど、毛布が、ボアの毛布の厚いのをもらったやつで、あれをかぶって寝てた。ほんなら、耳元で何かゴーッいうような音したような感じがしたんですね。あれ、何かなと思ったら、ユサユサッと来たから、あっ、地震やと思って。ビルで、隣の壁がビシッ、ビシッ、言い出して、それで立ち上がろうとして、左肘をついて、片足立てて、腰上げた瞬間に下から、ドカンと突き上げたから。その瞬間何っ、言うたときに、ドーンと、上がった腰がドカンと、また飛び上がって、ドンと落ちたときに、ちょうど、立ったままやったから、この間に顔をガーンと突っ込んで、足とか。こうして立ち上がるでしょう、こうした瞬間に下からゴンと来たから、そのまま尻もちついて、高いとこからドンと落ちたから、頭もガーンと下がって、この間へ頭をゴーンと、揺れた瞬間に、右側の壁が、この裏のとこやったからね、壁が、ガラガラッと下が崩れて、ああ、埋まると思ったんですね。そしたら、ドーンと当たって、そこへピタッと止まった。壁が下が崩れて、ガラガラッとコンクリートの瓦れきみたいなんが、バッと来て、ここへドーンと当たって、もう、埋まるわと思った瞬間、ピタッと止まったから。その途端に、何かバターン、バターン、ドカーンいうて音がして。後でわかったんですけど、バターンいうのは、本箱が向こうから飛んできて、この上に載って、20センチほどですかね、ドーンと載って。その上に、下が崩れた壁が頭の上にドーンと落ちて。15センチぐらいのコンクリートで、その本箱の上にドーンと、本がいっぱい詰まってたから助かった思うんですね。ドーンと落ちて、その上に、50センチ、梁がここへドーンと落ちて。ビルそのものが落ちてきたという感じです。ドーンと、縦揺れで尻もちついて。それで壁が迫ってきて、閉じ込められました。それで、気がついて、そうしたら、壁がこう挟まって、顔も挟まれて、顔が動かせない。それで、ちょっと上げたら、ゴツンと当たるから、これはコンクリートやなと。この足を、片一方は左足はこたつの中でぶらぶらしてるんですけども、右足は、これをもう伸ばそうと思っても、何か崩れたものか、何かに挟まれたんか、全然伸びない。それで、一番最初に息できへんいうたんは、こっち側、ピュッと毛布が張っとうでしょう、その中に顔突っ込んどるから、厚い毛布やから、息吐いて、吸おう思ったら熱い空気入ってくる。十分な呼吸できへん。そこから呼吸との闘いやった。

まず最初は、何が起きたんかなという感じだったんですけども、まず、空気が欲しいと思って。左手の人指し指を口に持っていった。毛布の隙間から指を突っ込んでいって、ここにひっついたからね。ここからでも少し空気取らんかったらというのがあったけど、だんだん、だんだん押さえられてると、しびれてくるんですね。左肘ももう押さえられてる状態。それで、これはいずれしびれてくると思うて、使いもんにならん思うて、それから、グーしたり、パーしたりして。そのうちに、おしりの1点だけで体重を支えてたもんで、だんだん足の感覚なくなってきて。体重が右のお尻1点で支えとったもんで。右足は完全にしびれたから。これはもう、いずれこの状態が続けば、助かっても切るやろうなと。ああ、右足切断やなと。しばらくして、足がしびれてきた時点で、そういうことも考えました。目の前は真っ暗です。後で写真をお見せしますけど、2階がうちのところへめり込んで、サッシなんかもこんななってて、ドカンとめり込んでるから、全く光は入らない状態でしたね。右足、膝を立てて、左足は伸ばした状

況で、でも横には壁が来てて。顔も挟まれてた。動かせたんは、首を上に上げるだけ。5センチほど上げたら、コツンと当たる、もうコンクリートやというのがすぐわかったから。左肘も、もう挟まれてる。本かもわからんね、重たい、百科事典とか、いろんなのを入れてたんで、多分それが腕に載ってたんやと思うんですけども。だんだん、だんだんしびれてくるし。18時間閉じ込められてました。ビクとも動かない。何か、箱に閉じ込められたような感じで。だから、いまだに思うんですけども、あのとき、もし、もうちょっと高い姿勢で、このままドンといっとったら、頭なくなってたやろうなと思うし。だから、ちょっと前かがみだったから、頭の重みで、ドーンと尻もちついた瞬間に、意識的じゃないけど、その重さで頭が下がって、それで助かったなと、そやから何で助かったか、いまだにまだ不思議。瞬間的に立ち上がったのは、結果的にはよかったんですね。こうして、前かがみで、こういうふうにしたときに、ドーンと来たから、それで、ドーンと来たときに、地震が揺れて、あんな縦揺れなんか起きるっていうことを思ってなかったので、瞬間的に何っいうて、声出したのを覚えてます。

最初はね、一番最初は、もうドカーンいったあとは、シーンとしてしまって、何がという感じだったんですけども、しばらくして、僕が埋まってる数メートル先に、ビルに供給する、こんな太いガス管とメーターがあったんで、あれがつぶれとったらやばいなと、まずそれを考えた。それでも、ガスのにおいないんで、まあ大丈夫かなと思ったんです。

それから、うちの家内に大丈夫か言うたら、大丈夫と言うから。僕は叫ぶしかないんですよ、毛布で口を押さえられて、こう、下向いてるから、毛布に吸収されるから、普通の話し声では弱々しいんで、だから、もう声出すということは、一生懸命叫ばんと。叫んで、大きな声で、大きな声いうんか、大丈夫かとか。それで、娘、どうしたんやろうなと思って、よく僕がうたた寝してたら、娘が僕の足もとで、よう一緒にうたた寝してたんです。その部分は全くつぶれてるのでね、声もないから、まあ、自分の部屋に行ってるんかなと思ったり。だから、娘が声かけてくるまでに大分時間がありましたね。 僕がこっち側にいて、家内も、布団敷かんと、こたつで、僕がこう寝てしもうとったから、こっち側から入ってたんです。娘は別の部屋におったんですね。向こうも大分つぶれて、ビルが斜めになってたんで、向こうのほう、ガラス割れた間から、裸足で這い出してきて、それで、お母さんいうて声かけてきたから。しばらく話してたら、娘が裸足で屋上まで駆け上がって、屋上から大きな声で助けてくれって、そらみんな、近所の人が大きな声で叫んでたよということを言われましたけどね。それで、近所の人が来てくれて、見ず知らずの青年も来てくれたね。それからみんな、ずっと声かけながら、助けるぞ、助けるぞ言いながらやってたんですけど。

妻は8時間閉じこめられていました。8時間ぐらいして、近所から来て、僕ら、祭りとか一緒にやってた、青年いうても、四、五十代ですけども、大工道具持ってきたり、いろんなことして、何とかと思ったけども、瓦れきの山やんか、8時間ぐらいしたときに、あんたどんな状況なんて言ったら、手伸ばしたら、割れた蛍光灯とか、そんなんがさわる言ったから、ご近所が来たら、天井板が柾目やいうこと知ってたんで、柾目の板やったら、ドンとやった破れるから、破れ言って、普通の、板目の板やったらできないけど、柾目の板というのは、ボンとやったら、破れますから、天井板、その薄いもんで、蛍光灯じゃないところを突き破れと言って、突き破った瞬間、外からおったいうて。それで引き出してもらって。近所の人に。

僕は、ずっと、いろんなことを考えました。もう自分は、まず無理やろうなという考えがあったから、それで、ちょうど、僕、後でまた写真あるから見せますけども、1階、押し入れが外部に突き出した囲いがあって押し入れがあったんですね。だから、そこの部分、多分押し入れの壁が飛んでるやろうと思ったから、押し入れのとこから掘れば、ある程度の穴があけて、僕は押し入れから外れたとこにおったんで、家内のほうが押し入れから何とかなるやろうというのはあったんで。それで、突き破れって、破った途端におったとか言って、引っ張りだされて、約8時間ぐらいですね。だから、それまでの間に、会話したり、上の人らどないしてるかなとか、そんな会話してたんですけども、何時間たったかわからんですけども、ヘリの音がして、それもどういうんか、どっちかいうと、重い音じゃなくて、ちょっと軽目の、上空、1機、2機、上空で、旋回したりしてる音を聞いて、あっ、これは報道やなと思ったんですね。そうこうしてるうちに、街宣か、歩いてか何か、マイクで、浜のほうのLPGのタンク、ガス漏れしてるから、付近の住民の方は2号線より北へ避難してくださいということをずっと言うて回った。時間的にはわからんけども、考えたら昼過ぎかな、昼ごろかなという感じですね。そのうちに、付近に人もいなくなったんで、その辺静かになった。そのときに最初は、ここだけかな思うてたんですよ。それで、そのうちに、みんな来た人が助けるや、どうのこうの言って、重機を呼んでこうかいうような話してるので、ここだけかなと思ったけども、LPGのタンクにひびいってるということは、これはただ事じゃないわと思って、その規模の大きさ知ったら、重機呼んでくるいうのは気休めやないう感じがした。声かけみたいなんは基本的にはあったんですけど、僕にしたら、もっと静かにしてほしいと。呼吸するだけが精いっぱいで。僕が外に聞こえる声を出そう思ったら、物すごいエネルギー要るんですよね。ところが、外のほうは、声がせんかったら、眠ってしもうたり、気失ったらあかん思って、絶えず声かけてくるんですよね。自分の中で、毛布引いてても、毛布がコンクリートに埋まってるんで、右手は毛布の中でぶらぶらなんです。毛布破ろう思っても、手で破ることできないし、引っ張っても動かないし、もう1回縦揺れ来い…もう1回縦揺れした瞬間にこれ引っ張ろう思うて。もう1回来い、もう1回来いと思って、ずっと思ってて。余震はたくさんありました。縦

が来ないから、縦来い、縦来いと。絶えず近所の人は声かけてくれとったんですね。もう絶対助けるからなと。それ、だれの声かな、後でわかったんですけども、青年の声ですけども。そんな状態で、そのときにぱっと思ったんは、僕も昔、とにかく本読むのが好き、活字だったら何でも読んで、寝る前に何でも活字読まんという感じだったんで、よくとってたんがリーダーズダイジェストいうの、世界各国に発行してたアメリカの雑誌、あれをずっと月刊のやつをとってたんで、それもとったら最後までウワーッと一気に読んでしまって、あれは変わった雑誌で、アメリカとかの、いろんな実験とか、いろんなことを書いてる雑誌で、その中に、全く元気な人でも、アメリカのナンバーワンいうような医者が3人ほどかかって、あんたここや、こうこう、こうやと言われたら、その日の夜には、もうその人は重病でうなってると、そういう実験をアメリカでしてるというようなこと、そんなことが書いてあったり。その中に、人間は理論的には冬眠も不可能ではないというようなことがあったんです。そのときに、熊や何やかや、冬眠してるときは、心肺機能とか、そういう機能を落として、ただじっとして長い間過ごすんやと。人間でもできる、僕心臓に物すごい自信持っとったから、若いときにレントゲンで透視した先生が、おまええ心臓しとんないうて言うんです。それと、学校時代は、短距離は全然だめなんですけど、長距離は絶対自信があったんで。とにかく、ほんなら心臓の機能半分でええわと。呼吸も半分でええわと、冬眠と同じで、機能を落として、もうできるだけ、粘れるとこまで粘ってみようと思って、それが吉に出るか、凶に出るか、おみくじの、例の、助かれば吉やし。この状況では、重機呼んでくるとか、いろんなこと言われても、まず無理やろうと思った。ビル持ち上げる言うたってできへんし、そんなことできるわけないしという意識があったんです。そやから、中に家内がおるときに、まあ、だめやったら、このビル壊したときに、ここに何置いとる、ここに何置いとるという話はして。ビル壊したら、この部分に何があって、この部分に何があるかという話はもう全部。ちょっと、気持ちの半分ではだめだったことも覚悟しながら。もう、その時点で、まず無理やろうと思ってますからね。外の状況、わかればわかるほど無理やなというのは、もう。

そのうち、ヘリでも、埋まってても、腹に響いてくるような、物すごい重量感の音がした、これはちょっと、自衛隊か何かの、双発のでかいのが来たなというような感じで。

だから、いまだに、ヘリコプターのホバリングいうのが苦手なんですよ。通り過ぎるのは、大好きで、今でも、通り過ぎるのは目で追うんですけども、上空でじっとホバリングされると、だめなんです。

1月17日の夕方、あそこへ行けなかった、行く気がしなかったです。仕事で大丸のほうで、そしたら、たまたま前の通路に立ってたら、6時過ぎに7機ほどがグーンと回るんですよ。市役所の上空から、等間隔でゆっくり7機ほどがゆっくり、グーンと回っていくんですよ、30分、40分ほど、あの音が苦手でね。それで、1．17には、ずっと、全く行かなかったですね。

痛みというか、腰から下、右は完全にしびれて感覚なかった。万が一助かっても切るいうようなこともあるやろうなと思ったりしたけど、息だけはどうしても確保せないかん、絶えずこうしながら、伸ばして、左手をね。

（救出・治療の状況）

それで、うちの家内が助け出されてから、とにかく、空気が欲しいから、棒でも何でもええから、毛布突き破れいうて、ちょっとでもええから、空気、それで竹でも入れたら隙間できるかなという、とにかく空気欲しいっていう感じですね。パニックにはならなかったね。パニックになったら、とっくにだめになってるなというのがありましたね。できない呼吸を無理にしようとしたら、余計だめになるやろうし。もう、瞬間的に、もうだめやと思った、まず助からんと思った。 下手に騒いでもあれやし。外の様子は、外からの声で。だけど、こっちは大きな声出したくないのに。わんわんいうて言ってくるし。あれが、もう時間的には夕方になってたんかもわからんですけども、頭の上、コツコツと足音がして、4人、警察、うちの家内が何か、御影工業で公衆電話に並んで、何回か電話したらしいんですけども、それはずっと後で聞いたことですがね。あんたとこだけと違ういうて怒られた言って。

それまで、警察の人は、うちのお店、お客さんだったし、うちからも出前行ってたりしてたんですけども、全体がそうなってる状況だったから、あんたとこだけ違ういうて言われたいうて。

ところが、もう夜だったと思うんですけど、時間の経過はわからないけども、頭の上で足音がして、4人というのは、足音でわかって、名前はと聞かれて、年齢はと聞かれて言った後、上で相談が始まって、何とかならんやろうかなというのと、どう考えても無理やでというのと二手に分かれて、上で意見が。最後に、頑張れよいうていなくなって。

そのときに、ことし初めて、半月ほど前に知ったんですけども、そのときに家内も一緒におって。あのときに腹立ったいうて、16年目で初めて聞きました。それからまた、とにかく頑張れよと言われても、とにかく息吸うしかないわと思って、そのうち、だんだん呼吸が、呼吸したのは、普通の呼吸じゃなしに、ほんとに、口の中へ吸ったらすぐ吐き出すような、本当に小さな呼吸で、胸まで吸い込んだら、そういう呼吸したら無理や思ったから、とりあえず、口の中へ息が入るか入らんぐらいの小刻みの呼吸をずっとしてて。そしたら、いきなり、電動のカッターで、ちょうど、うちの工業高校側に、高校のグラウンドの野球のネットが4階までずっと上がるようなネットがあったんですけど、そのネットを電動カッターで切る、ギャーンいう音がして、レスキュー来たぞというたときに、いきなりカッターで、ネットを切る音で、ギャーンいう音が聞こえて、ああ、来たんやなと思ったんですけど、そのときに、聞きながら、どの辺におるということを聞かれるから、押し入れの

壁が多分飛んでる思うから、その壁の囲いから、さらに1メートルほど奥のとこやいうて、場所を言って、それから作業が始まったんですけど、その作業のありさまは、中にいてても、外で飛ぶようにやってるなというのがわかって。指令の号令、あれせえ、これせえ言われたら、一糸乱れずいうのかね。だから、さっきの警察の意見が分かれてるのと、こっちは指令1本で、全員が一緒の動きしてくれてるっていう。和歌山県の田辺市のレスキュー隊でした。そのときに、中で、ほんとリーダーというのはすごいなと。リーダーのすごさでこんだけ違うんやなと思ってね。電動のその音が聞こえてから。その後、何かロープかけて、今度、引けいうて、わっしょい、わっしょいいうて引いてる音が、声がかかって。僕はロープかけて、手で引き出してると思ったんですけども、10年後、行ってお話聞いたら、いや、Aさん、あれはウインチで引っ張ったんやと、ウインチと手で引っ張りだしたって。この引っ張りだした写真ありますけどね。救出されるまで　2時間ぐらいでした。そのときは、助かるかな、もつかなという感じ。だんだん、やっぱり呼吸がもう限界かなという状況だったんで。2時間ぐらい、自分では時間全くわからない、何にも、ただ挟まれて、じっとしてるだけなんでわからなかったですけども。服のまま寝てるから、ベルト、ここを、この後ろを、おったいうて、ギャーッとつかまれたんです。ズボンのベルトをね。後ろをギャッとつかまれたときに、ああ、助かるかなと思うた。それで、引くぞと言われたけど、顔挟まれてるから、ちょっと待っていうて、何とか顔抜けへんかなと思うたけど、無理や、何とか、いうて、ちょっと待って、待って言いながら、もう息するのは無理や思って、もういいです言うて、それでズボッと引き出してくれて。腰から。折りたたんで、こういう格好やから。ズボッとベルトから引き出されて。そのときに、後で、その当時、出た瞬間、ガーッとライトが当たって、そやから目開けてられへんかったけど、何か一旦のぼっておりたような感じで、そのときに、たまたま、名古屋テレビが現場をずっと取材してて、後で、テレ朝さんに頼んで、見せてもうたら、やっぱりここから、耳からダーッと血が出てる。その状況で、もう出た瞬間、みんなから、やった一言うたり、万歳言ったり、工業高校が避難所で、物すごい人だったらしいんです。グラウンドの中で万歳いうて、声が上がったらしいですけど、僕は出た瞬間に、レスキューの人に酸素ください行って、ボンベあけてもらったけど、もう吸い込む力がなかった。だから、もう絶えず小刻みに、ハッ、ハッいうような、そんな息だけやから、吸い込まれなかって、もう1本言うて、2本あけてもらったけど、病院に搬送する間に、結局2本ともむだにしてしまったんですけどね。そのときに、誰か運んでくれないかいうことだったらしいんですけども、車がないということで、レスキュー車、工作車の中からばっとグラウンドへ放り出して、それで工作車、レスキュー車に乗せてもらって。道具は全部グラウンドへ放り投げて、それで何か動き出してすぐ、こっちはガードが落ちてるから行かれへんとか、そんなやりとりしているのが聞こえてましたけど。B病院入ったときも、ちょうどストレッチャーで、坂道みたいなところに入って、受け付けロビーのところに入った瞬間、電気が落ちてて、非常電源、ちょっと薄暗い感じだったですけども、あの広い待合所、床にね、頭に包帯巻いたりして、怪我した人がザーッと皆座り込んでる。びっくりしましたね。何や、これって。ICUに入ってからも、目あけてられないんで、いろんな会話は全部飛び込んでくるんですけど、どこどこの奥さんがどうのこうのとか、Cの赤ちゃんの、何か奥さん、妊婦さんがどうのこうのとか、そんな話を絶えず、そのうちに何か岡山から来たという先生が、耳切ってるないうて、、先生同士相談して、麻酔なしで、気つけにちょうどええやんいうて。でも、きれいについて、きれいに縫ったのか、うまくついてます。普通、病院で酸素もらういうたら、パイプ来て、水通って、ぽこぽこしたのをこうやってするじゃないですか。僕の場合、それじゃなくて、ボンベからずっと、ホースで、後で、去年か、一昨年か、14年目のときに、Bの先生に、今の副院長ですけども、G先生といって、ICUどこにいたんか知りたい言うたら、よし案内したるいうて、連れていってもらって、あんたの場合は、ICUの廊下にストレッチャーを置いて、そこで手術したんやというふうに言われました。酸素、あと2時間ぐらいもつかないうような会話、そういう会話しながら。何か、医者が、肺がどうのこうの言うてた、肺血何とかと言うてた。

自分はドンと来たから、もう肋骨折れてるいうのはわかってたから、肋骨おれて肺に傷でもいったんかなというような感覚だったんですけど、実は違ったんですけども。もう肺に、後で、10何年目に先生に聞いたときに、レントゲン撮ったら、肺が真っ白で、肺に血がたまってたって、だから、呼吸できるスペースが少なかったいうて。後で聞いたら、心肺機能が落ちると、血液を送るスピードが、血圧が、入った当時は、全部細かく書いてるんですけども、血圧が下がってて、血中酸素も、75ぐらいか、だんだん、最終的には50ぐらい。心臓の機能が落ちて、肺から浄化されて回るというんか、そういう機能が落ちてて、まあ、逆に言うたら冬眠の続きみたいな感じです。それで、ここ折ってるということと、肺に血がどうのこうのということで、お医者さんの話はよく聞こえてきたね。Bでレントゲンを撮ってね。肺が白かった、肺どうのこうのということを言ってました。ほかに、ICUに入ってたんですけども、入ってたときは、全部、ちょっと記憶なかったり、あったりの繰り返しだったんですけども、そのうち、重傷者を10名、大阪のほうに搬送するということで、救急車10台来るから、あんた乗ってくれいうて言われて、ところが僕、近所の人とか、助けに来てくれた青年とか、見舞いに物を持ってきたりしてくれて、それを整理している間に10台出てしまって、また改めてもう1台で、それで大阪方面へということで。

杭瀬のD病院に入ったのが19日の午前、深夜2時30分に入ってる。18日の0時15分～0時30分頃に助け出されて、19日の深夜だから26時間ICUにいて、それから救急車で大阪方面に。それで、B

自体で、もう尿が全然出てない。最初40ccで、2回目20ccで、それでとまったいうことで、これは透析できるとこへいうことで、運ばれて、まず行ったんが、杭瀬のD病院というところ。ところが、そこはもう全く何も手がつけられない。採血するいうて、看護師さんがここへ針指すんですけども、針より血管が細なってるいうて、やっぱり血が流れてなかったんでしょうね。ここに何回も刺して、手が真っ黒になった、そういうことは覚えてるし、ストレッチャーで入ったときに、天井見てたら、何か、古いような感じ、何かいろんな、鉄筋とか丸出しの、引っ張ったような、えらいとこへ来たないう感じで。

そこで、それ以降は、眠ってたのか記憶ないんですけども。そこからまた、1月19日の夕方の5時40分に、大阪のE病院に。D病院ではほとんど治療を受けてない。それで、Eへ行って、透析できる、水のあるところいうことで、Eへ行って。Eへ入ってすぐ、CT撮るいうことで、先生方4人いらっしゃって、入ったんですけど、機械は自動的に息を吸って、止めてとか、機械が言うんですよ。そんなことできるわけないんで、ただ、その先生方が、4人の先生が、血圧、もう60切っとうで、やばい、やばいとか、血中酸素も50やな、チアノーゼ出とうし、やばい、やばい言いながら、ワーワー言いながら、4人の先生が。それで、もうCT撮って、即透析のほうへ回って。その透析4時間で、ちょっと落ちついたらしいんです。その辺は僕も、透析は全く記憶にないんです。

明くる日なんかも、まだ呼吸なんかも普通にできる状況ではないんですけども、明くる日か、次の日、明くる日ぐらいですかね、神戸大学から電話があって、Aさんと同じような状況の方で、症状としては、挫滅症候群、クラッシュシンドロームといいますいうて、これは神戸大学から連絡ありましたいうて、13名、今いるんですけど、その中の1人ですということを言われて、うちでは、とにかく怪我よりも、命にかかわる部分を重点的にやらしてもらいますいうことで、急性腎不全と、急性心不全、この2つを重点にやりますいうことで、怪我のほうは全く治療なしで。とにかく心臓のほうをやるいうことで、その間、ずっと、後で聞いたら、お尻がスイカみたいだったいうてね、パンパンに腫れて。切開も何もない。だから、みんなクラッシュになった人はみんな切開してるんですよ。物すごい痛いから、耐えられないからね、痛みに耐えられないから、筋膜切開。僕、痛みに強いというか、意地っ張りというのか。だけど、どうしても寝られない。やけどね、ちょうど説明したときに、どういうんかな、火に生であぶって、あとピリピリするというあの状況あるでしょう、あの状況、あれがもうここから下全部。だから、全然寝れないですよね。夜中にいつも、看護師さん、ボタン押して、あかん、寝られへんいうてな、1時間でも寝たいから、痛み止め打っていうて、モルヒネ打ってもらって、これくせになるからだめよ言われても、毎日。とにかく、1時間でもええから眠りたいいうて、打ってもらって。しばらく寝て。そんな状況だったんで、傷のほうは、痛み止めだけで。だから、もう今、クラッシュの人に会ってみると、ほとんど切開やって、痛みの治療してはるんやけど、僕ら3カ月間、ほりっ放しですやん、はっきり言ったら。だから、4月の中ごろからリハビリしましょうかいうことになったね。それで、リハビリするんだったら神戸に帰りたいからということで、F病院に帰らせてもらった。Eには4月の10日か、中ごろまでいました。リハビリしましょうかいうんで、Fへ帰してくれ言うて、だけど心臓のあれは続くいうんで、心臓の検査あるときは、Eから救急車で迎えに来てもらって。足の処置は、Eではほとんど何も、ほったらかしです。4月10日まで、全く、足も尻も。とにかく、クラッシュの、心不全というのは、腎不全はたくさんあるらしいけど、心不全というのは、最終的には心不全で亡くなっていくんやけども、亡くなる直前みたいだったんで。それで、僕は2人部屋で入って、家内も住むとこないし、当初いたんですけども、3カ月ほどして、婦長さん、部屋かわってくれると言われて、出たときに、入院してる患者が、あんたよかったないうて、あそこはいつ亡くなるかわからん人が入る部屋で、あんた出れたからよかったないうて言われて、ナースのセンターの横の部屋でね。ナースセンターの横をちょっと入ったとこの、突き当たりの正面が1枚ガラスで、そこへ車いすで行くと、Eの駅、阪神電車の駅が見えるんです。そこからよく、自分で押していって、ここで行ったら御影へ着くなと思うて、夜中に。そこへ行くときに、たまたまナースセンターの横のほうを奥に入ったところで、記憶なくしてしまって、夜中に。それを見つけて、看護師さんが大慌てしたり、そんなことの繰り返しで。

どういうんですかね、心臓の検査いうんか、IR検査入れて。カテーテルは、ここで2回ほどやりましたけど。そのときもここ切って、ずっと入っていくの、モニターをこうやって見た、見んでもええよ言われても、興味があるから。見てたら、何かここから針の先がくっと曲がったのがキュッキュと入っていきよんですよ。おもしろいな思うて見てた。おかしいな、おかしいな言いながら、心臓をくりくり、くりくり。おかしいな、おかしいな言いながら。それでまた、2回目のときに、これやったときに、ここへ砂袋当てて、2時間砂袋置いて、2時間押さえて、それ外して、今度テープで、あと4時間動かないで、合計6時間動いたらだめというのを、2回目のとき、たまたま食事ですよいうて持ってきてくれたんで、瞬間的にボタンをポンと押したんです。電動やったんで、ギュッと押した瞬間にドバーッと出血。このときに、動脈いうて、こんだけ出るもんやいうのを初めて。尻が瞬間的に温かくなった。それで、またそれから4時間。看護師さんがじっとしばらく押さえてて、合計10時間動けなかった。 そんなことありました。僕はいろんな意味で大変やったけど助かったいうのは、2週間ね、透析が14回あったんですね。その13回か14回の透析の中で、御影工業高校の卒業生がそこへ、透析チームに入っとったんです。その子がおもしろい子で、その子と担当の看護師さんが、かけあいで、漫才みたいな感じで。だから、4時間いうのは気が紛れた。それで助かりましたね。

だから、僕が退院してから、Eにお礼に行ったときに、まず透析のチームに会わせてくださいいうて。あそこのEの何とか医療会いうのを新聞に出すからいうときに、透析のチームと一緒に写真撮るいうて。

不思議だね、そういう節目、節目で。やっぱり助かるように、助かるように。

最初、頭なんか、コンクリートの粉だらけでね、1カ月ぐらいして、こうやって鼻かんでも、コンクリートの粉が鼻と一緒に出てくるし、そんな状況の中で、目閉じると、ぐるぐる、埋まったビルの中で自分が動いてるあれがあるんですよ。ここ通れるわとかね、その中で、何かぐるんぐるん、とにかく垂直の線が見えなかったんです。1カ月か2カ月して、一旦窓開けていうて、真っすぐな物見たいいうて、窓をぱっと開けてもらったら、裏が市営住宅か何か、4階建てのがダーッと並んでて、真っすぐな線が見えたんですよね。それをじっと見てたら、それでおさまった。ぐるんぐるんがおさまった。

そんなことを繰り返しながら、だんだんあれしたんですよね。向こうの先生が言われたことは、クラッシュの、震災前に心電図とったことをありますか言われるから、F病院でとってるいうことで、それで言われたんは、とにかく挫滅症候群、クラッシュで震災前から心臓に関するデータが全部そろっているということは、まずないんですよと、世界的にもあんまりないことで、Aさんはそれが全部そろってるんで、論文にさせてもらっていいですか言うから、いや、もう自分の体で役に立つことやったら何でもいいから使って言って、それが日本循環器学会の論文に出てるらしいんです。G先生が見たとおっしゃったんで、出てるのは間違いないと思います。

その時分から、自分は一旦死んだもんやと思うとったから。だから、どんな形でも、自分の体やったら体、どんな形でもええから、何か、使えるものは全部使ってくださいという姿勢は一貫して持ってたんで。

（リハビリの開始）

リハビリを始めたのは、一応、心臓のほうも、80％ぐらいまではいっとるから、回復してるからということで、リハビリしましょうかということを聞いたんで、リハビリやったら神戸へ帰りたい、神戸へ帰りたいという思いがあったので。

行ったんですけど、神戸へ帰って、Fへ行っても、やっぱり痛みをとることから始まったんですね。まだ、焼けるように痛かったんでね。それで、神経内科の先生に痛み止めと、漢方と併用で。それでね、5月か6月ごろですかね、自分では、触ったら、ちょうど肛門の横に、これぐらいの、ちょうど膝の皿ぐらいの大きさ、ごろんとしたのができて、その横にもう少し小さいのが2つできて、そしたらベッドで寝たら、それがごりごりして、しびれて痛いんですが、その痛さもあって、横向いて、持ち上げて寝るような形で。

もう一つ、ショックだったんは、アキレス腱の筋がないんですよね。右は触ったら、右はピンと張ってるのに、左はふにゃふにゃ、どこにあるんやろうと思うて、探しても、柔らかくなって、ふにゃふにゃなんです。そのときに、先生が、もう人間の腱では最強の腱やいうて、一番強いとこやでと、そやけど、ふにゃふにゃやないうて笑われた。ただ、院長先生が回診、1週間にあるので、来られたときは、その院長先生は、病棟の担当の若い先生に、お尻の部分写真撮っとけいうて何回も言われたので、撮っとけって言われたですけどね。80人近く亡くなられたということを院長先生おっしゃってましたですね。なかなかつらい思いしたんやでというようなこともおっしゃってました。

1つヒント挙げるなら、もし足の裏の神経のためにいいリハビリいったら、砂浜歩くことやなと言われたんやけど、なかなかそこまでいけなくて。

車いすで動いていって、昼間は、とにかく人が多いから、すれ違って、ちょっと当たられたら、もう飛ばされるやろういう意識があったんで、寝静まるのを待って、みんなが寝た時間に車いすで、エレベーターでまちが見える4階まで上がって、病棟と病棟の間に休憩所みたいなところがありますよね、あそこで手すり使って立ち上がるんやけども、足がね、床から離れないんですよ。意識で離そう思うても、べちゃんとひっついたままで、全然上がらないんですね。でも、どういうんか、絶対歩いたる思うて、助からん思うとったのが助かった、ほんなら歩けん、もう家内とか、家族みんなは、もう僕は完全に車いす生活と思い込んでましたから、意地でも歩いたると思って、夜中に行って、手すりつかまって立ち上がったり、ずっとそのこと、昼寝て、夜中にリハビリ。自分でリハビリ。F病院には5カ月近く、8月の末までやから。F病院では、まず最初は痛み、薬で痛みとるいうことと、2，3カ月はそんな感じで。

リハビリ、実質的にリハビリに入ったんは、7月ぐらいからやと思いますね。7月の中ごろからかもわからん。まず最初、ホットパックいうんか、こんな大きなんで温めることから始めて、最初はそれだったんです。ただ、腰いうんか、この辺にばっと置いて、まだ尻が痛いから、ここに置いてね。そのうちに、腰上げとか、いろんなことを言われてあれするんですけども、歩行訓練するいうことで入ったときに、両手でこんなとこ持ってやりますよね。そのときに思ったのは、とにかく、足が不便やからいうて、右左に体揺すって歩くんだけは絶対したないと、絶対揺すらんという気持ちがあったんで、とにかく真っすぐ前向いて歩くんやいうのは、絶対、こういう歩き方はせんというのがあったから、絶対そんなことはせんという思いがあったから。だから、そのための訓練というか、それで夜中に起きて、階段の手すり持って…。看護師さんは、夜中いうたら、誰も寝静まっとうでしょう。僕はロビーにおって、看護師さん見て知ってても何も言わなかった。毎晩、夜中の12時ぐらいから。それで、ちょっと行ったところ、車いすで行って、車いすから手すりつかまえて。足の裏が焼けるように痛いから、何ていうんかな、そやけど、もともと忍耐力はあったんで、我慢できた。後で、4年後に、みんな調査があって、Bの本

ができ上がったときに、わっと思って。みんな痛み我慢できなかったんやなと思いました。4年と、6年と2回やったんですけども。Fのリハビリに行ったとき、ある日から突然、Aさん、金曜日は3時過ぎからにしてと、もうリハビリ終わってからにしてと。何か思ったら、神戸大学からリハビリの先生方を教育する先生がきはって、その教材に僕がなった。それで、先生がずっと、僕のお尻から、足の状況を写真撮って、みんなリハビリの先生方が周り囲んで、ずっと…。あした、あんたの写真で授業しはるよいうて、みんなが言うてた。僕はそのとき、何でもいいから、役に立つことやったら何でもいいと思いがあったんで、そういうところは。だけど、こっちは最終的に機械ではかるあれでも、引くのは少しできるんやけど、前へ押すのが全然だめ。いまだに、まだ指は上がったままでこれができないんですね。

F病院出たのが8月の末。それも、早く出ていってほしいということで。身内というか、会社の要請でね、動けんでも、電話ぐらい聞けるやろうということで。電話聞いてほしいと。いろいろあってね、もう本当にいろんなことがあったんですよ。8月の末に退院した。7月の末ごろかね、7月か8月に入ったときに、1回外へ出ましょういうことで、こんな何か、このぐらいの幅のグレーのテープ、包帯ですけど、あれ何か4、5千円する何か高いの、それをどうするのかなと思ったら、ここ巻いてね、かちんと、ここを完全に固めて、曲がらないように固めて、それで外へ出ましょうということで、そのときに僕ピンと来たんです。これは助かって、足には悪いけど、足や思うたらあかん、これはもう杖や思うたら使えるわという、そういう意識がピンと来たから。それで、そのときから、テープ巻いて、自分で出ていって。F病院の前にバス道へ行く坂道、10メートルほどの鉄柵ついたところ、あそこを、こういう姿勢で足を伸ばして、あそこで行ったり来たり、階段上がったり、おりたり、また夜中に階段上がったり、おりたり、そのテープ巻いて。とにかく、足を杖として考えたときには、固定して、かかとで着いていったら歩けるいうのがわかったから。

娘は妹のところへ行ってた。四條畷のほうへ預かってもらって。家内は、3月ぐらいまでは病院にいたんですけど、おじさん、おばさんらが高齢者やったんで、特に脳梗塞の後で動けなかったんで、仮設住宅1番目で、すぐ近くに当たって。ところが、神戸は空気が悪いから、田舎へ帰れ言われて、田舎の山の中へ帰って、2人とも帰ってしまって。その当たった、そこに留守番で、家内が住み込んで。だから、病院も来ないですし。来よう思うたら来れるんやろうけど、すぐ近くやのに、なかなか来んかった。バスでもね、7、8分もかかれへんのやけど。だけど、絶対に歩いたろうというのと、それから夜、こうやって神戸のまち見て、御影のほうをずっと見えるんですけども、やっぱり被害のひどいところは、その一角は真っ暗なんですね。街頭だけはぴっとついてるから、あの辺はすごいんやろうなと思うて、ずっと見て、あの辺、御影駅やな思うて、7月ごろになったらJRが動き出したんで、夜中に7、8両の電車がすっと通っていくのが見えたり、そんなん見ながら、下見たら、これ気の弱い人やったら、こんなところから飛び下りることもあるやろうなと思うたりね。そんな思いがあったんですけど。絶対歩いたるという思いもあって。

僕は5歳で両親亡くしてるから、親は大阪で大きな商売しとったけども、それで田舎へ、疎開に行って、そのまま居ついて。そこで、田舎やったから、山や川や、そういうのがあるし、仕事も毎日、ずっと子供のときから仕事は必ずしてたんで、そのときについたあれは、田舎の仕事というのはつらいし、百姓仕事もつらいんですけど、仕事や思うたらしんどいだけや、遊びや思うとけいうて、だから工夫して、いろんな仕事の中で工夫入れて、仕事そのものをゲームみたいな、遊びみたいにしたら気が軽うなるいうことを覚えたんで。その辺から、それが随分役に立ってる。だから、今でもきつい仕事ですけども、これ仕事や思うたら文句出る。だから、リハビリに、言うでしょう、リハビリに行って給料もらってるんやいうて、それ考えたらありがたいし、文句はないですよね。リハビリしながらお金もらえるって、こんなことない。見方を変えて、自分が気楽になれば、気楽な方法がある、そういうことも皆に、わかってもうたらというような思いで、僕ぽんと言ったんですよ、H先生の第1回のときに。だけど、あのときに物すごい重かった。7、8人の方が、震災当時、仮設でこうやって、区役所行ってこうやったとかいうのがばっと噴き出てたんで、来るとこ間違ったんかなと、僕の中にはそういう気持ちなかったもんで。2006年の1月ですよね。Hさんの集いで僕としては、頭切りかえて、見方切りかえれば、ちょっとでも自分は気持ち的に楽になれるのになと。これが、あそこは10年間、僕はずっと、あのとき本当に余震の中で、もう救助してる上で、非常階段の崩れたんとか、鉄筋の先にコンクリートがぶらんぶらんしてるような状況の中で、作業してくれたりという思いがあったから、この人らの顔を見てお礼言わなかったら、人間と違うわという思いがずっと僕、しこりになっとって、それがやっと、10年目の8月18日ですか、行くことができて、行ったら、駅まで広報車が迎えに来てくれたんですけど、Nさんが会いたい言うとうから、まずNさんとこへ行こういうてきて、Nさんとお話しして、その後、そこで記者会見。一番先に聞かれたのが、なぜ10年目ですかいうて。

住居をはじめ、震災による損失は、やっぱり大変だった。だから、生活援護資金いうて、何年か後に100万もらったんも一銭も使ってないし、それから借入金も、とにかく仮設が三田の奥が当たって、もうどうにもならなかったから、野田阪神で、ワンルーム借りて、そのときの費用で70ぐらい使ったけど。もう、あとは全部、そっちのほう。

医療費は、E病院で40何万か、部屋、医療費いうても、部屋と食事代とか、そんな費用でしたね。それと、F病院と合わせて、かなりあったけども、田舎のほうから、親戚とか、お見舞いいうんで、結構もらってたんで。

息子は息子で、Tで働いてたんで、Tから、お見

舞金いうて100万もらった、Uから24万もらって、それを送ってきたんですけど、それも100万は全部、6月やったかな、公費で撤去する、ぎりぎりのところで、残ってる人、要するに敷金を満額返せいうことで、敷引きなしという弁護士立てた人もおったし、あと100万…出てくれへんいうので、僕はそれもろうた、息子が送ってきた100万そっくりそのまま。それも僕が出したという形じゃなしに、人が出したというような話になった。大分してから、そのことだけ僕、ちょっと引っかかってて、あのときに、した書類は実はと言おうと思ったけど、金のことはええがなと言われたときに、もう二度と言うまいと思った。だから、もうそれは全然、それは僕らはしようと思ってしたことやから、後悔はしてないけど、自分らは何にもないし。

リハビリが完了して退院したわけじゃない。続けて、自宅でリハビリして、通院しなさいいうことやったけど、それ以後は1回も行けてない。まず、自分が何ができるか思うて、移動するのに自転車に乗ろう思ってね、片足でこげる思って乗ったんですよね、乗ったけど、こっちへ行ったら足がつけないですよね。だから、体から突っ込むしかないんで、もう道路の横の生け垣に何回頭から突っ込んだか。退院してからは、自分の独力でずっと、動けるように頑張った。杖外すのに約2年かかりましたね。

（障害者手帳の取得）

手帳は割と早くにとりました。というのは、退院してしばらくして、うち担当してた、大きな、個人では神戸で一番大きいと思うんですけど、税理士さんに、ばったり出会うたときに、障害者手帳はとれたらとっときよいうて、何かの役に立つやろういうて、とったほうがいいよいうて言われて、申請して、もらったんです。だから、僕がいわゆる役所へ行ったんは、それを申請したときと、それからこっちへ変わってきて、住所変更で行ったのと2回だけなんです。

今は、5級です。2種の5級。お尻の部分も、神戸市に申請したけど、それはだめやいうことで。

しこりが何年あったかな、約4年近く残ってましたかね。それで、4年過ぎたぐらいにだんだんなくなってきて。気がついたら、そのときは、Bの検査終わった後ですかね、自分で、ここで鏡で初めて見たときに、お尻からしわしわの皮がぺろんと下がってる、それを見たときにもう二度と見たない思って。それから10何年ほっとったんです。ところが、そこに、要するに筋肉が溶けたんですね。クラッシュいうのはこのことやなと思いました。筋肉が、これは怪我じゃなしに、完全に壊れたんやというのがね、最近になって、よく自分では実感できましたね。

後遺症と言う意味では、心臓も完全じゃない、昔のこと思うたら悔しいんですけども、やっぱりちょっと負荷かけると、ちょっときついところあるんやけど、でもあえて今、負荷かけようと思ってやってます。この間、ちょっと忙し過ぎて、やっぱりこの辺が痛かった、ちょっとこの辺で限界やなと思うような。元気な人でも限界みたいな仕事をしてますけどね。

今は、医療機関にはかかってない。怪我も強いし、たまたま、ここで風呂で、足の裏の神経がおかしいんで、風呂入った瞬間に、ズドンと滑って、風呂のふちでドンと骨折した。ちょうど震災で折ったとこと同じところを。それで、お医者さんで見て、レントゲン撮ったときに、何や、おまえもう折れてるないうことで。だから、先生2本曲がっとうでしょう言うたら、ほんまやないうて、ずっとわかってたんです。この肋骨が折れたときに何も治療も何もしてない、ただ病院で寝てたから、骨が2本下がった状態で固まってるんで、手でやったら2本分、ぺこっとへこんでた。そこをまた骨折したんで。ちょうどそのときに、実はな、何々先生もクラッシュでということを聞いたから、これ聞き出そうと思って、今度、治ったから、前胃潰瘍があったんで、1回カメラ飲ましていうて。先生忙しいからカメラ飲む以外に話できへん思うて。それで、I病院の先生のことを聞き出して、何としてでも、何人か自分で見つけよう思って。一番最初、Bへ行って、H先生と行ったけども、個人情報の関係があるんで直接、病院から手紙出しますいうことで。出して1年たって1通だけ返ってきたいうて。その1通も、今はそれどころじゃない、自分のことで精いっぱいの状態だというのが返ってきたということで。

8名いて、その8名以外のおばあさんとその場で会わせてもらって話させてもらったんです。その人も会えて、話できてよかったわいうて。その人も、埋まってて、住宅が道より下の石垣の下で、だれも重いから持ち上げることができなくて、最終的にJRか私鉄かわからんけど、保線区の人が来てくれて、おんぶして、持ち上げてくれた言うてました。その方もその保線区の人というのはわかってるけども、それ以後会えてないし、お礼も言ってないので、やっぱりちょっと気になるないうような、そんな話をしたんですね。

（行政に対する要望等）

僕はね、実は、死亡いうてニュースで流れてましたから、田舎のほうで皆心配して、その直後に、今助かりましたいう放送があって、助かったいうことで。神戸で同姓同名7名いるし、10年たって、10年目の8月末に、初めて神戸市の震災モニュメントのプレートを見に行きました。日曜日で、誰もいなかったけど、ずっと探したけども、出てないから、やっぱり自分のことやったんやなと。それからですわ、後に、H先生のことがあって、間違いかなと思ったけど、1年で4回あったんかな、そのうち3回、1回は結婚式があって出られなくて。その第1回目に、ちょっと思って、もう帰ろう思って、終わってすぐエレベーターのボタン押して待ってたら、声かけられて、それでJ先生とお話ししたんです。

それで、何回か、遊びにおいで言われたけど、何回か行ったけど、僕は山側を探してたんですよ、浜側でなしにね。見つけることできなくて。その年の暮れに、読売テレビの取材で、出ましたんやけど、ここへ来てくれはって、人に言えん重たい荷物いうんか、皆持ってるから、特別なことせんでもい

いから、お茶でも飲みながら、なったもん同士でなかったら通じん話がいっぱいあるいうことがわかったから、そういう話ができるような場所をつくってほしいと。ほんなら考えるわいうて、それで3カ月後に始めようということで。

大阪のMBSラジオへ行って2時間ほどお話しさせてもらった中で、おれとしては、もし行政の中に、気持ちの温かい人がおったら、勇気だしで、掘り起こして、今からでも調査してほしいということを、そのとき、何年かな、6年かな、5年かな、あのときにお話しさせてもらって、その気持ちがずっとあったんで。だから、逆に言ったら神戸市で震災障害者が183人という数字出たときに、ああ、やっぱりいはったいうて。それに続いて、兵庫県のほうも調査するということを聞いて。

僕ずっと前に、仕事初めに、県庁が目の前に見えるんで、屋上上がったら、日の丸と兵庫県のマークがぽんと目の前に飛び込んでくるんですよ。早う動いて、早う動いてというような気持ちがあって、ずっとその願いがあったんです。もっと悲惨な人がいるいうことがわかってきたからね。僕もそのことに関心なかったし、自分が障害者でどうのこうのという意識もなかったし。

神戸市が震災の状況では、いろんなデータそろって、世界に誇るデータと言われても、そこで抜けてるところがあるでしょうと、これ埋めて誇ってほしいという気持ちがあったんで。

なかなかそっちの方向に進まない、ほんなら、自分ででも、1人でも、2人でも、わかったら、わかろう思って、まず最初、Bに行って。B動かなかったんで、そこへ1人、2人と、ちょっとずつ、何人か、当たれば当たるほどひどいなと思って、大変やなというのがあって、やっぱりこういうあれは、阪神大震災じゃなしに、次、いずれ来るやろうなと思う意識があって、これがもし大阪とか東京、東京なんかは今、世界で一番危ない都市と言われてますよね、震災に対してはね。そこで起きたらどうするのという、そのとき、また忘れられるのという思いがあったから、これは県や市の人に知ってもらって、東京のほういうか、国のほうへ、こういうことが起きますよということを発信してほしいという思いが一番あったんで。絶対これはせんといかんと思って。だから、職場なんか行って、ひょっと会うたときに、あんたテレビで見たでとか言われるんですけど、僕は、何しとんと言われようと、何しようと、とにかくそういうことを知ってもらって、それをもっと中央のほうに届けるようにと思ったきっかけが、あの市長さんにお会いしたことです。あれが大きかったです。本当に大きかったです。10年の1月ですね。本当にあのときは、大きかったです。たまたま年末の市長さんの会見で、今まで怪我を負われた方に対して理解があったと言えばなかったということをおっしゃったんで、市長さんに今まではなかったとおっしゃった以上は、今理解してもらってると思うんで、この思いを国のほうに発信してほしいと言ったら、その日のうちに言ってくれてたんですね。僕は、あとKさんに、その場で、あれがLさんか何か、1月末の衆議院の予算委員会で、いきなり、当時の防災担当大臣が自分から言い出して、そのときに、ほんならやっぱりあの日に言ってくれたんやというような思いがあって、その後、3月ですか、参議院、この方も10月にお会いしとったんですけども、参議院の災害の特別委員会で、ずっとまたKさんに対して…。これで議事録にも載っとうやろし、いずれ何とか、少しはという思いがあったんと、その年の暮れにね、静岡テレビ、SBSの静岡放送が取材に来てくれて、僕にしたら、できるだけ東京に近いほうで伝わってほしいという思いがあったんで、あのときに、いろいろ取材、お話しさせてもらって、SBSは、静岡県の県の危機管理何とかに、震災障害者って知ってますかということをぶつけて、それ知らんいうことで。静岡は東海地震の危機管理で、TOUKAI－0作戦というのがあって、通算で1兆何千億かの予算で、ハード面でつぶれないという方法をやってるけども、ソフトの面では考えてなかったと。だから、そのことが神戸市さん、調査されることを参考に、そういうことが起きた場合に、何か特別立法でもいいから、とにかく対策できるような方法は考えておきたいというような話されてた。やっと東京にちょっと近づいたかなという思いがあったんですよね。

だから、今、自分がつらいという思いよりも、何か知らん、こうやって市も県も動いてくれはったし。この間、兵庫県が世界の災害ロールモデルってのをやってました。知事がチャンピオンやという。そういうことであれば、どんどん、そういうことを東京のほうにも、世界にも機会あればアピールしてほしいなと思いがあったんです。だから、そういう意味でも、余計知ってほしいという。僕は本当にね、市長さんに会えたことと、知事さんがそういう動きをしてくれたということは、物すごい、気持ちの中は平和…。まず、そこまでいった。今度は、一人孤立している人のお話のほうへ行こうかなと思いますね。自分自身の体験ですけども、なってない人と話してても、なかなか本当のあれが通じにくいというのは、自分でも体験してますし、だからなったもん同士だったら話が通じるという思いがあるんで。だから、そういうところから糸口見つけて、つながりつくっていって。人数も少しふえてきましたけども、だけど、よろず相談室が、泣いてもいい場所や言う人もおるし、いろんな意味で。今、本当によかったなと、やってよかったなと思いますよね

今、百貨店の警備をしています。それまでは24時間勤務があったんですけども。24時間は今してない。15時間で。僕の気持ちとしては、理解がなかったとおっしゃった市長さんが理解してもらったということは物すごい大きなことで、すぐ動いてもらったということでは、物すごい感謝してますけど。

それで、知事さんのほうも、なかなか腰が重いようだったけども、何か、後で聞いたら、身体だけやないやろうという、知事さんからの言葉があって、ほかも調査というようなことも聞いたんで、ああ、ちょっと理解してもらえたなと思いますし。やっぱり、チャンピオンとして頑張って、それでまた、すぐこう

いう海外でも、災害というのは起きるし。大阪、東京だって、いつね。

(現場の写真を見ながら)

これね。表から見たらこんなんで、もう地面までついてるんですね。これ、2階が、歩道ですけど、地面、ここまで。ここ2階の下です。こんな状況で。これがね、畳、こうおりてるから、床が抜けて助かった思ってたんですけども、実は違っていて、これがこうでしょう、これがレスキュー隊が引き抜けないんで、奥のほう、穴掘って、ここから床下に入って、床下の柱を切り落として、床を落として抜いたということなんですよね。 だから、何で僕、畳がこう下がってるから、これで助かったんかなと思うてたら。これ畳ですよ。この大きいの、畳で、ここからぽんと下がってるから何でかなと、床抜けたから、ちょうど家内がこのスペースにいたんで。その床切ったのが、ここ、レスキューが穴あけて、コンクリートの穴あけてとった部分で、それで、足がつぶれて、ついとうでしょう、こたつが。僕が載ってる足元はこたつの毛布で、これもうこたつが地面についとんでね。だから、前はごっつい下がってるんですよ。これですねん、これがバタンと来て、これが壁、15センチの壁か頭の上へ落ちてきたから、この間です、この奥の。この本箱と板とに挟まれて、抜けなくて、この毛布が口にかかってて。ずっと、足元のほうは、こんな状態で、がらがら。だから、足が伸びなかったいうのは、こういうもんが引っかかってた思うんですよね。反対側から撮ったら、こんな。

これは娘が撮りました。白い目で見られた言ってましたね。レスキューがね、ロープかけて引っ張ったのは、これなんですね。こういうものが通路に落ちてるから、普通の人ではどうしても手のつけようがなかったいうことで、これをカッターで切って、これにワイヤー、ロープかけて、それで、僕は手で引っ張った思ったんですけど、向こうへ行ったら、ウインチで引っ張ったと。これはワッショイ、ワッショイいうて、そのときに、何てあれなんだと、これが僕が出してもらったとこで、この奥から穴掘って、床落として、隙間つくって、挟まれてるから、床落として抜いたって。穴が2つあいてるんですよね。僕はこれはレスキューに会うまで知らなかって。ああ、あれは我々が落としたんです言われて、えっと思った。

それから、荷物を、ガッと放り出した、押し入れのやつをどんどん、みんな放り出して、こうしてるんで。これが壁で、横の壁が頭の上に落ちて。これが2階の梁なんですよね。こんなごっつい梁が、この上にドンと載っかってるんで。これは、ちょうど頭の上、この辺で梁が落ってきとんですよね。よう娘が撮ってくれたなと思うて。これが奥で、これが20センチの本箱で、これがよくつぶれなかったなと思うて、つぶれとったら、頭もつぶれてるけど、本をぎっしり詰めとったから助かったんやなと思いますけど。

これが押し入れのカバーですわね、これでバーンとはじけ飛んだんで、この奥におるいうことが、これで自分の位置を説明したんですけども。

レスキューの人が作業してるの、これか、本当に命がけやったなと思うのがあるんですよ。それで申しわけない思って。我々田舎なもんで、コンクリートのビルからは、初めてですとおっしゃった。どうして来てくれはったん言うたら、田辺から、神戸に3カ所から煙が、天気よかったからね、Pに友達おるし、行こうかいうことで。

これ(ジョイフルコンサート招待状)、本当に、皆さん、来なかった人も多いんですけどもうれしかった。僕見てて、これが現物かな。ここにね、1,000円いうところをテープ貼ってね、無料招待と書いてね。Uさんはこれでね、来てくれてね。それでよろずにつながってくれはったからね。本当にこれは皆さん。やっとわかってもらえたいう方が多かったみたいで。だから、こういうことに動いてもうたMさんか。やっぱりきちんと、忘れてないというメッセージ。やっぱり行政の中には温かい人おった、それ、物すごい、どういうんか、自分の中では大きかったですね。

震災障害者－10

項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月28日（月）
	面接対応者	本人、夫
基本属性	性別	女
	年齢（調査時）	76
被災状況	被災場所	東灘区御影
	家屋被害	全壊
	家族の状況	夫は旅行中
負傷の状況	救出されるまでの時間	3日
	診断	右挫滅神経損傷、右臀部圧挫症候群
	障害の程度	1級（先天性聾唖あり）
	搬送・転院などの経緯	S病院に1ヶ月間入院。その後中央市民病院に転院し、1年間ほど入院し、リハビリを行う。
仕事		店が全壊したため、夫が理容店をやめる

主な発言

○ 夫は旅行中で、一緒に旅行していた人から自宅が倒壊したことを聞いた。

○ 本人は3日後、自衛隊員に救出された。

○ 本人はこたつで就寝中、倒れてきた家具でこたつが潰れて腹部から下半身を挟まれた。

○ リハビリは最初痛くて辛かったが、続けていくうちに少し足が上がるようになった。

○ 病室では本を読んでも作り方が分からないという人に、折り紙を教えていた。医師も感心していた。

○ 行政に対して何かしてほしかったということはない。

○ 障害者手帳は震災半年後の7月に取得した。

震災障害者等　インタビュー ⑩

日時：平成23年2月28日

（本：障害者本人、夫：本人の夫）

（震災時の状況）

本　震災の当日は、東灘区御影に住んでいました。

夫　理容店をしていて…自宅が2階、店が1階にありました。
2階に寝ていました。文化住宅の1階が潰れて、3人の方が亡くなりました。妻は、散髪はしないけど、店を手伝っていました。 家族は亡くなっていません。私は、理容組合の聞こえる人たちと一緒に13人で日本海の方に旅行に行っていて自宅にはいませんでした。朝4時ぐらいに目がさめて少しゆれるような感じがあり、あとでテレビを見たら、神戸の町が燃えているところが映っていた。一緒に行った人から、自宅が倒壊したと聞いたんです。ほかの人たちも心配していたがJRも動いてなくて、帰れませんでした。
自宅が倒壊したので観光もする気にならず、バスもなかったので、温泉宿のバスが借りられないかと相談して、温泉宿のバスで神戸まで帰ってきました。
途中ひどい状態だったのを見てびっくりしました。御影までバスで帰り、みんなと別れて自宅に帰った。妻は死んだと言われたが、1階が潰れて死んでいるかどうかわからないので、中を見てみようとしましたが、中に入ったらだめだと言われ、仕方なく何もせずに待つしかなかった。3日後中に入れるようになり、自衛隊の人が「奥様がいるのはどの辺か」と聞かれて、場所を教えて、妻の手が見えて助け出された。

本　朝早くに足の上に重いものがあり、自分では持ち上げられなくて、男の人が見えたときは、何か言おうと思ったが、目に何か入って、見えなくなったらだめだと思い、仕方なく目をつぶっていました。
死ぬのだと覚悟はしていたが、だれか来ないかと思っていましたが来ませんでした。姿が見えたりしたが言えませんでした。だから手を出していました。聞こえないのでわからないです。だれかが見えたら声を出そうとは思っていましたが、目をつぶっていたので、聞こえないからわからなかったです。聞こえる人なら話し声が聞こえたら声を出すことができたと思いますが、目をつぶっていましたので声は出せませんでした。今、夫から3日間と言われてそうだったと思い出した。その後病院に行きました。

夫　手術して13針縫いました。腰が一番ひどいと言われた。5日後B病院に行きました。家族の私が付き添って行きました。
先生が毎日膿を出し、骨が見えるまでになりました。左太ももの皮膚を腰に移植しました。

本　治ったのはよかったのですが、歩き出したら冷や汗が出ました。少しずつ歩く練習をして歩けるようになりよかったです。
レントゲンで調べると、臀部が曲がっていると言われた。本来なら外側に曲がっているのが、そったように内側に曲がっている。座るのがしんどい。同じ姿勢でずうっと座っていたらしんどいです。背中も縫っています。右足は硬くなって冷たいです。

夫　閉じ込められたときの状況は私も聞いているのでお話しします。帰ってきて聞いた話です。こたつに入っているのが好きで、こたつで寝ることもあるので、暖かくて金額が高いものを買っていました。そのこたつ板が重かったんです。妻は当日もこたつに入って寝ていました。

本　こたつの上に家具やいろいろなものがのってきて、こたつがつぶれて、たたみもつぶれました。それが重くて動けませんでした。足だけでなく、腹部からはさまれていました。

夫　うじ虫が傷口あたりにわいていた。先生が黄色い膿を出してくれて、ようやく治ったんです。

本　助け出されるまでは、夢うつつに山に行って楽しかったことなどを思い出していました。眠ったらいけないかなと思いながらも疲れると眠り、また、気がつくといろいろなことを考えていました。悪いことでなくいいことを考えようと思っていました。もう死ぬと思っていたのですっかり意気消沈でしたが痛みはわかりませんでした。珍しいのでしょうか。全然わかりませんでした。

（救出されて入院）

夫　長い間トイレに行っていなかったので、いっぱいたまっていて、病院で一度に排泄をして、シーツ等が汚れ変えてもらいました。C病院に最初に運ばれ、2番目がB病院でした。C病院は人がいっぱいでB病院に行ってくださいと言われました。C病院には15日くらい。5日間は食べられなくてずうっと点滴をしていました。その後先生に呼ばれて、腰の状態がよくないので大きい病院に行った方がいいと言われ、救急車でB病院に運ばれました。B病院には、1年いました。治療は、実際見ていないので、よくわからないです。膿を毎日のように先生が出しているということは聞きました。

本　私は病院では疲れて、ずうっと眠っていたのでよくわからないです

（仮設住宅へ入居）

夫　西区の仮設住宅はとても寒かったです。雪も積もっていました。1年後の正月に一時帰宅し、その年の6月頃に退院しました。西区の仮設住宅は寒いのでポーアイの仮設に変わりました。4月頃です。
西区は2年間いた。2年後にポーアイに変わりました。私はポートライナーが動かなかったので、三宮から長蛇の列に並んでバスで病院に毎日行っ

ていました。朝5時頃家を出て、三宮6時ぐらいのバスに乗り、帰りは5時か6時ぐらいのバスに並んで乗り、自宅に帰るのは8時ぐらいになりました。

本　病院の有料ベッドで泊まってもいいと言われたが、夫は毎日通っていました。

夫　お正月は西区の仮設住宅に一時帰宅し、退院したのが6月。そのときは中央区の仮設住宅に引っ越していたので、中央区の仮設住宅に帰ってきました。妻は西区の仮設住宅には、お正月の5日間だけ一時的に退院して帰っただけで、住んではいません。

（リハビリの状況）

本　地震のときは、腰が圧迫されて痛んだ。
骨は悪くないと言われました。足首は動かなかった。毎日リハビリをして、B病院でマッサージもしてもらいました。そのままにしていてはだめだと言われマッサージをしました。自分でも動かしています。
最初リハビリ室に行き、ポールをもって、車いすから立ち上がるリハビリをしました。1ヶ月、2ヶ月するうちにどうにか立ち上がって、少し進めるようになりましたが、すぐに座り込んでしまうという繰り返しでした。
足が上がらなかったが、職員は忙しそうなので、自分で足を持ち上げたりして、リハビリを続けて、少しは自分で持ち上がるようになりました。
それから椅子の高さを変えて、だんだん低くするリハビリもしました。一番ひどいのは右足です。医者には、血が通っていないので、血が末端までいかないんだと言われた。よくなりますかと聞いたら難しい、長くかかると思うと言われました。薬を飲んだらいいと言われて、ずっともらっています。リハビリは、最初は痛かったです。少しずつよくなりました。先生に治りますかと聞いたら、もう年だからなあと言われ、薬を飲んでくださいと言われました。リハビリのときは、散歩に行ったり、買い物に行ったり、つらいときは気持ちを変えたりしていました。少し我慢しました。あとは、折り紙をしていました。入院時、新しい本を買ってきた人がわからないからと言われ教えていました。
みんなわからないのが不思議だなあと思いました。
折り紙をしていたら同じ部屋の人が欲しいと言われてあげたり、作り方を教えたりしていました。新しく入院してくる人がそのたびに教えてほしいと言われ、いろいろな人に教えていました。聞こえないから自分で考えて折っていましたが、先生が脳の刺激になっていいからどんどんやりなさいと言われ、ぼうっとしていたらだめだと思い折っていました。先生も折り紙を見てびっくりされていました。
（16日の旅行の写真、病院、理容店、仮設住宅、店の近く等の写真を見せてもらう）

本　入院中は今後のことを不安には思わなかった。入院中主人は毎日来ていました。朝来て、夜帰っていました。兄が夫は理容師の仕事を探したらいいと言われましたが20代、30代の若い人だったら探したらあるかもしれないが、もう70なので仕事はありませんでした。

夫　妻の兄に妻のことを助けてやってくれと言われました。私は掃除、洗濯、風呂掃除をやっています。妻は料理だけをしている。買い物も手伝います。私がいないと妻は荷物も持てないので困るのです。

本　週に4日間買い物に二人で行きます。足りないものがあれば夫に頼んで買ってきてもらいます。不自由だなと感じるのは、荷物が持てないこと。左手では持てますが、両手には持てません。退院したときは松葉杖だったので大変でした。重たいものを持ったら痛いです。立ち上がるときには違和感があり、少し痛いです。あと寝返りするときに少し痛みがあります。潰れてしまったので痛いのだろうと思います。
今は、3ヶ月ごとに通院しています。最初は1ヶ月ごとで、次に2ヶ月ごとになり、今は3ヶ月ごとになりました。手帳をいつとったかは忘れました。手帳を見たら書いてあります。平成7年7月5日だから、震災の半年後です。右坐骨神経損傷右臀部圧挫傷、これは要するに座滅症候群、圧挫症候群による右下肢機能全廃、これは2月3日の段階。身体障害者1級。2種の3級で聴覚障害で1級です。

夫　震災の時は、医療費は払っておりません。重症患者の見舞金というのは知らないです。他に住宅のこととか、住宅の貸付とか、家のこととか、そういうのは使ってないです。

本　今は、早くは歩けませんけど、ゆっくりでしたら歩けます。無理だとは思わなくて、仕方ないと思い、ときどきリハビリをしていました。

（仮設での生活）

夫　西区は寒かったですね。ストーブで温まるだけぐらいでした。周りでは亡くなった方もいました。妻はお正月5日間一時帰宅し、寒いのはいやだからずうっとこたつに入っていました。退院してから中央区の仮設住宅に帰ってきました。

本　困ったのは、市営住宅がなかなか当たらなかったことです。仮設住宅のときは車いすでした。車いすで道路に段差があったりして困りました。

夫　一番困ったのは、妻の車いすを押していると、痛いというので聞くと、段差があって、がたがたして傷にひびいて痛いということでした。家の中は車いすではなく、ゆっくり歩いていました。

本　仮設にいた頃は惣菜を買ってきて食べていました。ずうっと立っていると腰が痛いので料理はしま

せんでした。今は大丈夫になりました。今は夫が料理をここに運んでくれます。

夫　（写真を見て）市営住宅に引っ越してきたのは、'98年4月10日です。仮設住宅の冬は畳からも冷気が入ってきて寒かったです。今は普通です。今困っていることとしては、足の痛みがとれない。年だから無理だと言われていますけれども、致し方ないと思っています。

本　痛み止めは、朝晩2回飲んでいます。
今の楽しみは、特にありませんが、退屈しのぎに折り紙を折ったり、買い物に行ったりしています。遠くは行けないので、近くを歩くのはまあ楽しい。

（行政に対する要望等）

夫　行政に何かしてもらったかということについては、詳細は妻の兄はわかっているが、私はよくわからない。行政に対して何かして欲しかったということは特に思いません。
私は仕事がしたいということだけです。今は生活も大変なので倹約しています。神戸市に不満はあまりないです。

本　夫は友達が誘ってくれるので、出かけてきたらと言うと、ときどきは友達と会っているようです。私は家にいます。
私も神戸市に不満はないです。
16年間怪我をした人に対して何も注目してこなかったことについても何か言おうとは思わなかった。
もし、2、3年後足が悪くなって、車いすになった場合、買い物に行くときなどどうしょうかなあと思います。
家を変わりたいです。車いすでも行ける便利な場所に引越ししたいなあと考えています。 六甲道のあたりがいいなあと思います。今、よくなって買い物も便利でうらやましいなあと思っています。便利なところだと、スーパーで夕方値段が安くなったものを買うこともできます。夫はしんどいので、私が一人でも車いすで行けるような便利な場所に変われたらなあと思います。
以前は自由にどこにでも行けましたが、今は行けないです。夫と一緒に歩くとすごく遅れてしまう。夫は早く、私が遅いのでがみがみ言うんです。私がゆっくり歩くのでおもしろくないようです。一度あまり早く歩くので、いすに座って待っていたことがあります。夫は気がつかずにどんどん歩いて、ずうっと後で戻ってきたことがありました。そのときも痛いと言ったんです。

夫　そんな時でも喧嘩はしません。

本　夫はがみがみは言います。

（現在の生活について）

夫　もし、怪我をしていなかったら喧嘩をしますが、怪我をして気持ちがわかるので怒ったりはしません。中央区は親戚も知り合いも少ない。六甲道、東灘には親戚がたくさんいるので会える。妻は東灘の方に引っ越したいと言っています。ここは東灘には遠いので。

本　震災により死にたいと思ったことはこれまでありません。夫が優しかったからなのかどうかは難しい。口ではがみがみ言うんですよ。

夫　結婚したのは私が31歳のときでした。

本　私は27歳のときで、私は結婚したいとは思わなかったんですが、父が探して、私は文章力もないので、結婚してやってくれと頼んで、私に結婚しなさいと強く言われて結婚しました。私は別れてもいいよ、聞こえる人と結婚したらいいよと言ったりしました。

夫　私の仕事ぶりがまじめだったことを父親が聞きつけて、私に白羽の矢が立ったようです。

本　私はわかりませんけど。

夫　以前は喧嘩していましたけど、今は黙っています。

本　すごく頑張って大変なことをすると動悸がしたりしますが、今はゆっくりしているので大丈夫です。二人とも死んだら、この家はどうなるのでしょうか。財産はありません。家具やこの家にあるものはどうなるのでしょうか。兄が持っていったりするのでしょうか。
長い間座っているとかたまってくる。立ったり座ったりしたら大丈夫です。

夫　3月7日Fに散髪のボランティアに行きます。交通費はもらうが、謝礼はないので、妻はふくれて、やめろと言うんですが、かわいそうなので1ヶ月に1回行っています。
若いときに神戸市理容コンクールで賞をもらい、技術を磨いてきました。他のろうあ者は技術的には未熟だと思っています。私は聞こえる親方から厳しく教えてもらいました。最初は家が潰れてどうしようかとつらかったんですが、技術がもったいないと言われて、今はボランティアに行っています。仕事を探したいけど。以前はいろいろありましたが今はありません。毎日やっていたら技術も上がっていくが、1ヶ月に1回だけではねえ。

プロフィール

震災障害者－11		
		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月8日（火）
	面接対応者	本人、妻
基本属性	性別	男
	年齢（調査時）	66
被災状況	被災場所	長田区海運町
	家屋被害	全壊
	家族の状況	道路向かいのアパートで娘夫婦と孫2人が死亡
負傷の状況	救出されるまでの時間	覚えていないが昼頃
	診断	右腕骨折
	障害の程度	3級
	搬送・転院などの経緯	娘等の葬儀を優先させたため、6月にS病院で手術
仕事		右手が使えなくなったため、社内で職場も変わったが、結局(平成12年ごろ)会社を辞めた。現在は年金生活

主な発言

○ 地震発生時、本人はクレーンが突っ込んできたような衝撃を受け、妻は何も覚えていない。

○ 埋まっていた本人（がれき）の上を、担架で人を運んでいる最中の人に助けてもらった。

○ 2階の押し入れに「非常時持出」を用意していたが、何の役にも立たなかった。

○ 毎年1月になると震災を思い出して体の調子が悪くなる。

○ 震災後の火災で証明書等が消失したため、本人の証明ができず、子、孫の死亡証明をもらうために長田や須磨、兵庫と歩いて移動した。あの時は行政等に臨機応変な対応をしてほしかった。

○ 手は手術後も、痛みやしびれが残っていて、変形している。

○ サインもできない。箸も使えないで外食に行くのを嫌がるようになった。

○ 本人は死にたいと思ったことはないが、妻はあった。

○ 震災時は、女性のために公園などトイレの整備、飲み水、消火用の水の確保のほか高層ビルのガラス破損防止が必要。

震災障害者等 インタビュー ⑪

日時：平成23年2月8日

（本：障害者本人、妻：本人の妻）

（震災時の状況）

本　震災時に住んでいたのは、ここから10メートルぐらい隣。

妻　悩みましたけど、どこにおっても、この子たちに対しての気持ちは一緒だということで、思い切って戻ってきました。

アパートもありましたし、個人の家もありましたし、3階建てぐらいが一番高いぐらいですかね。2丁目、B病院がありましたけど。私は、一軒家に住んでました。一応、終戦後の2階建てでしたけど、そこへ引っ越したときには3戸でしたけど、震災のときには、上もなくて、上の2戸もなくて、下が私どもの借家です。住んでるところ自体は新しくしてましたけど。2階建てのお家の1階に住んでました。震災があったときには、2階もあったんですね。2階もありました。2階も空き家で、引っ越した後やったんや。

本　上に借家が2軒あったんです。1階　おれら全部借りとったから、たまたま上の2軒が引っ越しておらなかったんや。僕は、夫婦だけで住んでました。

妻　震災のときには、もう夫婦だけでしたけど。

本　隣が娘の家やったから。

妻　隣っていうんですか。

本　こう、路地があって、隣が娘の家で。隣っていうんですか、路地ありますね、南北に。そしたら、娘の家は、路地があって、こっち側に、西側に娘の家族が、そこもアパートですけど、下に娘の家族4人で。

妻　一番ひどかったですけど。

本　もう何にもないもん、燃えてもうて。当日、僕は、起きてました。起きて、トイレに行って帰ったときに、クレーンが突っ込んだ思うたんや。道路わきやから。よう、しょっちゅうクレーンが通るから、ちょうど、こういう傾斜があるところだからね。鉄橋ありますやろ、あそこ。あっこの、ちょっと上り坂、やっぱり駅のほうに。そやから、クレーンが突っ込んだ思うたんや。ゴーッいう音で、ブームが突っ込んで家を持ち上げた思うたんや。

そしたら、一瞬光が入ったんや、こんな、バーッと、光が、それでドンいうて、クレーンが持ち上げた思うたんや、ブームを突っ込んで。それで、持ち上げたときに、洋服ダンスから、皆飛んだんや。ガッと持ち上げたときに。

妻　私は地震があったことも知りませんし、自分の気持ちの中では、その時点で仮死状態になってたと思います。地震があったこともわかりませんし、目が覚めたら、全く体が動きません。後で聞いた話で、今、この人が言ったように、洋服ダンスの前に足をして、南のほうに頭して寝てましたから、洋服ダンスがあいて、それに私が入るというか、押さえられてるのを見て、家がドサッと落ちたらしいんです。それで2人とも、全くの下。

本　うちね、昔の8畳2間ぐらいの大きな家やったんや。8畳間におれ寝とって、昔の6畳間やから、はっきり言って12畳ぐらいあったんかいな、ごっつい広い家やったから、そこへ洋服ダンスがあいて飛んできたもん。

妻　はまったらしいんです。私はそれを知りません。

本　おれ見たんじゃ、それを。だから、ボコッとクレーンが2階部分を持ち上げた思うたんや。こっちから全部入って。それで、音が何か、ウワーッ、何かタイヤが滑るような音だったんや。ゴーッいうてきて、光も入ってきたんや。入るのを見た後、覚えてない。

妻　私はそれは知りませんわ。仮死状態になってたと思います。全く、地震があったとも、何にも。目が覚めたら、ただ、ただ、こうして寝とったから。

本　洋服ダンスか4つぐらいあった。

妻　私自身は、向こうの部屋にあった自分の洋服ダンスがあいて、入ったんだか、足元にある、この人の洋服ダンスがあいて入ったんだか、それも全く、私自身は全く。

6時前っていうけど、あれ5時46分ですよね。

本　だから、もうおれは早う起きとったんや。もう朝めし食べんで行く。小便して、起きてきて、もう寝えへんのやから。そしたら、ゴーッいう音がしたんや。地震が来るちょっと前に。ゴーッと音がしたんや。だから、タイヤ、クレーンが、道路の横やから、それは失礼な話やけど、建設会社のクレーンがね、空滑りさせた思うたんや。クレーンがよう通る時間やから。

妻　よう通ってたからね。

本　何にもないから、9丁目に、駅のほうにこう、何もないから、クレーンがよう通るとこだから、タイヤ滑った思うたんや。そしたら、ゴーッいうて光がいっぱい入ったから、ライトが入った思うたんや、クレーンのライトが。それから、ドンと持ち上げたから、ブームでクレーンが2階を持ち上げた思うたんや。

かなり持ち上げたんや。2階の分を皆持ち上げたような感じやったんや。そしたら、洋服ダンスや魔法瓶が飛んだの覚えてる。あっ、こいつ洋服ダンスの中に入った、あんな腐れクレーンは思うたんや。後はもう、ドンいうて、記憶はないねん。

本　ほんで、おれが気ついたのが、洋酒をいっぱい置いとったんや。

妻　お酒を。この部屋で寝てましたから。私はその洋服ダンスの前だから、この洋服ダンスだと思います。次の部屋に、また私用の洋服ダンスがあったから、それかどっちかは私はわかりませんけど、この人が言うのはこれだろう。

本　とにかく洋服ダンスに入った。

（救出の状況）

妻　助けられた時間は何時かもわからないんですよ。眠るときに時計外すから、全然。

本　そこのB病院の人をね、わしらは下や、その上を担架で運びよんや。それでおれは目覚めたんや。ほんと、物すごく洋酒のにおいがふわっと鼻へかいだんや。それで、おれが目覚めて、オーイ、そのときは、多分、あっちこっち折れとったかもわからん。

妻　家自体がもうぺちゃんこでした、2階建ての家が。

本　その上をB病院の人が全部移動しよったわ、担架で。わしらの上を。それで目が覚めたか、わからへんのや。
目が覚めて、気がついだときには、オーイ、オーイ言うたんやけど、上から、何か担架でね、こっち危ない、こっちからと言うのを聞こえたんや。そしたら、オーイとわしが言うたときに、おい、誰かが、下に人がおるみたいやいうて、助けてもろうた。それが何時かわからへん。多分、昼ごろと思う。

妻　全く時間、自分が助け出された時間、全くわからない。

本　ある人が言うのは、おれの兄貴は、仕事に行って、王子動物園で地震、そして帰ってきたんやて。

妻　どうして行ったかわからんけど、塩屋から国道を通って向こうへ行きますよね、東の方に。

本　そしたら、王子動物園のときに地震があって、それで帰ってきた言いよった。

妻　昼前後じゃないかなと、後で考えたら、その日1日が、晩が来るのが、ちょっと長く感じたというか、それも後での、そのときはただ、ぼうっとしてるから。

本　塩屋とか、友達が自分ところを出てから、何時間かしてからうちや。自分とこを出てから。だから、わからへん。多分昼ごろやと…。

妻　昼前後じゃないかな。すぐ夕方にはなってないから、多分昼前後じゃないかなという感じはします。

本　うちのやつが洋服ダンスに埋まっとうからって言うたら、全然、誰も誰もわからへんのやからね。通る人に言うんやから。身内じゃないから。誰でも、誰でも助けて。そしたら、うちのやつがおる言うて。そしたら、オーイ、オーイ言うたら、コン、コン、音したんや。そしたら、何か地震、まだ震度3とかのがあるときに、引っ張りだしながら、そしたら洋服ダンスの底が見えたから、おれが足で蹴ったんや。もうそこに入っとるのわかっとったんや、おれ。

妻　オーイ、C、地震があったけど、おまえ大丈夫かと言うて、声が出てるんだか、出てないんだか、要するに、洋服ダンスの中で埋まってるから、出してるつもりだけど、声が全く相手に通じなくて。

本　手はずっと冷たくて。だから、つかまれへんもん。

妻　左は大丈夫なんやけど。逆に、夏は熱くなって、一升瓶か二升瓶ぐらい下げてるような感じだと本人は言うんですけど、私にはその感覚はわからないんですよね。

本　そしてね、助け出してもろうたのは…。

妻　何時かわからん。

本　わからんな。

妻　そして、娘のとこをこうして向いたら、娘のとこがもう完全に…。

本　妻が出てから、娘の家や。

妻　多分気絶というか。立ち上がり切れませんでしたよ、もう。歩き切れなくて、半分こうして引きずり出されて。

本　おれが手で引っ張りだしたのは間違いない、足をな。靴下と靴だけ取ってしたのは覚えとんや。それから、通りがかりよる人に、おれ、年金手帳とかある、貯金通帳とかは、肝心なやつはそこに入れとうから、鞄が見えとうから、あれ引っ張り出してくれいうて、それだけ取ったんやな。後は…。

妻　17日ですよね、その1週間ぐらい前に、この子たちが、明石のばあちゃんとこへ出かけるいうて、1週間ぐらい前に写したフィルムを鞄の中に入れて、下げておいて、そのフィルムがこれなんです。娘が31、上の孫が今年25、下が23。フィルムが、それだけ取れたんです。

本　家族ね、息子は西宮で、娘はそこにおって、いざ地震があったら大黒公園に集まるようにという、平生からして、2階の押し入れに、コッペパンとか、いろいろ薬とかして、鞄置いとった。

妻　何の役にも立ちません。いざ言ったら、ほとんど

何の役にも立ちません。

本　電池もみんな、ラジオも鞄に入れて。それで何の役も立たん。
　だから、外に埋めるんやったらできるけど、いざというときは、絶対に何にもできへん。自分が大事。

妻　命が先大事。こうして見たら、娘のとこ、こうしてるから、ただ呆然と、この人の友達がおって、来たときには、自分たち来たときには、この子たちの家のほうを向いて、ただ口あけてボーッとして座ってたって、それ自分ではわからないんです。

本　嘘ではないけど、ほんまのこと。お財布、免許証、お金も全部、枕元に置いとうけど、それも取れん。

妻　とにかく命ですね、まず。それ以外に何にもない。

本　はっきり言って、上を人が通らなかったら、2人は焼け死んどんや。

妻　この人がまず生きなかったら、私、あっ、人生これで終わりだなと一瞬思ったんですけど、この人が、オーイ、オーイ言うて、何かないかしら思うたら、ちょうど…それが響いた。

本　隣のおばあちゃんと娘さんがおったんや。その人は、ちょっと中入っときなさいいうて、よし、毛布ある言うたら、毛布あると。それでかくまとってくれいうて、ガラス窓をポンと割って、そこから2人は出た。助かった、隣の人は焼け死んだわ。もうAさんいいから逃げていうて。いうことは、わしら、何時、だからそれから見たら、やっぱり昼過ぎなんやな。

妻　何時か、いまだに、これは永遠にわからないと思います。

本　孫はね、1人はきれいなまんま出た。あとは、出なかった。娘婿が、押さえつけられとうから、火が来たもんやから、もういい。もうあしたしようと、燃えてからしようと、そういう感じやった。

妻　そうですね、家の玄関の路地挟んで西側のほうに。ここは、火が来たのは、その日の晩だと思いますけど、とにかく、出せませんから。上の子が小学校2年生でした、そのときには、上の子が、その子だけきれいなまんま出してもらって、その子の遺体とずっと…。

本　これ残すから言うけど、本当は、そういう思い出したら、まだ胸が痛む、寝れんけど、これは記録に残すんやから、言うんやけど、はっきり、地震とか何とかになったら、自分が先や、その後、嫁さん、それから子供や。夫婦、年とって、お互い何やかんやいうても、同じ家におったら、息子や孫は第二や、横におった人や。確かに、入るのを見たんやから。それからや。だから、お金とか何とかいう問題じゃない。おれ、2人、親子4人、平生から言うとった。地震でもあったら、大黒公園へ集まろうと。どっこにおっても、そこで会う、何かあってもそこにおれと、そういうあれを出して、パンとか、薬、ラジオ、みんな鞄に入れて置いとった。いざというときは、それも取れん。薬もお金も、そこに、その鞄の中に、嘘じゃない。2万円ぐらい入れて、ちゃんと平生から用意しとった。
　地震によって、うちの場合は、ドン、ドンやから、おれ起きとった、立っとった。それで、自分がね、重機に乗っとうから、クレーンかブームを曲がりそこねて持ち上げた思うたんや。ドンいうて持ち上げた、下から突き上げたから。

妻　私も、だから、この人が目覚めなかったら今ないですよね。それで丸16年過ぎましたけど、夫であるけど、命の恩人ですよね、火が出たのはね、夕方頃です。

本　もうペッシャンコ、もうほんまの、要するにドーンと、2階が1階と、何にもペシャンコやもん。言うて悪いけど、このぐらいの隙間から引っ張ってもろうただけ、洋服ダンスもな。

妻　誰がだっこして、誰が連れていったか知らないけど。

本　おれ片一方の手で引っ張っていったぞ。何か毛布に置いて、おれ引っ張っていったんや。

妻　成松保育所に2人おって、どこ行ったかわからなくて、それから鷹取中学へ行って、鷹取中学から須磨の区民会館の4階に、もう番号ですよ。はい、何番さん、何番さん。

本　それやけど、この子を出したときに、毛布に絡めて、道路の横に置いて、毛布もうなくなっとうからね。あと、親子3人がまだやからな、そんならその間、それでもう火が出てきたから、もう皆、そのまま行ったからな、その子を引っ張っておれが行ったんやで、片一方の手で。

妻　娘の家族、今回17回忌で先月、鹿児島県の鹿屋市なんですよ、娘婿が、私どもは徳之島出身ですけど、娘婿が鹿屋市で、この16、17、18、19と3泊4日で、17回忌でちょっと行ってきたんですよ、先月。

本　13年間、毎年行っとる。ここへおりたくなかったんや。

妻　受け入れる受け入れない関係なく、もうその次の年から毎年、向こう、娘婿のところもいろいろ都合もあるし、迷惑だったかもしれないけど、おりたくなくて、13年間、毎年そっち向かって行ってました。おりたくなくて。

本　今年は、17回忌やから、言うちゃ悪いけど、こうし

て亡くした人は、今、親が亡くなっても、何年たっても、命日が来たら思い出さんことはないけど、やっぱりこの子らの場合は、毎年国とか市がしてくれるから、今、はっきり言うて今、お祭りみたいに。だけど、実際にわしらにしたら、年1回思い出すわけよ。だから、これはあってはならないことや、これからも。やっぱり痛くなる、胸が。それもありがたいことやけど、今でもやっぱり1月には体の調子が悪くなる。頭も、体じゅうがおかしくなる。

妻　それぞれの思いは、それぞれ皆違うから、でも、悲しみとか苦しみは一緒だと思います。1人とか、4人とか…。

本　僕も、この17年間、まだずっと医者に世話になってね、リハビリにまだ行きよるけど、亡くなった人とか、ほかの人に比べたら、耐えれるねん。

妻　足じゃなくてよかったねって、本人はつらいけど、足じゃなくてよかったなというふうにとるように。

本　今でも夜中に熟睡はできへん。

妻　痛くて。

（治療の状況）

本　手が折れとったんや、完全に。治療いうたって、みんなが落ちついて何やかやするまでは、手術しなかったもん。ほったらかし、腐っとった、全部。

妻　手術、7時間ぐらいかかったと思います。中で全部レントゲン見せてもらったけど。だから、6月に入ってから手術したから。この子たちのことがあるから、病院もないし、この子たちのことやら、いろんなことが、もうそれこそ。もう耐えるしかないんです。足が歩けるから。そのせいで長引いて。そのときしとってもどうか知らないけど。

本　10カ所ぐらい折れとった。あばら骨。今でも痛い、息したら痛い。大きくなっとんや、それが全部。だから、息しても痛い。

本　そんな状態で5ヶ月くらいいました。おらなしゃあないねん。4人とも亡くして、人に預けるわけにも、どっちにどうしてもいいかもわからへんやん、身内おらんし。息子は西宮やし。

だからね、人にこれからそうなってほしくないけど、絶えず、そういういざというときにということは、平生からわしらは決めてはあったんやけど、だけど何の役にも立たない。運がよかったら、道路走りよったら、アッと思うけど、寝とるときにやられた場合には、あるやつも取れんわ、自分自身や。一瞬やもん。

あの人が言うように、家がぐらぐら、外出れる人はいいわ。一瞬にやられたら、住むとこによって違うから。ぐらぐらして、いざ飛び出れる人はいいけど、わしらみたいなのはどうしようもできん。ここ、ぱっと見ても、閉じ込められただけで亡くなった人、僕はまだまだ、わしらは幸せやと、おれは思うとる。あの人らは生きたまま亡くなった、実際、目の前で、もうAさん、いい、もういい言うて、その耳が今でも外れん。その人の声がね。だから、一瞬の場合は、みんな人を助けることどころか、自分自身が大事やから。もういい、いうて聞こえるんや、今でも。まあ、耐えるしかない。聞こえる。だから、隣のおばちゃん夫婦は、この間、1人亡くなったよ、90何ぼ、100ぐらいかな。

（震災時の近所の状況）

妻　Dさんのおばちゃんね。

本　亡くなった。その娘さんはまだ言うけど、わしのおかげで助かったと言うけど、隣のおっちゃんは亡くなったわ。

だから、おれは自分の娘も、孫も亡くなっとんやで、そやけど、その人は生きたまんま、その人は焼かれたから。絶えずね、耐えれる、その痛み。だから、それは、NHKとか、全国放送に出たんや、おれら2人、NHKも。

妻　今回も、去年の10月ぐらいから11月ぐらいにかけて、NHKさんからあれしましたけど、それで、NHKの番組のあれも送ってもらいましたけど、私自身がもう耐え切れないから、もう映像になるのは勘弁してくださいって、この人が言うのを、こうして中に、こういうこともありましたと言うのはいいんですけど、この人を外に出して、この人だけ出るんはいいですけど、私自身がもう耐え切れなくなるからいうてお断りしたんです。

本　おれ、まだ記憶は2日分が戻らへんねん。今でも、嫁さんや子供は西宮に、着替えにおれを連れていったと言うんや。地震が終わって、3日ぐらいしてから。それで、息子と会うた日からの記憶がないねん。2日ほどの記憶が、どこを通ったと言うんやけど、それがないんや。おれの中には。西宮の息子の家へ行って、おやじ、こうして言うた言うけど、その記憶は全然ないねん。

妻　悩みましたよ。すごく悩みました。もう、正直なところ、喧嘩もしました、戻る、戻らない、お互いの考え方も違いますし、すごく悩みましたけど、結局、どこにおっても、気持ちは一緒ですよね。それだったら、やっぱり結婚して、この子も結婚して、10年、家のそばでおって、そのほうが、ともに生活したとこで、同じ、なろうかなということで。

本　生きていくのは、どっち転んでも、本人やから。もう、せっかく助かったんやから、何やかやいうても、孫や娘は亡くして、こんな言うたら悪いけど、これ人がしたことだったら、文句も行くで、おれは。国とか、そういうんじゃなくて、自然がするんやから、それで助かった命はもう大事にせんなんというぐらいしかないねん。

妻　明るく生きなかったら。一緒に泣くんですよ、どうしても、こっちが泣いたら。だから、それやめて。

本　けど、いざとなった場合には、だれが、どないしたらいいか、、これからどうしたらと言われても、そうなったときは、どうしたらいいと言われへんねん。命を引っ張り出してもらって、後は火が来たら、何にもできへんもん。これからどうしたらいいか言うたって、これはっきり言うて、もし津波でも来たって、何にもできへんで、実際に遭うた人は。何にもできへん。
　うちの場合は、ドン、ドンやから。ドンと来て、ドンとつぶされたから、どうしようもできん。おれ、クレーンがぶつけた、車が空滑りさせていう音を耳にしとうから、また、いう感じやったもん。電気の入り方、今の車の電気はこうでしょう、昔はああいう光でしょう。そういうのが、ゴーッ、音とともに入ってきたんやから、持ち上げた途端に、光が。そういうこと全部覚えとうで、おれは。
　娘は、軽自動車一つ通るぐらいの細い道路の反対側の隣のアパートに住んでました。そこは3階建て。娘は、1階に住んでました。その1階で5、6人亡くなった。いや、違う、1階で8人や。うちが4人と、Eさんの妹のところ。

妻　Fさんところが息子さん2人亡くして。

本　あそこのEちゃん、俺が引っ張りだしたもん。

妻　Fさんとこは、あそこ息子さん1人。

本　Eはおれが引っ張りだしたんやから。Eちゃんが、うちの孫より一つ上かな。Yより。

妻　うち、孫娘、上の子は寅年ですから、ことし25歳になるんです。孫娘が、下が23になるんです。

本　その子よりEちゃんが1つ上や。

妻　Aより。この下の男の子が1年生になる年で、ランドセルを買うとか言ってるときに、こういうことですから。

本　Eちゃんとこも2人亡くなったんやね。そうそう。だから、うちが4人やろ、Eちゃんとこやろ、Gが亡くなったんやから。

妻　Gさんも亡くなって、それからGさんが亡くなって、その一角でたくさん亡くなったね。それぞれにやっぱりつらい思いしてますよ。自分たちだけじゃないという気持ちで、ここまで、一番はこの人のおかげでここまでこれましたけど、私自身も、もうどうでもいいわみたいな、絶えず、ずっと何でも。この人は、それでも、私がそうすれば、この人も苦労もしたし、しんどい思いもしたけど、まあ、この子たちの思うのは、どういう立場であれ、思う気持ちは一緒だから、明るく生きようかというふうに…。

本　それでも、今こうしてなったけど、そやけど、昔の隣近所のほうがよかったわ。地震でなくなったけどね、その前のほうが隣近所の触れ合いはよかった。みんな言いはりますね、それは。マンションみたいになってしまってね。だから、下町通りというんかな、人情があるね。確かに、今、これ立派になった。みんなきれいになったけど、だけど、人間の心いうのは、昔の長屋の、あれのほうがいいよな。

妻　平成11年の4月に引越しましたから、この4月来たら、ここへ来て丸12年になるんですよ。知ってるだけでも、いろんな入れかわりありましたもんね。この人のおかげさまで、結婚して、今年48年目になりますけど、隣近所とか、両隣とか、もめごとは1回もしたことないですよ。この人の生き方というか、この人の持っていき方というのか、そのおかげで、もめごといったことは1回もなくて。どこへ行っても。
　会社の社宅に鈴蘭台に3年おりましたけど。
　今でも怖いです。喧嘩もよくします。私も、こっちためておいたら、ストレスたまるから、ちょっとだけためて、バッと言うたら、今でも怖いですよ。でも、この人のおかげで今あるし、感謝もしてますし、年金のおかげで生活の心配は全くありませんし。同じ会社に40何年おったから、きのう確定申告に行ってきました。もう待ったなしやから、始めたらその日に行くという…。

妻　4月が来たら、引っ越して丸12年になります。平成11年の4月11日かな。

（死亡証明書交付における労苦）

本　震災後しばらくの間はもうあっちこっち、転々としてました。あるときは空いてるスナック、もう店できへんから、そこにおったり、それから、学校におったり、避難所におったり、避難所では、もう、痛くてたまらんから、あっちこっち、4軒ぐらい、あっちこっち転々として、それが落ちついてから、みんなやっと落ちついてから医者や。今度、自分や。この子らの死亡証明書をもらわなあかんでしょう。自衛隊行って、あっちこっちから助けたわな。長田でももらい、須磨でももらい、それから兵庫も行かなあかんねん。兵庫の新開地のそばに。新開地まで歩いて行くんやで。石川県あたりの自衛隊がした死亡証明が。そこしかくれへんねん。亡くなってるのは、全部なくなっとうねんで。兵庫だったら兵庫までもらいに行かなあかんねん。

妻　検死の受け渡し、先生、4人別々です。

本　だから、須磨でもらい、長田でもらい、兵庫へ行ってもらいして、4人の書類を探すのに、自分の痛み、寝るところなんかどうでもいいんや。

妻　そして、長田区役所から死亡証明書をいただかなかったら、お葬式も出せないし、いろんな手続が全くできないという状態です。

本　鷹取中学校におっても、朝目が覚めたら、もう出ていかなあかんねん、兵庫まで歩いて、その証明をもらわんなん。

妻　鷹取中学にいたのは1晩だけかな。

本　違う、そんなことないで。

妻　ああ、そうか。1晩だけと私が勘違いしてるのは、この子を連れてて、そこへおったら、区民会館に連れていかんといけないから、区民会館にちょっと1晩おっただけや。それから鷹取中学に、落ちついてから鷹取中学に。

本　中学に行って、15日ぐらい。

妻　2週間ぐらい。

本　2週間ぐらいおったかもわからん、そこに。寝るだけやで。わしらは、だから鷹取中学でおにぎりはもろうたけど、何ももろうてないで。

妻　この子たちの、いろんなことをするために、朝目が覚めたら出ていくんですよ。ああいう中でも、いろんな当番もありますでしょう。それを一切できないから、もう言いたくないですけど、冷たかったですよ。

本　この子らの書類をもらうのに…。

妻　皆が皆、うちの事情を知らないから。

本　自衛隊あっちこっちから来とったからね、そこへ行って死亡証明もらわなあかんねん。全部、同じところでくれへんのや。

妻　それを持って、長田区役所に届けを出して、死亡証明書のあれをいただいて…。

本　何が足らんから、そこへ行って、またもらいに行かないかんのや。

妻　全部までは覚えてませんけど、飛び飛びですけどね。

本　よう歩いたな。

妻　よくここまで生き抜いたと思います。
最初の保育所には1晩もおりませんでした。何時間、とにかく時間わかりませんけど、ここは危ないから鷹取中学へ行ってくださいいうて、行ってしたら、ここは、亡くなった人を置く場所じゃない、みんなが避難するところやから、だれか1人付き添いで区民会館に行ってください。行ってください言うたって行かれないから、多分自衛隊の車に、Oと、孫と2人乗せていったと思いますわ。

本　おれの記憶は、この子は1人だけが須磨や。孫1人だけ須磨区民会館。あとの2人は村工や、あとの1人はどこかって、そんなばかなことできへん。おれは喧嘩ごしで、全部親子4人、村工に。それも3日ぐらいかかったんよ。と思う。それを村工に4人、全部した後に息子が来たんや。西宮から、やっと。ただ、息子に会うた途端に、みんなここに置いた途端に、鹿児島から婿の親が出てきて、こうしてしたときに、ポッと安心したんかしらん、おれは記憶がなくなったんや。それから2日ぐらいの記憶がないねん。全然、今でもないねん。思い出されへんねん。

妻　8時間かかって、西宮の息子の家まで行ったんですけど、この人、全く記憶がない。私はその映像が今でも、戦争映画の、それがもう…。

本　何やかんや言うたっても、おれには記憶がないから、ちょっと、落ちついてからね、この子らの葬式も出してから、遺骨もみんな娘婿の親が鹿児島から来たんや、その人に預けてからね、おれはもうだめやからいうて、田舎の徳之島に帰ったんやで。

本　葬式は加古川で。土山でして、そこの親に遺骨も皆預けて、それからおれ徳之島行ったんやな。もうこれあかんでいうて。おれ、もう助からんで思うて。

妻　徳之島行ったか。四国の兄のところ違うん。

本　兄貴のとこも行ったし。あっちこっち行った。

妻　この人の姉の家に…。

本　にもおった。

妻　いつ引っ越したかも覚えてないけど、そこに1カ月半か2カ月ぐらいおる間に、もういたたまれなくなって、徳之島へ行ったよね。香川に、この人の兄がおるから、そこも行って。

本　毎日、ここが、焼け跡が片づくまでは、そこに来たから。

妻　神戸におるときは、毎日自分たちの、何かないかしら思うて。

本　わしが言うとんのはそうじゃないで、おまえがちょっと勘違いしとんや。自衛隊がきれいにしてから、わしは田舎に帰ったんや。

妻　してから帰ったんかな。

本　もうきれいに空き地がなくなってからね。

妻　それから帰ったんかな。

本　そんなん、そのまんま帰れんやね。

妻　記憶がばらばらなんですよ。

本　一緒、一緒。

妻　一緒ですけど、もう記憶ばらばらなんですよ。これ、飛び飛びなんです。

本　もう17年もたったら、こんなんやで言うたって、ああそうだったかなというわけや。おれは、今でも、言うけど、それから帰ってきてから。

妻　6月にね。

本　違う、違う。会社の組合から、おれを探させて、おれが見つかったんやな。

妻　鷹取中学におるときに。

本　Iが見つけて、そのときは、もう地震から1カ月ぐらい過ぎとんやで。

妻　一月も過ぎとったかな。

本　過ぎとう。だって、よう考えてみ、この子らが葬式するのには、もう10日ぐらい、15日ぐらい過ぎとんやで。

妻　10日ぐらい過ぎとったかな。

本　過ぎとう、過ぎとう。

妻　1月の25日か6日かじゃなかったかな。地震から10日か、それぐらいかはもうしとったから、2月ということは…。

本　だから、おまえが言うとんのと、わしが言うとんのとは全然違う。葬式が済んでから、わしら、この書類をつくらなあかんねん。

妻　ああ、そうやわ。

本　おれをそう言うたって、自分が勘違いしとんや。葬式が終わってから、死亡証明、書類をつくるのに、二、三週間かかっとんや。あっち行き、こっち行きで、書類を4人分つくって、死亡証明をつくらな、葬式が済んでから死亡証明つくるんやから。あっちこっちでもろうて。それを自分が言うたけ、自分が飛ばすからおかしいんや。

妻　ちょっと、わからないですよ、ほんと。一緒に歩いとっても、ああ、そんなとこ行ったという感じで。

本　大きいところで、痛くて、もう寝れもできへんから、ワンルームマンションを借りて、連れが周旋屋におって、何とかしてくれいうて、ワンルームマンション借りて、板宿に、家賃5万円やったんや。それで、とにかくそこからJ病院しかなかったんや、あっちこっち、K医大に行くか言うたんや、ヘリコプターで連れていこうかというたら、いいって。そこで、大学病院も、L病院も、あっちこっち行ったわ。そしたら、J病院の先生が、Mいう先生がしてくれたんや。

（治療、リハビリの状況）

本　それまでね、大学病院や、Lで、あっちこっちで痛み止めを打ったんや。実際に、6月に手術したのはJ病院でしました。

妻　日付けは覚えてないんですよ。手術して、もちろん調べればわかる、今でもその先生にかかってますから。

本　J病院は覚えとんやで、よそ行った病院はね、記憶がないんや。

今でもJ病院にリハビリに行ってます。やっぱりしびれるからね。それに痛いし。変形もあった。いろいろ危ない仕事をいっぱいしとうから、仕事しながら同じ現場でも亡くなったりさ、…吹き飛ばされ、そういう仕事もいっぱいしとうから、少々のことはおれは痛くもないし。

自分で、切って、縫うたりも、応急処置もするようなあれやから、少々痛くはないねん。

妻　痛くても痛いと言わない。こうしたら、手が冷たいですよね。その手が自分で返らないから、どうにかしてくれって言うから、何時であれ、さすって手が戻って、それからトイレ行ってから寝るという、何十年とね。

本　耐えよう思うたら、耐えれんことはないけどね。

妻　本人じゃなかったら、わからないですけど、痛みはわからないんですけど、痛い、手が戻らないいうて、起こされるのは事実です。そうじゃなかったら、10何年も病院行きません。

本　僕はあれやで、たばこをもう50年、60年、もうあしたからやめるいうたら、ぱっとやめた。お酒でも、免許証とるときに酒はやめるいうて、ぱっと1滴も飲まない。20歳ぐらいに免許証とって、それでめし食うんやったら、もうきょうから酒やめるいうて、パッと飲まない。手術後は、社宅。鈴蘭台に。そこから仕事行ったんや。

妻　会社はもう、言ったら悪いですけど、冷たいもんです。

本　生活あるじゃん。会社冷たくないわ、当たり前のことや。冷たくない。おれらが甘えたら、甘えるだけやん。お前、それをそういうことを言うたらいかん。会社でも国でも、金がないやつにあげたってしゃあないやん。自分で生活費を稼ぐのは、会社かて、給料やって働かせなかったら、つぶれるやん。そ

ういう考え方がおかしいんや。ありがたいこと。

妻　それはそうですけど、できないところに回されたらね。

本　それも仕事やん。だって、神戸市でも国でもな、あんたここ行けいうて、嫌やったら辞めなしゃあない、それが仕事や。そうでしょう。自分は食べるために働くんや。それが嫌やったら死んだらええんや。

重たいのは持たんけど、運転はできる。要するに、運転いうても、僕は会社で、A2自動車の船に積む、チェッカーいうて、この傷がないかいうて見るんや。こんな狭いとこ入って。確かに、今まで8つできよったやつが、もう7つしかできなくても、それを人の倍気を使うて、8つをするんや。そして、生活がかかっとうから、それが嫌やったら辞めなしゃあないけど。言うて悪いけど、今まで100できよったやつが90しかできんわけや。狭いとこにもう入られへんのやから。だけど、それを100せなあかんねん。完璧にせな、人が怪我するじゃん。今まで8時間して100できよったやつが、90しかできんわけよ、片一方がこれでね。だから、人が10するときは11せないかんねん。そのぐらい気を配っていた。自分も怪我せんように。この人、9つしかできなかった、ちょっとやさしいとこへ行け言うたわけ。言うて悪いけど、わしら中学しか出てないから、コンピューターなんか触られへんねん。会社は同じ給料くれるんやで、給料くれるから、そこへ行け言うたら、マウス一つ動かせんのに、ひょっとしたら、言うたら悪いけど、アメリカ届けないかん荷物が中国に行く場合もあるのや、わしらがしたら。わからへんのに。そこは楽なんや。だけど、あと1年半したら、もう年金もあるし、40年厚生年金かけて終わるし、あと1年半何とか頑張ろういうて、頑張ったけど、もうそれ以上頭がついていかんから、もう辞めた。そして、失業保険をもらいながら、そしたら、わしらは60から厚生年金もらえるから、もうすぐもらいました。だから、57で会社辞めたな。

（手術後、北区の社宅へ）

妻　こっちへ引っ越してきて1年間行ったね。

本　1年半行ったやん。

妻　1年半行った、こっちへ引っ越してきて。

本　そしたら、ちょっと、同じ会社、古いから、事務員さんに、おれ年金なんか、何年かけとうか調べてくれいうたら、41年と何カ月、ああ、それだったら、もう40年以上かけたら満額もらえるから、おれ、じゃあもう辞めようういうて、結構いい給料もらいよったからね。おかげさんで、今、年金でも結構いい、今でも税金も全部払うし、それで生活を夫婦でしていくことには困らん。

仕事のときは、仕事終わったら帰りに病院に寄って。だから、神鉄が値段が高くてな、病院に来るのに、夫婦で来たら3,000円要るねん、電車賃が。

妻　3年間おる間に、神鉄に何ぼ奉仕したかわからないという感じです。

本　奉仕やない、仕方がない。ちょっとぐらい痛くても我慢せなしゃあない、1日ぐらいは。

妻　私、引っ越ししたとき、鈴蘭台、この人の会社のZ住宅というか、そこに引っ越したとき泣きましたよ。

本　西鈴やから。

妻　泣きましたよ、本当に、山の中へ行って、3年間。まあ、慣れましたけど、そのうち。何を泣いとんやいうて怒られて。泣きましたよ、本当に。知っている人いないし、この人が会社へ行ったら1人でしょう。この人はこの人で大変やけど、私は私で大変。ほんと、今は笑えますけど、ほんと泣きましたよ。

本　毎日、会社帰りに医者へ寄って帰るでしょう。定期は三ノ宮まであるんやで、三ノ宮からこっちは、自分で金払わないかんねん。

妻　ほんとにようやってきたもんや思うわ。本当に。

本　近くにね、市住宅もいっぱい申し込んだけど。

妻　当たらんねん。

本　大家さんがね、土地を市へ提供して建てるから、Aさん申し込むな、そこへ入れるからと言うて。それで申し込まなかった、その間、社宅におった。

妻　ここできるまでこの人の会社というか、Z住宅。

本　夫婦だけやからな、言うて悪いけど、ちょろちょろと仕事しても、やっぱり二、三十万、現金、会社くれよったから。障害者て認定したら、10何万円くれたんや、国が。身体障害者で。そしたら、会社はその10万引くんや。

妻　基本給も下がるんです。

本　基本給が下がるんや、10万円。そしたら、ことしの6月におれ認定してもろうたわけやね。そしたら、来年の4月になったら、Aさん、10万円給料引くぞと、ほんなら引いてくれと。そうしたら、10万引いたら、基本給も皆引くんや。本俸も皆。そしたら、退職金がごっつい違うんや。本俸…じゃあ、おれやめると。あと1年働いて、本俸が10万も減ったら、なくなるなら、おれもう辞めさせてもらうと辞めた。会社かって、やっぱりそれは同情したら会社つぶれるからね。それが当たり前のことや。僕が社長でもそうする。だって、A、おまえ会社に40年もおるんやからいうて、そんな甘くはないよ。大学でも出とったらできるけど、だから、仕事は楽をさせるから、

そこに行きなさいと。でも、パソコンを打たれへん、できへんやん。書かれへんのに。そんなら、遊んどって1日、給料くれるわけや、みんなの手前。だから、同じ仕事したら、人の倍、要するに、今まで10できよったやつが、9ではいかんわけよ、下がいっぱいおるのに。やっぱり10はせないかんねん、絶えず、気を使いながらでも10しましたよ。

妻　引っ越ししてからは1年、私の記憶は1年と思います。

本　1年半や。

妻　1年半か、4月に引っ越してきて、次の年の9月に辞めたから、1年半というか、1年何カ月か。現役のときに引越ししたから、6万8千円でしたよ、家賃。まだ給料もらってるから。それでも、年金もらったら、幾らか安くなるやろうなというのを覚悟で、6万8千円で、そのときは車もあったから、1万8千円の駐車場代も出して。

本　今は、年金だから。あの当時は、やっぱり年収が800万ぐらいあったからね、何やかや言いながらでも。だけど、今でもやっぱり夫婦そろうと300万円以上あるからね、年金がね。

妻　私も国民年金が65歳からもらってるから。

本　夫婦そろうたら、やっぱり300万超すから。

妻　それで税金も引かれ、介護保険も高い、だからもう本当にきれいなものですよ。権利も言いますけど、義務はもうきちっと、それなかったら堂々と生きたらいけないという、この人の生き方ですから。もう、義務はきちっと。

妻　子や孫のことを考えたら、自分の怪我の痛みは耐えられる。

本　耐えられる。

妻　夫婦そろって、今でも。

本　だって、そんなん言うて悪いけど、自分のかわいい孫をね、今ひょっとしたら、曾孫がおったかもわからん。おれらは結婚するの早かったから。

妻　20歳で結婚して、娘が21で結婚したから、42でもう、2人で、この人なんかは、じいちゃん言わせて、私はお母さん言わせるぐらい、まだ若かったですよ。昭和3代言うてました。18年でしょう、娘39年でしょう、孫が61年でしょう、昭和3代いうて、娘と私と孫と3代昭和で、3代続くねというて、頑張ろうねいうて。
　娘が、息子もそうですけど、娘が幸せいっぱいくれた子なんですよ。何でこんな子を連れていくんかしら、今でも腹立ちますよ。

（痛みと付き合う、心の持ちよう）

本　少々のことではこたえへんで、おれ。障害を負ったと言うことでくじけるということはないね。

妻　痛いのは、これ現実ですけど、心の痛みも現実ですけど、この人は負けてません。

本　嫁はんにも言わんで、息子にも言わない。痛みは僕自身や。

妻　私は負けてます。この人にも負けてますし、精神的にも負けてるけど、この人は負けません。生き方も考え方も、人に対しても。

本　これ、おれが何ぼ痛いちゅうたって、顔に痛そうにしたって、相手に苦痛を与えるだけや。だから、おれは痛くてもいっつもにこにこしとる。

妻　よくできるねと思います。

本　針でポンと刺した痛みじゃないねん。そういう痛みじゃない。どう痛いと言うたらいいんかな、お湯に入れて痛い、その痛みでもない。四六時中痛い。今でも痛い。痛いけど、耐えれん痛みじゃない。耐えれる痛み。ズキン、ズキンじゃないねん。そういう痛みでもないねん。頭がね、バーッとなるでしょう、ああいう感じの痛み。だから耐えれんことはない。

妻　耐えてる。

本　人に言うたって仕方がないんや。それに人に当たってもしゃあない、自分自身の痛みや、それとつき合うていくわけ。だから、痛み止めやは飲まない。痛み止めのんで、座薬も入れん。仕事しとうときは、それで金もうけやから、痛み止め飲んで我慢した。もう、辞めてからは痛み止めは飲まない。

妻　だんだん薬も多くなって…ね。

本　それから逃げたらいかん、病気からは逃げない、その痛みからは。だって、これ神経も皆つないどうもん。だから、字は書かれへんねん。だから、恥ずかしい話やけど、サインしてくれいうてもできへんねん、枠からはみ出るねん。左手が。右利きやから、だから一番、人には言えんけど、自分がつらいなと思うのは、箸で少し食べたいないうときにいっぱいはさまるわけ。そしたら、おいしくないねん。いっぱい食べたいとき、少しはさまるわけや。ひとっつもおいしくないから、家で手で食べるほうがいい。こっちの手で。

妻　外食嫌いました。

本　今まで外食大好きやったけど。

妻　要は、もう恥ずかしい話、持ってても、こうしてもよさそうなんだけど、この手があれやから、だから

外食を嫌う。

本　だから、それだけがつらいだけ。だから、それは自分が我慢したらいい。こうして、少し食べたいね、少しだけ。そうしたら、ようけはさまったら、それだけでおいしくないねん。いっぱい食べたいな思うて、半分はさまらなかったら…ここにサインせえ言うたって、最近できへんねん。はみ出る。だから、この枠の中にサインせなあきませんわな。それからはみ出るから、自分悪いけどしてくれ言うたって、恥ずかしい話やけど、実はこうこうやからって、手帳見せるしかない。だから、どこへ行ってでも、言われても仕方がないこと、これできへんねん。書けんことないけど、小さく書かれへんからはみ出るねん。この広いところに名前書け言うたら書けるよ。枠の中に書け言うたって、書かれへんねん。リハビリはいろいろしてる。電気でお湯で温めたり、下に電気を当てたり。

妻　大体1日置きです。アグロの温泉行くか、リハビリ行くか。調子いいときは、きょうはおれは温泉はやめとくわと言う。

本　要するに、ただじゃないからな。

妻　私が一遍怒られましたよ。お父さん、よく好きで病院行く。金払って、好きでだれが病院行くんやいうて、私の言い方が悪かったんですよ。お父さん、よく1日おき、私は、月1、薬もらいに、血圧とコレステロール…お父さんよく行く言うたら怒られたけど、この人にはムカッと来たと思いますわ、考えたら。1日おき、毎日行って、そして調子悪いときは温泉行って、それでも自分自身の体のためやからいうて言って。だから、夫婦でも痛みわからないって、そういうことなんですよね。

本　そんなもん、どうもなかったら行く訳ないやろ、言うて。今、調子が悪いのは、ちょっとぬくかったでしょう。だから、あしたは雨ってすぐわかる。温度差が5か6になったら、調子が悪い。

本　夜寝てるときも、1時間ぐらいしたら目覚めとうもんな。

妻　絶えず目覚めてるし、痛い痛いと言ってますもんね。

本　先生は痛み止めくれると言うけど、僕は要らない、飲まない。要するに、そんなん言うたら悪いけど、Dさんみたいに、生きたまんま焼かれた人のことを思うたら、自分の子供なんかとか、それが痛いとき、パッと目に浮かんだら、あの人らどんなやったやろうなと思うたら痛くない。おじいさん生きとうのになと思いながら、『Aさん、もういい、行って、熱いから行って』という、それが耳について。絶えず、あっ、痛い、あの人らはもっと痛かったやろうなと思うから、全然こたえへんの、耐えれる。

足でも、そんな痛くなかった。先生に麻酔せんで切ってくれ言うたんよ、おれ。麻酔せんで切ってくれいうて、そんなことできへん、痛かったら痛いと言うてよというたら、少々痛くても、痛いわいうて。麻酔して、そんな感じやった。だから、痛いな思うときは、そのおじいちゃんの声がすぐ耳に入るんや。今でも、夜中に痛いな思うたら、あの人の声がすぐ思うから、我慢できる。

だから、自分でそれに負けんように、にこにこしていくだけや。

心の準備で、お正月来たら、来年の正月は来んでもええという考えで、きょう1日がよかったらいいと。何でも、明るいほう、太陽を自分らで見ていくだけや。

本　近所の人にも全部全部、おはようういうて。

妻　この人は人気者ですよ。

本　いつでもこんなんやで、植木とも話するで、おれ。

妻　人気者ですよ。そのかわり、曲がったことは…。

本　植木とも話するし、お茶も興味あるし、何でも興味があるから。

妻　生き方は最高だと思います。

本　暗いとこはなるべく入らんように、明るいとこばっかり。

妻　私はどっちかいうと、こっち向きやから大変ですけど、でもすごい生き方だと思います。私は、どっちかいうと陰のほう、この人は陽のほうで。プラスとマイナスと、たまにぶつかる。この人みたいに生きられたら、人間は最高やろうな、幸せやろうなって。

本　だから、明日死んでも悔いはない、おれは。

妻　娘がそっくりでした。お母さん、私みたいに幸せな人おれへんと思うわと言ってた。何でと言ってたら、やりたいこと何でもさせてもらって、それは大金持ちじゃないけど、娘はこの人とそっくり。

本　24時間しかないのに、暗いとこ見たらあかん、明るいとこ見ればいい。普賢岳でも何でも、あれはおさまるまで仕方がない。

妻　燃岳。

本　燃岳でも。それとつき合うていかなしゃあないねん。

妻　つらさはわかります。もう自分たちとどうしても重ねるから。

本　重なるからわかる。わかるけど、そこからやっぱ

り人間、気持ち。お互い全部一緒やから。やっぱりこう考える人と、こう考えるのとの違いだけで、はっきりいうて、おいしいのを、毎日おいしいのばっかり食べてたら飽きるじゃん。たまにおかゆでも、安いのでもおいしいやん。そういうことを考えたら、何で明るく…、おれなんかくよくよしてないもん。
近所の人とも地震の話は向こうがしたらするし、こっちからはしない。

妻　自分たちからはしません。

本　何で暗いとこに向かってせなあかんねん。おたくが言うから言うんであって、言わなかったら、これは話する必要ない、明るい話したらいい。

妻　大変でしたねと言うたら、まあ言いますよ、この子たちのことも、つらいけど、もう現実は現実。

本　おれよりもっとつらい人もおるかもわからんし、向こうがせんのにつらい話する必要ない。明るい話やったら何ぼでもする、おれはそういう考えやから。そういうの嫌いな人もおるかもわからんけど。

妻　何であの人は…と実際に言われたこともありますよ。

本　おたくでも一緒やで。やっぱり、自分も嫌いな話されたら、いい気しないじゃん。だから、こっちかって、自分から明るい話はするけど、聞いたら、ああそうだったな、大変やったけど、お互いに生きるしかないやんて言うても、そんなもん、そういう話を嫌いな人もおるかもわからんし。

妻　言われたこともあります。よく、こんなんして、こんな目に遭って、ようにこにこして生きれるねって。だって、それしかないから生きてるんだけど、気持ちわかってもらえない場合もありますよ、実際にあります。

本　この木でも、寒くて、枯れても、来年芽出すやろうな、ほんまは寒いやろうなと思いながら、自分と話したら、罪がないじゃん、ほかの人には迷惑かけへんのやから。だから、暗い話なんか、おれはあんまり好きじゃない。

妻　つらいと思う時は、やっぱり痛いときですわ。現実に体が痛いときです。

本　痛い顔を、嫁はんに見せたってしゃあないじゃん。

妻　この子たちを思う気持ちは一緒ですよ、夫婦。だけど、お互いの体のしんどさは別々だから。

本　おたくでも、おれがしかめ顔をしとったらおもしろくないじゃん、せっかく、何しに来たかわからへんじゃん。せっかくおたくは、こういうことをして、将来に残そう思うたら、ほんまのことを言うて、にこにこしたほうが、ほんま痛そうな顔をしたって、おれの気持ちの中をわかれ言うたって、わかるわけがないじゃん。そうでしょう。だから、医者にも言うよ。あんた、わしが痛い、痛くない、おれの表情を見て言うんだけど、おれはほんまは痛いんやでと。先生も言うね、あんたかって、手術して、切ってみらなわからへんやん。

妻　先生に言うと、先生もこういう患者さん困るやろうなと、私が言ったら、何で困るんやとか言って。

本　それが現実やいうて。

妻　そう言って、笑い飛ばさなかったらやっていけない部分もあるんですよ。あなたみたいな人を診るの、先生も大変やねと言うて、先生はおれのおかげで腕が上がったんやとかいうて。

本　何もなかったら、自分で土を耕して、芋でも植えて食べる…勝たれへんねん。それもできん人は死ぬしかないやん。
今まで、死にたいと思ったことは一度もない。

妻　この人はない。私は一時ありました。
おまえ、こっちからしたら、おまえ、自分も苦労するし、おれは悲しまへんで、笑ってやるでって、あいつはあほやって、笑ってやるって、こっちからじゃなくて、高いところ、24階、25階からしたら、おまえも一発だし。言われたらそれに腹立って、この人、もう腹が立つという気持ちで今が私はあるんです。
おまえ、できるんやったら黙ってせえいうて、一々言うということは、したくない、できないっていう。

本　人に迷惑かけるようなことはしたらいかん。高いところから飛び下りて、そしたら、終わりやで。

妻　言われたら、何やこの人、腹が立つと思った途端に、どこかで、絶えず負けてるんだけど、負けてはいかんなと…。

（地震に備えて）

本　だから、自然には勝たれへんから、死にたくなくても、自然には負けてまう、亡くなってまうんやから、幸せで、たまたま瓦れきの中から、2人生きたんやから、せっかく生きてもらわした命やから、明るく、暗いとこ見らんでいい、明るいとこ見ればいい。おれは、そういう考え。
今後、地震に備えて必要だと思うものは、例えば、トイレとか、公園とか、飲み水やな。

妻　まず、水。

本　だけど、人間は寒さはどうでもできる。火を焚いてでもできる。やっぱり飲み水とか、トイレとかはな、公園にもっとトイレが気楽に。

妻　それが一番です。殿方はあれですけど、女の方は特に。

本　寒さとか、そういうのはやっぱり火焚いてでも、みんなでできるけど、トイレとかそういうのは、飲み水とかはな、やっぱり、僕の考えではね、怪我しても、だれか見てくれる人がおるんや。中に医者もおれば、こういうボランティアでして、どっかの気の利くやつはおるし。応急処置でもだれでもできる。だれでも気がきいて、何かのあれで医者はどこっていう方法もできる。だけど、飲み水とか、トイレはできへんねん。だからそういう。食べ物もね。

妻　あちこちにありますでしょう。あんなん見たら、こういう大変な中でもありがたい国で、もちろん国も市も県も、周りの方も、そら本当に、おかげさま、こういうことがないほうが一番いいんですけど、おかげさまです。

本　だってね、一番、あの村山(首相:当時)さんなんか、言うたら悪いけど、そう思うで。神戸はあんだけ地震があって、すぐ来なあかんで。すぐ来たら、もうちょっと助かった人がおったかもわからん。

妻　それは思いますね。

本　そやから、地下の水道をためて、爆発して終わりで、なかなか消防車が来たって間に合わんわ。もう、いざというときは海しかないねん。消防車もね。やっぱりそういうことを地下にタンクをつくったり何とかしたって、地震とかがあったら、割れとうかもわからへん、漏れとういうことも頭に入れとかな。ということは、海しかないねん。こない言うたら悪いけど、山の上にダムつくったって、近くやったら取るけど。そういうことを地下に何ぼしても、割れとう場合もあるからね。

妻　答えは出ないんと違いますか。出しといても、その答えが役に立つかどうかは、なってみなかったらわからないという部分あると思いますよ。

本　そんなこと言うたら失礼な話やで、わしらが言いよるのは。これから先に、大きな地震があった場合に、このビルが大丈夫ということはないねん。ガラスがいっぱい飛んできて怪我する可能性もあるし、公園とか、ああいうところ、広いところがこうしてあるから、これ今まではなかったからね、いい話や。だけど、これからの災害というものは、僕はこう思うね。大きなビルが建ち過ぎても、これがゴーッと揺れたら、真下には飛んでこんわな、ガラスなんか。この高い、100メートルあったら、100メートルの中には人間は歩けん場合もあり得る。このガラスなんかが飛んで。そういうあれもあると思うわ。

妻　一番びっくりしたのは、太田町の行ったところの、あの住宅がね、そこの倒れとったもん、あれはあそこ通れなかったね。あんな高い建物。びっくりしましたね。

本　大きい建物が建って、ふさいでな、倒れんとも限らんから、そこをもし通るときに、ガラスの破片なんか飛んできたら、それこそ避難はできんけどなとは思う。こないして、ガラスなんか割れたら、これどうなるやろうなとも思う。もし、津波でも来た場合にはね、ということも考えるね。だから、考えるけど、それでも生きる人は生きる。

妻　運ですね。

本　生きる人は生きる。

妻　運もあります。

本　災害いうのはいつ出てくるか知らんけど、おたくが言うように、これからどういうのがあったらいいかと今聞いたからね、言うたわけ。
あんな冬の1月、2月でも、知恵があるから、火を焚いてとんとんはして温めはできた。だけど、水は、ないから。

妻　コップ1杯で、歯磨きもして、顔も洗うっていう感じ。

本　だから、神戸の人はこの地震で助け合いいうのがわかったから。お菓子一つでも、1袋もうても、はい、はいって、みんな10人ぐらいで火あたっとったら、みんな回ったわ。だけど、トイレは、男の人は立ち小便でもできるけど、女の人は大変やったと思う。食べ物は、火あたってても、どこからいただく、はい、はいと回ったもんな。せんべいの一つでも。

妻　立場立場で違いましたでしょうね。何事でも。今の話でも。着るものも、食べるものも何でも。

本　特に、わしらはもろうたて置くとこがないから、その場、間に合うたらいいからね。

妻　何にもなかったですよ、それこそたまたま、袋と、こんな箱を置いてるところが絶えず、わかってましたから、貴重品、それとフィルム、あとはほとんど何にもなし。

本　だから、若いとき、おれ20歳ぐらいで結婚したときに、平生の考え方は、3カ月分の給料は貯金しなさいと、何かがあった場合にはいけるから、会社がつぶれても、何しても。だから、それはずっと心がけてきたから、お金とか、そういうのには不自由しなかったな。絶えず、そういう考えで来たから。月50万、一月もうかるんやったら、150万は貯金しなさいよと。

妻　私自身、20歳になるまで働いたことなくて、この人と結婚するまでもお金の苦労はしたことなし、こ

の人と結婚してからも、全くないとは言えませんよ。

本　僕は働かせたことないで。

妻　働いたことないし、お金で苦労したことは、食べるためにとか、子育てするのに、お金で苦労したことはないです。この人がこういう生き方してはるから。

本　だから、風邪引いたこともなかった。自分で、風邪引いたら会社休まないかんから、あかんと。だから、そういうあれは、ちゃんと平生から心がけとったから、それでめし食うんやちゅう考えやったから。

妻　そういうふうな生き方してても自然に勝たれへんということは、現実はこういうことなんですよね。何を悪いこと、この人、私がしたんかしらと思うぐらい、ショックなことでしたから。

本　嘘じゃないよ。包帯とか、ノーシンとか、熱冷ましとか、体温計とか、電池とかね、パンとか、コッペパンとか、水とか、ちゃんとおれ置いとった。たばこまで、箱に、リュックに入れて。それからラジオも。それからロープも。

妻　結局は、何の役に立たないこともあったでしょうけど。

本　平生、そのときに、大黒公園に何かあったら集まれよと、そこから動くなという話もしとった。だけど、亡くなった場合に、自分がそうなった場合は、そんなもん役にも何も立たへん。取られへんのに、押さえつけられたら。

妻　まず、命。

本　人に助けてもろうて、みんなに、通る人に助けてもろうて、あの人らが、うちの上を、B病院の人が担架で運ばなかったら、おれらは助かれへんねん。だから、運や。

イ　偶然見つかったいう感じですね。

本　そうそう。

妻　その偶然が、この私にも、今にもつながっているということです。

本　ウィスキー、ごっついあったんや。もうそういうの趣味やから。

妻　飲まないのに。

本　だから、その匂いがプーンと鼻の中を通って、目が覚めたんや。あら、ええ匂いやと考えたら、どんどん人が踏むから、屋根の上を。ウォーと言うたときに、誰かが、命を助けてもうたんや。そしたら、おれが出てから、うちの女房洋服ダンスにはまっとるからと言うたら、オーイ、オーイ言うたら、コン、コンと音したんや。何回して、それが1時間ぐらいしてからやで。本当は、コン、コンしたら、それから助けたんやから。それまでのことは、子供や嫁さん、ほかの人のことはない、頭に。何ぼ頑丈にしても、あの地震の、この揺れやったら倒れてくる、おれらみたいに、持ち上げられて、ドンじゃったら、何もできん。

妻　今考えたら、かえって、気絶していて、それが返って幸せやったかなって、変に、その時点から目が覚めてたら、恐怖感とあれで、かえって命落としてたかもわかりません。

本　たまたまね、うちら隣近所が密集に建っとったら、こうして倒れんかもわからん。隣も空き地、後ろだけやから、ドーンと。

妻　ここは今の線路沿いの道路ですし、こっち側にたまたま、1年前ぐらいにあいて駐車場になってたんですよ。家2軒分が。

本　だから、クレーンが突っ込んで持ち上げてボンと落としたんや思うたんや。

妻　2人にしては運がよかったんですけど、娘の家族にしては、運が悪かったとしか言いようがないんですよね。

本　夕方に火がつき出したら、ガソリンが燃えて、バッと、あっという間に燃えたで、この付近。だって、駐車場やもん。車がいっぱいあったもん。あっという間やで。もう火が飛んできて、上からふわふわっと火が飛んできたと思うたら、もうバッと燃えたもん。

妻　そのとき、お父さんどこにおった。

本　家。

妻　私はそのとき、この孫娘1人と、区民会館で4階から、あー火が出たわと思って見てました。

本　おれはNさんの、あの人が、まだ生きとんやから、それを誰か来て、そこにという考えでしかしてないか。

妻　Gさん。そんな長いこと…。

本　Gさん。だから、誰もおらへんのに、Aさんも、火が消えたら…、あの人は火が見えとんや。もういい、行って言うから、ごめんなとおれ言うたんじゃもん。バッと来たんやから。もう、その付近、建っとう家、1軒もなかったもんね。

隣の人から、あんたとこの孫が、何時ごろに、お母さん、お母さん言いよるのを聞いたいうたら、もうつらいんや。だから、はっきり言うて、もう火が皆燃

えてなくなってからしか、わしら。だから、たまたまその前の晩に、16日の日に、16日の12時ごろまでおったんや。連休で休みやったからね。そやから、うちで、ほんま、その空き地ぐらいやもんな、家から。窓から見えるんや。戸あけて、電話する間に来たほうが早いぐらいやから。うちで12時ごろまで、すし、めし食うて、たまたま旦那さんがその日休みやったから、皆、休みやからね。おれだけが仕事で、わしはそのときはおれ早出やったから、みんな休みやったから、おれはその前から休みで、17日だけ早出やった。

妻　3連休やったからね、あのとき。成人式と。

本　みんな休みで、うちの娘婿は前の日出て、1日後に、わしはたまたま前が休んで、17日早出やったんや。それで目覚めとったんや。その晩な、12時ごろまでうちにおったやんな。

妻　お母さん、また明日ないうて、12時過ぎに帰って、それから何時間後か、こういう状態。もう、曲がったら、娘の家でしたから。お母さん、またあしたないうて、それで、それが最後。

本　そやから、わしら気ついたときには、もう亡くなっとったから、一瞬で、何とも思うてない、もう一瞬で亡くなったんやなと思うてる。
　そんなこと、みんなに言われへんけど、おたくら、たまたま聞こういうことになって、そういう思いはこれからしてほしくないわな、誰にもね。してほしくないけど、自然というのは何があるかわからんから、どういう設備したらいいかいうたって、平生、嘘じゃないで、ここの枕元に、免許証も財布もあっても、取られへん。言うたら悪いけど、あれはお金にしたら、七、八百万ほど焼いたよな。

妻　いろんなものを集めるのが好きやったから。

本　切手やとかな。

妻　昭和39年のオリンピックの切手もシートで、コイン集め。

本　A1がくれた金、3,000万ぐらいあるで、ここに。

妻　持っていったらかえてくれる言うたけども。

本　それ要らんいうて、置いとく。壷に入れて、その壷も。

（震災を経験して思うこと）

妻　あんまり物にも、金にも欲なくなりました。

本　財布に七、八万入っとったけど、免許証もみんな焼いて何にもないから、もう焼けて、中に…灰でも半分でもあったら、持っていってかえるけど、何にもないねんから、焼けて。

妻　2月に入ったら、田舎にこの人のおばさんの法事で帰るのに、飛行機の切符も買っておいて、田舎に、徳之島に帰る切符も、小遣いも。

本　飛行機の切符も往復2人持ってね、往復10何万の飛行機の切符も。

妻　2月に入ったら、徳之島に帰るつもりで、もう関係ないね。もう何にもない。

本　腹立つのは電話や。10何万も20万も出して、電話。

妻　娘の証券会社つぶれましたでしょう、昔20万とかで。

本　あれ、もう地震で燃えて何もないから、説明したって、もうあかんねん、ぱあや。券が焼けてないのに。

妻　あれもね、娘たちも苦労して、子育てしながらしたのに、もう証券…。

本　燃えてないんやから。発行せえへんのやからね。何にもない。

妻　だから、いろんなことに対して、着るものも、全く欲ありませんよ。もう合えば、いつまでも破れるまで。もう、だからファッションも何にも関係ない。

本　紬とか、いろいろいっぱい、我々は旅行行って何やかやして買うてきたあれでも、何にもない。

妻　徳之島やから、紬はこの人のお母さんからもらい、自分の母親からもらい、それからこの人のおばさんが紬工場してるからもらい、反物から作ったりしたけど、そういうことには一切もう。

本　西陣の、おれの帯でも、あれ、今買うたら100万ぐらいするで。

妻　そういうのは、もう欲なくなりました。体に合えば何でも。

補　うちの女房もそない言いますわ。金持って死ねんいうて。地震経験したら。

妻　だから、指輪とか、こういうのも、一応、向こうにもあって、してますけど、出かけるときにもありますけど、それも数も要らない、ただ間に合わせ、冠婚葬祭用の服と。

本　言うて悪いけど、実際に遭うた人は、おれもそう思うよ、何があっても、手につけとう、身に持っとうやつは大丈夫や、あとはもうあかん。取られへん。自分がここを押さえつけられて、はぁいうて、火が来たら、もうそのまま死ななしゃあない。たまたま運

がよくて、2人とも助かったんで、これ言えることだ。

妻　この子たちも、お骨はありませんから、ただ自分たちの気持ちで、毎朝お水あげて、コーヒーあげて、お花して、鹿屋市にちゃんとお墓もお骨もあるから、ただ2人の気持ちで。

本　この間の霧島も、あそこ通ったんやで、通って帰ってきたら噴火やってん。

妻　16に行って、19に帰ってきましたけどね。ほんと、運です。生きてるのは、もう運がよくて生きてるから、今の命に感謝しながら生きるのみ。

本　あのね、おれの痛みを他人に言うたって理解してもらわれへんねん、これ。生まれつき病気やったら、理解してくれるはずやけど、わしは顔もこうやし、言うのもこうやし、だから、わしがおたくにさっきも言うたように、おれ、あんまり痛いときは植木と話すねん。返っては来んけど、心の中に、青いのが何かふぁっと、だからそれで紛らうとき、いっぱいある。だから家の中、植木もいっぱい、ここ違うよ、向こうの部屋にも、トラノオでもいっぱい置いとんやけど、それと話す。

地震のときに、こない痛みの話ばっかりしたって、ここに入るだけなんや、そこから出る明るい話せなあかんねん。おれはそう思う、何でかいうたら、おれほんと言うて、外で、ほんま外食大好きやってん、昔、大好きやった。だけど、わし、自分でも大好きなときに、隣で、ちょっと赤ちゃんでも、こうして落としたりなんかしたら、あんまりおいしくないわな。だから、今、自分、おっしゃるように、おれが言うように、いっぱい食べたいときに少しはさまれたら、おいしくないねん、全然。だったら、隣近所に、おいしいの食べとんのに、これがおいしいのに、あんな顔された思うたら嫌やろうな思うて、おれはあんまり外で今、ご飯食べへんねん。そういうのが自分自身から、そういう場合も考えられなあかんし、地震でこうなった以上は、まだ生きとうだけありがたいと思うのを、おれは生きたまま亡くなった人がおるから、この声が耳にあるからそう思うだけ。そういうことをせんと、腕が切れた人だけなんか、まだおれは幸せや思う、おれは。

実際その声聞いて、ああ、助けられなかったなという頭があるし、Aさん、もう行ってという、あれがあるから、おたくが今言うとうことわかるよ、わかるよおれは、いっぱいわかる、わかるけど、おれにしては、その人らはまだまだ、おれとは違うと思う。自分からもっと明るう生きなさいというわけ。腕切れても生きたんやから。足が切れても生きとんやから。

妻　同じ境遇の人とは、気持ちがね、やっぱり通じると思います。もう気持ちが通じる…。

本　暗い話じゃなくて、何か明るい話をしたらいいと思うよ。

妻　だから、この人みたいには、多分、やっぱり今おっしゃられたように、もし、例えば今の震災障害者の集まりの中に、この人が入っていったら、やっぱり今、お聞きのように、強過ぎるから、ちょっと向かないと思います、多分。これは私が思うことです。私自身でも、余りこの人が強過ぎるから、腹が立つときありますもの。だから、あんまり強過ぎるというのだけでも、人間はあれやでと言うんだけど、でもそれがおれの生き方だからと言ったらおしまいですよね。だけど、やっぱり聞かれる側は、もし同じ、同じ言っても違いますよね、やっぱり。

本　だけど、おまえそう言うけど、すぐこういう話になってきたら、あの人の声が耳に入るから。

妻　それはつらいでしょう、私は直接は娘が、お母さん、またあしたねという言葉が最後で、それからはもちろん見てないし、話してないから、あれですけど、言ってくれないほうがよかったのにと、涙出ましたよ。隣の人が。

本　それは、その人も聞いただけや。その人も…。

妻　思って言ってくれてる。

本　娘と家が隣、こうひっついとうだけね、その親子はおれが助けたわけ。

妻　要するに、助けた人の裏に娘の家があるから、裏同士で。

本　わしが出て、1時間ぐらいして、Dさん大丈夫かってしたら、コン、コンとしたから、あっ、大丈夫やって。よし、ちょっと暗うて、よう見たら、もううちの家族はもう亡くなっとうことわかってからやからな。隣同士やから、コン、コンちゅうたら、あっ、よし、その窓をちょっと、トイレの窓はガラス窓やから、おたく、今動けるか言うたら、動けるって。そこに何がある言ったら、毛布に絡まっとうと、よし、それやったら、そのガラスを今からおれが割るから、毛布でしとっていうて、毛布かぶっとったんや。そしたら、ガラスをおれボンと割ったら、そこに何かあるか言ったら、ある、手探りで何か触れるか言うたら、触れる言うから、何やいうたら、腰掛けって。それを持ってトイレに来れるだけあいとうかと言ったら、あいてないと言うから、じゃあ、どないしたらいいんかなと、這うて、そこまで来れるか言うたら、来れると言うたら、這うておいでと、ただ這うて、そこを親子で来たんや、トイレまで。下何かくぐってやで。こっちから、おれが、こっちから木を渡したんや。拾うた木を、それを踏んで上へ上がれいうて、このガラスのところに毛布を敷いて、そこから助かったんや。それで助かったから、おまえとの話や。

そしたら、助かったら、もうあの人は向こうで、おっちゃんの声が聞こえる言うたら、おれ反対から。ブロックが倒れとったから、どうしようもできなかった。おっちゃんの家に、そのブロックをおれ片一方

でできへんねん。要するに、そのときは、みんな必死で、みんな逃げるのが精一杯で、隣の人なんか、助けてくれる知った人はおらへんねん、通る人ばっかしやから。

妻　それは向こうだって、こっちの気持ちを別にえぐるつもりで言ってるんじゃない、それはわかった上で、ああ、聞いた分、つらかったですよ。本当に、それは事実ですね。

本　だから、事実いうもん知らんけど、今、おたくが言うように、そういう話の中に、もし入れたら、いい子でいいかもわからんけど、すぐ、あのおっちゃんの声が耳に入るから、おれは生きとうだけまだいいやんかというふうになるわけや。
　暗いとこ見らんと、明るいところを見たら、生きれたらいいねん。だけど、本当は今でも、何であっこで、今ぐらいやったら、どんなしても助けられよったなと思うわけ。思うけど、やっぱり人間というのはおかしなことでね、やっぱり家族が先や。
　自分の嫁さんがそこにおるのに、箱に入っとんの、わかっとう、これは助かるわ。子供のことなんか頭に入らへん。ちゃんとたんすに入るのを見とんやから、おれは。そこまで助けた後で、今度子供や。そこで助けてと言うとうけど、隣で言うとんやで、隣の部屋では、助けてと言うとうけど、やっぱり出た後は子供や。子供があかん思うて隣や。

妻　直接聞いたわけじゃなくて、その助けたお姉さんの話で、声聞いたということを後で聞いたときに、もうほんと、ズキッと来たけど、どうしようもできないし。

本　これはね、どんな説明していいかわからん。実際に、その目に遭うた人じゃなかったらあかんけど、これは、神戸市や国やボランティアからはいっぱい助けてもらった、その恩は絶対忘れてはおらん。忘れてもいかん。もし、何かあった場合は、助け合いで、はっきり言うて、ボランティアでも、いっぱいようけでやるねん。みんなが生きるように助け合いちゅうもんがなかったらあかんね

妻　同じ悩みを持った人が集まって話すと気持ちがやっぱり和むということはわかります。

本　Fさんの奥さんとね、おれ病院の帰り、あの人も病院に行くときに、頑張れよ、痛みはあんたしかわからへん、おれしかわからへん言うて…。

妻　奥さんとはこうして話もするし、いろんな余計な話はしなくても、笑顔だけでも、うなずいただけでも、気持ちがわかり合えるし、向こうもそうだと思います、うちらでも。ああ、頑張ってはるなって思いながら見てるし、向こうも多分そうだと思う。

本　だから、おれはどうしたらいいもんかいうて、おれの痛さは、みんなにどれほど痛い言うたって、これ教えるわけにいかんねん。

妻　この人は、こういう立場でも、例えばこれから何があっても、こういう生き方だと思います。

本　だから、おれの手、もうほんま冷たいで。重たくてたまらんときには、一升瓶下げとうみたいや。血が上へ上がり切らんねん。

妻　夏と冬の大変さが違うんですよね。

本　それを言うたって、仕方がないねん。それと上手につき合うて明るくするしか。嫁はんに言うたって、嫌な苦虫顔したって、おもしろくないから、おれはおれ。

妻　反対に、私のほうがすぐ顔に、私自分で顔見えませんけど、反対に、私の表情見て、こいつって思ってる部分が多いと思います。

本　人ごみに行っても、自分で当たらんように、自分で、人にしてもらうんじゃない、自分でするようにしとんねん。こうして、絶えず。仕事もそうだった。もう、いいやという考えで。

妻　立ち直り切れない方々も多いと思いますよ。この人みたいな考えの人ばっかりはおりませんし、反対に、普段から、今のおたくがいらっしゃってからじゃなくて、普段でも私が思うことなんですけど、この人は自分が強いから、地震で怪我した人であっても、そうじゃなくて、いろんな悩みありますよね。やっぱり、結局、最終的には言うことは本人なんです。本人が気持ちをどう持っていくかということなんですね、私もそうなんですけど。結局はそうですけど、言ったっても、本人が迷ってるから、悩みを聞いたら、どうなるわけではないけど、その場だけでも気持ちがほぐれるという集まりも、多分あると思いますし、これからもやっぱり続けて…。

本　いや、おれが言うとんは、その人、その人の置かれた立場で、自分は足とか、手をなくした、持ち家を皆燃やして、とられてなくなったとか、そして怪我をしたとかいう痛みとか、そういう、同じ悩みは皆ないわけ。
　わしは、あんた子供、孫を亡くして、こんな、あほやと皆思うかもわからん。おれがそう言うたら。そういう感じる人もおるかもわからん。だけど、それはそれとして、自分の目標とか、おれは絶対暗いところに入りたくないねん。明るいところには入るけど、暗いところに入りたくない。

妻　体の痛みもそうですけど、夫婦でもそうですけど、この人の親兄弟、私の親兄弟、友達、そういう人間的な絡みの中での悩みもあるんですよね、それぞれに。それぞれに違うんですよ。それを全部受け入れて、和やかに、柔らかにしようということは到底無理な話ですけど、やっぱりそういう集まりがあって、そこへ行って、気持ちを出て、ああよかった、楽になったって思うのは、やっぱりその場だけで、

しんどくてたまらんときには、それが何も役に立たない場合もありますし、そして自分が気持ちが楽なときには、あのとき、あれよかったなとか思うことも、それも事実ですよね。やっぱり自分自身が調子悪いときには、幾らこの人がしんどくても、この人の気持ちにはなれなくて、やっぱり愚痴もこぼすし、嫌な顔もしますし、しんどいとも言いますし、この人もしんどいながらも、そんなに肩が凝るんか、背中が痛いんかというて、もんでもくれますし、そのときは気持ちがいいけど、やっぱり時間がたてば、結局またもとに戻るというようなこともあると思いますよ。これ、私だけじゃなくて、どなたでも。

本　おれはない。

妻　この人はないと思います。だから、知り合いの中でも、心も体も痛くないんだけど、要は、これだけが大変な人も世の中におりますよね。だけど、それは聞くのは聞くけど、助けることはできないって。だけど、その人は言ったからといって、それが楽になるわけではないですよね。だから、助けられない部分というのもいっぱいあると思います。

本　だから、みんな寄り集まって、みんなの話を、いいとこだけ一つもらえばいいねん。悪いとこもらう必要ないねん。おれはそういう考えや。この人が言うのは、おれは乞食であろうと、どんな人とでも話ができる。どんな人とでも。そこ行ってめしも食べれる。Nでテント張っとう人が、Aさんおいで、お茶飲めって言うたら、おれは中入ってお茶も飲むんや。その人、おれ、西成で失対とかいうて、アンコ買いに行って、バスで買いに行って知っとんや。Aさん、たばこくれいうて、おれはいっつもたばこ2、3個持っていって渡したら、おれのとこに返ってくるときは1本もないねん。あの人らは。帰りに、給料もろうて帰ってくるときには絶対に返してくれる。だから、どこでも人間て、悪い人はおらへんねん。
　だけどね、どっかの隙間には、人間て悪いのもあるんや。それを抑えるか、抑えんだけなんや。おたくは、自分の嫁さんや子供に対して、はっきり言うて、飲みに行って2万円使うわな。ほんなら、嫁はんに、私飲みに行ったから、ええ格好して2万円使うたって言わへん、どっかにうそを言うとうはずや、ちょっとぐらいは。いやいや、そらないちゅうたら嘘や、わしらでもそうや。今まで、1万5,000円金が欲しいのに、2万円使うたと、あと5,000円小遣いが増える。

妻　よくも悪くも、全部自分を基準に物事を考えたらいけませんて。

本　男は、それがなかったら嘘や。絶対、自分が無駄に何か使うても、友達にコーヒーおごったから、ないから、あした給料日やから、1,000円貸せよとかって。

妻　私は男になったことないから、わからないけど。

本　それがなかったら嘘や、あるんや。酒は飲まんでも、わしらはもうつき合いでずっと行くんやから。

プロフィール

震災障害者－12		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月12日（土）
	面接対応者	本人、施設職員
基本属性	性別	女
	年齢（調査時）	77
被災状況	被災場所	東灘区の弁当屋（調理場）
	家屋被害	全壊
	家族の状況	夫、子2人ともに無事
負傷の状況	救出されるまでの時間	自力で病院へ
	診断	両下肢3度熱傷
	障害の程度	3級
	搬送・転院などの経緯	ヒッチハイクで東灘区の消防署まで行き、救急車で神戸の病院まで向かったが、受け入れがなく尼崎の病院へ行った。
仕事		○ 経営していたお好み焼き屋をたたむことになった。 ○ 夫が経営していたクリーニング店も全壊し、閉店した。

主な発言

○ 勤務先（弁当屋）で地震に遭い、フライヤーの前で転んで大火傷を負った。

○ 息子が身体障害者。

○ 足が固まらないように新聞配達をして足を動かしていた。

○ 火傷を負った年にパーキンソン病を患い、現在、歩くことはできない。

○ 体さえ元気ならいくらでも働ける。働く気持ちは泉のように湧いてくる。

○ 地震後、入院していたときは悲しかった。何故、何故という気持ちが強かったけれど、治癒してくるにつれて、頑張っていく気持ちが強くなった。何でもプラスに考えることが大事。マイナス思考になると心も体も潰してしまう。

○ 障害者手帳の取得は医師の指導だった。

○ 病院にいたので震災で困ったことはない。傷の治療の痛さだけが嫌だった。

震災障害者等　インタビュー ⑫

日時：平成23年2月12日

（本：障害者本人、施：施設職員）

（震災時の状況）

本　地震のときに住んでたのは神戸市東灘区御影石町です。

私はね、そこでお好み焼きやらお弁当つくってね、お客さんに見えていただいてたんですよ。それで、朝早くからね、お弁当を習いにね、近くのお弁当屋さんへ行ってたんです。そのときに大きな地震がありましてね。私、そこのお弁当屋さんで、これは大きな地震や、ここにいてたら危ないと思って、自分の判断で外へ出ようと思って走って出たところが、コックさんがもう見えておられて、油で揚げ物してたんです。ところが私、そのフライヤーの前を走った拍子につるっと滑ってこけてね、フライヤーのまん前でこけたんですよ、それで大やけどしたんです、油でね。その痕がまだいまだにありますけどね、あれはもう消えませんからね。随分長いこと入院しました。

長男が身体障害者なんです。それでその子にね、できるようなことを何かさせて自立させてやりたいいう気持ちで色々とやってたんですけど、なかなかハンディがあるから何をしても難しいんですね。私もそこへお店を出して、お客さんに少しでも見えていただいて、この子につながるお商売ができたらええのになあ思って必死だったんです。もう言うてたら涙出てくるからやめときます。

地震で私は入院しました。神戸では入院できないってことで、尼崎のほうへ行ってました。病院の名前を思い出しよんだけどなかなか出てきませんわ。その東灘から尼崎へ来る道中はなかなか車が多くて大変やったいう話は聞いてますんですけどね、主人がよく来てくれてましたのでね。

震災のときには3人で住んでたんですけど、長男がハンデがありますので、車いすで動きやすいようにと思って建てかえをしたんですよ。建てかえをして間もなく地震でつぶれちゃったんです、つぶれはしないんですけどね、ひびが入ったり、よそのおうちが寄りかかってきて傾いたりしてましたので、とてもそのままでは住めませんので、売ってしまいました。きれいな言葉で売った言いますけど、それは美しい言葉です、大変でした。

主人は大丈夫でした。主人は洗濯屋、昔からクリーニング屋してたんです。おじいちゃんの代からね、それでお父さんが跡継いでしてたんですけど。それで怪我をしたりいうことはなかった。私だけ怪我しましてん。

やけどが主で、もうその当初はね、体全体包帯で、出てるのは首から上と手だけでした。手もここまで包帯でぐるぐる巻きでね。とにかく息子を何とかしてやらないけないという気持ちだけでもう突っ走ってましたからね、前後のことなんかもう、本当にそのときに、とにかくこの子はここで何かできたらいい、それで洗濯屋もさせてみたんですけど、洗ったり配達したりはできませんから、その子のできるような形でさせてやったらいいと思ってね、機械を入れてしたんですけど、やっぱり無理でしたわ。要らんお金使いました。それもやってみないとわからないしね、だから貧乏しましたで。

2号線を東向きに走ってたら、向こうから車が軽ですけど来てるんですね。手挙げて乗せてください言うたんですけど、素通りでした。それからまた次に来た車がとめてくれたんですよ。前に大学生の方が2人乗っておられて、前に運転席に乗っておられて、おばちゃんはよ乗り言うてくれはって乗せてもらって、東灘の役所のところに消防署があるでしょう。あそこへ行くとね、私が行くと救急車が待ってましたいうように後ろあけて待ってくれてるような形でね。はよ乗ってくださいいうて、救急車に乗ってB病院行きました。B病院行きましたらね、まだ誰も来てはらへん、私が一番。先生が今、回診してますからちょっと待ってください言われて、それでお部屋に入ってベッドで待たしていただいて。そしたら、ぼつぼつと患者さんが来られてね、もう寝るとこないですから、土間にお布団敷いて、おまえしっかりせえよ、しっかりしてくれよいう声が聞こえてくるんです。あかんわいうて言うてましたしね。赤ちゃんは赤ちゃんで泣いてはるしね、もう戦場ですわ。物すごかったです。ほんで、私は救急車でまた尼崎の大きな病院まで行ったんです。

ところが処置していただくのに悲鳴上げましたわ、痛うて痛うて、その消毒液がね、消毒をよくしておかないと、ばい菌が入ったら怖いからいうんで。先生5、6人かかっておられました。消毒してくださって、パンパンパンと傷口たたくんです。痛くて痛くてね、痛い、痛いいうてやかましく言うてましたわ。それから毎日、処置の時間になるとつろうてね、もうこんなん嫌やわ、もうどうなってもいいと思いましたよ。

やけど以外で、骨折れたりしたんは、その後ね、お炊事してて、つるっとナイロンの危ないのわかってねん、あんなとこ足置くいうのが間違いですねん。生協さんでお買い物して、袋をお台所に置いてたんです。その上へ足上げて載せてるんです。だから、つるっと滑って、そこで股関節脱臼したんです。平成20年です。だから、震災当時の怪我といったらやけどですね。そこで処置してもらってね、入院というのはどのぐらい続いたんですか。大体覚えてはります。もうね、尼崎で約1年、それからまたD病院で1カ月、それで通院にも行きましたしね。

（震災後の生活）

消防署の方が危ないから、はよ何とかしてくださいよ言うてきはって、お金があって建てた家やったらね、4階建てのビル建てたんです。借金して建てたもんやから、その借金を清算しないとどうにもならないから、借金を清算して、それからもう家賃のあるとこへ入りました。はい、マンション初めは3階建ての一戸建て入ったんです。3階建てにいってはったんですか。ところが、息子がそこではちょっと生活ができないんです。車いすの生活ですから

ね。だからもう何とかして変わらないかんねいうて、ずっと周旋屋さん見て回ってたら、おじいさんが入ってはった車いす用の、それが木造のアパートいうんかね、あんなお部屋なんです。でも、もう手かけんでいいからね、そこへ入ろいうて。その前に入ったところは3階建てなんですけど、お便所なんか直さないとその前のままでは入られないから、100万ほどかけて改造したんです。もうそんなもったいないことできへん、それで生活できたらいいんだけど、うちの息子に合わせるのにはなかなか難しいんですね。そうすると、したことが無駄になったりするからね、よくよく検討した上でしないといけないから、ずっとアパートやら、マンションを見て回ってね、それでどんなところへ入ったら住みやすいか、一度見に行こう言うて見に行ったんです。なかなかないんです、あっても高いしね。そんな高いとこ入れないし、するとそのアパートでおじいちゃんが入ってたお部屋が今空いてます言うから、それやったらちょうどいいやん、もうそのまま車いす用のトイレや言うてましたからね、それやったらちょうどいいね言うて、そこでしばらくおりました。それは東灘です。必死で探しましたよ。何とかしないとあかんから思って、ちゃんともう車いす用にトイレができてましたから。

そのときには、私もう足をとにかく使って動かさないかん思ったから、新聞配達はするし、とにかく足動かさないと固まってしもたらどうにもならないから、必死でしたわ。それで、新聞配達もね、あんなんしたことないもんやから、行きよったら階段上がるとね、マンションで階段のほう通って上がると階段の上がったところにお酒飲んだ人が、バターッと休んではったら、キャーッ言うて、そんなんで、もう怖がりですねん。だからとにかく足を鍛えないかん思いましたね。

その時もまだ包帯巻いてましたけど、じっとしてたら固まってしまうから、とにかく足使うことをしてましたわ。

（パーキンソン病の発症）

今の施設に来たのは、平成22年の3月です。

それまでの間は東灘の市営住宅に入ってたんですけど、このパーキンソン病いうたら幻覚が見えるんです。いろんなものが出てくるんです、寝てたら怖いからね、もうこの家、嫌いうてわがまま言いました。パトカー呼んだり、呼んだら来てくれはりましたけどね。そしたら、パトカー来たらいなくなるんです、そんな人が。大勢入って来られて、講習会みたいなん開かれてね、私気色悪いから、そこの市営住宅の会長さんのとこ行って、こうこうして今こんな人が来てはりますねんけど、ちょっと見てくださいいうて言いに行ったら、来はったら誰もいてへん、いてはらしませんやん、幻覚やから自分だけしか見えないんよね。

そうですねん、病気ね、何とかこれ治ったらいいけど、治る病気じゃないみたいよ。一生もうこれで終わらなしょうがない。主人が去年の暮れに亡くなりまして。

施　21年の9月にご主人が入院されて、翌年の22年2月に先にご主人がこちらのほうに入所されてたんです。で、Eさんが3月に追って入所されて、この奥の部屋、お隣同士で入所されてたんです。まあ、ご主人が誤嚥性肺炎という形でここ退所されて、入院されまして、その後1人でこちらのほうでいらっしゃるという形です。昨年末にお亡くなりになったんですけれども。

パーキンソンってわかったのは、平成7年ってなってますね。1月に震災のときのやけど負って、その同じ年の7月にパーキンソン病が・・・。平成20年の6月に滑って転んだいうことで骨折されて。

本　病院へ行かなくなったのは、もう去年、一昨年くらいかね。それまでは、行ってお薬もらって塗ったり、自分で塗ってましたけどね、いまだに塗ってますよ。今は、痛くはないんです。痛くはないんですけど、痕はひどいですよ。両方とも足。肩もあるしね。

でも、やっぱし足がうずきますねん。ぬくもってきたらあきませんねん、だから足出して寝てますねん、冷やしとかなあきません。

主人と一緒に生活してたのは市営住宅にいる間だけでした。いるまでは一緒だったんです。市営住宅を出てからはもう、主人は入院してましたからね。私はずっとこちらでお世話になってます。別居生活でした。帰りたい、帰りたい言うてたけど、帰ったかてね。

（家族の状況）

施　長女さんがね、月に一度こっちのほうに来所されまして、Jさんと一緒に息子さんとこと、ご主人のことのずっとお見舞いに行かれてたんです。今も月1回、息子さんとこに行かれてますよね。

本　息子も入院してますねん。あの子も風邪をこじらして肺炎になって、ほんでここ（胸）穴開けてますねん、だから声を失ってしまって出やしません。会話ができませんねん。

こどもは2人だけです。娘は、ここへ月に1回くらい来てます。ようしてくれますよ。息子もね、僕が母の面倒見られなくてごめんねいうてお姉ちゃんに言うとうって、お姉ちゃんばっかりに任せて悪いなあ言うてる、優しい息子です。あの人も治らしませんわ、歩行困難ですからね。

施　娘さん、長女さんも伊丹のほうから仕事休みのときに来て頂いてるんです。車、ご自分で運転されますので、それでいつも一緒に。

本　私も運転するんですけど、もうこんな状態やったら乗られやしませんわ。昔は乗って走り回ってましてん。洗濯のほうの手伝いもせんなんしね。

もうおてんばさんやから、よう乗って走り回りましたわ。ほんで、学校の役員してたからね、学校や障害者のほうの役員をしてたから、自動車で走り回って、家の用事もせんなんし、そんな仕事もせんなんし、忙しいて、昼寝してる間あれへんかった。

施　お好み焼き屋さんされてたときも若い学生さんが来られて。

本　学生さんが入ってきて、なかよしのおばちゃん頼むで言うて入ってくるさかい、「任しとき、任しとき」言うて、安うにしてあげてね、自分とこ貧乏やのに、安うに安うに。場所は御影高校のちょっと上です。

洗濯屋は昔から、おじいちゃんの代からしてましてんけどね、息子に何とかしてやらないかん思って、息子の店をつくるために先できることからやってみよう思って、そんなこと心がけてやったんですけど、お好み焼きなんか到底でけしませんわ。やけど、その隅っこで私がお店番しながらおってやろうかな思って。

高校生がよく食べにきました。かわいいですね、「あっ、なかよしのおばちゃんや」いうて道で会っても大きな声で、「なかよし」いうて自分でお店の名前つけたんですけどね。

施　Iさんが考案された「なかよし焼き」がありまして。この施設でも1回ちょっと披露していただいて、腕を振るっていただいたんです。

本　おいしいですよ。いろいろ、私が考えてつくり出したのは、安くて、おいしくて、学生さんに喜んでもらえるの、キャベツを刻んでね、粉を溶いて、粉の中へキャベツ入れて、そのキャベツを鉄板に丸くこれくらいの大きさにして焼くでしょう。そこへね、豚ミンチ、豚ミンチとコンニャクをさいの目に切って、それと一緒に炊くんです、甘かろうに、すじ肉を炊くように炊いてね、それをこうして焼いた上に載せてねぎを載せて、ほいでまた粉をちょっとかけて、それが200円。喜んでもろたらええわ思ってね、自分のことなんか考えてない。

なかよしはもうあの家を建ててからつくった店やからね、まだ幾らもたってないのに地震が来たから。これからいうときに地震が来てつぶれてしまった。地震が16年、17年ほど前やからね、そのちょっと前にして、家ができ上がってから、あれやこれやと店に、店舗をいろいろ、その障害者の子がやっていけるようなお店をいろいろ考えて。その子供に合うようにしてやらないかん思うから、「これもあかなんだな、ほしたらこれはどないやろ」、だから寝とっても芯から寝てやしません、いろんなこと考えてるから。

本　今は、やけどとパーキンソンで歩かれしません。やけどしてから車いすですね。パーキンソンのお薬飲んで、お薬が効いてる間は歩けるんですよ、ちょこちょこっとね。痛みもなく歩けるんですけど、薬が切れるともう全然歩かれしません。

クリーニング屋はおじいちゃんの代から。おじいちゃん丹波の人でね、こっち出てきて洗濯屋しはって、その跡継いでしてたんやけど。クリーニング店です、もう昔からの。場所は、御影高校の上でした。

震災で何もかもなくなった。お父さんがタンスでも別注でね、鍵のかかるようにしてたタンス、ええタンスやったのに、着物もいっぱい入って。持って行ったって着ることもできないし、人にあげることもできない。

そうですねん。消防署の方がね、Iさん危ないんで、何とかはよ整理してよ言うけど、先立つものがなかったらでけしません。そやから処分しました。

体がこうなったのが一番つらいね。体さえ元気やったらいくらでも働けるけれども、働く気持ちはもう泉のようにわいてきますねん。ひとつもしんどいとかそんなん思わない、一生懸命。働けなくなったんが、一番つらいね。働きたい。もう洗濯屋してるときでも2時ぐらいから起きて働いてました。それがもう楽しいて、楽しいて。働くいうことが楽しい。

（施設での生活）

施　もうこの施設の中でも何かありませんか、何かお仕事ありませんか言うて。もう一番ね、いろんなことにお手伝いしてくださったり。すごくプラス思考に、すべてプラス思考に考えられてるので、悪いことすれば、やっぱしそれだけ自分に返ってくるし、ええことしても自分に将来返ってくるしっていう感じで、すごく前向きにとらえてらっしゃいますね。

本　何事もプラスに考えていかないとね、マイナス思考やったらつぶしてしまいます、自分の体も。

昔、実家の旅館で、年いったおじちゃんが寝かせていただけるところ、泊めていただけるとこございませんやろか言うて入ってきはってね、母が今日はいっぱいでございまして言うて断ってんけど、庭の隅でもいいんですので言われてんけど、そういうわけにいかんしお断りしたら、お母さん、あのおじちゃん泊めてあげていうて私が言うて、ほしたら言うてきてあげないうて、後追って行って、おじちゃん泊まってください言うて、私が助けてあげたことがあるんです。だから、そんなんが好きなんやね。

もう、今いい人生歩んでますよ。もう不自由ございません。不自由を不自由と思いませんもん。

でも、地震の後、入院していたときは悲しかったね。何でこんなことなったんかな、何で何でいう気持ちが強かったけど、治ってくるにつれてその気持ちもなくなった。後遺症が残っても、その気持ちよりかは頑張ってやっていこうという気持ちのほうが強い。もう気にならなくなりなした、このやけどもね。おもしろいおばちゃんですねん。

（障害者手帳の取得）

本　手帳の申請は、御影にいるときやから、もう大分になるね。震災の前やから。あれ、パーキンソンになってからやから。

施　パーキンソンは一応地震の後になってます、やけどされた後に。

本　パーキンソンやろ。

施　パーキンソンはね。

本　あれいつやったかな。

施　ちょっと書いてないですね。

本　覚えてないけんど、パーキンソンは。うちの息子が脳性麻痺で病院からお薬いただいてた。そのときに行って診察していただいてお薬をいただくのに、先生にいろんなことをお話して、お薬を待つ間に先生が、あんたパーキンソンやで、入院して1回調べたらどないやいうて、ほいで調べていただいたら、やっぱりパーキンソンやった。それから、いただいた思うんやけどね、それもはっきりわからへん、何せ、もうちょっとぼけてますねん、頭が。入院して調べていただいてわかったのがパーキンソン、病院で調べてもらって。ほいで身体障害者の手帳が3級かな。

施　ちょっと合わないかな、こっちのサマリーも介護の方としてのサマリーなんで。

本　震災のときに困ったことは、ないです。私は困らへんねん。私は病院にいてたからね、何にも困ったことない。ただね、嫌だったのは処置しはる傷の痛さ、それだけ嫌やったね。家は、ひびは入ってたけど、中が使えるからね、トイレにしたってお炊事場にしたって使えるから、困ったことはなかった。近所の家が倒れてきて、寄りかかってきたから少し傾いていたけど。

施　Iさん、3時のお薬。

本　ああ、お薬、済みません。ありがとうございます。こないしてね、時間になったらきちっとお薬くれてですねん。だから、私が忘れとっても、薬だけは大丈夫。

施　1日5回ですね。このグループホーム自体はもう医療連携になってますので、往診で来ていただいてる。

本　ビル建てて、これからという時に地震でやられてしまった、負けたな。もうそれでもしょうがないね、体が助かっただけでも感謝ですね。

外出は不定期ですけどあります。この前はカラオケ行って来た。演歌歌いに。よろしいわ、声出すいうことは。楽しみはやっぱりあるほうがいいんですよ、ないよりは。私も歌が好きやから、自分は下手で歌わないけど、あの雰囲気がね、とても好きなんです。

楽しいと思うのは、ママ(施設の職員)とお話してるとき。ここへ来たら、ここがいいし、よそへ行ったらそこがええ。このママほんまにいいよ、親身になって話してくれるから。

プロフィール

震災障害者－13		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月18日（金）
	面接対応者	本人のみ
基本属性	性別	女
	年齢（調査時）	79
被災状況	被災場所	須磨区衣掛町
	家屋被害	全壊
	家族の状況	一人住まい
負傷の状況	救出されるまでの時間	まもなく近所の人に救出される
	診断	多発性脊椎圧迫骨折
	障害の程度	3級
	搬送・転院などの経緯	当時、けがの自覚はなかったが、地震から3～4か月後に避難所で診てくれた福岡の医師から脊椎骨折を指摘され、6か月ほど入院。
仕事		生活保護を受け始めて3年

主な発言

○ 震災で背中を圧迫骨折した。

○ A病院で3ヶ月、B病院で3ヶ月、合計6ヶ月の間うつぶせでの入院生活だった。

○ 膠原病も患っており、自己免疫を抑える薬を点滴していて骨が弱くなった。

○ 病院は2ヶ月に1度行っている。

○ バスに乗るときに転倒し、運転手や民生委員に助けてもらった。

○ 障害者手帳の取得は医師の指導だった。

○ 入院していた6ヶ月が一番嫌だった。頑張れたのはもう一度元気になって皆と色々話したいと考えていたから。

○ 震災前は元気で飛び回っていたが、震災後は、用心深くなり人様になるべく迷惑をかけないように心がけた。

○ 以前はヘルパーが2人来ていたが、検査後は1人になった。

○ 今の住居へ移った当初は神経を使って胃潰瘍になった。

○ 西神第7仮設住宅に入居していたが、看護師にお世話になり助かった。

震災障害者等　インタビュー ⑬

日時：平成23年2月18日

（震災前後の状況）

私はもとはCにね、仮設が西神第7仮設。一番西におりました。そこでお世話になってまして、そこから病院はCの病院行って、そこから紹介で、先生が、やっぱりお友達もいてはるやろうから、A病院のほうに行きなさい言うて、それで内科はA病院のほうに行ってね。入院はCはなかなかさせてくれないんですよね。A病院と、それからB病院と3カ月、3カ月。

震災時は衣掛町の文化住宅みたいなところに1人でいました。2階に住んどったから助かったんです。どんと落ちてしまったんです。その後、皆で引きずり出してもらった。1人やからね、皆が出てはって大きな声でDさん、Dさんいうて探してはってね、私、ちょうどベッドの宮つきのベッドに寝とったから、そこへものがこう斜めに立てかかるようになるでしょう。この間で助かったんです。助け出されたときは立ってました。もう気が立ってるから、そんなん痛いや何やわからへんから。何も出さずに、何ひとつ。

でも、背骨はもう全部圧迫骨折みたいなぐさっといってしまった。だから今の身体障害者の手帳には圧迫骨折と書いてあります。いや、時間はそんな長くなかったですけどね。どういうんですか、もう自分は気が立ってるから出してもうて、そのときには本当にもう、寝巻き、パジャマでしょう。それでそばにあった毛布を1枚抱えて出てました。それだけ。そしたらあとはね、私が入院したから全部取られましたよ。何も出なかった。

（入転院の経緯）

ちょっとの間は、A病院に行きました。他にもう行くとこがなく、今までA病院ずっとかかってたから。でも、病院では、もう預かれないからいうてね。若宮小学校に一応入れてもらったんです。避難所では学校の教室で寝泊りしてました。一人毛布巻くだけ巻いて、それでしとったけど、何せ痛いしな、おかしいなと思っとったんですよ。そしたら仮設が当たってね。そこで、福岡の先生が避難所全部まわりよったでしょう。その先生が「あんたこれだめや、こんなことしとったら全部いってるから、すぐ病院行きなさい」言うて。だってそんなん痛みがわからへんねん、がっと物巻いてくくってるから。それでもね、手や足がおかしなってね、どうしようもないからね。

それで、A病院行ったけど、整形はあかんのね。せやから、B病院へ行ったんです。B病院もね、もう見てくれないんですよ、一杯で。もう3日も4日もたってましたよ。それで、整形やったら、もうやっぱりCいうことで、車で、A病院の先生が送ってくれました。

C行ったら、「あかん、これはもう即入院だ言うて、こんなことしとったら骨が全部いってしもとる」いうて。そやけど、それそういうことを聞いたから余計痛なったんです。結局はね。全然わからなかったから。そしたらね、自分がそないなったら、1センチ動いたら1時間動けません。大きな動脈、神経を刺してるから。何かそのままでいろいろ食べたり、食べなんだりね。食べるもんかってなかったからね。避難所のときもやっぱりちょっと歩いたら休むみたいな感じ。おかしいなとは思っとったけど、その気が立って、やっぱり物(資)も頂かないかんし、食べないかんしするからして、したんだけどね。何とか、何とか過ごしてきたみたい。それで、当たって、ここへ行ったらと。即あかんて。すぐCでね。Cの先生がね。今のE先生。ずっと一緒です。今も同じ先生でね。Wの先生が、「あかんこのままではどないもできないから、ここでは入院できないから、とりあえずうつぶせ入院いうて、すぐA病院。A病院と、それからB病院とを紹介してもらった。3カ月ずつしかだめだからね。せやから、A病院3カ月とB病院3ヶ月で6カ月。

でも、このうつぶせ入院いうのは物すごいえらいですね。ここが全部穴開いてしまいました。何かおかしいから、看護婦さん見て。ああ、床ずれやいうてすぐ、それでこんなわっかをつくってね。だって、こないしてこのまま寝たまんまご飯食べるでしょう。でもお手洗いだけは私嫌やから言うてね、手洗いのはたに置いてもうてね。這うてでも行くからいうて、それでもう看護婦さんが補助してくれて行ったけどね。ここがもう穴開いてしもたから。そやけど、だれも人も雇わず、お友達同士で助け合いして、あのB病院のところにお友達がいて、今も一緒ですけどね。その人が私がお洗濯、何やしてあげるからいうて、そやけど着てるのって知れてるもんね。もう何も着てないからね。それでお世話になってしよったけど、そやけど本当にもうあの6カ月の入院だけはもう泣きました。そやけどまあ何とか立ち上がって。でも、退院後も胃潰瘍も3カ月したしね。やっぱり、もうストレスが物すごいたまるんですよね。やっぱり人の中に入ると。西神のあそこ、西神の仮設で2年半ほどおりましたね。そのときに今のE先生が、「Dさんあんたな、ここの病院にね、一生来なあかんから、バスか電車か一本で来れるとこに今度かわってください言われたんです。そやけど、そんなこと無理言うたって探したってあらしませんねん。それからそこで2年半おって、今の場所の1号棟へお友達が来はってね。それで部屋空いてるから、ここに来たらいうことで。でも、何ぼ申し込んでも当たらしませんねん。

須磨へ帰りたかったんやけどね。それでしょうがなかった。それでここが当たって、それでここにきたんです。もう、13年ぐらいになりますわ。初めは、ここバス走ってなかってね。ここ今バスで出てますけど。下まで歩いたり、こっちや山の坂を上がっておりたりして病院行ってました。今は、ここからバス乗って、学園まで行って、学園から地下鉄で行ってますけどね。

（持病の影響）

私ね、膠原病持ってますねん。膠原病は長いで

す。震災前からずっと。そやから余計なんです。この骨が。膠原病が長いから。今も薬を飲んでます。3年半毎日点滴します。自己免疫を抑えるような薬。でも、それも結局いいことなかったんです。はっきり言うてね。骨のためにはね。せやから、今その骨にこたえん薬をもらってます。先生が、これを打ってたら骨をやられるって。ずっと飲んでたもんやから、骨が余計にいったんですねん。そやから、そんなことわかりませんし、知らなかった。そしたらC行って初めてわかって、あんたこの点滴をしたがためにこうなってしまった。そやけどしょうがないけどね。上3本残してあと全部いってます。そやから、どうしようもないから。だからとりあえずコルセットでね。このコルセット今8つ目。あの骨がいがむたんびに全部かえていきます。それで今度ちょっと低くしてもらった。前はね、ここまであった。ここまでと背中。寝るときは外してます。起きたらそれを着けるんやね。せやけどね、最初はこの首のここまでとここでしょう。そしたらもう本当、何か箱に入ってるみたいでね。それでも何とか動いてましたけどね。ここへ来るときに、そのE先生が、弟に、いいとこ2年ほどしか持ちませんって言われとってん。それ私が知らなかったんや。それで、あと、これも全部これも皆もらいもんなんですよ。全部ね。もっとタンスも欲しいでしょう。でも、弟が「あんなん買わんでもいいやないか。何年もないねんから何も要らんやないか。要るもんだけ買うたらいいから」いうて。母は、「何かちゃんとして買うてやってくれ」言うて、お金渡してくれたらしいけどね。

お友達がみんなかわいそうやいうて、服やらあない、これ全部もらいもん着てますねん。そしてね、最初はもうこの大きなコルセットしとったから、3Lやないとだめなんです。ズボンのウェストがね。今はMでもまだ緩いぐらい。

あと身長が20センチ縮みました。ずっとC計ってくださるからね。

ズボンが困ります。3Lのズボン履いとったでしょう。今やったらMのズボンでもね。それに長さが困る。そやから、もう全部、例えば20センチ、もっとそれぼんぼん、ぼんぼん、全部切ってしもて。たくさんズボンももらってるけど履けません。そやから、もう病院行くときのズボン、着るものはこれ、病院行くやつ、それ決めて。

障害者手帳は、平成8年に、たしかCの先生がくれはったんです。今は2種4級。11年に再度申請して3級になりました。最初のころは福祉乗車証を持っていって、先生があんた介護者用の乗車証もろてるのに何で2人で来へんのいうて何遍も怒られて。

病院へは、一人で、2カ月に一遍行きます。最初はもう何遍も行きよったけどね。せやけど、今年になってからは2カ月に一遍です。次は、3月に行きます。西神おる時なんか1日に5遍、6遍行って、痛うてたまらんから。

タクシーでしか行けないしね。バスの乗り場まで大分あったからね。予約でも、夜が8時、9時。バスがあるから予約がおそいんですよ。でもずっと行ってました。一遍も欠かしたことない。

（最近のできごと（ケガなど））

でも、こないだバスでこけたんです。垂水の2番のバスね。あそこのとこで、乗るときにどんとこけた。あっ、折ってしもた思って、えらいことしたな思ったけど、折れてなかった。この脛から下へ、足の裏までに真っ黒。血が。コルセット付けてるからね。ちょっとの自分のバランスを崩したらもうどんといってしまうんですよ。コルセット重いからね。一番最初のやつなんか4キロぐらいあったんです。乗り物乗るときは、コルセット付けてるからと思って、私はいつも気をつけて乗ってるんで、何も物を持ってなかったんですよ。結局ぼうっとしとったんかな。そやけども、運転手さんがいい方でね、すぐ救急車呼びましょうか言ったけど、いや、またちょっと大丈夫です言うたら、ほんならね、まだバスの時間がちょっとあるから、立ったり座ったりしてみて言うて。そしたら立ったり座っても痛くないんですよ。そやから大丈夫です言うたら、そう、そないしとったら今度女の方がはたへきて、清水が丘の民生委員の方でね。その方がね、「私がお家まで送ってあげます」いうて。それで、運転手さんが降りるときおりれなかったら僕が抱えて降りるからいうたって、その民生委員の方が、「いや、私がおろしますからいうて、家まで送りますから」って運転手さんに言うてくれはって。それで、まだお礼にもよう行ってないねんけどね。よくしてくださって助かりました。

そやけどね、物すごい足の裏まで真っ黒に血が下りて。私の場合は膠原病を持ってるから、血が抜けないんです。ぱんぱんでちょっと歩きにくかったね。足首とかしにくかったかもしれないけど。どうも、それであくる日朝起きて腫れてたらもうすぐC行くつもりやったんです。どうもなかったから、これはもう行けると。湿布でずっと行きましたけどね。やっぱり3カ月かかりました。まだいまだにちょっと一番きついところはまだ黒いですけど。お正月前にこけたから。お正月も田舎から帰ってこんでもいい、自分の体が大事やからいうて言うてくれて、それで帰らなかったですけどね。母は、震災のときはまだ生きてました。母は95まで生きてましてん。弟が跡取りで一緒に住んでました。母は、「お嫁さんは他人やからね。せやからあんたは助けてくれとか、世話になるいうことは絶対考えるな」ってずっと言うてました。今までずっと母が見てくれよったからね。そやけど、もう母が亡くなったらぽんと切ったからね。そしたら、もうその前に母が何かムシが知らせとったんか知らん、「あんたもう悪いけどな、生活員にお世話になったらどない。あんたは私より先死になさい」とずっと言われてたんです。「あんたはね、そんな体で人の世話にならんなんのん大変やから、私が元気な間に死んでくれ」いうて。そんなこと言われたって自殺もできへんしね。そない言うていつも言ってましたわ。

「ほんならいいよ。一応区役所に行って話してくるわ」言うて。でも、区役所の人も田舎の方を調べたから、あんたの一人や二人世話できるやないか

いうてやし、そやけど実はこうやこうや言うてね、いろいろと話して、それで納得してもらってしたんだけどね。そやけど、弟は町会議長もしとったし、病院も建てとったし、この参議院にも言われとったんですよ。そやけど母が、それは家をつぶすからやめてくれってね。弟はもうばりばりでしたよ、その何もかもにね。そやから、そんなんでしよったけど、嫁さんがしっかりしとったったからね。でも、今の自分の跡取りは歯医者してます。歯医者して、嫁さんは今総理大臣の姪もらってるんですよ。歯科大行きよるときに恋愛でね。そんないい家の娘さんやってね。結局そやから今度はみな親戚のものが何で私のことを見てやらへんかったんやって大分苦情が出たらしいけどね。私はもういいのよって言うて逃げたんですよ。だけど息子が島根におりますねん。実際私はちゃんと結婚したからね、一応。それでしたんだけども離婚したでしょう。18で結婚して19で子供、20歳で別れて、その子は自分らで籍を取って結婚してしもた。それ私は入れてくれなかったわけや。入れてくれとったらよかってんけどね。せやけど、そのときにはまだ母もその子を見とったからね。ほとんど私が見ずに。もう学校も全部出してね。そしたら、もう主人は離婚してから1年ほどで亡くなりました。私今ここで祭ってますねん。もう50年なります。そやけど、これもやっぱりいろいろやっぱり因縁があったんかね。震災のときでもこの位牌だけが飛んで出てました。それでずっと奉ってますけどね。もう50年なります。

仕事は一応喫茶店してました。震災のときは、喫茶店は大分長いことしとったんやけど、それもちょっと人にだまされて、結局、全部お金取られたんです。そやからないんです。本当やったらそのお金があったらね。そやから、ちょうど震災の1年前にやめたんです。1年前にもう体が高血圧になってどうしようもないなって3遍倒れたからね。そやからやめたんです。先生がやめたほうがいいって。10月にやめて。だから何もせずにそのままで。銀行行ったら、おかしいな、何でこんなお金がないのかな思って銀行の人にいろいろ聞いたりなんやりしたら、「ちゃんともう出されましたよ、おたくの名前で」って。何でやろなと思ったけど、結局は利用されとったわけ、私が。ずっと長いことね。私はもう田舎者やから、そういうことに物すごい無頓着でね。食べていけたらいいというような調子でやっとったんですよ。それで結局最後は、えらい仕送りもなくなったし、その人に一応仕送りもらっとったんですけどね、それもぽんと切ってしもて、病院も「おかしいね、Dさんお金が来てないよ」って言うてね。「何でやろ。そしたら私が持ってる預金から出しますわ」言いよったけどね。出しに行ってもあらへんしね。これはえらいこっちゃ思ってね。それでいろいろして、親戚のもんにね。田舎へ言うたら、「そのお金出すわ。そやけど、そのお金どうなったん」いうて、考えたら結局みな全部向こうが使ってしまってる。その方もどっちも亡くなってしまった。震災でね。そしたら何も証拠になるもんが何もなし。それで自分の少し余分に持ってたお金で、ずっと入院して、何やそのお金で、余分のお金で、持っとった株式も持っとったお金でずっとつないどって、ここへきて2年や3年やったらいけたんやけども、これが長いこと生きたからいけないんです。それでしょうがなかったから、もう無理言うてお願いしたんですよ。そしたら区役所の人は「何でや」いうて物すごい言われたけどね。そやけどもうそれはしょうがないことでね。そやから今お世話になってます。だから今お世話になってたら、それで十分いけますからね。何とか、いけます。別に医療費いらんしね。病気は膠原病のほうはもうもともと前からただやったからね。やから、今整形だけですやん。皆さんのおかげで行かせてもろてますので、せやから、なるべく病院に行かんなんときは気をつけていかないかん。

去年一昨年、大出血したんですね。家で。ここで。ばあーっと。そして自分で救急車で、救急かけて向こうへ、Cへ救急かけたんです。そしたら大出血の場合は近くの病院やないとあかんからいうて、このC病院紹介してくれて行ったんです。そしたらいろんな、全部検査してくれはって、もうどっこも悪くなかって、それで痛くもかゆくもないんです。それで、最後に泌尿科に行ってくださいいって、垂水の泌尿科紹介してもらっていったんです。そしたら膀胱の中の一番太い動脈が切れてた。そやけど体がおかしいからまたこっちのC病院行って、腸から胃から、何もかも全部検査してくれはってん。どっこもどないもなかって、それでそれがわかったから、今度脳を、脳の検査したら腫瘍があるんですよ。それで、それはもう、もし途中で頭がひどく痛くなった場合は大きな病院に行ってくださいと、それだけ言っておきますって、ここではできないからいうてね。だからいつも定期入れに入れてますねん。もし私が倒れたときはね。人にも全部ケアマネさんも皆言うてます。自分がずっとこないして定期の中入れとって、何かがあったら、これ見てくれるからね。そやからそれ全部書いて持ってます。

でも、お医者さんは、「これはもう年がいってるから、極端にこないやろ」って言うてですねん。若い人やったらすぐ開けて取ったげるけど言いはるねん。せやけど、もう年がいってるからね。それよりか、取ることのショックがね。私は「構へん、取ってくれ」言うたんやけど、せやけども、それはせんと徐々にいって、そのままいけるかもわからんしね。途中でものすごく痛くなったときには大きな病院に入れてもろてくださいいうて。せやから、やっぱり外ほとんど出ませんもん。この頃はね。行くのが、もう病院と、ちょっと散歩がてら。今まで3年、丸3年毎日1時間ずつ歩いてましてん。そしたら物すごい元気やったんですよ。それに、その大出血してぽんと体が落ちてしまった。

今は、買い物とかは、ヘルパーさん。1時間半来てもうてます。1週間に1回。今日も朝10時から11時半まで来てくれましてん。私の場合は前は2人来てもらうようになっとったんやけど、1人は断った。

お風呂も一人で中には入れないんでシャワー

だけ。あの風呂の中で立たらへんなってしまって。先生がもう風呂は入らんとシャワーでしてくれいうて。でも、食べるもんは自分で全部できます。食べるもんは自分で好みで食べてますけど。 あの震災のあとでも本当に物すごかったね。もう須磨もね、本通りの西側。南側はこっぱみじん。もう一緒になってつぶされてしまった。それでもまあね、何とかここまで来ました。せやけどいろいろなことはあったけどね、仮設で火事に遭うてね。西神第7仮設、物すごい火事やったでしょう。若夫婦が入ってはって、あそこは5軒が1軒になっとったんですよ。私らは隣の棟やってんけど。そしたら、その若い人らがけんかして灯油をまきはってん。それで火をつけたもんやさかい、燃えて。そしたら野次馬で消防が入れないねん。中へ。前に池あるんですよ。その池の水も汲まれないねん。野次馬で。もう大きな声で「退いてくれ、燃えてまいよるさかい」言うけどそれを見にきとる人もおもしろいから退かへんねん。それで私も洗濯機や何かも物すごい真っ黒。すすだらけね。1棟5軒で、全部で10軒焼けてん。175号線が、私らのとこの裏を通ってましてん。西消防署がそこに見えてて、消防車ここ来てんねんけど、どないにも入れないねん。あれはもう気の毒やった。消防署の人がね。もうやいやい言うてはった。何とかのいてくれ、車だけ入れさせてくれいうてね。もう前に池があるから水何ぼでも取れるんですよ。それやのにね。

消火器は全然だめですわ。間に合いません。隣のお兄さんがDさん、火事やで言うて、私ところのんと両方2つ持ってって、何の役にも立てへんかったいうて。

野次馬も見物して、物持って帰るねん。盗って帰るんですよ。野菜も少しつくってたんですけど、大根やとかね、トマトやとか、ナスビね。苗を買うてきてね。裏畑みたいにしてしとった。それを盗って帰った。かぼちゃでも事務所が「50個なっとるからみんなにあげられるからな」って言うとったん、ひと晩の間に30個盗って。そしたら、もうそこの偉いさんが、「おばさん、あのな、30個盗られたで」って。「何が」言うたら、「大根ほとんど抜かれてしもた」いうて。見に来て持って帰るねんから。怖いな思うて。それからもうつくらなかった。何かがあったら持って帰られるから。想像つかないですわね、今の人は。第7仮設は本当そないして火事やったわ。そやから、何せ大きな事務所が2つあった。そら2,000人もおるんやからね。そのかわり物資もすごく入りました。

（病院内の人間関係）

私はもう入院してるときが一番嫌やった。あの6カ月の入院でもう死にたい思いましたわ。それはもう自由が利かへんでしょう、体がね。またいじめるんですよ、病院の人が。見舞いに来てくれてでしょう。そしたら、見舞いに来てもうた人に来てもらわれへん人がいじめるんですよ。椅子でもね、私らいい椅子もらってるでしょう。あんたらな、後から来といてそんないい椅子にかけんでいい言うてぱっと持って帰ってしまうんですよね。物持ってきて「一つ食べてちょうだい」って上げてもね、「そんなもん汚いもん要らん」って、そないいうてね。B病院はまたガラが悪かったからね。あのA病院はいいけどね。あそこは、産科婦人科やからね。そやから今でもいっぱいですわ。ずっと行ってるけど。

食事も、「ああここのいいさかいこれ持っていこか」って持っていく人がいました。ほんならもうこっち食べるもんありゃしませんよ。よう院長先生が、「Dさん取られたか。辛抱してな」っておはぎくれたり。ぽっと取っていって自分が食べてしまう。B病院やからね、頭打ったりとか、脳外科とかあんなんですよね。だからちょっとそういうところなかなか判断しにくいような人がおったったんかな。いろんな人がいてはったけど、私個室は嫌やから、そやから大勢のところ入れてくれ言うたら、8人部屋に入れてくれはった。それでお風呂も3日に一度看護師さんがついて入れてくださるねん。

いろいろあるんやと思いますが嫌やなと思って、もう年やし体は自由になれへんし、ああもう、もうこれこのままでぽとっと逝けたらいいのにな思って、何遍もそない思って、それで院長先生に言うたけど。「あかん、頑張らなあかん」ってそない言うて。それで結局6カ月頑張ったらE先生が「よう6カ月うつ伏せでおったな」いうて、先生言うてはったけどね。

頑張れたのは、やっぱりいろんなこと考えよったら、まだ年から言うたらまだまだやしね。もう一遍元気になって、また皆と一緒にまたいろいろとお話したりなんかできたらなと思ったりして、しとったけどね。でも見舞いに来るいう人は断りよったです。来たらね、患者の中で物すごい敬遠されるから。来てない方もあるから、それでいろんなもんもらったら分けるでしょう、皆。せやけど、それも当たらん人があったら困るでしょう。だから、友達に言っといて、もう来んといてないうて。

A病院はその点はいいですよ。あそこ食事もいいしね。産科婦人科やからね。A病院は今でもいっぱいですわ。狭いから大きい病院かわりたいいうてるらしい。私ずっと行ってるけどね。私が膠原病でかかってる先生は、1、3、5の土曜日にD医大の内科部長が来よってですわ。膠原病はこの間からちょっと薬を変えて、それももう腫れて腫れて引かへんの。足の裏も。腫れるの。足の裏でもこのつけ根がころころ、ころころ腫れるんです。そしたら、もう寝てても腫れるの分かるねん。それでひどいときやったら昼でも引かないときは、そのときは危ないです。物持つのに、担ぐものだからね。それと、血がとまらないからちょっとけがしたら大変なんです。血がばっと、これ血の病気やからね。そやからね。うち息子が私と子どもだけで、息子が膠原病で足が両足全部人工骨。全部骨が溶けてしもてん。

ポーアイで片足手術して、もう片足のときはE医大。今はE医大に月1回は行ってますねん。それでも勤めてます。自分の籍に入ってないし、自分が育ててないから、ノータッチにしとったんです。だけ

ど子供のほうから。「このごろどないや、こないや」言うてね、いろいろと言うてくれます。そやから、もう大丈夫やでって言うて言うんだけどね。心配して。それで、このごろ年に1回くらいは来ます。「お母ちゃんお風呂入れへんかったんやな、僕が行ったときだけ入れたる」言うて。だから去年、おととしきたから、去年こなかったんやけど、去年、おととしきたときに湯船にちゃんとして入れてくれてね。子供は優しいんですよ。でもね、物すごい頑固な子やからね。調理師ですねん。そやけど、今調理師をE医大の先生が、もう調理師で足立ってたらだめやって。それで病院のほうから紹介で勤めてますねん。もう調理師をしてたら足がね。5年に一遍入れかえやからね。やっぱりね、身は痩せていくし、骨が痩せないもんね。人骨やからね。そやからね。本当は自分の骨になってしまう骨があるんだけど、うちはできないねん。膠原病持ってるだけで、膠原病が溶かしてしまうねん。 それで、薬もE医大で私はもっときつい薬飲んどったら、それはあかんから言うて、E医大の先生に聞いて、ロキシニン。それを飲んだらいいというのでそれもらって。いいですよ、やっぱり。やんわりとね。ちょっと腫れとっても引きますしね。それは毎日今飲んでます。

（最近の通院の状況）

A病院には1カ月に1回。第1土曜に行ってます。それ以外は、どこにも行ってません。A病院行ったらもうみんな知ってる人ばっかりやからね。だからいつも行ったら、もう物すごい喜んでくれてね。何やかんやいうて、私も前足折ったときに「何もできへんやろう」って、お米も10キロ送ってきてくれてね。何やかんやしてくれてね。何や靴下も送ってくれて。いい方です。せやけど、1人が膠原病でね。ご主人こないだ胃がんの手術してる。

今住んで13年目ですけど、関わりはあります。第1の日曜日は1号棟でイネノ会。第2の日曜が民生の食事会。あれはもう多いときやったら100人ぐらい行きます。それでまた第3の日曜はイネノ会。その間にカラオケもあります。私、前はずっとカラオケ行ってました。せやけど、出血して倒れてからよう歌いませんねん。やっぱり、何となしに声が出ないねん。せやから下手でもいいから歌いにおいでって今も言うてくれとってやからね、また元気になったら行くわないうて。今まではどんなことにも出よったけど、今はそれだけしかよう出ませんわ。生活保護受けるようになったときにはね、大分言われたけどね。せやけど、このごろやっぱり、もう食べていけたらいい思ってがまんしいやいうて言ってくださる。

ヘルパーさんは前は2人ほど来てもらってたけど、今度検査してもうたら1人になっとる。要介護は1です。ケアマネさんがおかしいな、体が弱っていきよるのに何で1やっていうて怒ってはったけど、せやけど、それはしょうがないことでね。いろいろと、きついですよ。違う今度人が検査に来たけどね、物すごいきついですわ。ほかの人は皆困るいうてはった。今まで2人来てもらいよった人がね、1人しか来てくれないでしょう。だから困るいうて。私はもう初めから1人でいいからいうてね、自分がある程度自分でしますいうて、リハビリや思って。私今でも朝起きたら服着るの40分か1時間かかるねん。足の裏から手のところとか、塗り薬塗って全部マッサージせないかんのです。それから着てね。そやから、下着は、肌着はもうぼろでもいい。毎日洗ってしてますけどね。塗り薬も重いから3遍に分けてもうてんねん。診てもらうのは、1回やけど、取りに行くのは3回。Cだけの薬やから近くの薬局では手に入らないらしい。足の指も裏も中も全部塗るんです。それでずうっとマッサージして、それで着るんです。そしたら楽です。打ち身でもすぐ治りますよ。

下着は全部手洗い。お風呂はいったときにお湯で手洗いしてます。初めは疲れよったけど、今は慣れました。要領よくなりましたわ。何でも自分でいろいろ研究して。

何か震災前と後で全然変わりましたよ。元気やったからね、それまではね。今やったらもう本当に物すごい用心して用心してね。それでなるべく人様に迷惑かけないようにしようとしてます。それまでやったら、もうほんま飛び回っとったからね。そやけどそれはできへんなったわ。最初は窮屈やなと思いよったけど、このごろはもう自分がこういう体になってしもうたから、それで納得して、人がどこそこへきょうは旅行するねん、何やするねん言うたっても、全然行きたい思いません。今朝もヘルパーさんが本当はヘルパーさんね、この間も来る日を1日ずらして来て、ほな旅行に行くから1日悪いけどずらさして言うて、いいよ言うて、それでお土産買うてきてくれた。きょうはお土産なかったさかい、お好み焼いてきたげたいうて持ってきて。そやから、いいよありがとういうてね。もう行くときは気よう行っておいでよってね。もう自分でどこも行きたい思いませんわ。皆どこかへ行きたい行きたい言うてね、やいやい言うとってですけどね、でも行ってもね、楽しいに行くのはね、もうがんじがらめで行くのと違うからね。それやったら行かんほうがいい。そやから、もうこうして家でおってね、うろうろとできて、皆さんと話もできてすればいいことです。私、病院へ行ってもやっぱりようけお友達いてるでしょう。こっちCへ行っても看護師さんみんな知ってるからね、長いこと行ってるから。案外電車に乗ってもずっと人と話ができるねん、私は。前向き何やねずっと。一時は沈んだけどね。それは沈みましたよ。「ほんまにもう嫌や、もう死にたいな」思うて何遍も思うたけどね。そやけど今はもうそういうことなしにね、こないして生きさしてもろたら幸せや。今78歳やからね。この年までね、生きさしてもろて、こんな長いこと生きて、どないなるんやろ思うときもあるけども、そやけどまあね、元気で生きさしてもろて、自分がある程度そないして病院も行けるし、皆さんにもお会いできるし、何か用事があれば行けるから、それはまあ本当に考えたら幸せですね。寝たきりの人がありますもん。そんな人のことを考えたらね、私ら自分が食事も自分でつくって食べられるし、食べたい思うたらちょっと出ていって食

べるとかそういうこともできるし、そやからそれはもう今考えたら、ほんま今は幸せですよ。皆いいもん着て出ていきよってや。初めはあんなん欲しいな、こんなん欲しいな思いよったけど、今は全然思わんようになりましたわ。

けがのことを相談する相手は、病院しかいないです。病院はCと、A病院とで決めとったからね。だから、その間どこも行かない。紹介されてこのC病院へ行ったけどね。それ以外は行ってません。仮設住宅とかで保健師が回ってきたりとか、震災復興の何か相談員さんが回ってきたりとかはなかったけど、Fさんいうておったったでしょう。あの人のところにおってん、私らは。病院の看護師さんやったね。あの方がずーっと全部でね、2,000人おったんやからね、あそこ。上手にしてはりましたわ。それでお世話になったりね。Fさんにね。それで同じ仮設やったからね、そやからよかったですけどね。仮設ではね、割とよかったですよ。よその仮設の人は皆、「あんなんや、こんなんや」言うたったけどね、それはなかったですわ。やけど、ここへ移ってきたときは、ちょっと心配したな、団地生活したことがないからな。うまいこといくかなと思うたりね、いろいろ心配しよったけどね。 何棟、何戸あるんですか。同じ階に12戸あるけど、私ともう一人除いて全部亡くなった。皆、先の年に入ったった人が多いねんけど、私はその次の年の9月に入ったからね。結局、Gさんと2人になってしもた。そやから、ここで上のほうは大分たくさんいてはるけど、ここの3階は今2人だけですわ。後皆新しい人ばっかりで。でもね、皆いい方ばっかりやからね、おとなしい方ばっかり。ここは身体障害者用やからね。この3階。そやからそれでね、まあまあ皆上手に行ってますけどね。そやけども、一時は物すごい神経使うて、ほんま一遍に胃潰瘍になった。やっぱり神経使ってるねやないうて先生言うたった。ちょっと入院して、ちょうど入退院して3カ月ほどおりましたけど。胃の薬をずっともろてしとるから、胃潰瘍は全然出ませんわ。

（震災の時、あればよかったと思うこと）

こんなんあればよかったというのは、振り返ってみてもね、私らはまだ幸せなほうやわね。飛んで出て、もう履物も履いてなかったけど、タオルで破って足元つくってくれはって。また八百屋さんから私ら竹輪半分もらいました。それで1日終わった。とりあえず、そのお友達同士で生きて、そして避難所が確実にあれば、そしたらある程度は助かりますね。気も落ち着きますね。そやから、あないなったときは、どこへ行っていいやわらかへんもんね。私は一番に病院へ行きました。A病院へずっと行きよったから。そしたら、もう皆そこへ行ってるでしょう。もうどうしようもない。 そしたら、病院の事務長さんが、Dさんな、皆来てもろとるねんけどな、第一入院してる人が骨を折ったりなんかしとってでしょう。それの手当が困るしね、食事が全然来なかった、病院に。うちの係の人が、Fさんという偉いさんやって、その人に言うたら、すぐ区役所へ走って、須磨の、それで食糧を回してもらって、喜んどってでしたわ。そやからね、とりあえずあんなときは食べるものが必要やね。何もいいもん食べんでもいいねん。ちょっとお腹に持つようなものを食べたら。最初はそないして竹輪半分、その次はパン、それからぼちぼちおにぎりが来ました。確かに、どこに避難したらいいんか、逃げたらいいんかとか。もう全然ね、そんなことなかったからね。このたび、初めてやからね。そやからどこにしたらいいやわからへん。そやから、それはもう自分が病院へ行きよったから、病院に行こう思うて、それで皆友達と病院に行ったんや。食べ物も来るんやろうかとか、そういう心配よりもね、その晩に寝るときとか休むとこが欲しいなと思うて。ちょうど若宮小学校が、全部小学校に入ってくださいいうて、それで開放してくれはって、年寄りは下で、若い人は上へ上がってくださいいうてしてくれたって、それでずうっと食糧が来だした。それで、あそこは店のそばやからね、食糧が入りやすいんですよ。そやから、おにぎりが来たりパンが来た。きょうはおにぎり、1人に3つずつ。朝、昼、晩やでって、それからパンも大きなパンやったら2本ほどもろて、これが1日やでってくれはる。そやから、何せあのときは食べるもんやね、やはり。食べることが一番やね、年寄りでも何でも、若い人はどこへでも走って行けるけど、年寄りはやっぱり食べるもんと住むところ。どんなとこでもいい、住めたら安心しますやん。それは言えます。あと、食糧だけやね。

田舎も物すごいようけおにぎりつくって弟が運んだ言うてましたわ。田舎やからね。だけど、私らもうおにぎりでもひどいときやったら当たらなかったもん。きょうは抜きになるんかな言いよった思うたら、パンが1つぽんと来たりしてましたけど、取りあえず居る場所ね、そやから皆これからでももう自分が何かがあるときは、ここに集まるんやでっていうことを、みんな頭に置いとかんといかん。それが一番大事ですわ。

そやけど、避難所のある学校まで行こう思うたら大変ですよ。本多聞小学校。物すごい坂やねん、上がられしません。あれはちょっと無理や、ここからやったらね。ここでよう消防の訓練やなんやいうてあるけどね。だけどよう行きませんねん。坂は。坂はちょっと無理やな。A病院なんかやったら、学校があるし、病院があるしねするさかいいいけどB病院はきつかったな。皆血が出て、流れていきよってのにから、手当してくれんかったいうて帰ってきいよっての人もあるしね。あそこは物すごい皆嫌がっとってですわ。だから、A病院に押しかけてきてね。A病院もね、親切やからね。だけどもね、やっぱり病院によって、物すごい敬遠する。でも、病院はね、あんなときはもう一番に率先してしてくれたらいいんやけどね、それをしないんよね。そやから、それはいかんなと思う。A病院のあそこなんかやったら、今何かがあっても、いつでも行くところありますやん、いっぱい。平地ですしね。この辺はちょっと坂が多いですけどね。ああこれはやっぱり年寄りはかわいそうやなと思うて。若い者は辛

抱できるけどね。年寄りはかわいそうやなと思いましたわ。私ら年寄りの人と一緒におったから、かわいそうにな思うて。やっぱりおばあちゃんらもお腹すくしね、寒いしするからね、おばあちゃん、もうすぐまた食糧来るよって言うて、よう言うたげよったけどね。それと、おトイレが大変でしたね。それがね、もうその気が立っとるから、自分がしびれとっても、自分でしっくり座ってしたら痛いしおかしいねんね。おかしいな思うて、どこかやられとるねんなと思うてしとったら、やっぱり背中やられとってんね。だけど、それとっとっとっとっ歩いとったの。気が張っとるときは怖いですね。悪なって、入院せんなん言うたら、ごてっとなる。一遍にぐしゃっとなる。

プロフィール

震災障害者－14		
項　　目		内　　容
訪　問	面接日	平成23年2月22日（火）
	面接対応者	本人のみ
基本属性	性　別	男
	年齢（調査時）	63
被災状況	被災場所	兵庫区前原町
	家屋被害	全壊
	家族の状況	単身（別居の息子有）
負傷の状況	救出されるまでの時間	6時間程度
	診　断	肋軟骨骨折、変形性脊椎症
	障害の程度	2級
	搬送・転院などの経緯	近くの病院でみてもらえず須磨の病院へ搬送
仕事		ガードマンをしていたが、できなくなった

主な発言

○ 震災で腰を折って、おかしいと思いつつ5、6年放っていたら痛みが激しくなってきた。

○ 以前は障害者スポーツ大会に参加したりボランティアをしていたが、ここ2年はひきこもっている。

○ 地震発生時は断崖の下のアパートに住んでいて、家と崖が崩れた。2階が落ちて隣の家が崩れてきた。

○ 埋もれていた時、声が出せなかったので足で物を蹴って音を出して、近所の人に助けられた。

○ 病院では受け付けてもらえず、ボランティアの人が各地の病院に問い合わせてくれた。

○ 退院後、避難所で心臓発作で倒れた。

○ 平成9年に西区（有瀬）に転居後、何回も死のうと思ったが、平成12年からボランティアで始めた小学生の登下校時の旗振りと、少年野球のコーチが生き甲斐になっていた。

○ ここ2年で病気が悪化してきて、家に閉じこもりがちになり、人と接触することが嫌になってきて、余計に精神的にまいっている。

○ 留守もあったかもしれないが、民生委員も役所の人間も、一度も来たことがない。

○ 震災障害者の生活状況を確認・サポートしてくれる人が必要。

震災障害者等　インタビュー ⑭
日時：平成23年2月22日

（現在の状況）

Aさんて、ご存じかな。5年か6年前に亡くなったんやけどね。西区の東井吹台にいはったんかな。記録しつづける会をやっておられた方なんですけどね。私も、震災にまつわる体験を記録に残すということで書きました。そのときに書いたのは、もう大分前の話やからね、どこかいってもうたかな。これは体験談の文章を、投書して出してたときの。これは、高槻の、ボランティアグループの人でね、僕が書いて、書いた文章をまとめて、インターネットに出してるんですわ。ある人の紹介でね、Bさんいう方やけどね、その人のところへ体験談を投書すれば、文書にして、これをインターネットに流して。阪神大震災の紙飛行機ですよ。紙飛行機いうグループがいっぱいある。だから、阪神大震災の紙飛行機なんですけど、これまたインターネットで探してもらえば、10年分の記録がずっと出てくると思いますわ。Aさんとはまた別のグループでね。10人ぐらいいるん違うかな。はっきり、行ったこともないし、見たこともないんやけどね。この手紙でやっとるだけで。投書とかをするようになったのは、ここへ来てからやから、平成9年から。初めは、ずっと10年間ぐらい、もう毎月のように出してたんやけどね。これまだ半分ぐらいなんやけどね、飛び飛びになってるから。最近、ここ2年ぐらいは、腰のあたりが物すごい痛くて、もう字もちょっと無理な状態で書けんようになってきてね。精神的にも、ちょっとまいってるね。3月1日に入院してね、大腸にちょっとできもんあるらしいんですわ。震災以後になったやつやからね。震災のときに、腰いって、腰折って、6時間埋まってたんですよ。腰だけやなかったんやね、あっちこっちに広がっていって。そのときから、おかしいな、おかしいな思うてたけども、5年、6年ずっと引っ張ってたら、徐々に痛みが激しなってきてね。腰から脇腹にかけてね。夜の5時、6時ぐらいになってきたら、物すごい痛くなってくるんですわ。もう、寝ても立っても、横になっても、どうしてもだめなんです。だから、それがもうつらいから、診察して、CTスキャンで撮ったら、大腸のところに何かできてるいうことで、何か、写真やからはっきりわからんけど。それ切除せなあかんいうことでね、3月1日にねC病院に入院するねんけどね。独り身やろ、独り身だから大変なんだよな。あそこに猫がおるんですわ。怖がりやから、いつもこたつの下におるんやけどな、今はおらんと思うよ。ちょっといそうにない、気配がないです。息子が板宿におって、2日に一遍か、3日に一遍くらい、猫の世話してくれて。たった1人の息子ね。今、25になって、もう、ええ好青年になってるよ。男同士のあれいうのは、ちょっと縁が薄いけどね。1年に一遍会うか会わんかで。そんなもんぐらいやね。猫のことも、いざとなったら何でも言うてよいうて、言うてくれんねんけどな。向こうも仕事してるから、言いづらいやんな。障害者スポーツ大会もソフトボールと砲丸投げとに出てます。野球は障害者になる前からやってたけどね。少年ソフトボールのコーチとかもしてました。障害者の大会があるというのは、障害者になってから知ったわけやけどね。障害者スポーツ協会を通じて、のじぎく兵庫県大会とかにも出ました。前はね。動けるときは、まだボランティアもやってたしね。

動けなくなったのは、ここ2年ぐらいです。もう閉じこもってるね。それ以前は、何とか動いてたんやけど。

（震災時の状況）

震災時は、兵庫区前原町1丁目。室内小学校からすぐ東のほう。上沢の真上やね。ちょっと、断崖のところに違法建築の家があってね。この斜め下のアパートに住んでました。だから、上からダーッと家と崖が崩れてきたから。1階におったし、2階がドーンと落ちたんと、前の家が崩れてきた。また前の家が石垣の豪勢な家やねん。その石垣が吹っ飛んで、大砲の玉みたいに飛んできたんですよ。寝てたら、横へ城に使う石垣あるやろ、あれが真横へドーンと落ちてきた。直撃してたら僕即死やったん違うか。まあ、即死のほうがよかったな思って。助かってよかったないう人は何ぼでもいるけどね、そんなん思わへん。地震があって3年ぐらいの間は、あのときいっそのこと死んでたほうがよっぽどましやったな、こんな痛い目するんやったら。もうのたうち回ってたからね。そら、トイレも行かれへんし、風呂も入られへんし。車いす乗ってたんよ。家の中で這いずり回ってたしね、いっつも弁当飯ばっかりで。それが3年間続いて。とにかく腰と胸が痛うて。そら痛いからしゃべるのもしんどいわね。だから、もうずっと閉じこもってた。

（救出されて搬送、入院、転院）

地震のときは6時間埋まってました。声も出んしね。近所の人も、誰かいるかいうて、叫んでくれたんやけど、助けてくれいう声も出すことできなくて。上から物がいっぱいなってるし。足だけ、わずかに動いたんですわ。それで周りの物をコンコン蹴りよったら、その音に気づいて、助け出されて。助けてくれたのは、近所の方やったんやろうな、いまだにわからんのやけどね。会うたら、お礼の一つも言いたいなと思うけど。顔も覚えてないもん。助け出された時、目もよう開けんかったから。助け出された後、F病院いうところへ連れていってもらったんやけど、うっすら覚えてるのは、電気がとまってるから診察できない。それで、受け付けられへんいうて、はねられてね。また、それひどい話で、保険も、健康保険も何もなかったからね。とりあえず入院するんやったら1日4,000円のとこしかあいてません言われて、床に転がされたまま。ボランティアの人が見るに見かねて、各地の病院を問い合わせてくれたんです。それが、今はもうなくなってないんやけど、ちびくろいうボランティアがあったんやけどね。この人たちがいろいろ尋ねてくれて、Dやね。あそこが受けてくれると。電気がつながってるから

ということで。でも1時間以上かかったん違うかな、あれ。6時間埋まってはったから、昼ぐらいに着いて治療をしたんやけどね。病院には10日ぐらい入院しました。肋骨の下の軟骨が変形して、歪んでるということで。ここは、レントゲンにも、CTでも写らんとこです。骨は写るんやけどね、軟骨は写らん。だから、調べようがないわけやね。それと腰と。腰はEで後から分かった。DではまだCTも何も検査してないからね。レントゲンしか撮ってないから。まだ入院していないという状態やけども、支援金いうのが出たんですわね、各家庭にね。その支援金がどうしても必要なもんで、無理やり退院したんですわ。帰ってきて、今度は室内小学校の避難所に行きました。避難所は、すいてました。近所の人が用意して、あけて待っててくれたからね。教室やったけどね。そこで4、5人ぐらいしかいなかったから、結構広かったけどね。そこでも、1週間ほどでまた倒れたんよ。痙攣が起きて、心臓発作起こして、G病院ってある、あれ心臓外科専門や思うわ、あそこに運ばれてね。腰だけやなしに、心臓とか、腎臓とか、肝臓とか、あっちこっちいかれてきてるわけ。圧迫されてるからね。本人は、腰だけや思うてても違うわけよ。後から何ぼでも、どんどんふえてくるわけやね。でも、2、3日しか入院してないんですよ。心臓発作やから、おさまったら何ともないからね。だから、今度は帰ってきて、F病院、また最初断られたとこへ紹介されて、そのときには、結局、最初行ったときは健康保険証やら何やらなかったから断られたけども、D病院では、生活保護受けるようにしたんですわ。それがなかったら、入院させてくれへんかったからね。それでまた、不思議な縁で、D病院いうのは、お母さんがそこへ入院して、そこで亡くなったんですよ、そのD病院で。おれが33のときやから、今から34、5年前やね。そのときに、お母さんも生活保護もらってたんやけどね、かかってた係の人がここの職員におったんですよ。「えっ、Hさん、ひょっとして昔、お母さんみたいな人、何か関係ありますか」いうて。「そうそう、僕Hの息子です」いうて。よう覚えとってね。やっぱり似てるんかな、何か知らんねんけど、そういう感じで、健康保険も何もないいうので、その人に世話してもって、生活保護受けるようにして、それでまた退院してF病院に帰ってきてね、そこには20日ほど入院してたんですよ。それでまた、退院して、小学校へ帰ってきて。今度帰ってきたら、また倒れてね。また何か発作みたいなんが起きて。心臓の。いや、今度は何か頭のほう。頭のほう、フーッと気がおかしいなってきて、フーッと目が回ってきたり、とにかく、天井回りだすような感じでね。そんなんで、もう倒れて、また救急車。もう何回救急車に乗ったかわからんね。それで、I病院の脳外科へ行って、またそこで10日ほど入院して。寝られんで困ったんやけど。それでまた帰ってきたとこがやっぱり室内やけどね。そのときは、もう3月か4月ぐらいになってたかな。桜が何か満開できれいやったわ。もう学校にいるのが嫌でね。とにかく仮設行こう思うて、それで西神の第1仮設に入ったんで。これが3月か4月ぐらいに入居したんですわ。一番ぐらい違うかな。そういう重病やいうことで。それで7年、8年、9年、その仮設生活も大変やったな。食事ができないでしょう、風呂もできない。体がいうこときかへんから。それで、人と会うのも嫌やし、しゃべるのも嫌やし。また、あっちこっちの宗教団体が来るんですわ。何とか宗教や、最初、そういうて、おれは鍵かけてないからね、かけたら、そんなもん中で死んでたらわからんから。だれでも戸開けられるようにしてたけど、もう姿見た途端に、何とかかんとか、ものの2、3分もしゃべったうちに、すっと帰ってしもうてね。もう、こら向こうも手に負えんと思うたんやろうな。逃げて帰るぐらいやったら、初めから来るないうねん。助けに来た人間と違うのかと、おれはそう思ってたんですよ。話いろいろしてるうちに、わずか2、3分ほどで、そのときも、もう一緒や、とにかく24時間痛くて、苦しいて、涙がポロポロ出るわ、あんまり痛いとね。そんな状況で、ウーッとうなってるような状況や、そんなんやったら、2、3分話聞いてたら、すっと帰ってしもうて、おらへん。どこの団体も。保健師とかが回って来た記憶はないね。

僕の場合、見た目にはわからへんわけよ。あの人は元気にしてはるやんと、みんなそう言うわけや。内容を知らんからね。見た目だけで判断するから。

（家族の状況）

兄は、今年の1月23日に亡くなりました。長いこと会ってないんやけどね、死んだ途端にその病院から連絡あって、来てくださいいうて。兄弟はようけおるんやけどね、おるんやけど、もうあっちこっちてんでばらばらやから、どこに生きてるんか、死んでるんか、それもわからんねん。だけど、あの兄貴だけは、ちょこちょこ会いよったわけ。三宮におってね、三宮を行ったりきたりしよって。ちょこちょこ行きよったか思うたら、3年も4年も間あいたり、と思うたら、ちょこちょこ行き出したり、そんなような状態やったんやけどね。

母とは一緒には住んだことないけど、しょっちゅう洗濯したり、何やかんや手伝いしよったわけよ。他の兄弟は知らん顔してたな。見たことないもん。兄弟はもう10歳ぐらいのときぐらいから離ればなれになってるから行き来はなかったね。3つ位牌があるけど、一番右が父親、次が母親、一番左が兄。全部おれが。こんな体やし大変やったんやで。腰は痛いわ、足痛いわいう中、葬儀から、斎場から、役所から、何じゃかんじゃ、あっちこっちかけずり回って。役所にわけのわからんこと聞かれても、おれ手の打ちようがないんで。兄弟でつき合いはあっても、個人的な内容のことはわからんもん。それをどうのこうの言われて、何や、戸籍謄本とか。「好きなようにしてくれ」いうて、わしは、個人的にそういうことは一切かかわってないいうて、ただ話やら、お茶飲んだり、…や、そういうことはしたってもな、そんな個人の通帳とか、年金とか、お金とか、そこまで、そんなもん、何ぼ兄弟でも、そら、見せたり、聞いたり、そんなことしよらへんもん。兄には、一緒には住んでない、ただ彼女がいた。その彼女いう

のは13年か4年一緒につき合いしてたらしいわ。おれちょこちょこ行っとっても、いつもその彼女いはんねん。死んだ途端に逃げておらへんがな。おれ言うたんや、そのときな、あんた彼女であろうが、何であろうが、一応13年もおったらな、内縁の妻いうような形になってくるんやから、一切あんたはこの兄貴の後始末を面倒見るんやったら、おれは手引くから、全部あんたに任すからしますか言うたらいや、私はようしませんいうて。わしら何ぼ兄弟であったって、2年か3年に一遍にちょこっと会うぐらいのもんで、あんた13年間もともに一緒に暮らしてきたんやろういうて。でも、通い妻らしい。家に旦那も子供もおるらしいわ。もうええ歳したおばちゃんや。そんなね、そこまで生きてきたら、もっとしっかりしてなおかしいやんな。そういう面は、男より女のほうがしっかりしてる思うんや、普通はな。あんた今まで葬式や、そういう経験ないのんいうたら、1回もないて。あほぬかせいうて、「なかったら自分でやろういう気構えないんか」いうたら、もう13年間も一緒に暮らしてきて、いちゃいちゃしやがって、死んだ途端にぱっと逃げるって、ほんま腹立ってな。ほんま腹立つやろう、そら。行くたんびやで、しょっちゅう1万円、2万円いうて小遣いもうとんやで、月20万ぐらいもうとんやで。兄は、年金暮らしや。ほとんど年金取られてるやん、その女に。船に乗ってたから結構な年金額があったけど、年金はほとんどその女が使うてもとんや。来るたんびに、おれの目の前でも渡しよったもん。高槻から来てました。でも、何で帰るんやろうな、不思議やな。でも、兄貴は上やから、そんなん根掘り葉掘り聞かれへんやん。聞いたら怒るしな。おかしいな、嫁はんでもあるし、彼女でもあるし、ちょっとわけのわからん人おるなと思うたもん。でも、おれからしたら嫁はんに近いかなと思うからね。

結局、僕があちこちかけずり回って、それがついこの間の話やけど、あれが尾を引いたんやろうな。しんどいいうもん違う、一遍に腰に来たもん。重い物持ったらあかんでと先生に言われてたんや。絶対重い物持ったらあかんいうても、持たざるを得ないもんな、おれしかおらんから。

J寺へ行って、帰って、行って、帰って、それで戒名つくって、とって、拝んでもらって、何やかんやしてたら、もう気苦労と、心労と病気とで、一遍にダウンしてもうてね。食事も弁当ばっかり。ちょうど近くに業者が来てね、惣菜屋というか、何でも屋さんやな。トラックで、その人に頼んで家まで持ってきてもうたんや、朝昼晩とね。酒でも何でも売ってた。仮設でも周りはようけ死んでった。全部1人もんの酒飲みや。だから、みんな死んでいった。その業者がお金もうけや思うて売るんやろうね、あれ。僕は、たまたま、酒飲まへんから、あれで生きてるようなもんで。

（ボランティアで前向きに）

9年に有瀬に来てからでも、ここから飛び下りて死のうかと何回も思うたで。思いとどまった。上から見たら、やっぱり高いしな、9階やろう。下見たら、ちょうどコンクリートと芝生の境目になってるやろう。あれ、コンクリートのところへ落ちたら即死やろう、芝生のとこやったら、ひょっとしたら、もし助かったら、えらいことやな思うて。

これ以上、半殺しいうか、生殺しいうか、そういう状況になったら、余計大変や。即死やったらええけどね。そやけど、それ思うたらあかんしな、無理や。今度は大蔵海岸行ってね、海へ飛び込んで、もういっそのこと死んだろうかな思うててん。上からじっと見てたら、あそこの潮の流れ物すごい速いね。びっくりしたんや。これ海かいな思うた、川みたいに速いのや。ゴーッいう音が鳴ってね。あれ見たら、怖くなって。死ぬどころやないねん、足すくんでもうてね。何とか、安楽死って、何かそういうええ方法ないかいな思うてね。わしも、今薬こんだけあるけどな、この中に眠剤も入ってんねん。この眠剤ためといて、一遍に20錠ぐらい飲んだら死ねるかな思うて。ところがな、これ眠剤いうのなかったら寝られへんわけよ。毎日1個飲むねん。ためるにためられへんわけや。医者いうのは絶対くれへんからね、眠剤は、余分には。14日分は14日分しかくれない。あれ、ためらんようにしとんやろうな。先生、お願いしますわ、一月分先に。あかん、14日分しか絶対出せんいうから、毎日1個ずつなかったら寝られへん。やっぱりためようがないでしょう。眠ったまま死ねるんやったら、これほど楽なことないやろうな思うて。

でも、平成12年くらいからは死にたいとは思うてない。思うてないから、病院行って手術するんや。やっぱりボランティアやり出したとかね、小学校の有瀬小学校あるでしょう、あの防犯の、子供の登下校、あれの旗振りのおばちゃんおるでしょう、あれの補佐役でおったわけ。自分からやりたいって行ったんや。校長に直談判して。おれは何でも自分でするよ。校長に直々に挨拶しに行って。おれ子供好きなんよ。子供好きやし、子供の登下校の安全をお手伝いできたらどうですかいうたら、向こう喜んでくれて、それはもう願ったりかなったりで、ぜひお願いしますいうて、ほんまのボランティアやからね。コーヒー1本出ないよ。まだ赤字やけどね。そこでやってたときに、ちょうど少年野球をたまたま土日やってるから、見てたら、僕昔、京都の平安高校におったからね。野球部でね。それで、防犯、登下校やってる最中に、少年野球を見てて、ちょっと子供らにこうしたらええ、ああしたらええいうて教えたわけや。そこのコーチや監督がそれを見てね、あっ、そしたらお願いできますかと、コーチに来てくださいいうことで、やりだしたんが平成12年ぐらいかな。そんなんで、ちょっと、やりがいというか、そんなんができるようになってきたんや。ぼちぼちね。そのころから、障害者の大会も出だしたわけです。だから、12年から6、7年ずっと、続いてたわけやね。 広報紙KOBE見て個人的に応募してあります。成績は金か、銀か、いつもそんなんよ。2年ぐらい前までは続けてました。それから、ちょっと具合が悪くなって、登下校のボランティアもできなくなった。もう全部一切、ストップしたね。ボラン

ティアの分もスポーツ大会も。今は、ほとんど友人っておらんし、話すこともないし、2年ぐらい前からこもってしまってるね。2年ほど前までは、まだ外へ出ていろんな活動しとったけどね。また、この腰が、さっきも言うた大腸のほうな、それが悪化し出して、それからまた、昔のような感じになりつつあるようでね。最近。

（病気の悪化、兄の死）

4月で64になるんやけど、買い物とかは、自分で行ってます。病院は、Cだけ。もう近所の人と会うたって、道でちょっと、1分か2分ぐらい、ちょっとしゃべるぐらいのもんやで。家まで行ったりするいうことは、まずないからほとんど一人やね。顔見知りはおるけど、ほんの二言、三言しゃべるぐらいのもんや。そんな深いつき合いなんて、まあないわ。何かあったら相談というか、お話する人はないな。全く孤立してる。ここにKさんいうておってね、下の、あんしんすこやかセンターに。前は顔出しよったんやけど、だけど最近、ここ2年間ずっと行ってない。やっぱり気持ちがなえてきたから。病気が悪化してきたやろ。動けんようになってきたら、余計精神的にもまいってくるやん。そんなん、しゃべる気も、人の顔見るのも嫌になってくるもん。やっぱり元気で動いてるときはね、元気いうことはないねんけど、障害があっても、何とか動いて、外で活躍できてるときは、前向きな態勢になるけどね、家に閉じこもってしまったら。もう嫌になってくるわけよ、人と接触するのが。まいってくるから。特に、兄貴が1月23日に亡くなって、重なったでしょう。余計、精神的に追い込まれてね、そういうような感じで。何かあったらと言うてくれる人もおるけどね、でも言うていく気持ちはさらさらない。おれは死んだって、多分1カ月も2カ月も、ここで孤独死で死ぬやろうな。「どうですか、大丈夫ですか」いうて来る人はおらへんのやから、ここへ。前はしょっちゅう「まあまあ入りいな、お茶でも飲んでな」と、こうしよってんけどな、最近はちょっとうっとうしなってきたな。今回の調査を受けるかも考えててんで、本当は。何ぼ息子おるいうたって、向こうは仕事してるし、子供からここへ電話かかってくることはないからね。おれから電話せんことには。2年でも、3年でも。男ってそんなんやで。だから、おれ死んでたって、自治会の集金が来るでしょう。出えへんかっても、別に来月でええわいうて、回されたら、それっきりやもん。だから、多分わからへんわ。よう、テレビでもやってるけど、孤独死ってね、ほんまあのとおりよ。3ヶ月ぐらいではわからんやろうな思う。

生活保護は今でもかかってるけど、ワーカーが来るのは半年に一遍ぐらいやもん。去年12月に来たんかな。この春ぐらいに来るかどうかは、それは知らんねんけどな。担当の人はずっと変わってない。女の人やからな。ちょいちょい、とげのあるようなしゃべり方はするな、やっぱり。何ていうか、雰囲気的にはな、あんたらみたいに優しそうにしゃべってるような言い方はするんやけど、ほんまに本心を打ち明けてしゃべるような人ではないような感じやね。兄のことも一切話してない。言うたら悪いんやけどね、私が生活保護でかかってるでしょう、お兄さんかかってない、兄は年金やねん。生活保護かかってる人間が手助けできるはずがないいうて、役所の人間は踏むわけや。個人的な感情なんか、もうそっちのけにしてね。何をぬかしてんねんいうて、たった1人の兄弟、おれが生活保護かかっとろうが何しとろうが、おれが面倒見な、ほんならだれがしてくれる、道歩いてる人に頼むんかいね。おれ役所にぼろかす言うてんで。戸籍謄本取ってこいの、どうのこうの、何とか証明書、あほぬかせいうて。坊さん頼んで、火葬まで出して、赤の他人が、誰がこんなことまでするいうねん。そこへ何を戸籍謄本要るいうねん、それどこにあるねん。区役所内、1から100まで、とにかく書類、書類や。書類がなかっても、こんな人間、道歩いてる人に、その人に火葬頼んで、坊さん頼んで、役所行って手続して、誰がするか、身内なればこそするんやで。その意味がわかってへんねん、役所の人は。身内なればこそするんやで。おれは生活保護であろうが、なかろうがな、弟やからこれするんや。違うたら、だれがこんなことするの。必死の思いで。行って、帰り、行って、帰り、どんだけえらい目した。A寺と。それでもどうしても要るいうて、頑として向こうも譲らんもんな。ほんなら、おまえ好きなようにせえいうねん。そうなってくるやんな、最後は。ほんなら、生活保護がどうのこうの、何ぼ生活保護であってもな、わし一銭もなしで暮らしてるわけやないねん。3万、4万ぐらいの金は持っとるでいうて、そのなけなしの3万、4万の金でこれやったんやでいうて。ほんで最後は、4、5万ぐらい持っとったんかな、それと足して。それであと残り分割で、葬儀の分割なんて聞いたことないやろ。ないもん、向こうもしゃあないやん。焼いてしもうてから、お金ありませんいうて、取りようがないもん、取れへんやんな。兄貴が福祉にかかっとったらな、福祉に任せといたらええねんけどな、なまじっかかかってへんやろ、年金やろ、ほんなら年金いうのは、亡くなったら受け取ることはできへんねんで、知ってるやろ。そういうことで、駆けずり回って、もうあっちこっち、また雪の降る寒い日やったわ、この1月の、2月の初め、Qいうんかな、Rのほうにあるんやけどね。哀れ。たった1人で。葬式はしてないんや、火葬だけやからな。葬式なんかすることあれへん。おれしかおらへんのに、何もな。火葬の人も言いよったわ、そんなん葬式なんかすることないよいうて。何にも、だれも来てないのに、あんたしかおらへんのに、何でそんなことするのいうて。でも、葬式せんかったら戒名や、つかんねんてね。葬式せんいうことは、坊さんが来いひんやんか。火葬場に坊さん来いへんで。そんなことおれ知らんやろ。おれは戒名つくもんや思うとったんや。それで、火葬場で焼いてもらって、49日まで置いといたらええねんけども、早いことA寺に納骨しよう思うて、永代供養したんやけど、ほんなら、あんた葬式してへんから戒名ありません言われてね、戒名ないいうことは位牌がないいうことやねん。A寺も頑として譲らへん。あんた

葬式してへん、葬式してへんいうことは、坊さん呼んでないから、坊さんがあれ戒名つけるからね。坊さんが戒名つけること自体をあんたはしてないさかいに、A寺がそれをすることはできんいうて。そこを何とかお願いしますいうて、それも2回も3回も行ってんで。向こうの何やわけのわからん偉いやつ出てきてな。何を言うてんのやいうて、そんなんやったら初めからそう言えいうて。こっちはわからんから聞いて、尋ねて来てるのに、それも2回も3回も行ったり、来たり、行ったり、来たりしてな。坊さんが言うんで、葬式して初めて戒名つくんやいうて。それをしてないさかいつかへんのやと。だから、ほんならしてなかったら、それでA寺で、あんたとこで戒名つくってください言うたら、それはできない。なぜかいうたら、葬式のときに坊さんを呼んでないから、それの一点張りやねん。それで、各地のお寺を転々としてん。ほんなら、真言宗やねん。真言宗のお寺へ行かないかんねん。真言宗のお寺、どこにあるや知らんがな、そんなもん、わかるわけないやないか。1回ずつ、お寺探していって、何とか寺探して、何とかいう寺の名前は書いてても、宗派の名前は書いてないでしょう。それまた、あっちゃこっちゃ。そこのB寺ってあるでしょう。あれは真言宗違うねん。頼みに行って、向こうもあかんいうねん。あんたとこ、宗派違うからないうて。「真言宗は真言宗のお寺へ行きなさい」と、それが筋やでと。向こうの坊さんがな。そらそうやな、そう言われてみりゃあそうやし。そこを何とか、もうお寺探してどうのこうのは我々できへんと。自分は歩くのもやっとやしな、どこにお寺があって、どうかさっぱりわからんから、とにかくあんたとこでお願いします。でも、「そういうことはできません」いうて。そこを何とかいうて。粘らなしゃあない。向こうも根負けしてな。ほんなら、そこまで言うのやったらつくってやろういうて、母親の位牌を見せて、見本見せたんやな。これと同じやつつくってくれいうて。それを言うて頼んで持ってきたんが昨日やで。1カ月前に注文してあったけどな。でき上がってきたんが昨日やねん。B寺って書いてあるやろう。真言宗と関係ないらしいわ。だから、「A寺は真言宗やけど、あそこには内緒にしといてや」と。坊さんも、金もうけやな。2万するねんで、位牌だけで。あんな小さな位牌、2万円、びっくりするやろ。話聞いてな、何ぼ要りますのんいうて、位牌が1万5,000円で字彫るのにお金要るねん。1字が何ぼか言うた。300円かな。20何文字あるねんな。それ全部足したら3,000何ぼ。計算したら1万8,900何ぼや。何でもかんでも、世の中金絡んでくるで。人よさそうに、よっしゃ、あんたのためや、しゃあない、やったろう言うとうけど、内心は銭もうけや。このくそ坊主はと思うとっても、しゃあないがな。49日いうのが、3月12日やねん、おれ入院するから、この日に間に合わんからな、退院してから、別に49日やその日でなくてもええよと。本堂でもできますから本堂へ来てください言うて。またそれ金もうけや。お布施って要るやろう。やっぱり何か知らんけど、形だけでも、してやらんとなと思うてな。

カーテンもいつも締め切ってんねんで、ピタッとな。こもってるわけや。それいうのはここ2年ぐらいなんやで。その2年ほど前は、オープンにしてたからな。ぱっと開けっ放してたけど。病が出てくると、気もなえてくる。

S新聞のOさんという方が来て、東灘に震災で障害になった人が集う場があるし、顔出してみたら言いはって。体験記の関係で、Pさんいう方のね。去年か一昨年かな。まだ、切り抜いてあるはずやで。写真載ってたんやけど。21年の5月5日。だから、2年前までは、病があるのでも元気にしとったんや。その後に、あっちこっち痛み出して。大腸に影ができとう。今、23年やから、21年やな。やっぱり2年前。

この間、テレビに出てたけど、何とかいう人が亡くなったん違う。兄と一緒ぐらいの年格好やな、若かったで、73か何かやったで。多分兄やらも知ってると思うわ。兄もそういうところ関係してたからね。そういうとこに餅つきに行ったりね、弁当配ったり、いろんなことしてたから。東遊園地の、あのあたりに。兄はボーアイにおったからね、仮設。多分、知ってると思うんやけどな。そんな話したことないんやけどね。

（家族との再会）

震災のときはガードマンをしてました。 朝6時に起きて行くんですわ。時計見たら、5時50分、ちょっと早いな思うて、制服に着替えて、横になってたんです。布団から抜け出してね。用意しとって。そのときに来たんですわ。あれ寝とったら、さっき言うたように、石垣の真下やったと思う。ちょうど、布団の上に落ちたからね。火つけようかな、もう5、6分で出ていくから、もう石油ストーブな、もう火つけんでええわ、もう、また横になって。そのときに来たから。あのまま寝てたら、ペッチャンコや。

A病院では、婦長から保険証がないですか言われたけど、財布も持ってきてないねんで、財布から免許証からみんな、もちろん、あんねんけど、だれがそんなもん、あのとき持って出れるか。まして、生き埋めになって、ウーンとうなってる人間やで。目の前にあっても、ようつかまえんやん、それ。それを向こうはな、なかったらあきませんいうて。もう、反論できへんかったんや、声が出えへんからな。しかし、何ておばはんやろうな思うてな。あれが婦長やて。それで、次行ったとき、須磨で、生活保護してくれたやろ、次は、すんなりすっと通る、最初のときはけられたんやで。それで、おれどこに寝かされたって、床にころがされたんやで。横になるんに、椅子やからな。もう今やったら、ぼろかすに言うたるけどやな、そのときいうたら、声が出えへん、とにかく痛うて。涙は出るし、痛いし、うなってるし、そこへ罵声みたいなん浴びせられてるやろう。もう、ほんまに、ようあんなあほなこと言うな思うてな。あれ、おれだけ違うて、後から後から被災者が入ってくる人たちに、みんなそう言うてんのやろうか。仮に、そんなんやったら、保険もお金も皆持ってきてたら、そんなん被災者違うやん、それ。普通の人

やん、ただの、単なるな。用意できてるはずがないやん。ましてうなって、頭も上げられん、顔も上げられん人間に。それをボランティアの人が見かねて電話してくれたんやけど、そのときは、携帯もないし行列みたいに並んでんねん。それでやっとかかって、あっちこっち探してくれたら、Dが引き取ってくれるいうことで行ったんですわ。7時か8時ぐらいやな、F病院に行って、そこで断られて、9時回って、それで9時半ぐらいから出発したから、3時間ぐらいかかってんのやな、あれ。ふだんやったら、30分ぐらいで行くんやで。それを3時間ぐらいかかって。そのときもボランティアの人が一緒についていってくれたんや。警察も消防署も何にもおらへんで。

息子とは仮設に来てから会えました。仮設に入って、それで、学校で調べたんやろうな。ある日、ひょっこり、あれの母親が尋ねてきて、また、その母親いうたって、離婚してるとはいえ、仮設に1回しか来てないもん。離婚したのは息子が小学校6年のときから、今から20年ぐらい前やな。離婚して、4、5年ぶりぐらいに会ったんかな。それまでは会うてない。子どもは須磨の西落合小学校の仮設におったんやて。それからも、ほとんど行き来してない。動かれへんやん。ちょこちょこ行き出したん、ほんまここ2、3年やねんで。もう10年ぐらいずっと行ってへん。向こうからも来んしな。ここ2、3年ほど前から息子が色々してくれるといってくれるようになった。働き出して、ちょっとやっぱり物心ついて、親というものをわかり出したころからやろうな。中学生や高校時代は、そんなことは全然、なかったやろうな。今、女の子と一緒に暮らしてるらしいけどな。そのころから、やっぱりちょっと考え変わってきたんかな。まあまあ、人間らしい、大人らしいなってきたん違うかな。何かあったら連絡しいやと、言うてくれたん、つい最近やで。10何年間、ほったらかしにされてて、向こうもな、ほったらかしにって思ってたかもしれんけど、しようがないやろう。こっちは、激痛でうなってるのに。こっちが何とかしてほしいのに、元の嫁はんが、仮設にもたった1回来たきりやもんな。めし炊いたろうか、掃除したろか、洗濯したろか、それもなかったしな。おれも言わんかったけどな。言わんでも女やったらわかるで。普通見たらな。めしどうしてんのやろ、洗濯どうしてんのやろ、掃除どうしてんのやろ、思わへん。1人もんのとこへ来たら、もう別れてもうてるからな、おれは言うに言われへんやん。してほしいのはやまやまやで、やまやまやけどな、そんなこと、口に出してはよう言わんもん。でも、女としたら普通は言うはずなんやけどな。のたうち回ってる人間の姿見たらね、そら何とかしたろうというほうが…。

それで、2回目来たときは、お金貸していうて来たんやで。まあ、しかしあのときにはびっくりしたな。弁当ばっかりしか食べてない、掃除もしてないし、風呂も汚い汚いし、トイレも汚いし、洗濯も1カ月に一遍ぐらいやしという話をするのや。うちしたるわと言うかなと期待しとったんや。やっぱり、赤の他人には言われへんから。お金貸していうて、おまえよく言うな、しかしな。お金より先にな、何とかしてな、それからちょっと、要るんやけどなっていうのやったら、わからんこともないけどな、いきなり来てお金貸してて、まあ、あのとき腹立ってな。しゃあない、貸したけどな。だから、それっきり、これっきりで、もうあかんと思うたな。言いもせんけど、その名谷におって、ちょっこちょこ電話あったりしよったけど、今度痴呆症にかかってもてね、完全におかしいなってしもうて。いろんな人生あるけどな。息子も母親のほうには週に一遍ぐらい行ってるらしいわ。やっぱり母親のほうの味方するわな、どうしてもな。おれの方には10年に1回ぐらいや。10年ぐらい前かな、ここ、平成10年ぐらいのときに、一遍来たことある、夏に。夏に来て寝たんや。あっちこっちダニにいっぱい食われたんやて。足見たら、あっちこっちいっぱいかまれとんねん。「こんなとこ、もう二度と泊まらへん」言うて。でも、仕事はよう頑張ってるみたいやな。はよ孫の顔見せてくれいうて、それまで死なれへんいうて。孫の顔を見るまでに、先死んでまうわいうて。泣きついたところでどうしようもないやろう。向こうも余計、そうか思うて、余計ほったらかしにしよるやん。だから、おれが亡くなっても、2カ月も、3カ月もわからんでっていうねん。ここに、普通、どこのマンション行ってもマスターキーってあるでしょう、ここはないねんて。ドアを壊さん限り入ってこられへんねんて。だから、余計にや。あれ何でマスターキーいうのがないんやろうな思うて。ここは県営。だから、ここらでもようけ亡くなっていってるよ。全部、隣の家から入ってくる。隣で火事なったら、蹴破って、入ってきてするらしいわ。

（震災を経験して思うこと）

地震後人生観が変わったかというと、2年前までは、いろんなことをやってて、大分おれ自身も変わってきて、頑張れたなと思うたんやけどな。最近、また体の調子悪なってきて、震災直後の状態に戻っていったら、あのときはまだ若いけど、今はそこそこ年いってるし、またもとへ戻ったら、これはほんまに、ちょっと、先行きが怖いというか、そういう感覚やな、今は。一時はもとへ戻りつつあったんやけどね。平成9年までは助からんほうがよかった思うてたんやけどね。平成9年、10年ぐらいは、ボランティアやりだしたときは、やっぱり生きててよかったな思うたんやけど、それが平成20年ぐらいまで続いとったんやけどね、10年ぐらいの間は生きててよかったなと思うたんやけど、またここ最近、ちょっとおかしなってきたからね。また、入院がどうのこうの、手術がどうのこうの、腹切るって言うやろ。切った後、これまた、怖いこといっぱい書いてあるし、生きて帰れるんかなと思うて。

役所がこうあるべきだったというのは、ここにも、民生委員の方おるけどね、まあ来たことないわ。だから、手当だけもらってるわな。それで民生委員いう肩書持ってるでしょう。何のための民生委員やって、おれ思うわ。やっぱり、年寄りや病人や障害者、週に1回か、10日に一遍でも、具合はいかがですかって、来るのがあれほんまと違うのん。まあ来た

ことないよ。それがまずない。役所の人なんか、ましてや来るいうことはないな。ここ、もう9年から来てるから、13、4年になるかな。保健師さんの巡回があったかもしれんけど留守やいうので、それっきり来てない場合もあるわね。そら病院行ってるとか、買い物行ってるときとは留守やね、その間に来てるかもわからんけども、でも直接会ったことは1回もない。電話もあんまり出んときが多いわけ。しゃべるの嫌になってきたからね。だから、前みたいに、気分が、精神的に安定してるときは、すぐ電話出るけどね、最近、もう電話でしゃべるのも嫌になってきてね。さっきの話やないけどね、ちょっとおっくうになるわね。携帯でもね、わけのわからんとこから入ってくる電話がある、何で知ってるんかなと思うんやけど、絶対出えへんからね。自分がこれと、登録してるところは出るわけや。登録してたら名前載るし、それ以外は出えへんから。だから、おれが歩いてるようなところを見たら大丈夫やと、皆判断しよるわけや。すこやかセンターのKさんもおるんやけどね、あそこもちょこちょこ顔出してたんやけど、Hさん元気やね、大丈夫やねいうてすっと行くわけや。向こうは半分仕事扱いやからな。多分、そやから知らん顔はできんやろうけどやな、そやけど、下でたまに会うやろ、元気にしてる、どうや言うたら、ああ、元気、元気やんいうて、こう言うしんどなるよ。考えとくわ。